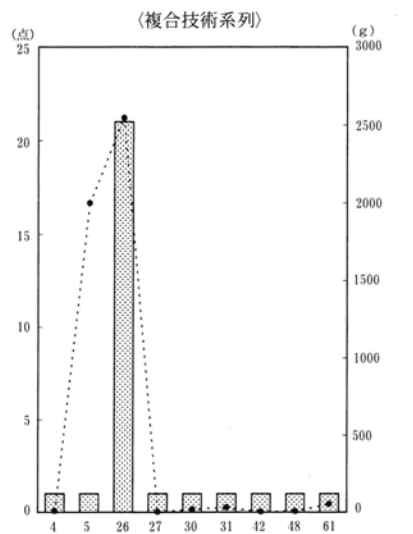
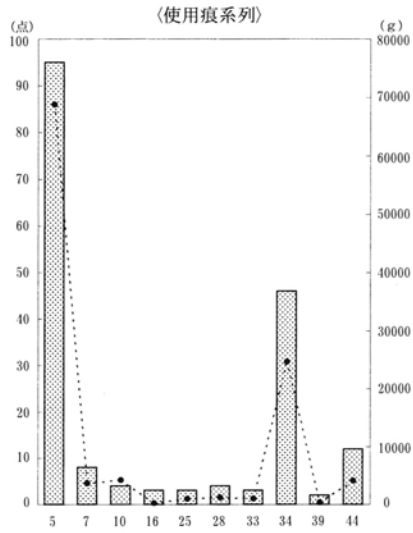
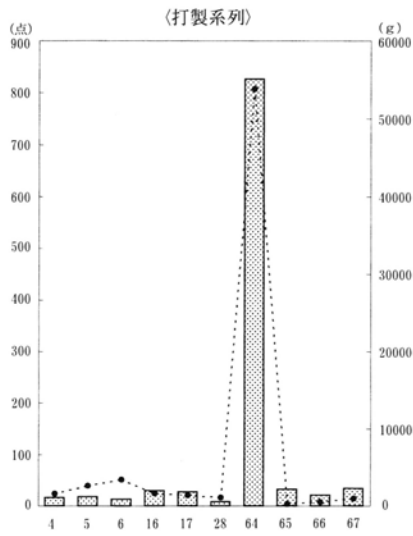


II 調査の結果



第11表 包含層出土石器の系列・石材別重量一覧 (単位: g)

石材名	石材コード	打製系列		使用痕系列		複合技術系列		他(石核・剥片)	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
アプライト	1	1	32	0	0	0	0	0	0
安山岩ガラス	2	0	0	0	0	0	0	2	2
角閃石安山岩	3	0	0	0	0	0	0	2	23
細粒安山岩	4	16	1,551	0	0	1	9	16	178
粗粒輝石安山岩	5	10	2,608	95	68,750	1	2,000	36	2,319
灰色安山岩	6	13	3,370	0	0	0	0	18	641
変質安山岩	7	3	437	8	3,633	0	0	11	1,286
花崗岩	10	0	0	4	4,211	0	0	0	0
玉髓	12	0	0	0	0	0	0	0	0
輝緑岩	13	1	450	0	0	0	0	4	64
変輝緑岩	14	0	95	0	0	0	0	1	95
赤碧玉	15	2	7	0	0	0	0	2	11
頁岩	16	34	1,610	3	237	0	0	87	1,079
珪質頁岩	17	27	1,373	1	188	0	0	29	1,315
硬質頁岩	18	1	28	0	0	0	0	0	0
点紋頁岩	19	1	39	0	0	0	0	1	22
凝灰岩	20	0	0	0	0	0	0	0	0
珪質凝灰岩	22	3	25	0	0	0	0	1	30
流紋岩質凝灰岩	24	0	0	0	0	0	0	0	0
溶結凝灰岩	25	0	0	3	918	0	0	3	11
変玄武岩	26	0	0	0	0	21	2,546	5	946
変質玄武岩	27	7	1,416	2	556	1	3	28	1,595
砂岩	28	8	1,065	4	1,160	0	0	20	375
凝灰質砂岩	29	0	0	1	555	0	0	0	0
蛇紋岩	30	0	0	0	0	1	18	0	0
変質蛇紋岩	31	0	0	0	0	1	32	0	0
石英	32	0	0	0	0	0	0	2	190
閃緑岩	33	0	0	3	975	0	0	2	155
石英閃緑岩	34	0	0	47	24,638	0	0	1	341
変閃緑岩	35	0	0	0	0	0	0	0	0
デイサイト	39	0	0	2	323	0	0	1	19
石英斑岩	40	0	0	1	491	0	0	0	0
変はんれい岩	41	0	0	0	0	0	0	0	0
葉ろう石	42	0	0	0	0	1	5	0	0
翡翠	43	0	0	0	0	0	0	0	0
ひん岩	44	1	115	12	4,052	0	0	3	25
珪質変質岩	45	0	0	0	0	0	0	4	1,107
雲母石英片岩	46	0	0	0	0	0	0	0	0
緑色片岩	48	0	0	2	1,542	1	6	2	11
ホルンヘルス	50	4	1,195	0	0	0	0	10	351
文象斑岩	51	0	0	0	0	0	0	0	0
流紋岩	52	3	49	2	453	0	0	3	13
白色硬質石英質岩	53	0	0	0	0	0	0	0	0
人工物	54	0	0	0	0	0	0	0	0
滑石	55	0	0	0	0	0	0	0	0
珪質準片岩	56	0	0	0	0	0	0	0	0
珪化木	57	0	0	0	0	0	0	0	0
変質凝灰岩	58	0	0	0	0	0	0	0	0
変質頁岩	60	0	0	0	0	0	0	1	1
緑泥片岩	61	0	0	0	0	1	54	0	0
緑色珪質岩	62	0	2	0	0	0	0	1	2
変質流紋岩	63	0	0	1	147	0	0	0	0
黒色頁岩	64	828	53,800	2	21	0	0	1,760	34,363
黒曜石	65	31	230	0	0	0	0	22	180
チャート	66	21	484	0	0	0	0	2	30
黒色安山岩	67	36	934	0	0	0	0	88	2,779
不明	—	12						29	0
合計		1,063	70,915	193	112,850	29	4,673	2,197	49,559

第177図 各石器系列の石材別点数 (折線は重量)

いると考えられる。その一方で、両面に原礫面を残すのは皆無である。

調整加工のあり方は、白井北中道II遺跡で見られたのと同様に、1・3類では側縁部の刃つぶしの敲打による階段状剥離が顕著で、刃部も両面調整によるものが多い。2類では、側縁部を中心に片面調整を施した器厚の薄いものが主体的である。

刃部形状については、各類を通じて円刃状となるものが55%と最多で、直刃は26%、偏刃は19%となる。偏刃については、欠損後に丁寧な再加工せずに継続使用したものが含まれており、本来的なパーセンテージはさらに少なくなると思われる。

1～3類の使用による磨耗痕は、全体の約51%に認められ、それらは主に刃部から体部中央にかけて残る縦方向の磨耗痕である。基本的に表裏両面に残るケースが大半であるが、その程度はどちらかの片面が弱く、棒柄に密着する面とその外側となる面の装着状態の差異を示している。欠損については46%のものに認められる。破断面での欠損方向は、その大半が基部から刃部への長軸方向の平坦面に対して、垂直方向からの加力によって折れた状態を示す。こうした磨耗痕や欠損のあり方は、掘り具としての上下・回転運動を想定させる。また1～3類の残存部位の比率は、部位の特定できない小破片40%、再生品を含めた完形品が34%、刃部～体部破片15%、体部～基部破片9%、体部中央破片1%などである。体部中央近辺を境にした刃部および基部の残存比率は、ほぼ拮抗した状況にある。出土地点を違えた欠損品同士の接合例は、4点(259・267・297・318)しか認められない。欠損品が完形品を凌駕することや、残存部位の顕著な偏在性が認められないこと、それに少なからず欠損品同士の接合例が存在するこのなどは、白井北中道II遺跡とも共通する現象で、石斧の使用場所を考える上で注目される。

石材は黒色頁岩が75%と主体を占め、細粒安山岩の6%や灰色安山岩の5%などがそれに次ぐ。これら以外に11種類の石材が用いられるが、それらすべてを合わせても14%に過ぎない。黒色頁岩を主体とする用材傾向は、削器・石匙・加工石器などの「打製

系列」の石器群とも軌を一にするものである。

h. 三角錐形石器(第202図 360)

IV区のVI層から1点出土しているのみである。握り部に当たる体部中位から頭部にかけて欠損する。断面形が四角形であり、三角錐というよりも四角錐形を呈する。一側面に原礫面を残し、機能部の底面陵部には使用による磨耗痕が認められる。石材は黒色頁岩を使用している。時期的には、第158図4～7などの撚糸文系土器に伴うものである。

i. 石核(第203～206図 367～387)

総計70点・17,405gが検出されているが、IV区(26点)を中心にして、I区(22点)やV区(15点)などに集中している。また出土層位は、VI層が32点と最多で、VIII a層の24点、VII層の12点がそれに次ぐ。石材別に見ると、黒色頁岩34点(数量比率49%、重量比率52%)、珪質頁岩7点(数量比率10%、重量比率6%)、黒色安山岩5点(数量比率7%、重量比率7%)、粗粒輝石安山岩4点(数量比率6%、重量比率8%)などが主なもので、他に12種類の石材が認められる。赤碧玉・頁岩・変玄武岩・石英・珪質変質岩などの石核は、北中道II遺跡や中原遺跡では検出されていない。黒色頁岩の占める比率の高さは、「打製系列」石器における同石材の卓越性と整合するものであり、原石を持ち込んでの石器製作が行われたことを示している。いずれの石材も、原礫面を残すものが多く認められる。原礫形状をもとに大別すれば、①径10～15cmの分割礫や扁平な原礫の平坦面を打面にして中形剥片を剥離するもの(373・376・380・385)、②径10cm未満の原礫平坦面や剥離面から小形剥片を剥離するもの(372・378・379)、などに分けられる。残核状のものが多いため、数量的な①・②の傾向は把握できないが、両面からの錯向状の剥片剥離(373・386)や片面方向からの剥片剥離(372・380・382)、それに周縁部を打面にした求心的な剥片剥離(379)などが認められるが、その大半は横長剥片の作出がなされている。①の石核からは小・中形石斧の素材剥片の作出が可能であり、また②からは石匙や削器などの素材剥片が作出されたと考えられる。

II 調査の結果

j. 剥片(第192図 244)

図としては掲載したのは244の大形剥片1点のみであるが、素材・調整剥片を含めて総数2,127点・32,172gが検出されている。出土地点はV区(856点)を中心としてIV区(639点)、I区(503点)に集中する傾向にあり、これは石核のあり方とほぼ合致する。出土層位はVI層889点(42%)、VIII a層847点(40%)、VII層320点(15%)点、VIII b層11点(1%)であり、VI・VIII a層を中心としている。石材は黒色頁岩1,726点・25,303g(数量比率81%・重量比率79%)、頁岩85点・863g(数量比率4%・重量比率3%)、黒色安山岩83点・1,560g(数量比率4%・重量比率5%)、粗粒輝石安山岩32点・988g(数量比率2%・重量比率3%)、変質玄武岩27点・796g(数量比率1%・重量比率2%)、珪質頁岩22点・237g(数量比率1%・重量比率1%)、黒曜石20点・170g(数量比率1%・重量比率1%)などが主なものであり、その他に24種類の石材106点・2,492g(数量比率5%・重量比率8%)が認められる。黒色頁岩が主体をしめる点は、先の「打製系列」の石器石材や石核石材のあり方と軌を一にしている。石材別剥片の平均的な大きさ(長径×短径)と重量は、黒色頁岩37mm×28mm・15g、頁岩36mm×26mm・10g、黒色安山岩42mm×31mm・19g、粗粒輝石安山岩43mm×36mm・31g、変質玄武岩55mm×34mm・29g、珪質頁岩36mm×26mm・11g、黒曜石27mm×21mm・9gとなる。1点あたりの重量が10g前後となる頁岩・珪質頁岩・黒曜石などは、「打製系列」の中でも石鏃・石錐・石匙などの石材に用いられており、製作目的の石器がほぼ小形品に限定されることと相関性を有するだろう。同様に、30g前後の粗粒輝石安山岩や変質玄武岩などは主として石斧に用いられており、自ずとその剥片も大ぶりなものとなる。同石材の中で最大の素材剥片は、長径100mm×短径57mm×厚さ41mm・重さ167gである。黒色頁岩や黒色安山岩は、「打製系列」の各種石器に多用される石材であり、前二者の中間的な数値となっている点も整合的である。244は1,800g弱の黒色頁岩の大形剥片であり、打製石斧などの素材剥片と考えられる。

k. 磨製石斧(第202図 349~359)

IV区が13点、I区が7点、III・V区が各点の計24点が出土している。出土層位はVIII a層が11点、VI層が7点、VII層が5点である。使用により基部や刃部を欠損するものが19点と全体の8割を占め、欠損率の高さが目に付く。形態的には断面形が楕円形で、基部幅が狭い尖り気味の乳棒状を呈するものが多く、349~352のような小形で定角的なものは3点のみである。乳棒状石斧の大きさは、体長約20cm、刃部幅5~7cmと考えられる。石材は、349・340が蛇紋岩系のほかは全て変質玄武岩で構成される。これら石材の調整剥片や石核は、変質玄武岩がわずかに認められるものの皆無に近い状況であり、遺跡外から完成品としてもたらされた可能性が高い。

1. スタンプ形石器(第203図 361~365)

図に掲載した5点が全てである。I・IV区から各2点、III区から1点が出土し、その層位はVIII a層が4点、VI層が1点である。側縁部の整形加工が不要な棒状礫を素材に用い、機能部の底面は1回の打割によって作出されるもの(361・363・365)と複数回によるもの(362・364)とがある。底面には、使用による磨耗痕を有するものが2点(363・365)認められる。大きさは体長9~11cm、底面幅7~9cm、重量500~800gの範囲にほぼ収まる。石材は粗粒輝石安山岩3点、変質安山岩と石英閃緑岩が各1点である。

m. ハンマーストーン(第209図 444・445)

棒状礫を素材として、先端部分に敲打痕のみを有するものであり、IV区から図の2点が出土した。重量が180g強の中形品(445)と、500g強の大形品(444)が認められる。石材は444が石英閃緑岩、445が珪質頁岩である。

n. 凹石・磨石・敲石類(第206~209図 388~443)

円形や楕円形状を呈する扁平な河床礫を素材として、その表面に使用による窪み穴や磨り面(磨耗痕)を有するものを一括した。ほぼ片掌の中に収まるサイズを有し、窪み穴と磨り面は複合することがかなりの頻度で認められ、また周縁部に敲打痕を持つものも多い。窪み穴は、基本的に多数回に及ぶ微細な

敲打痕の集合により形成されているが、回転動作によって形成された掘り鉢状を呈するもの(389・407)も僅かに認められる。総数164点が存在し、IV区(74点)を中心にI区(47点)・V区(27点)・III区(12点)・II区(4点)に分布している。出土層位は、VIII a層66点(40%)、VI層56点(34%)、VII層38点(23%)、VIII b層3点(2%)である。

素材形状は、楕円形の1類が95点(58%)と最多で、円形の2類が32点(19%)、不定形の3類が26点(16%)となる。窪み穴の形成状況は、両面に付くものが39点存在するが、片面のみのものも28点認められる。磨り面は、両面が60点、片面が42点とほぼ拮抗し、それらと複合して周縁部にもあるものが13点認められる。また、窪み穴・磨り面・敲打痕が複合するもの30点(18%)、窪み穴・磨り面が複合するもの8点(5%)、窪み穴と敲打痕が複合するもの17点(10%)、磨り面と敲打痕が複合するもの31点(20%)の他に、窪み穴のみ12点(7%)、磨り面のみ40点(24%)、敲打痕のみ26点(10%)などがある。窪み穴と磨り面の形成における時間的關係は、ともに相前後する状況が認められ、「敲く」「磨る」という動作が相関した作業中に行われたことを示す。平均的な大きさは、長径100mm・短径72mm・重さ449gである。石材は粗粒輝石安山岩(47%)と石英閃緑岩(27%)とが全体の7割強を占め、磨石類における両石材の卓越した状況が窺える。その他にひん岩・変質安山岩・砂岩など14種類(26%)が存在するが、各単体別に見れば7%を越えるものはない。

o. 砥石(第203図 366)

I区から3点、IV・V区から各1点の計5点が出土している。出土層位はVI層が4点、VIII a層が1点となる。366は長径8cm×短径6cm、厚さ4cmほどの粗粒輝石安山岩の河床礫を用いて、片面に砥面を作る。石皿的でもあるが、長軸方向にわずかな線状痕が認められる。他は小破片であるが、輝石安山岩や黒色頁岩の河床礫を用いたものが各2点存在する。

p. 石皿(第210・211図 446~452・455)

IV区が5点、I区が2点、III区が1点の計8点が

出土している。出土層位はVIII a層が3点、VI層と表採が各2点、II区が1点である。いずれも扁平な河床礫を素材とするが、石材は粗粒輝石安山岩を主体(5点)に綠色片岩(2点)と溶結凝灰岩(1点)が認められる。綠色片岩を除けば、近隣の利根川河床や段丘崖に産出する石材である。448・452は掃き出し口の付く無縁の楕円形状を呈するものであるが、446・449・450などの破損品もそれに類すると推定される。機能面(磨り面)の浅い窪みは、455を除く全てに認められる。また449・451を除いて、いずれも裏面に錐揉み状の窪み穴を複数個有する。欠損品の割合は5割と少なく逆に完形品が目立つ点で特徴的である。

q. 台石(第211図 453・454・456・457)

IV・V区から各3点、I区から2点、III区から1点の計9点が出土している。出土層位はVIII a層6点、VI層が3点である。円形あるいは楕円形状の扁平な河床礫を使用し、石材には粗粒輝石安山岩(6点)が多用され、その他に花崗岩・石英閃緑岩(各1点)が僅かに存在する。いずれも片面に集合打痕が見られるが、457は磨り面も併存しており石皿的な機能も想定できる。大きき的には453のように6kgを越えるものもあるが、大半のものが2~3kgである。

r. 石棒

1点確認されているが、小破片のため掲載していない。IV区のVII層から出土し、石材は緑泥片岩。

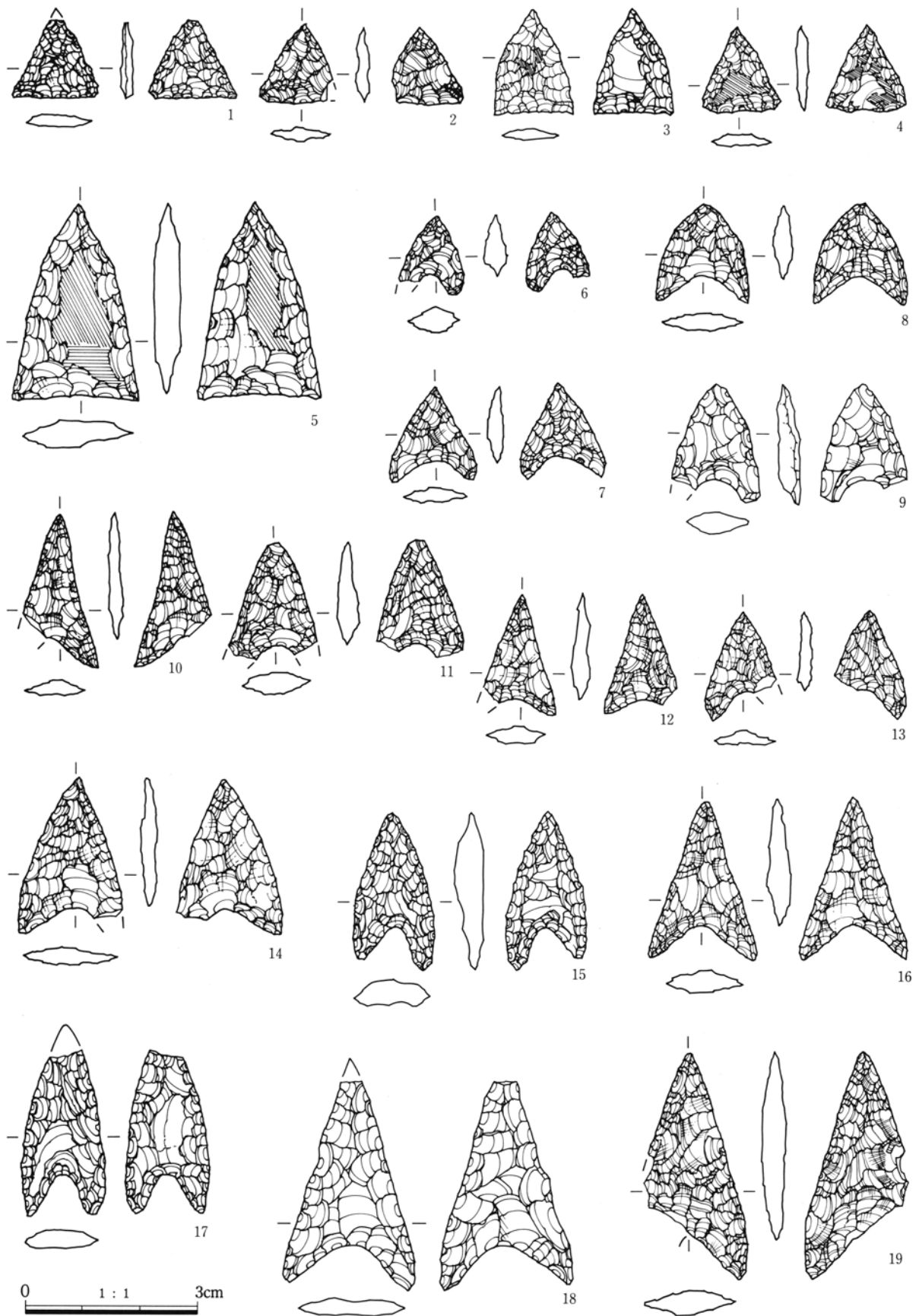
s. 多孔石(第211図 458)

I区のVI層から2点が出土したのみである。458の窪み穴には、錐揉み状のものと集合打痕によるものが見られるが、後者の方が顕著である。石材は粗粒安山岩と細粒安山岩とが各1点。

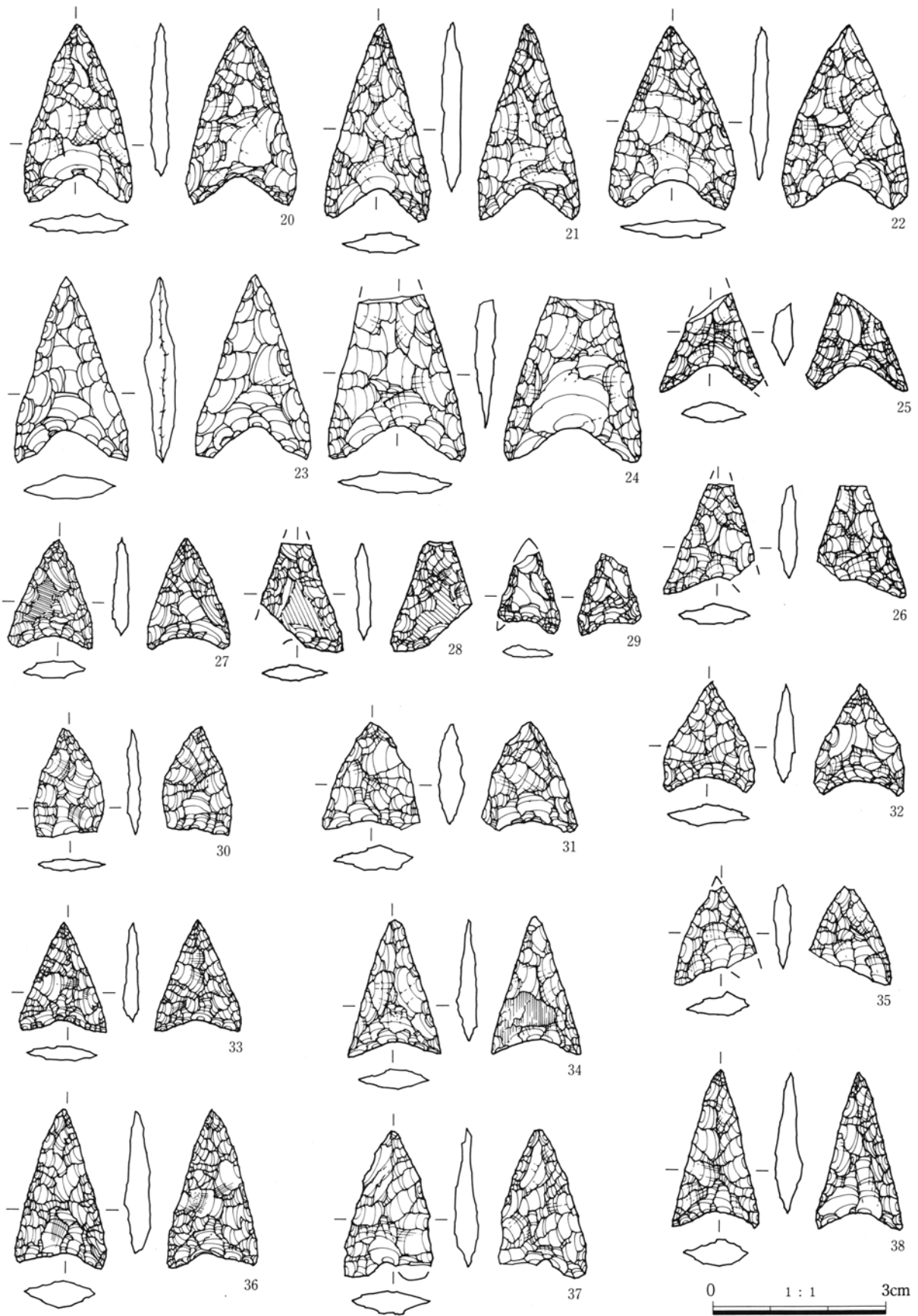
t. 装身具(第211図 459・460)

図に掲載した棒状垂飾品(459)と、玦状耳飾り(460)の2点が存在するのみである。前者はIV区のVIII a層から、後者はV区のVI層内からの出土であり、両者ともに欠損している。石材は459が綠色片岩、460が葉ろう石を用いており、ともに外部からの搬入品と考えられる。

II 調査の結果

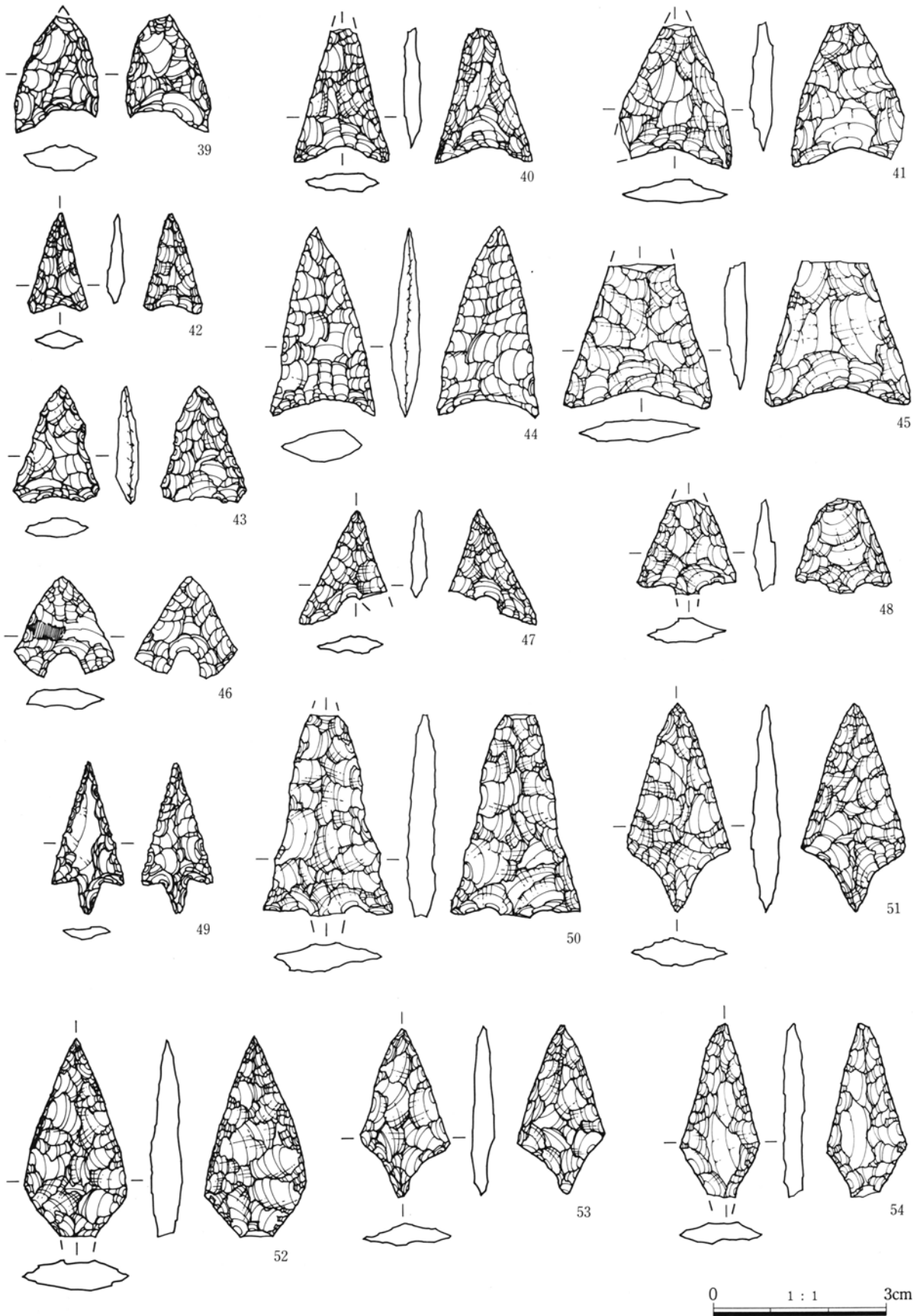


第178図 包含層出土の石器(1)



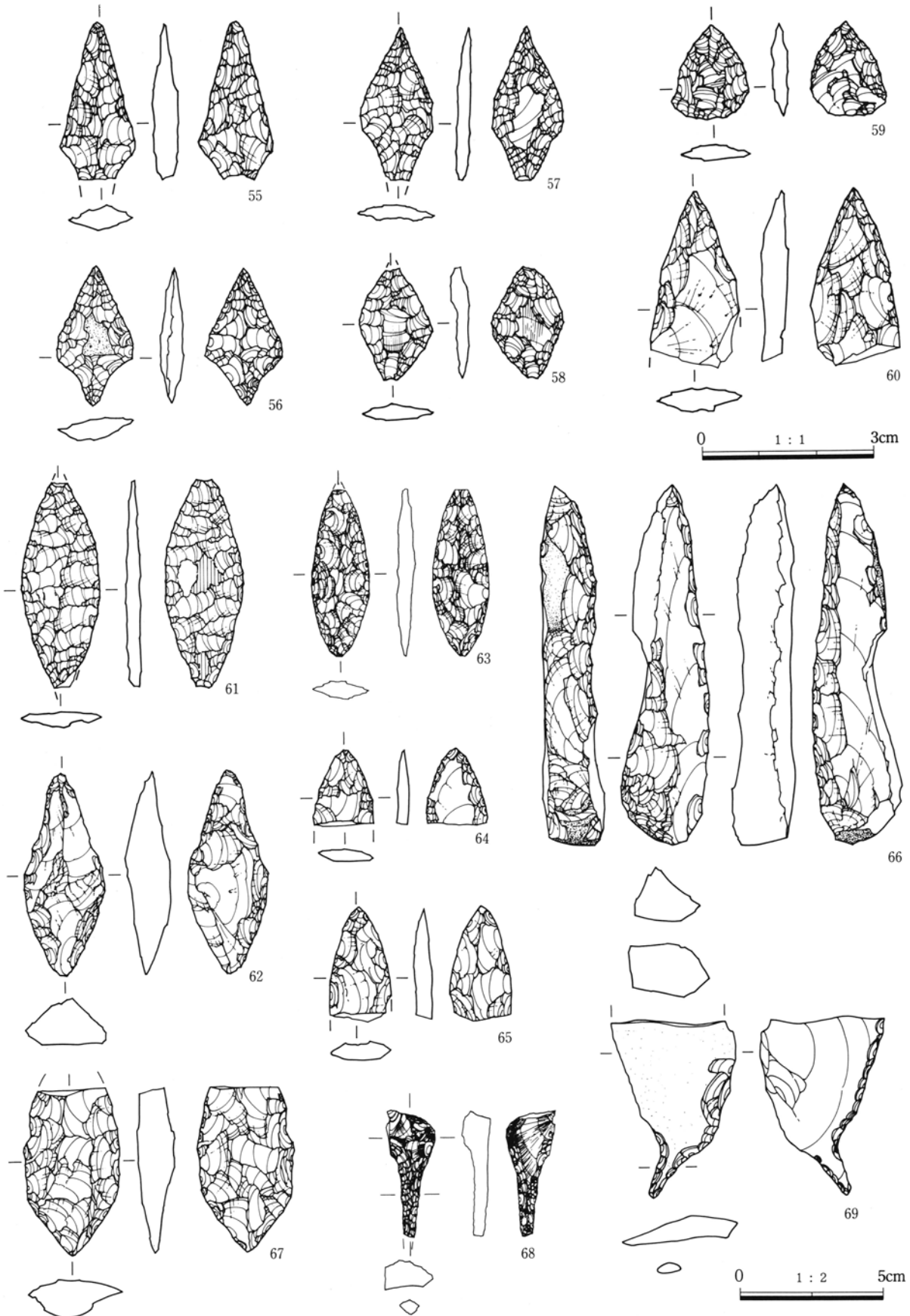
第179図 包含層出土の石器(2)

II 調査の結果



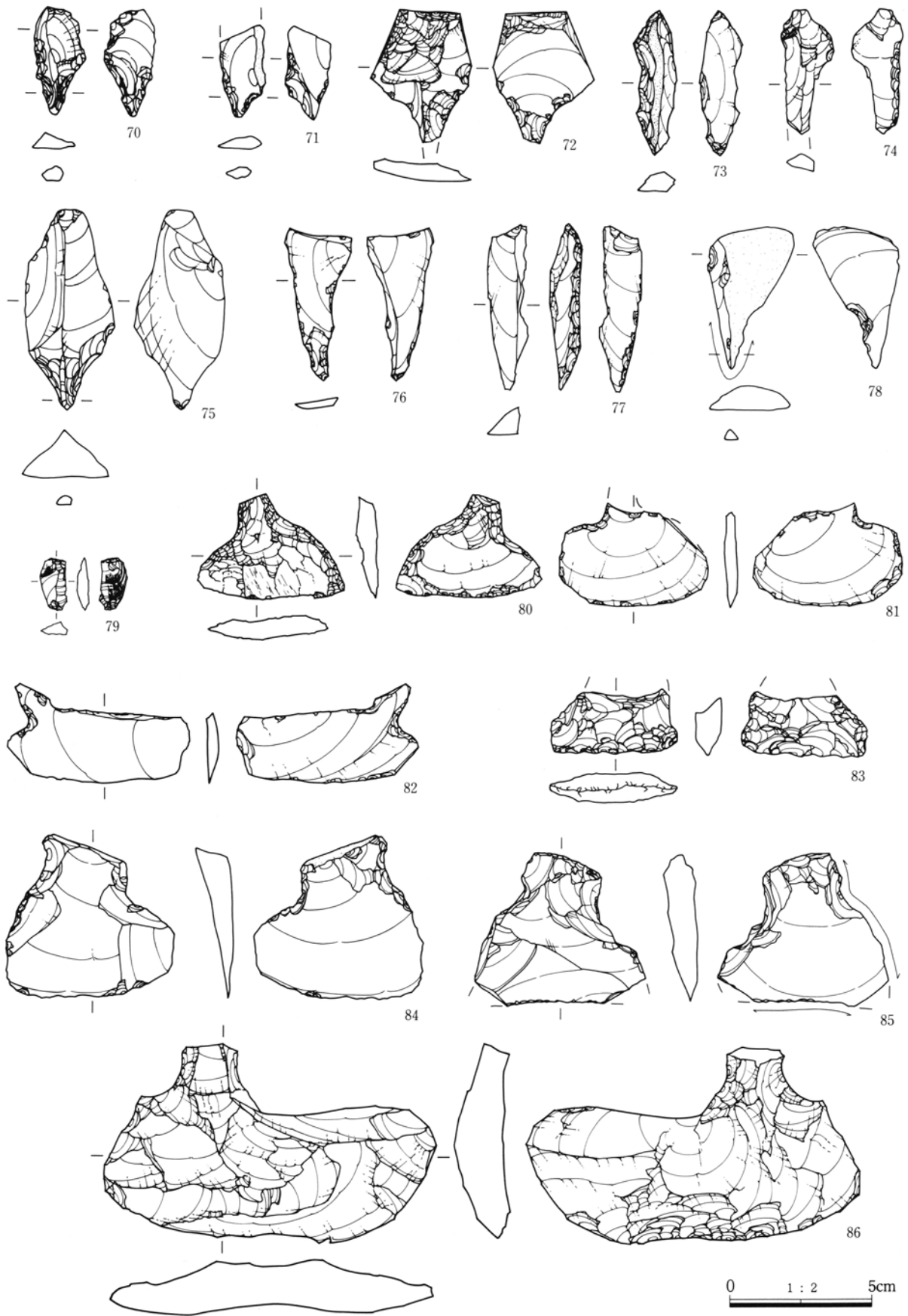
第180図 包含層出土の石器(3)

2. 縄文時代

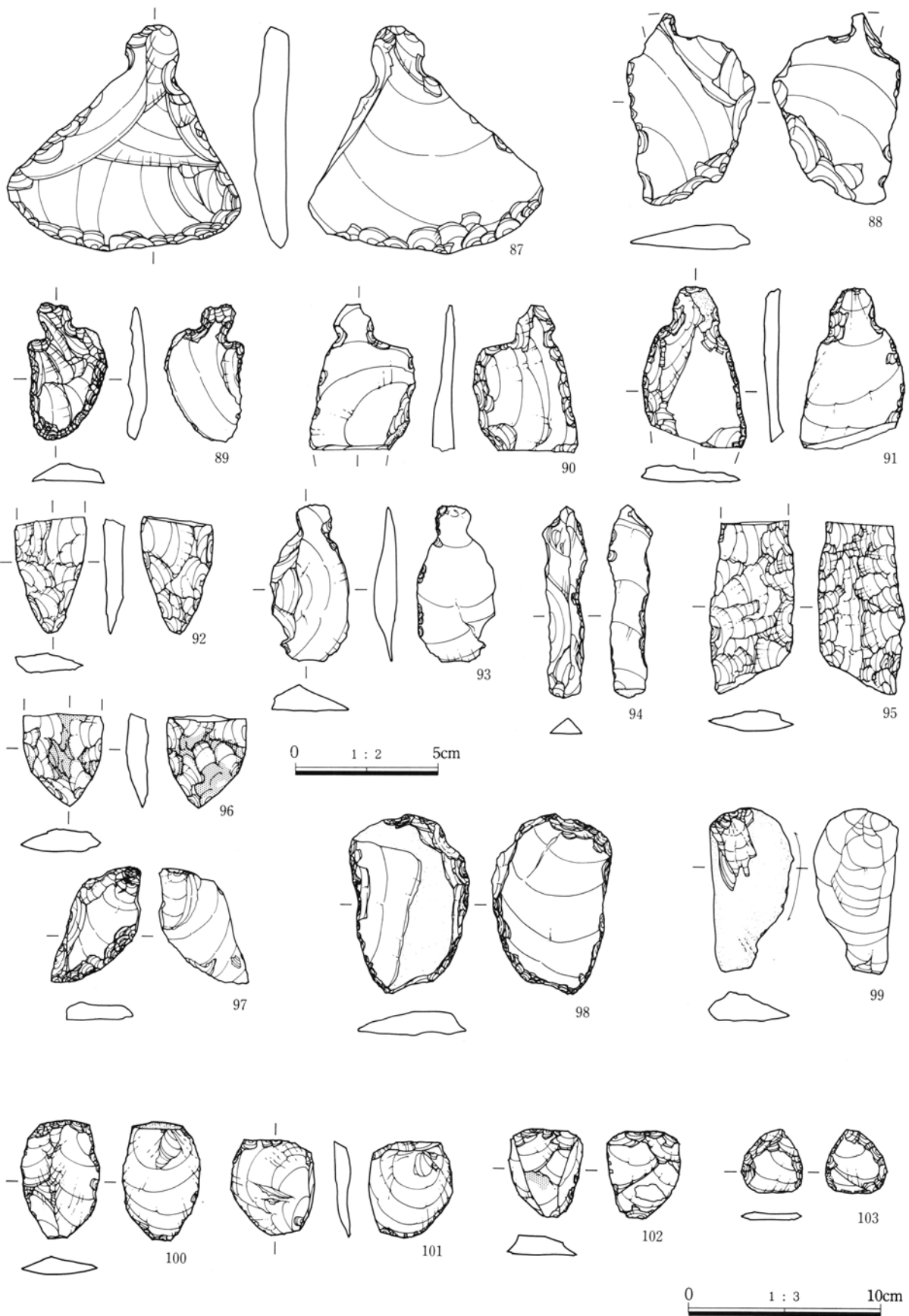


第181図 包含層出土の石器(4)

II 調査の結果

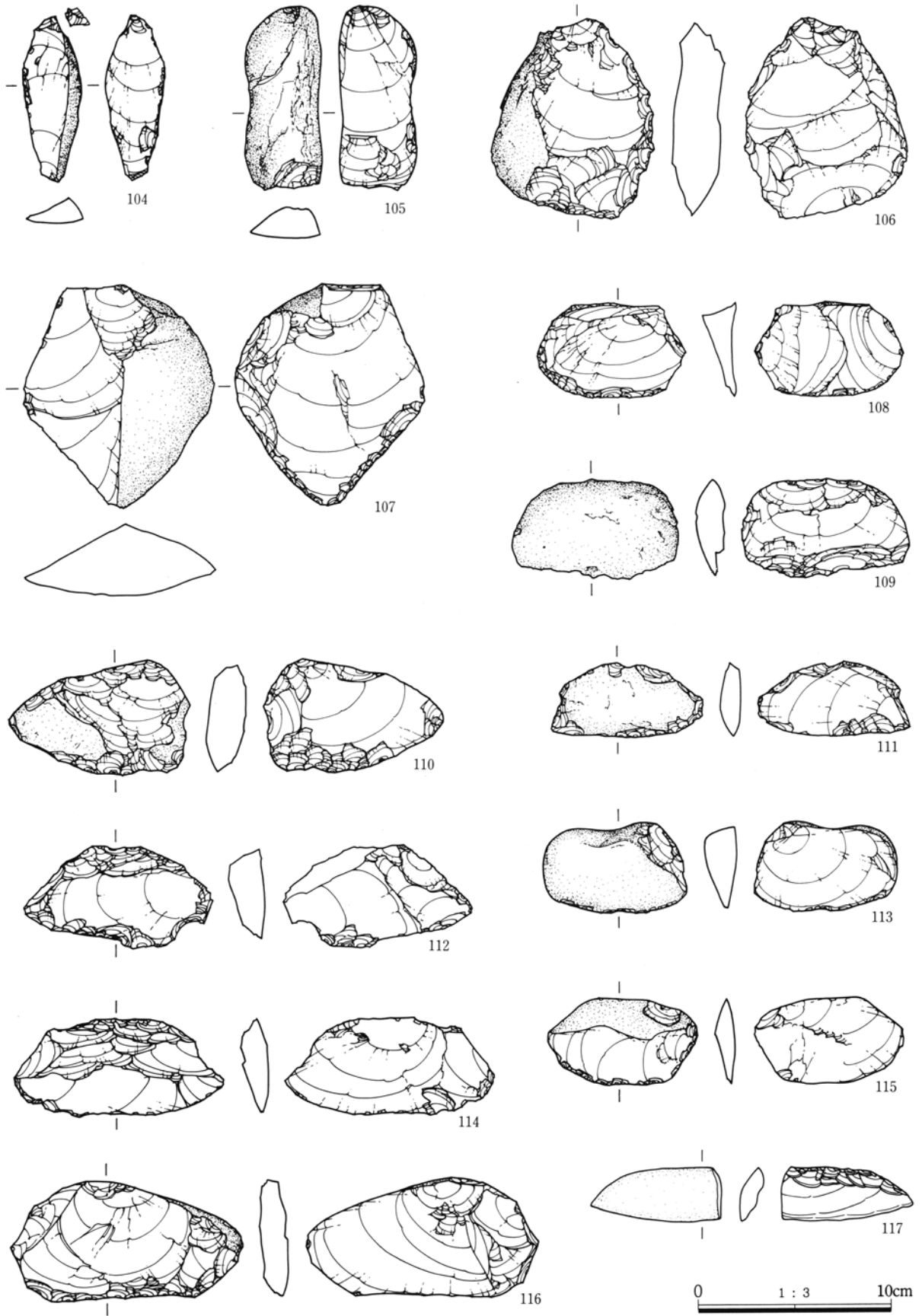


第182図 包含層出土の石器(5)



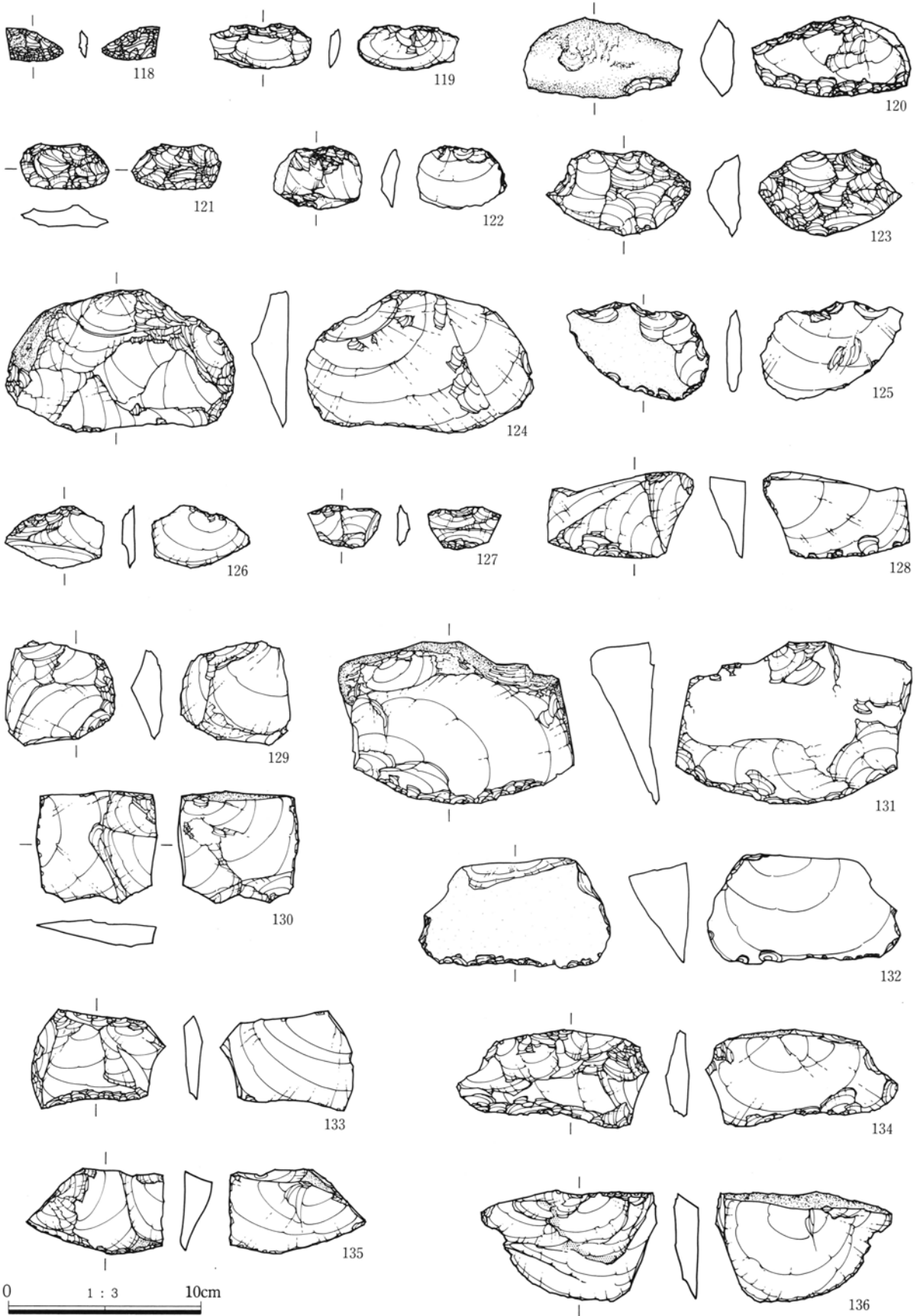
第183図 包含層出土の石器(6)

II 調査の結果



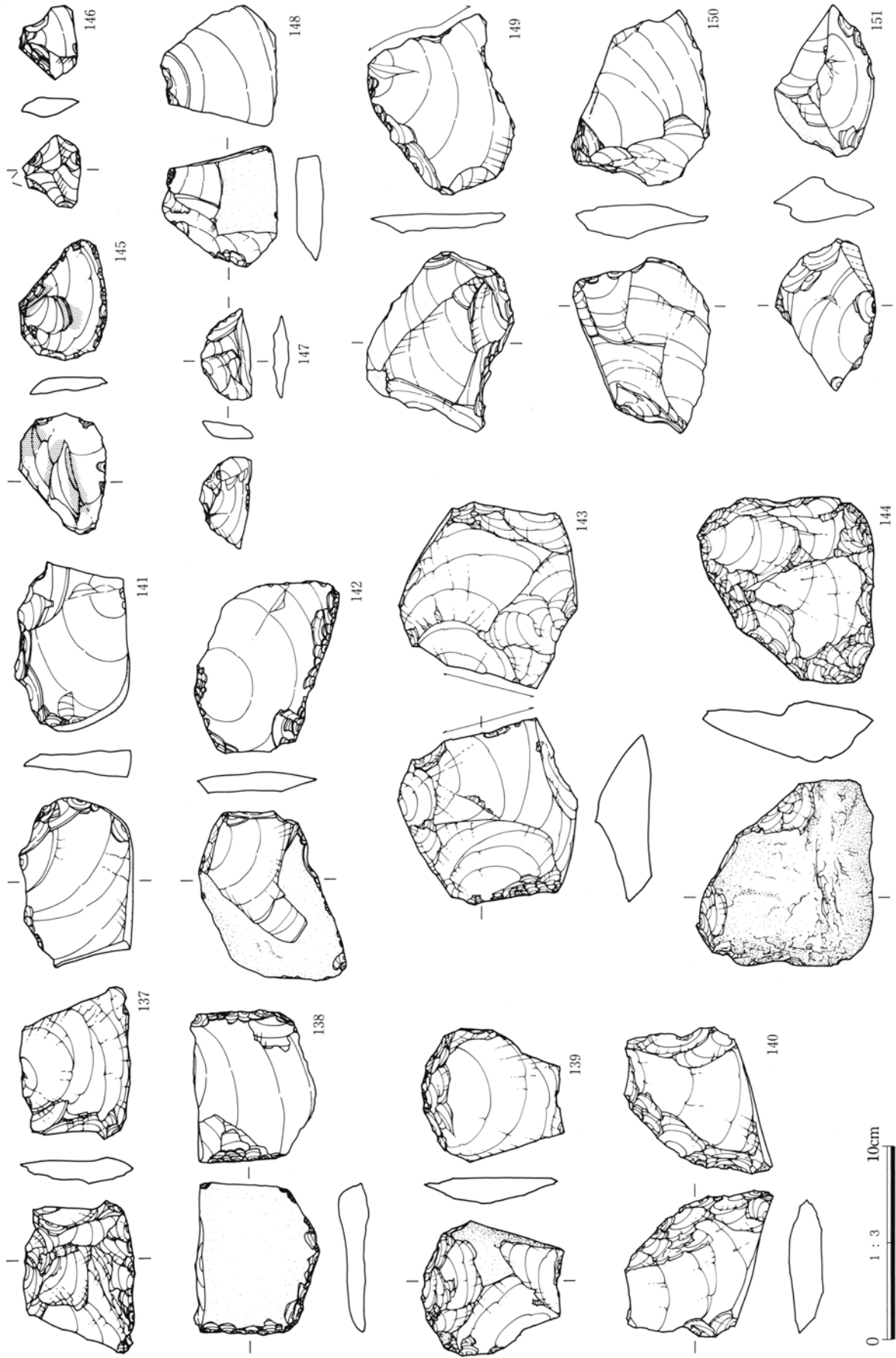
第184図 包含層出土の石器(7)

2. 縄文時代

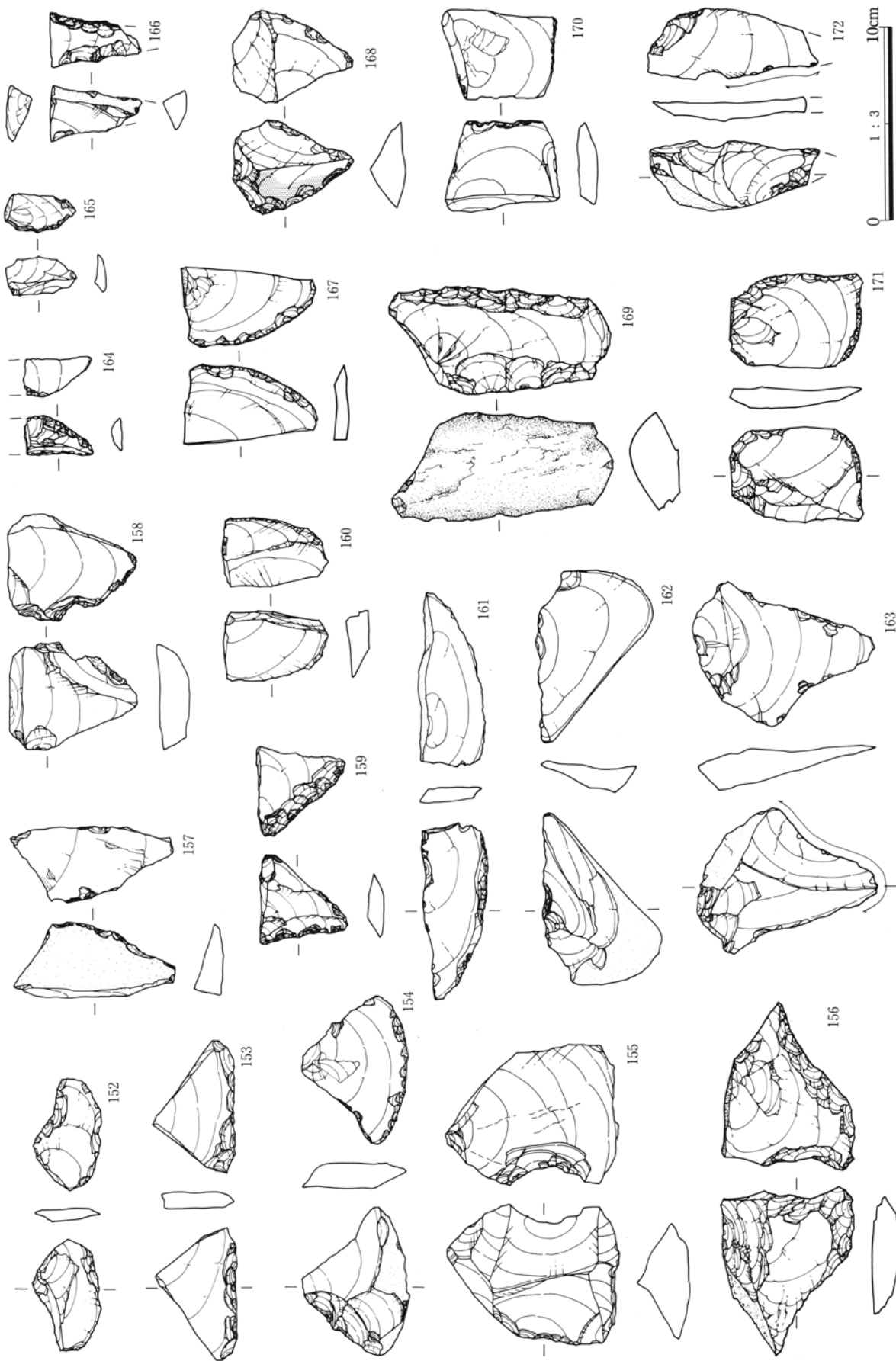


第185図 包含層出土の石器(8)

II 調査の結果



第186図 包含層出土の石器(9)

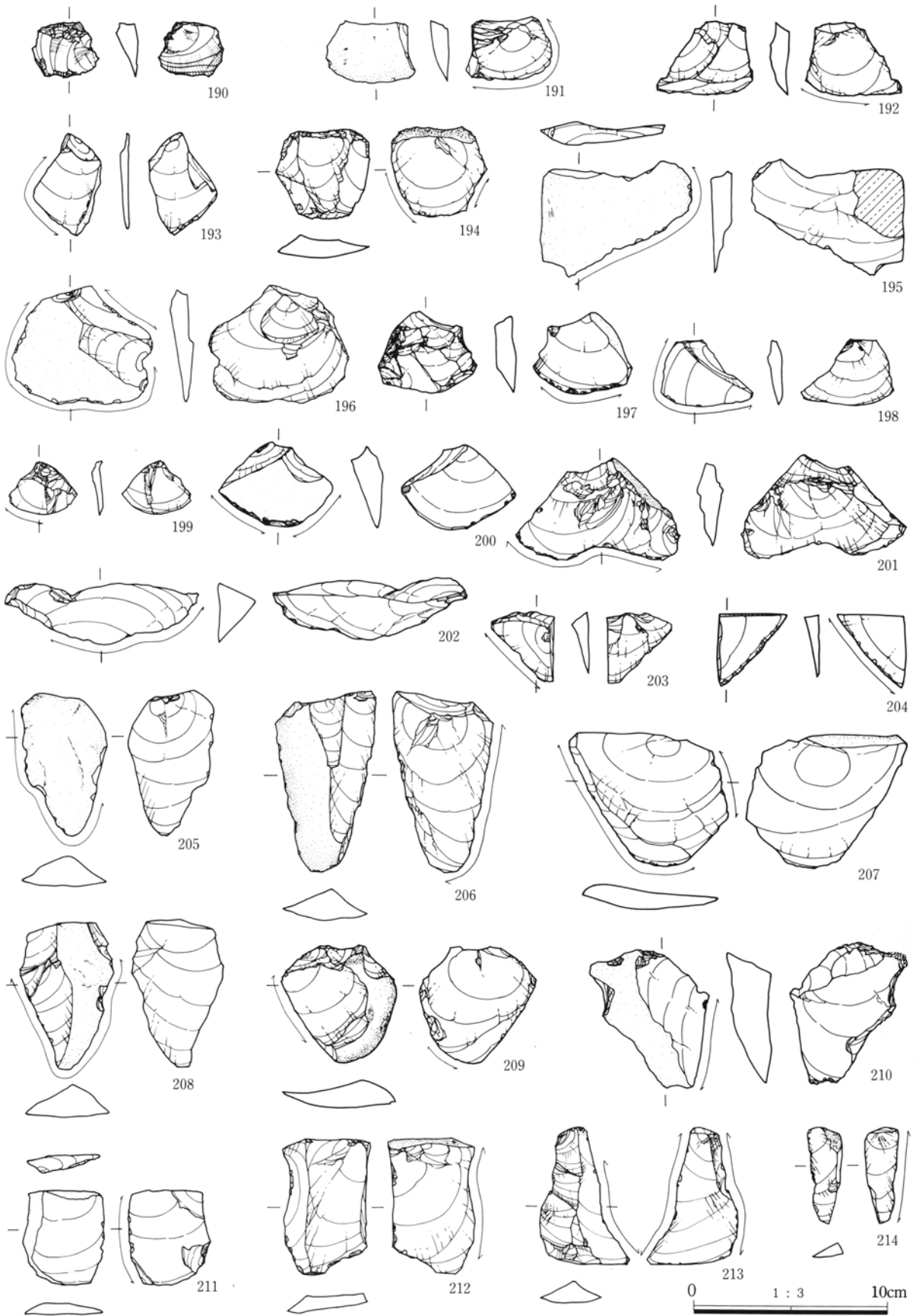


第187図 包含層出土の石器(10)

II 調査の結果

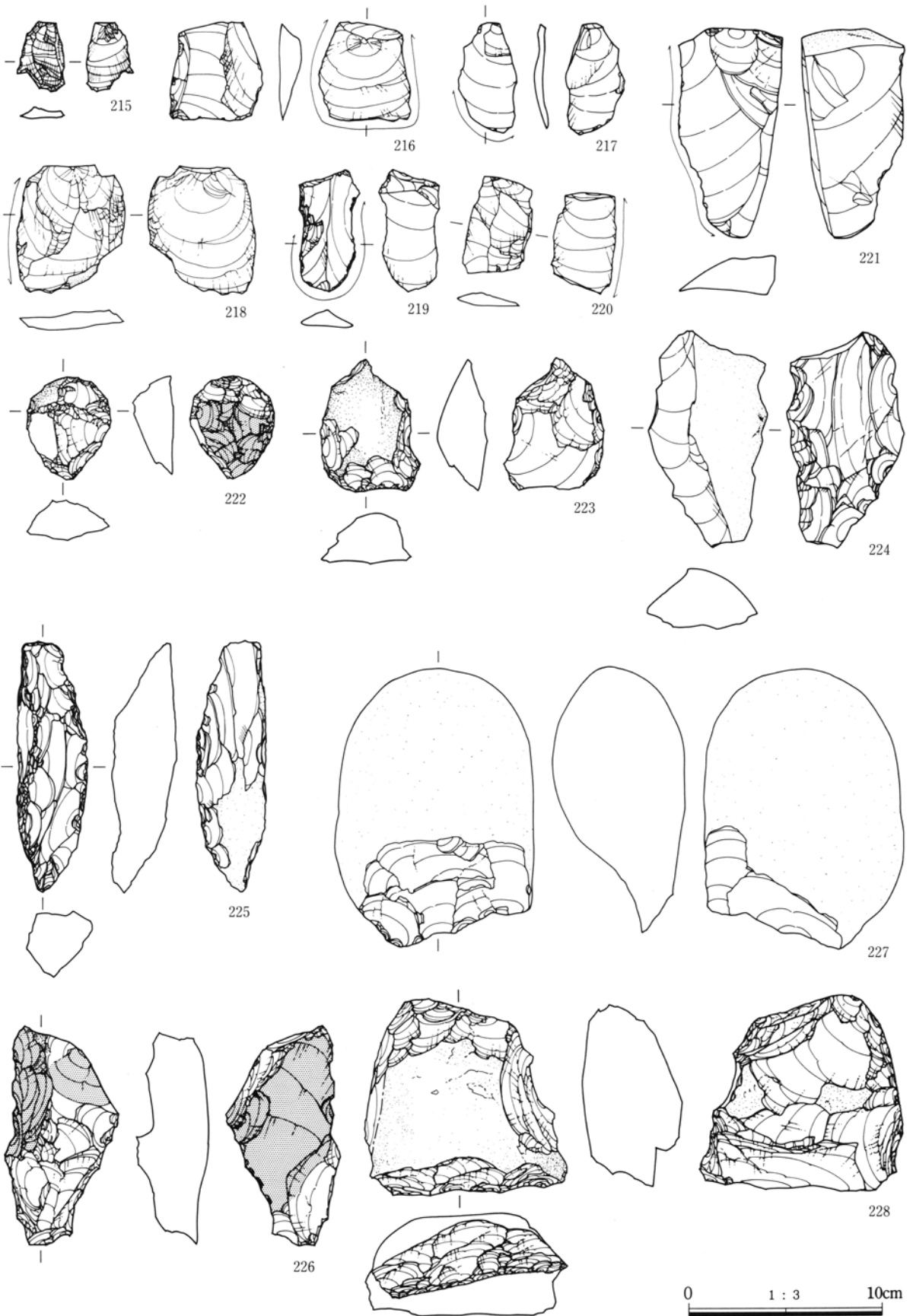


第188図 包含層出土の石器(11)

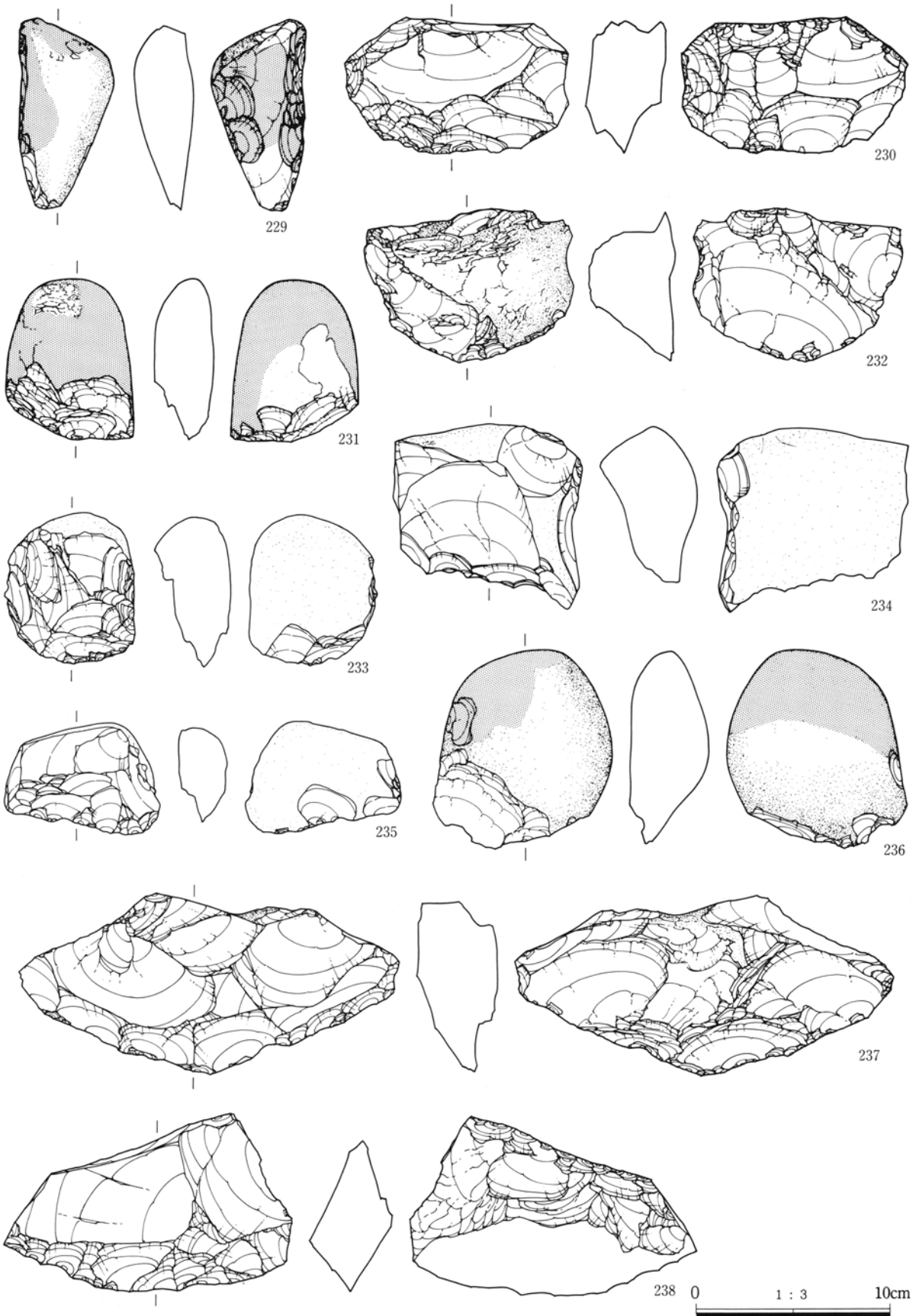


第189図 包含層出土の石器(12)

II 調査の結果

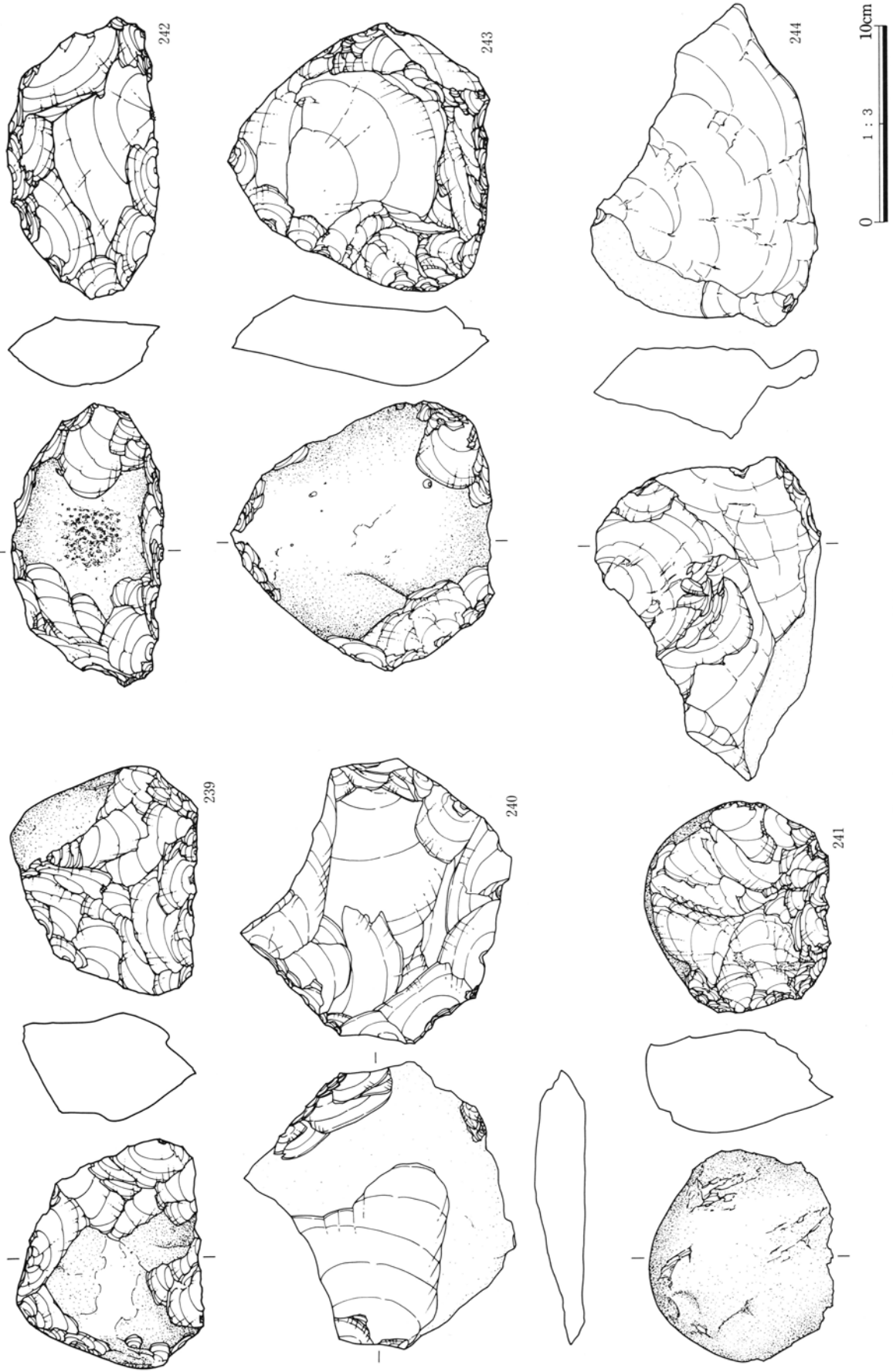


第190図 包含層出土の石器(13)

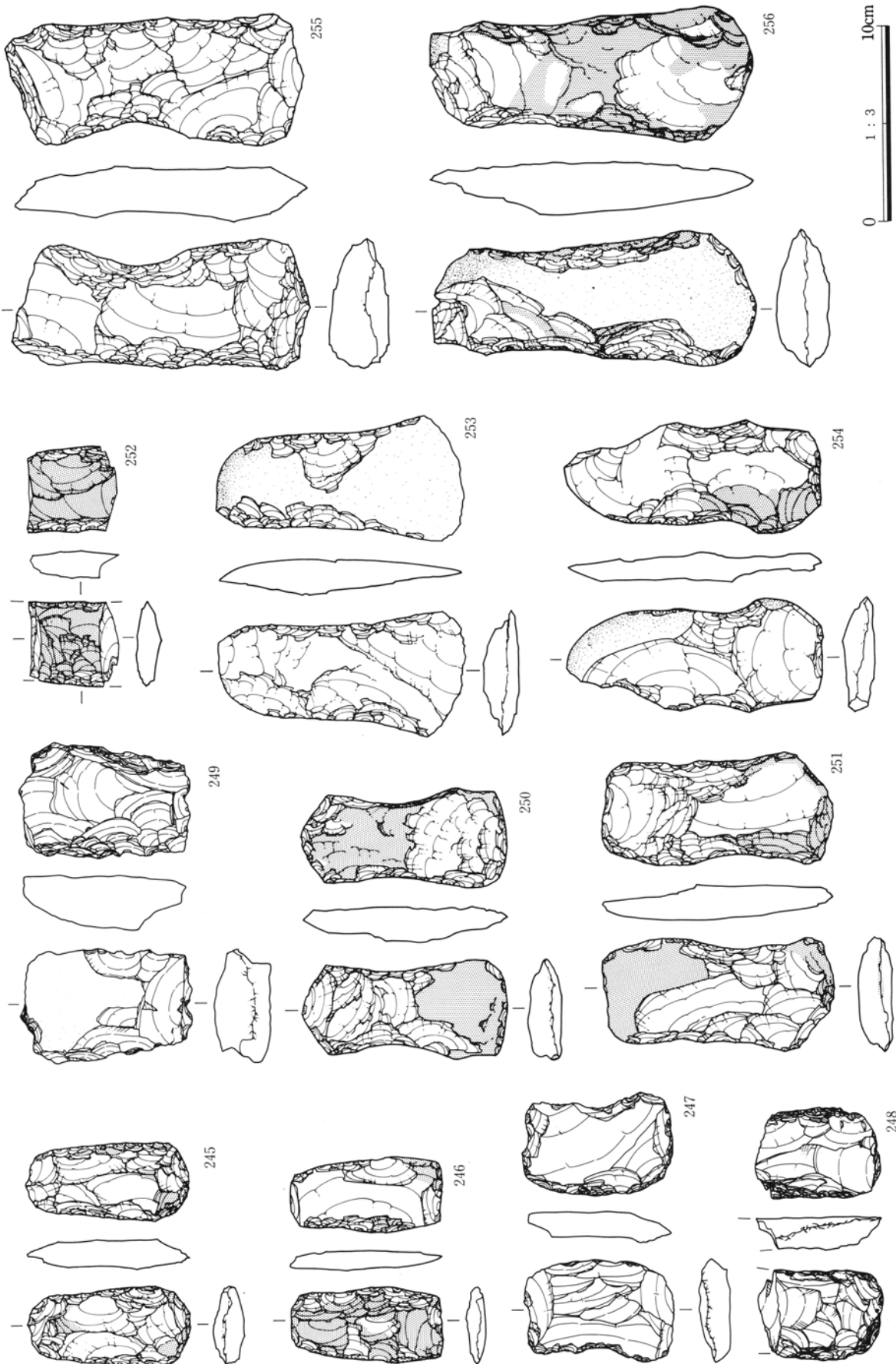


第191図 包含層出土の石器(14)

II 調査の結果

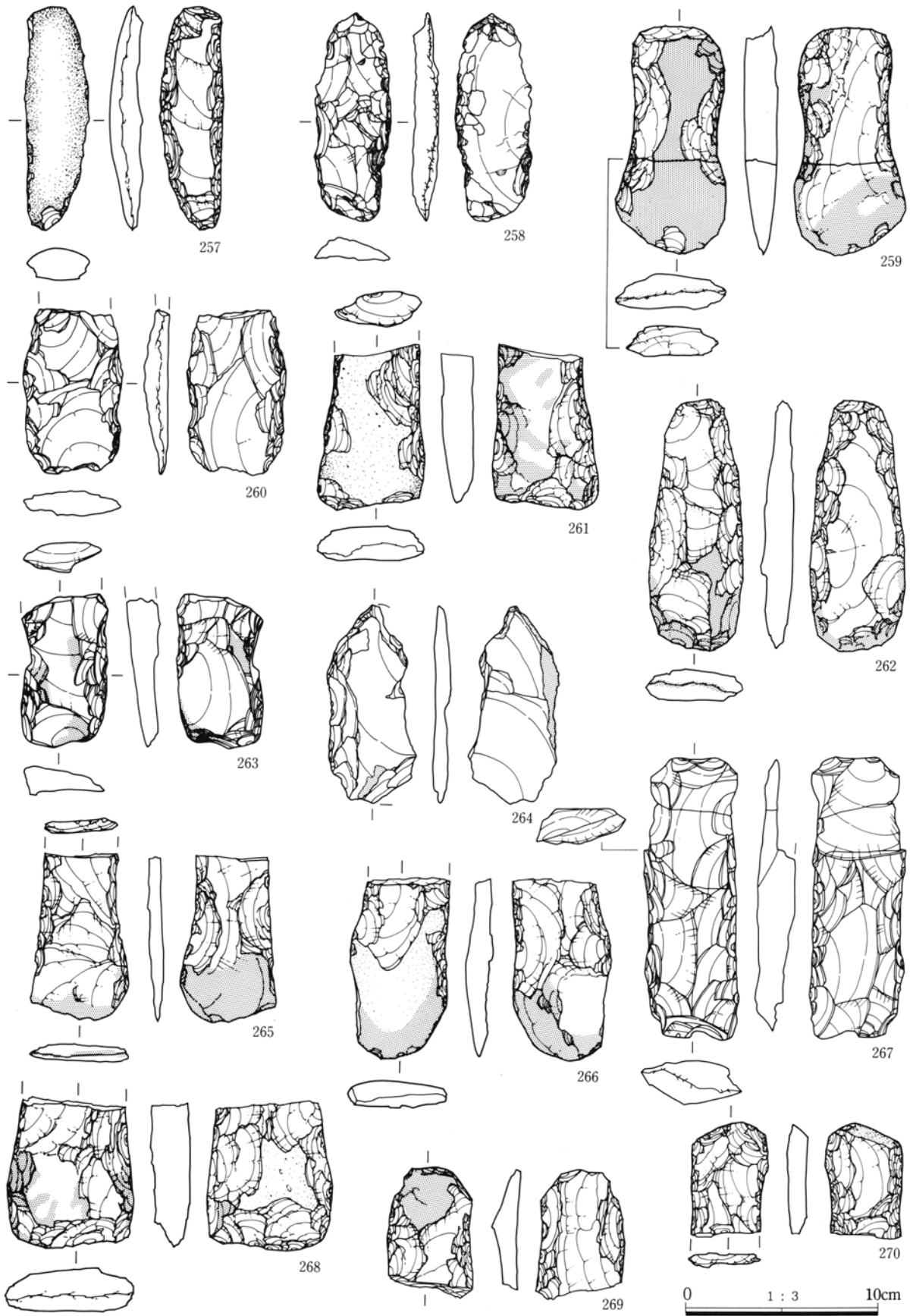


第192図 包含層出土の石器(15)

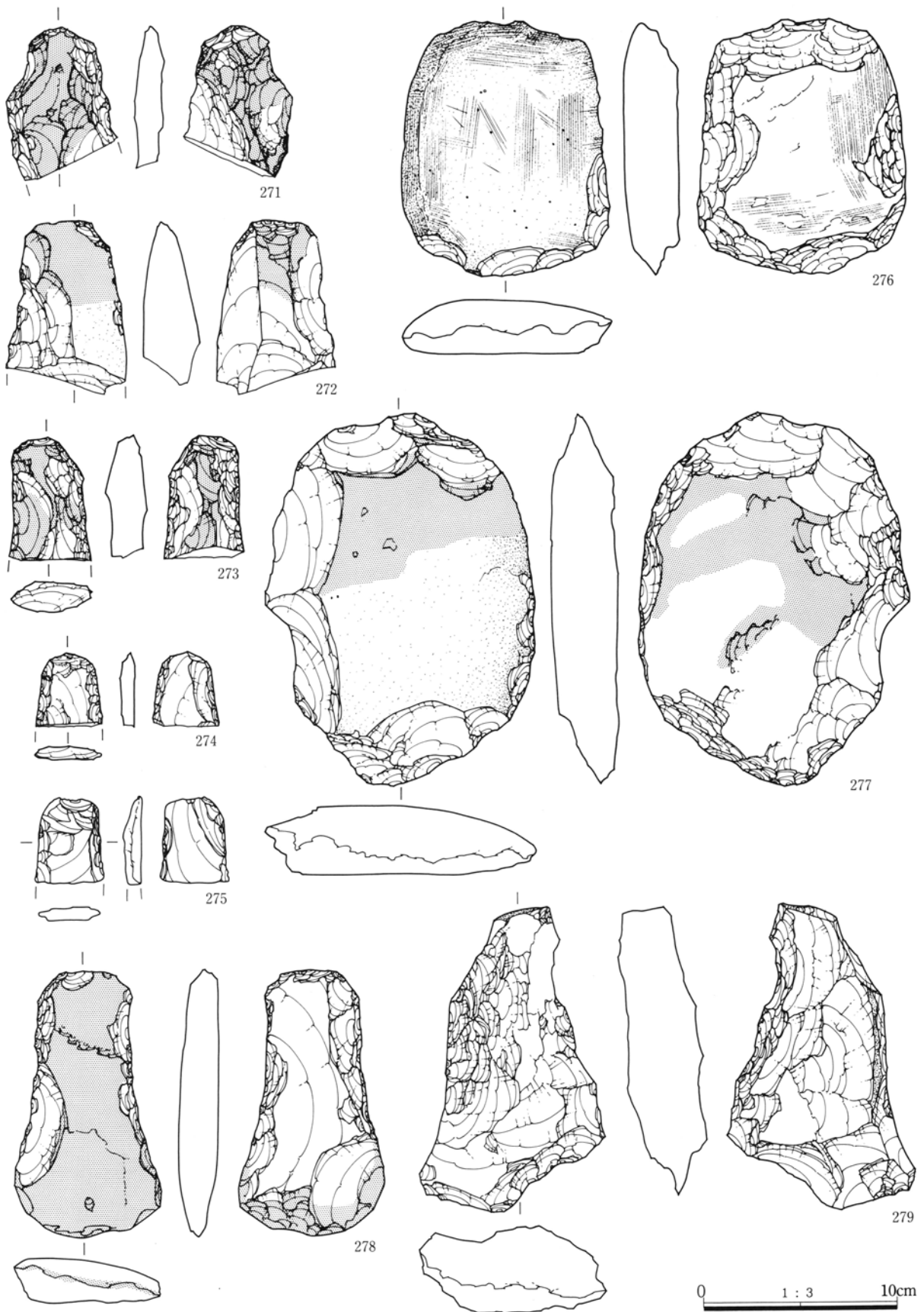


第193図 包含層出土の石器(16)

II 調査の結果

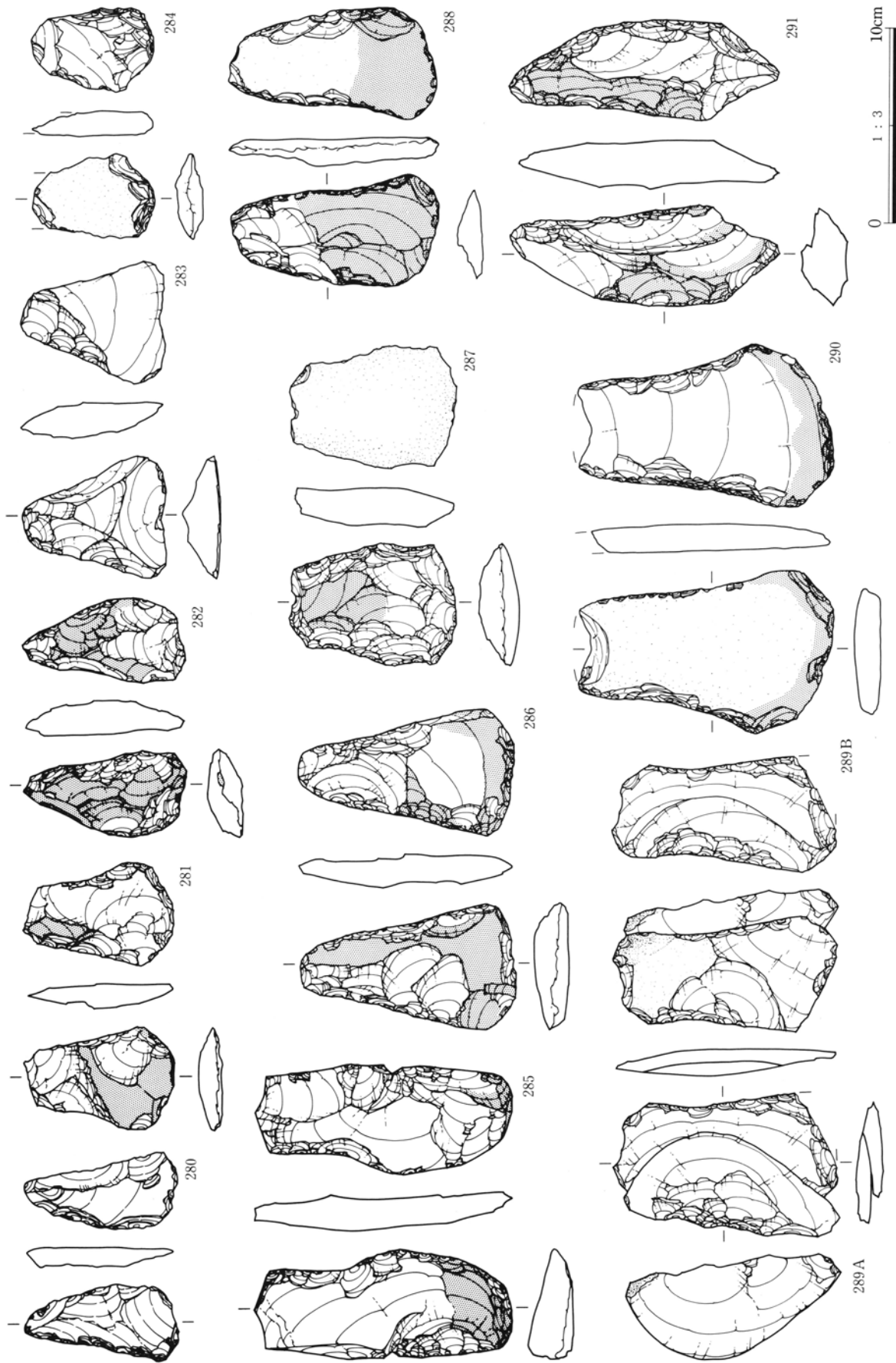


第194図 包含層出土の石器(17)

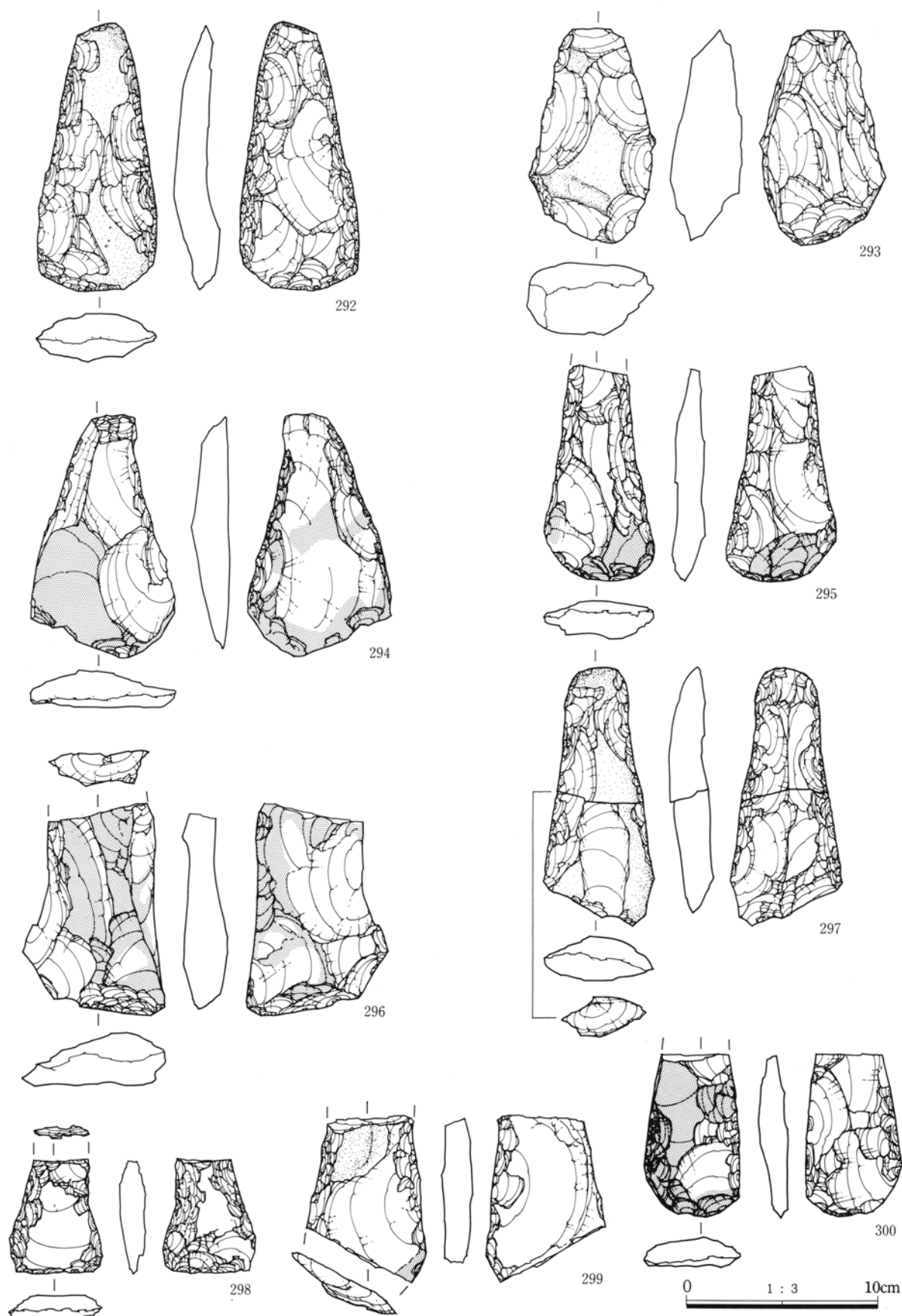


第195図 包含層出土の石器(18)

II 調査の結果

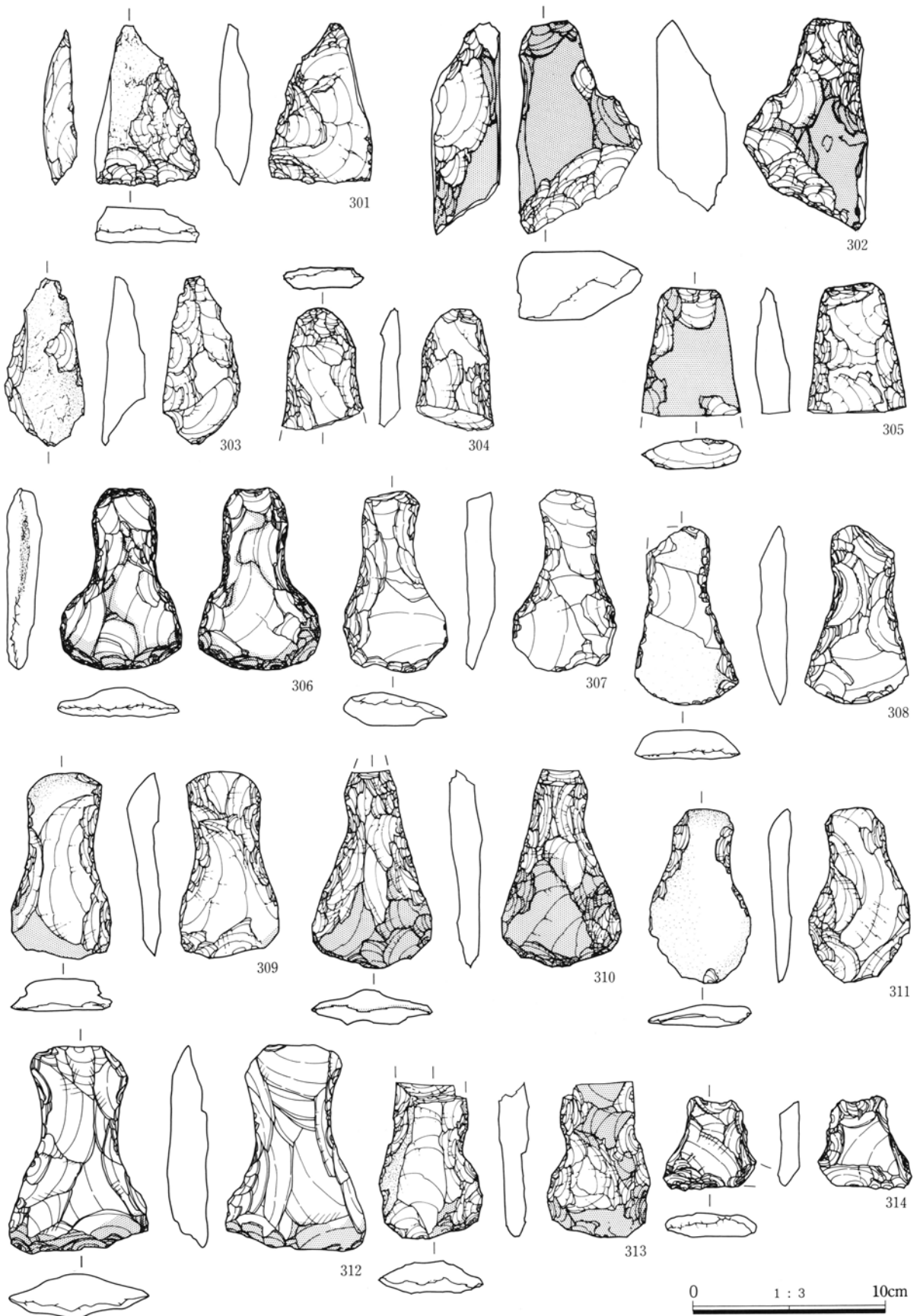


第196図 包含層出土の石器(19)

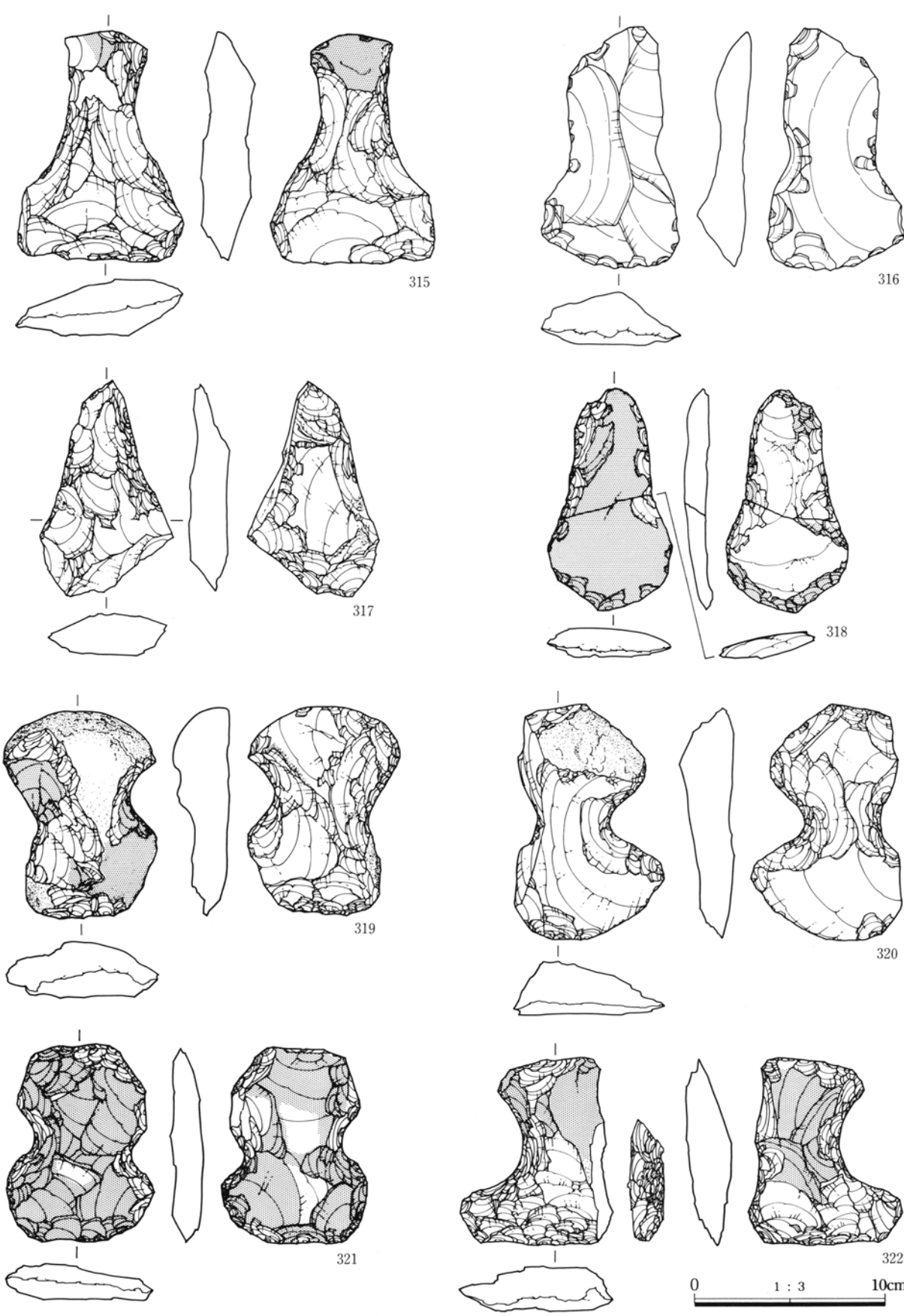


第197図 包含層出土の石器(20)

II 調査の結果

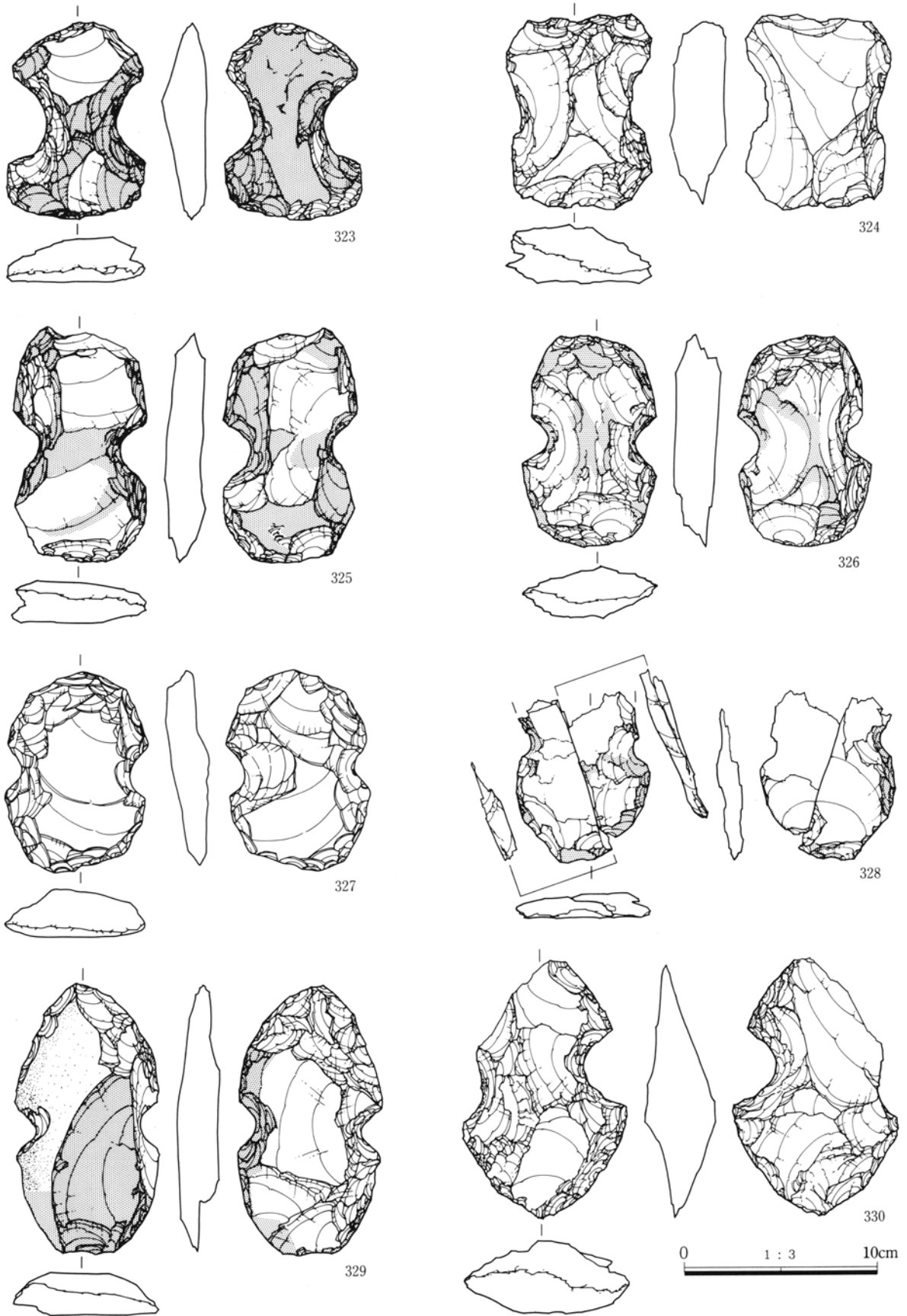


第198図 包含層出土の石器(21)

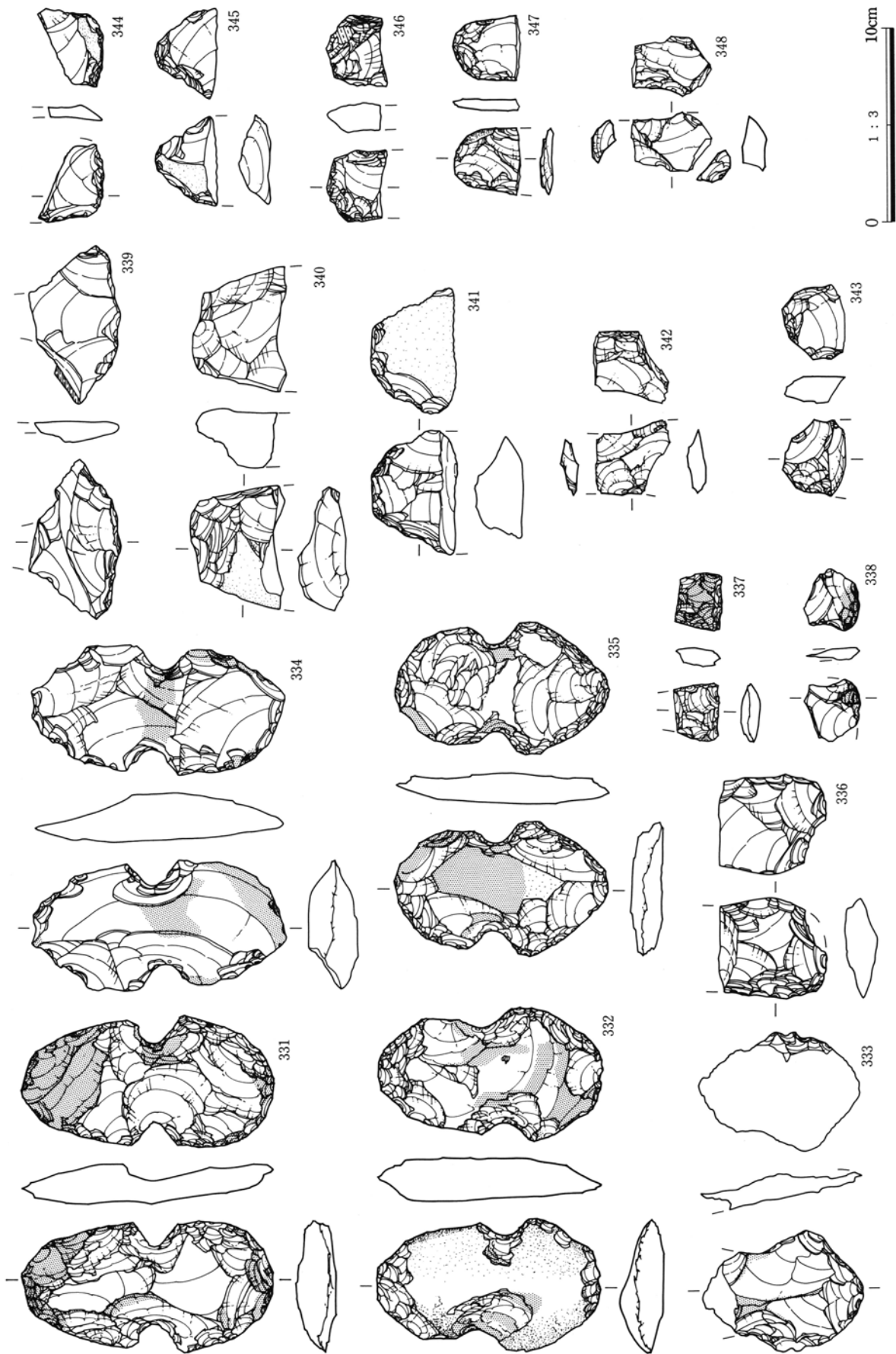


第199図 包含層出土の石器(22)

II 調査の結果

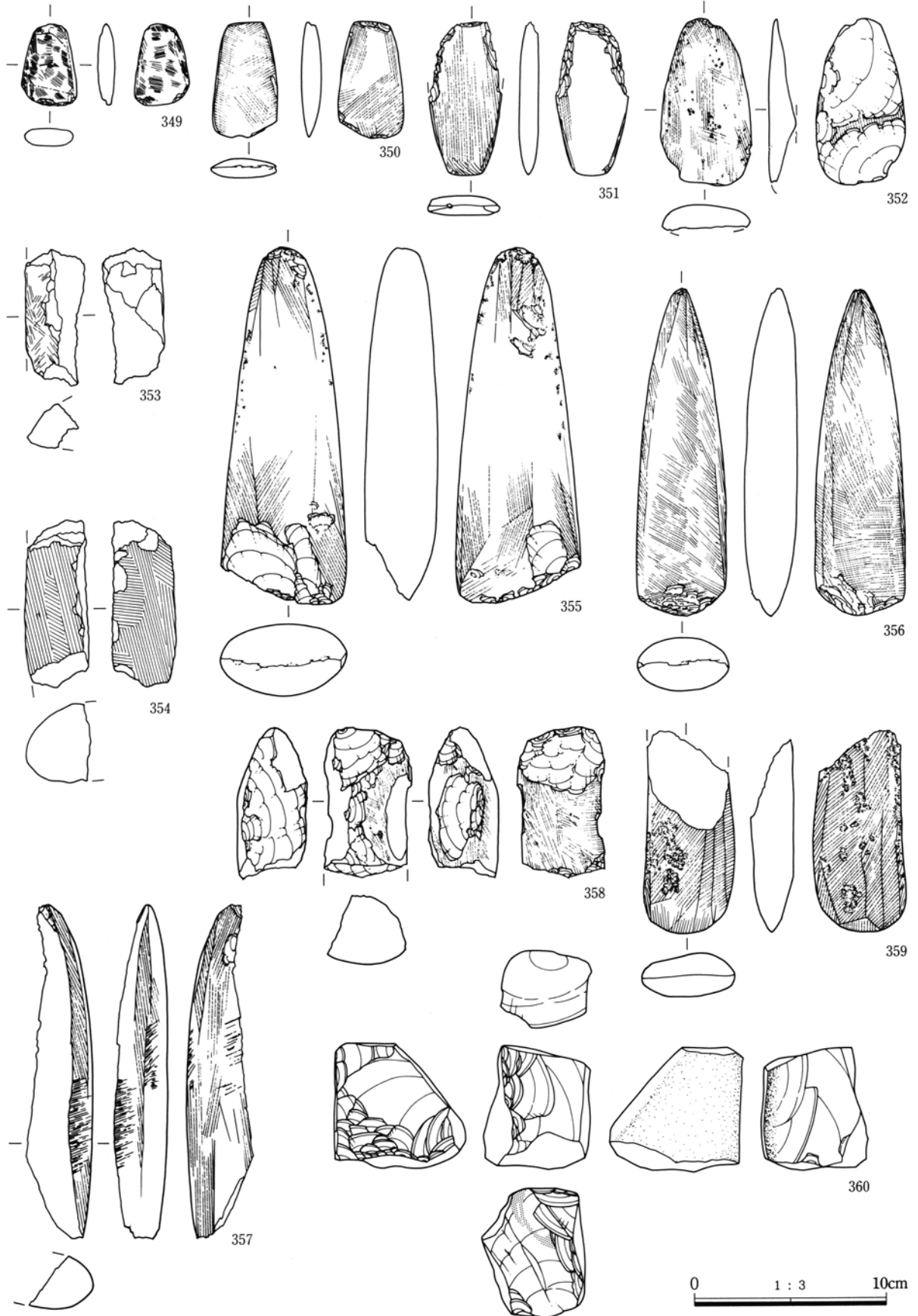


第200図 包含層出土の石器(23)



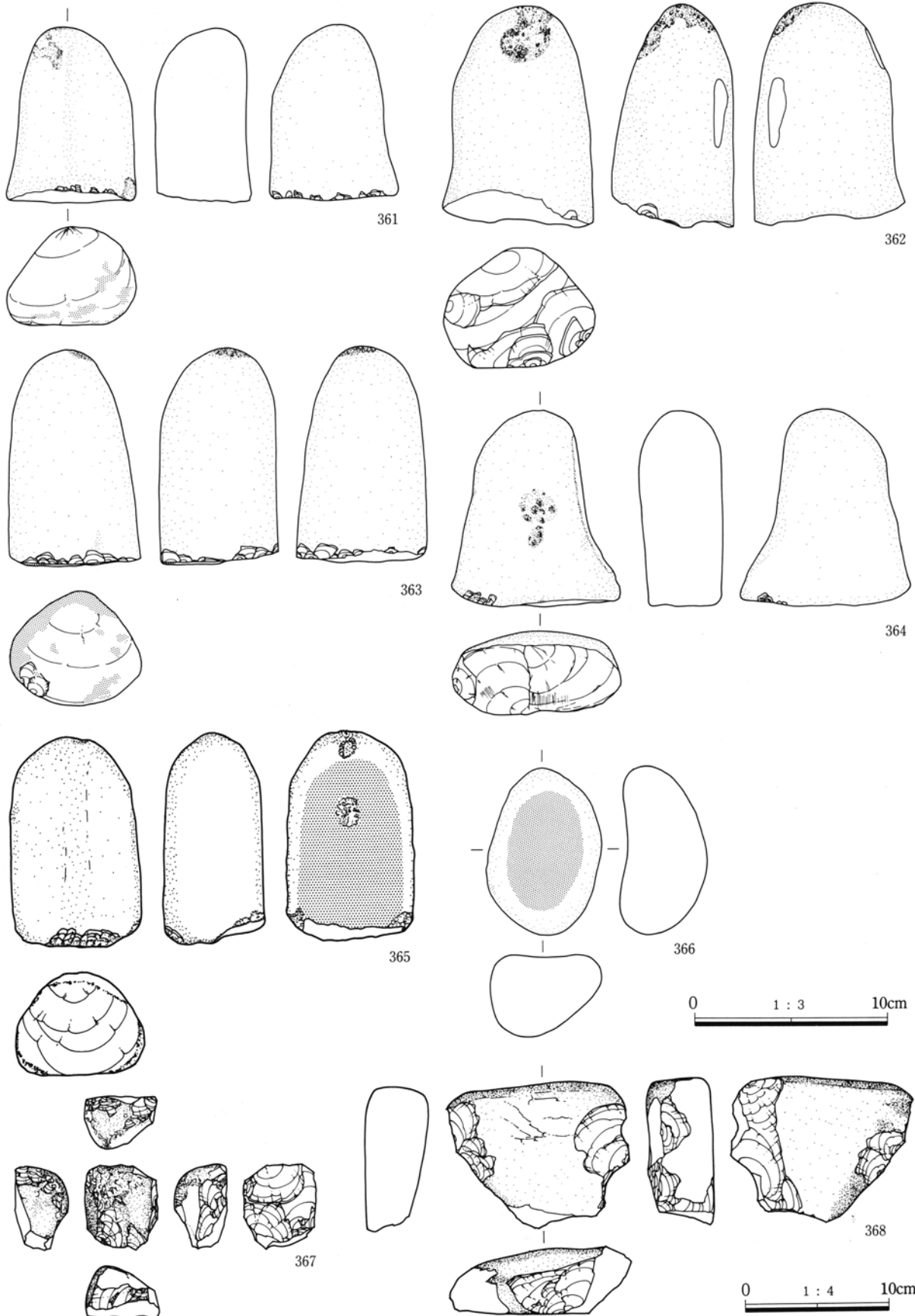
第201図 包含層出土の石器(24)

II 調査の結果



第202図 包含層出土の石器 (25)

2. 縄文時代



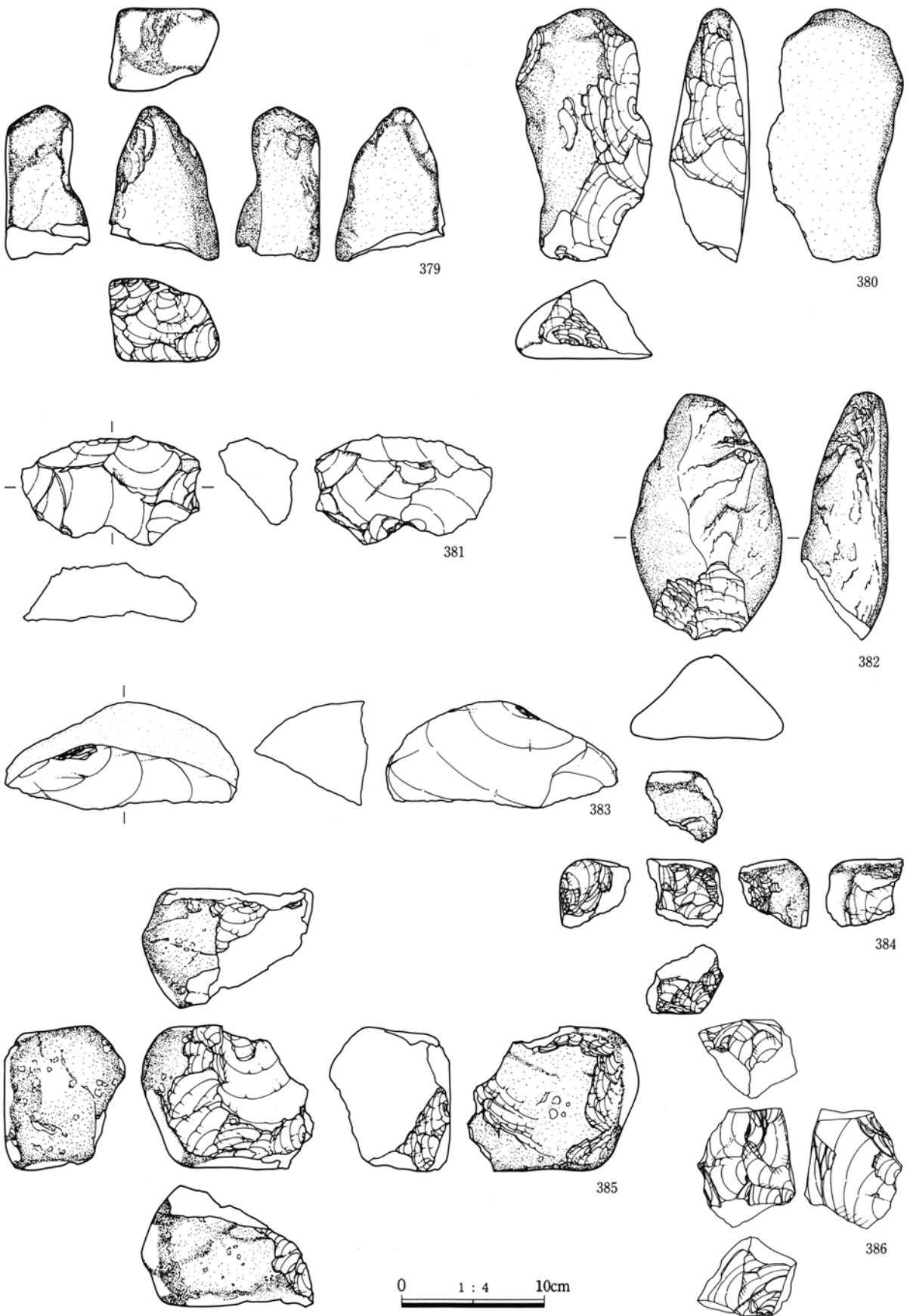
第203図 包含層出土の石器(26)

II 調査の結果



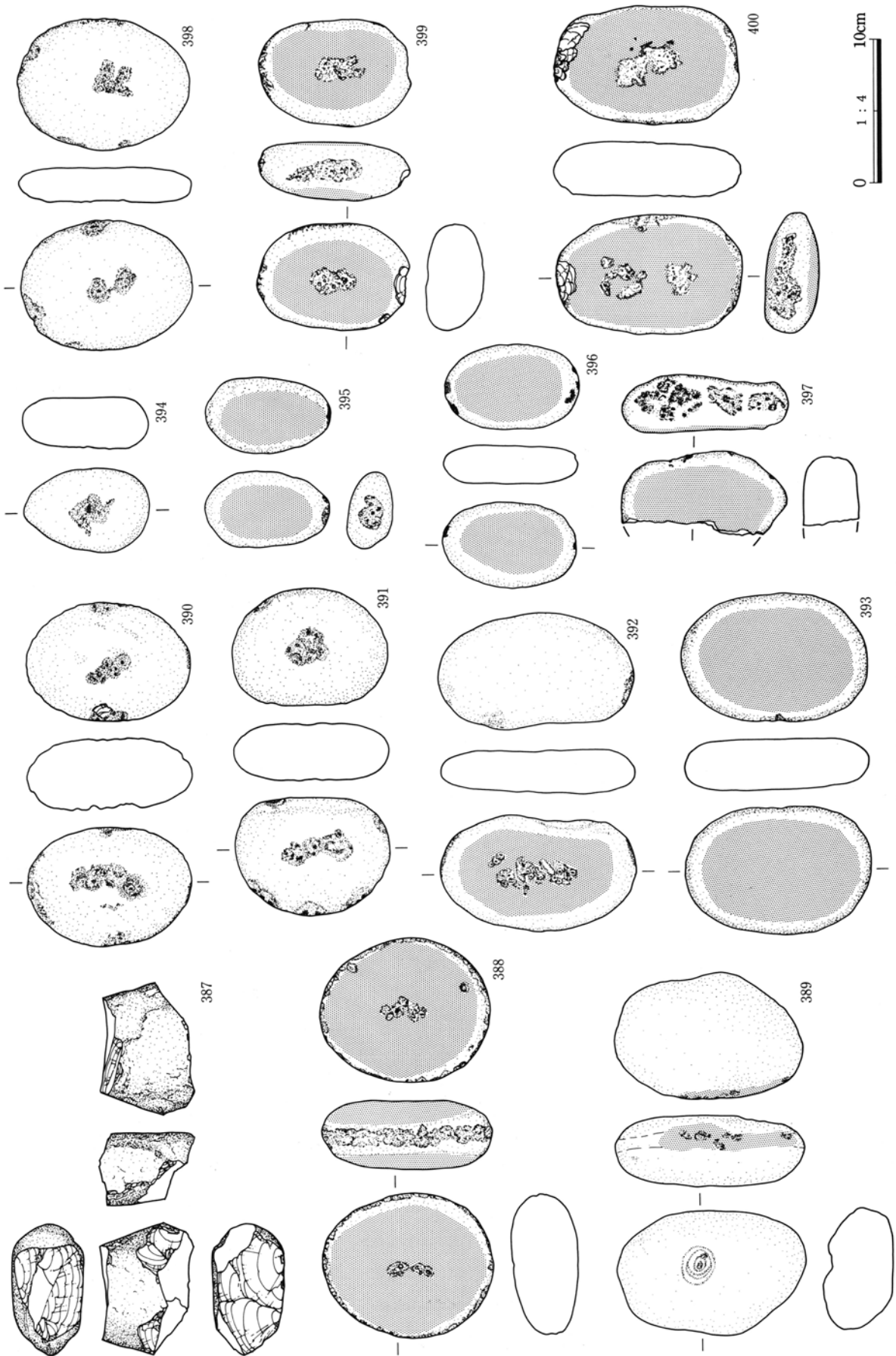
第204図 包含層出土の石器(27)

2. 縄文時代

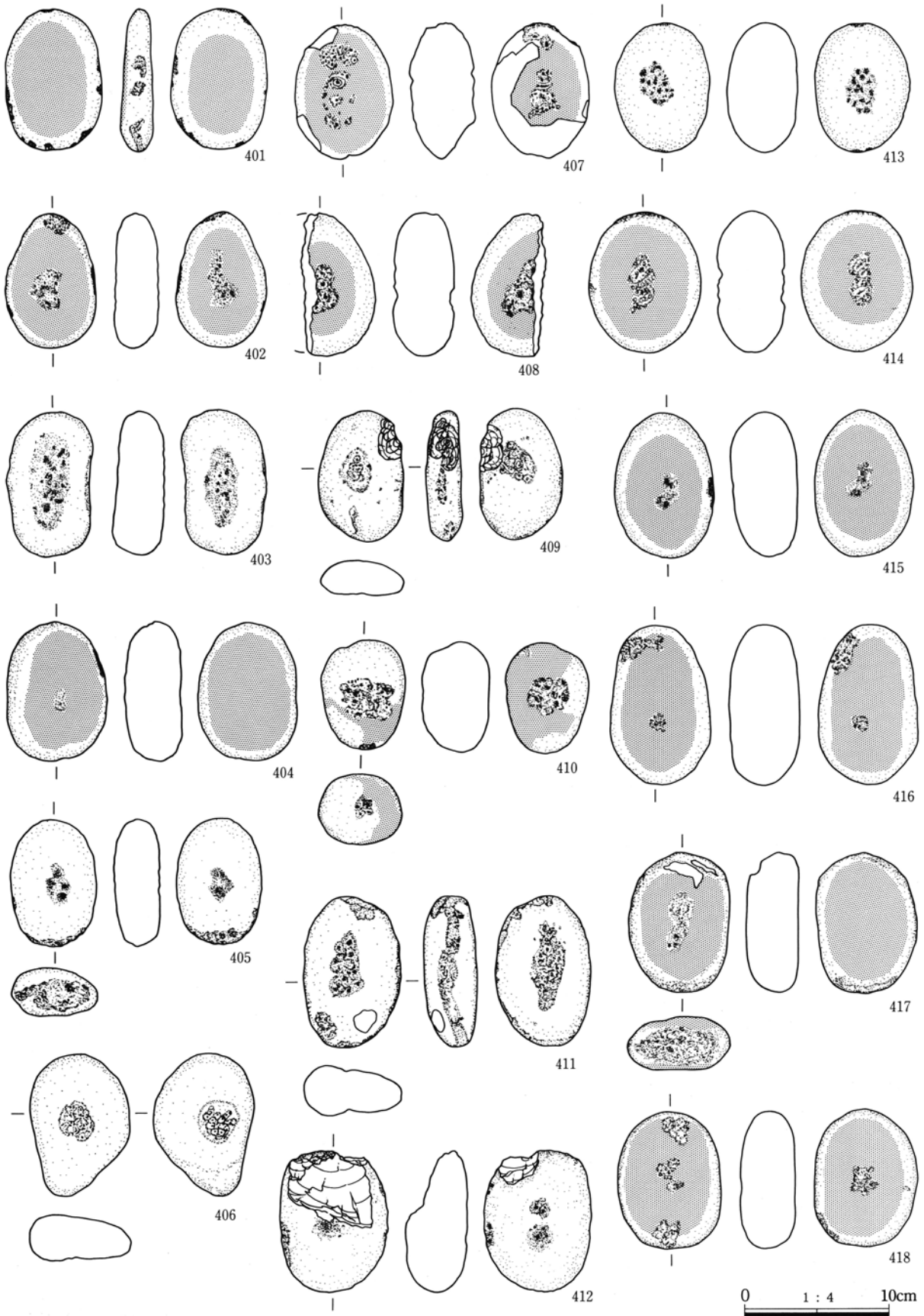


第205図 包含層出土の石器(28)

II 調査の結果

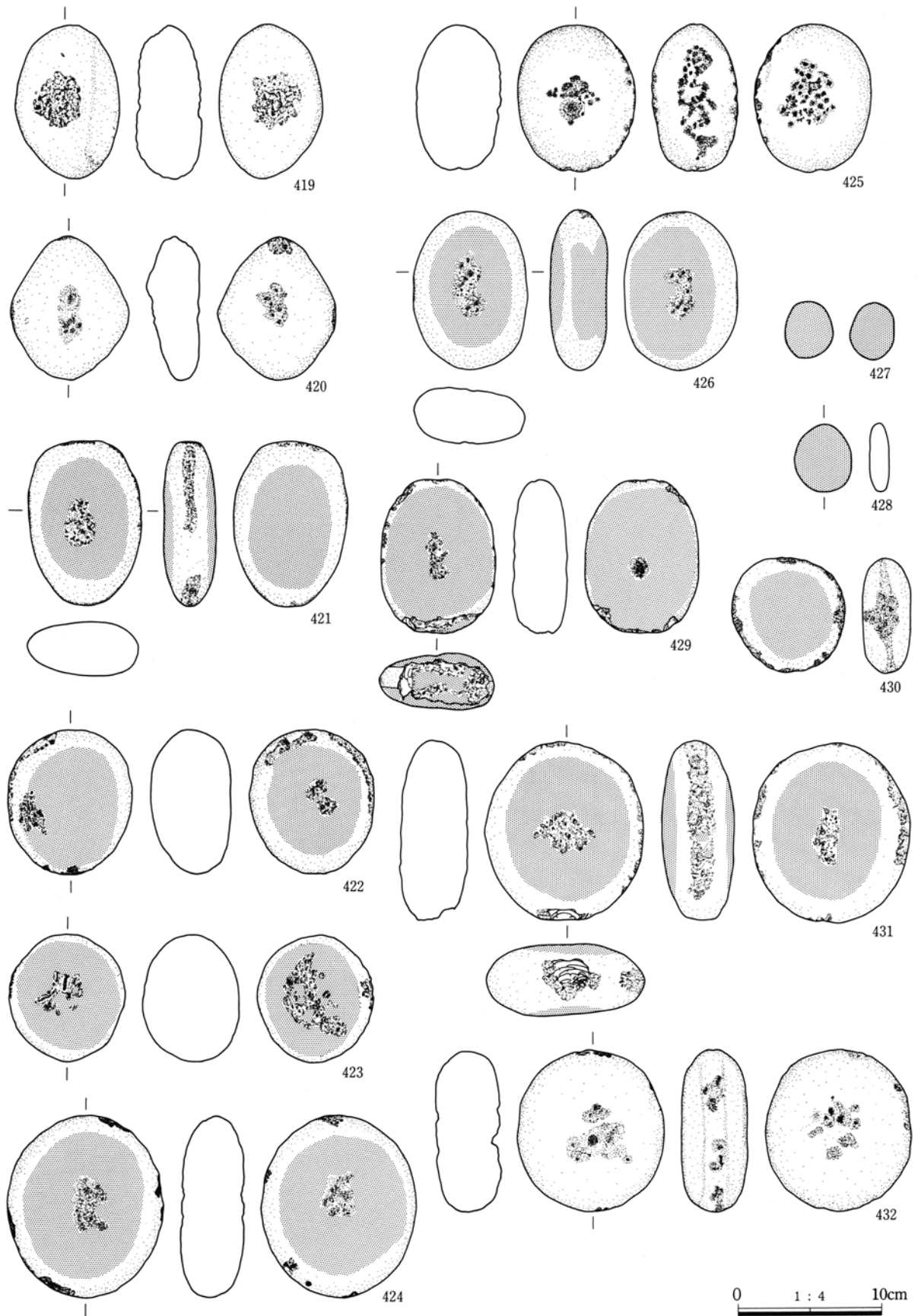


第206図 包含層出土の石器(29)

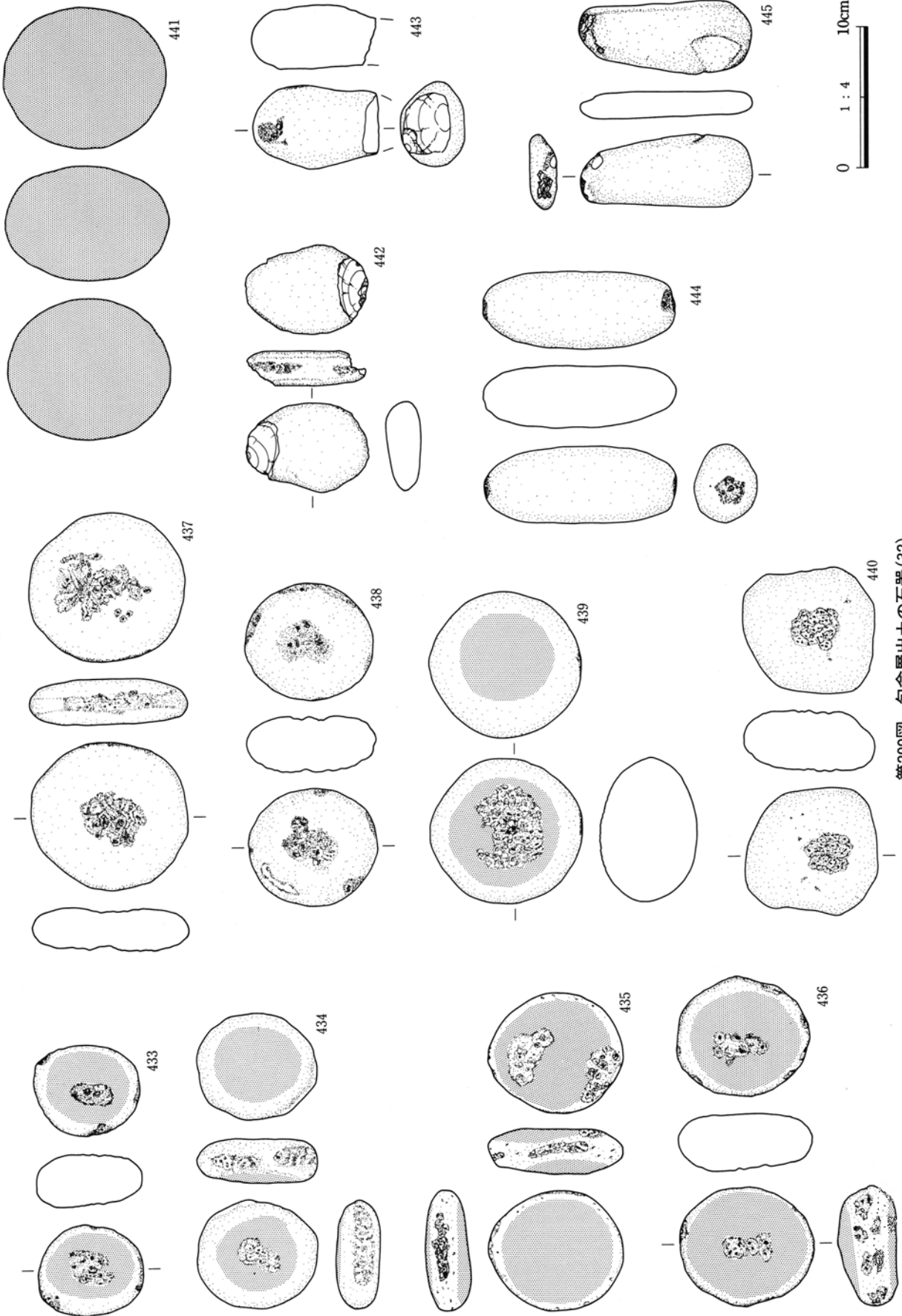


第207図 包含層出土の石器(30)

II 調査の結果

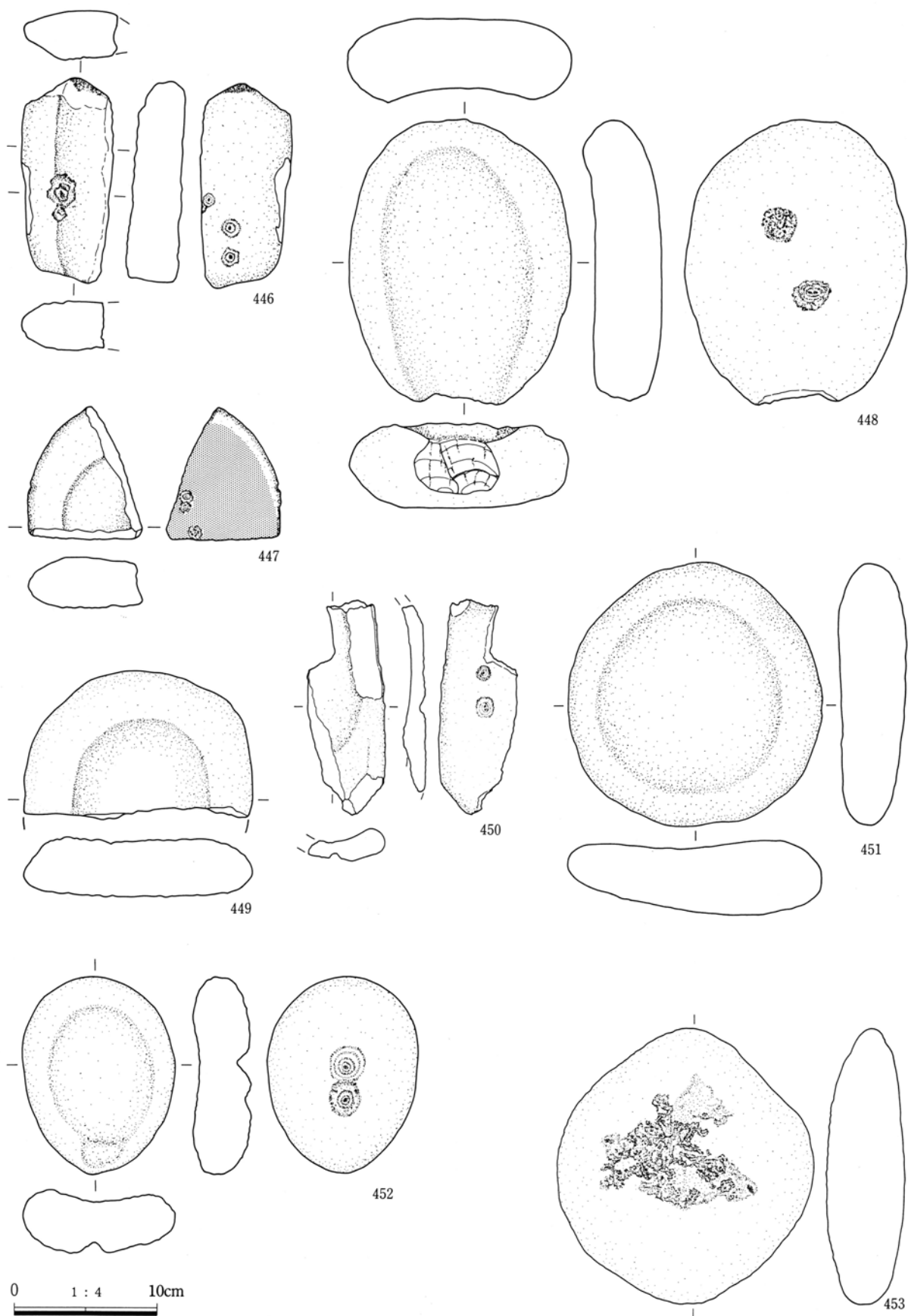


第208図 包含層出土の石器(31)



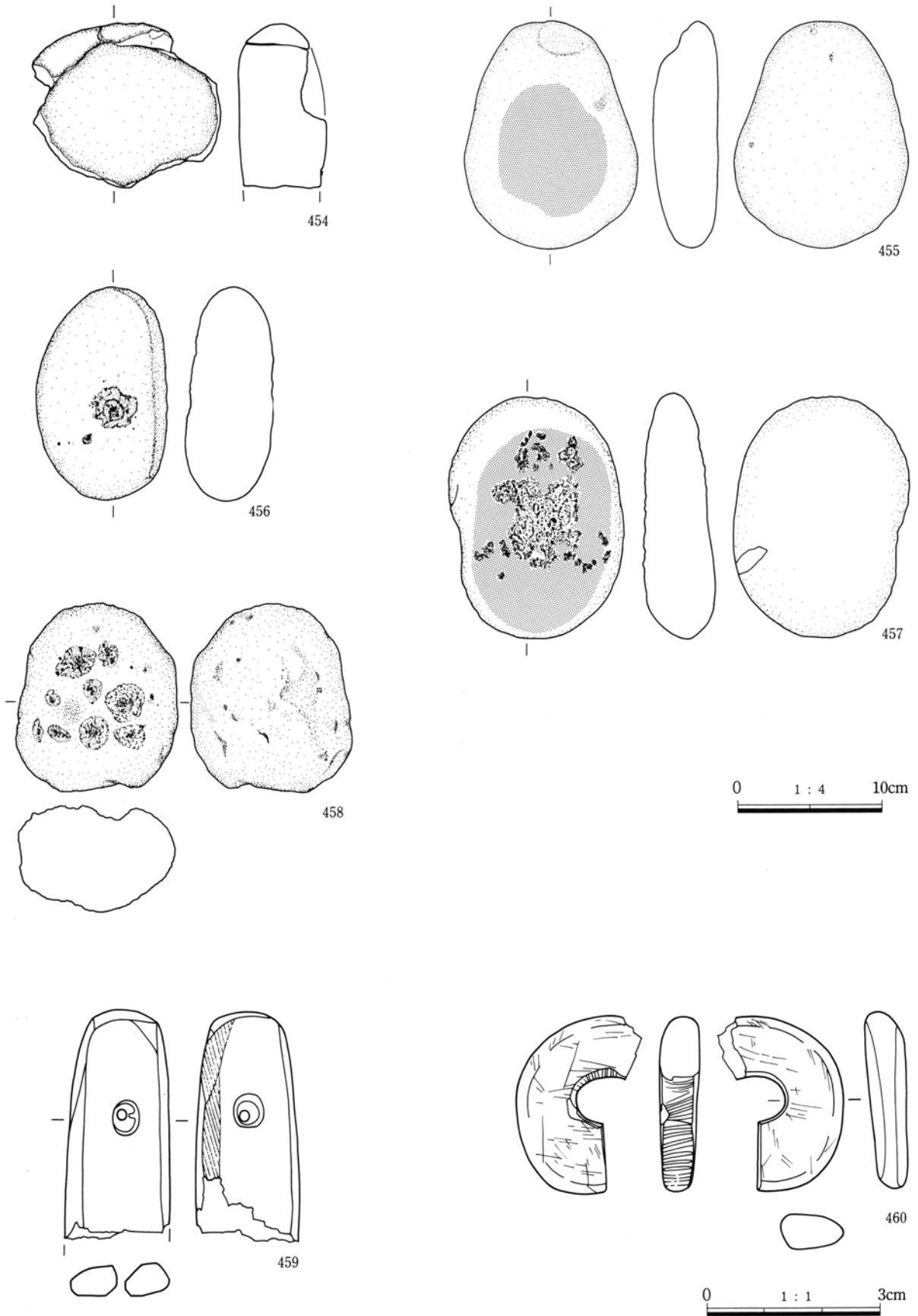
第209図 包含層出土の石器(32)

II 調査の結果



第210図 包含層出土の石器(33)

2. 縄文時代



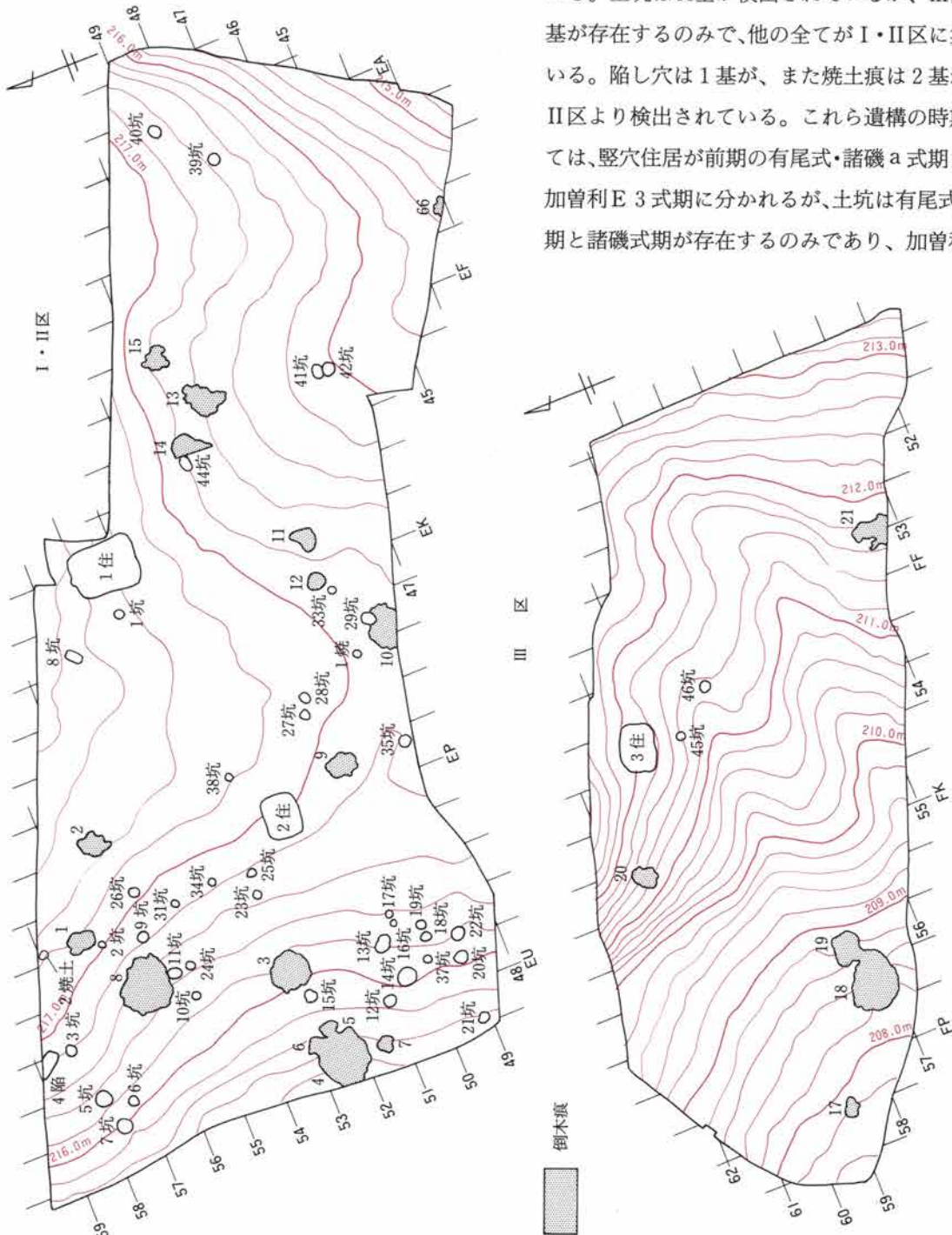
第211図 包含層出土の石器(34)

2-3 吹屋中原遺跡

(1) 検出された遺構と遺物の概要

I～III区の約8,200㎡にわたる調査区内から検出された縄文時代の遺構は、竪穴住居・土坑・陥し穴・焼土痕の他に倒木痕などがある。各遺構の検出は、VI

～VIII層の遺物包含層を人力により掘り下げてゆく過程で適宜行ったが、最終的には焼土痕を除いてIX層のローム上面にて確認した。竪穴住居は、I・III区に各1棟(1・3号)と、II区に1棟(2号)の計3棟が存在し、1号の掘り込みはVIII a層の上面からなされている。土坑は44基が検出されているが、III区には2基が存在するのみで、他の全てがI・II区に集中している。陥し穴は1基が、また焼土痕は2基がともにII区より検出されている。これら遺構の時期については、竪穴住居が前期の有尾式・諸磯a式期と中期の加曽利E3式期に分かれるが、土坑は有尾式・黒浜式期と諸磯式期が存在するのみであり、加曽利E3式



第212図 遺構の分布状況

期のものは認められない。調査区域が狭小なこともあり、各時期の集落形態については不明であるが、時期別に見た遺構の分布状況は、I・II区に有尾式・黒浜式期の遺構が、またIII区には諸磯式期の遺構がそれぞれ集中する傾向にあり、同時期の竪穴住居と土坑とが位置的に近接して存在している。陥し穴と焼土痕については、時期の特定ができないが、後者はVIII a層上面で確認されたことから、1号住居と同様の前期に比定される可能性が高い。また前者の場合は、掘り込み面がVIII b層上面にあることから見て、前期よりも遡ると考えられる。竪穴住居の僅少さに比べて土坑の多さが目立つ点は、犬子塚遺跡と同様である。各遺構の立地を地形的な側面から見ると、東西の両側を開析谷に挟まれた馬の背状丘陵の頂部から緩斜面にあたるI・II区に濃密な遺構分布が認められ、斜面勾配のきついIII区では希薄な状況が読みとれる。

この他に、IX層上面で21基の倒木痕が検出されている。当遺跡でも、その形成時期や転倒方向を記録することを主眼として調査を行った。

(2) 竪穴住居

3棟検出されている住居(1～3号)ともに、IX層のローム土上面にて確認作業を行っているが、1号の掘り込み面はVIII a層の上面に位置している。住居の平面形状は、前期の1・3号が長方形を基調とし、中期の2号が五角形を呈している。炉・柱穴・周溝などの屋内施設のあり方には、各々差異があり一様ではない。1号は2回の拡張を有する住居であり、犬子塚遺跡の1号住居とともに、当該期住居のあり方を示すものとして注目される。

A. 1号住居

II区のエJ—53グリッドに位置する。住居の長軸は等高線にほぼ直交し、その方位はN5度Wである。2回の拡張を有するため、時期の新しい順からA・B・Cの細分名称を付した。ともに南北方向に長軸を持つ四隅の丸い長台形状を呈し、これと相似形に4

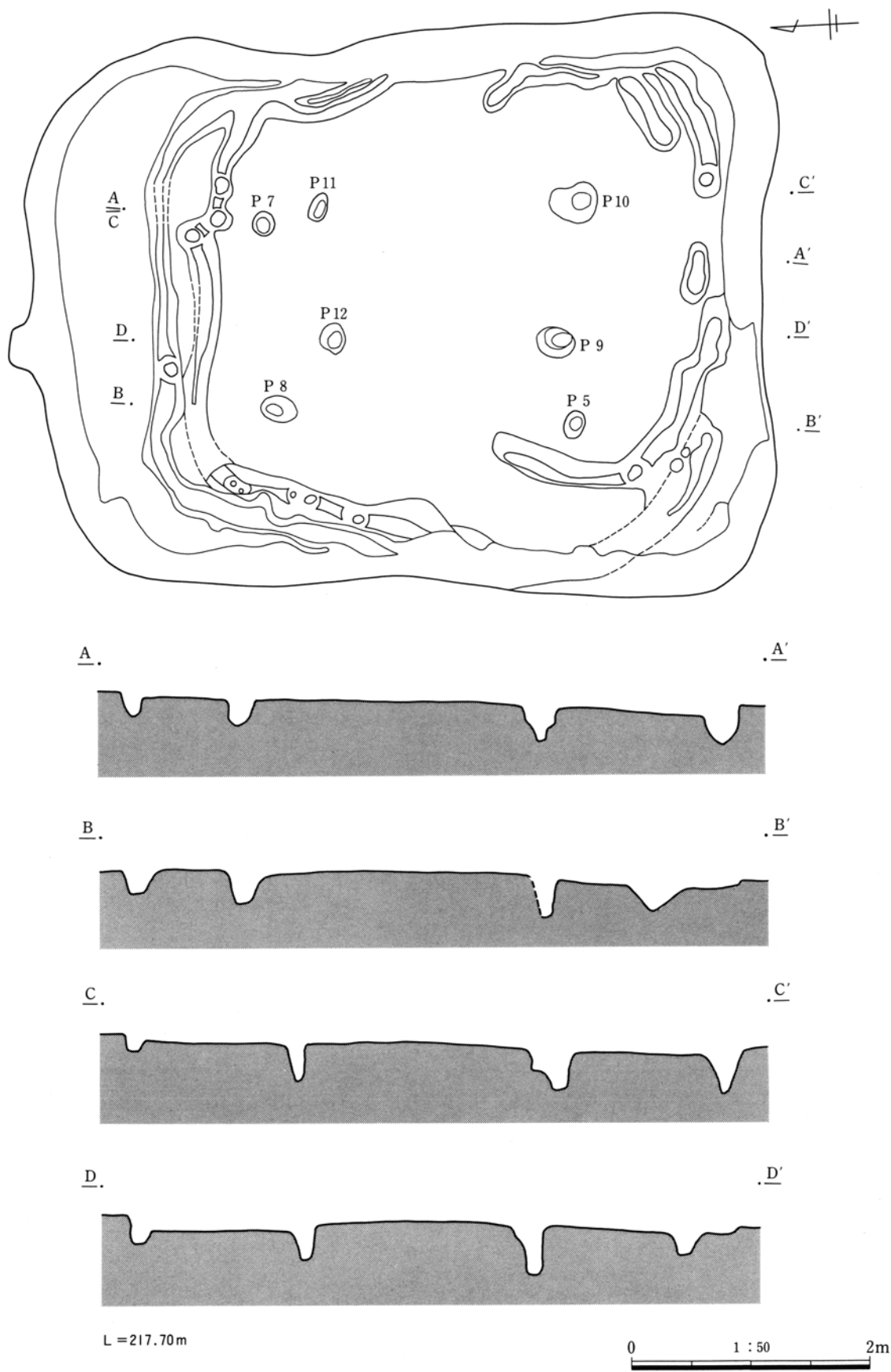
本の支柱穴を対角線上に配置する。また、壁面に沿って周溝を巡らせ、溝内に10数本の支柱穴を穿っている。拡張は、東壁を基軸にして南・西・北方向に行われている。確認面のローム土上面(IX層)から床面までの掘り込み深度は浅いが、土層断面ではVIII a層上面からの掘り込みが確認でき、同層からの深度は北壁側で45cm、南壁側で30cmを測る。1B・1C号の内部施設や遺物は、柱穴と周溝を除き、1A号の床面構築による削平を受けて残存しない。以下、各段階ごとの状態について、規模を中心に記述する。

1C号住居(古段階) 南・北辺に残る周溝外縁での規模は、北辺3.1×南辺3.7×南北軸長4.3mを測り、面積は約12㎡である。周溝の規模は、幅20～30cm、深さ10～30cmで、東側は1A号の周溝と重複する。各支柱穴(P9～P12)の芯々間を結んだ距離は、P9～P10：1.45m、P10～P11：2.2m、P11～P12：1.1m、P12～P9：1.9mで、その規模(直径×深さ)は、P9：35×37cm、P10：36×35cm、P11：24×30cm、P12：25×29cmである。

1B号住居(中段階) 1C号の西壁を約1m、西壁を30～50cm、南壁を20cmほど拡張しており、東壁を共有した相似形を呈する。周溝外縁での規模は、北辺3.5×南辺4.9×南北軸長5.2mで、面積15.66㎡を測る。周溝の規模は、幅20～35cm、深さ10～40cmである。各支柱穴の芯々間を結んだ距離は、P5～P6：1.45m、P6～P7：2.6m、P7～P8：1.55m、P8～P5：2.55mで、その規模(直径×深さ)は、P5：20×31cm、P6：35×29cm、P7：20×21cm、P8：35×24cm。

1A号住居(新段階) 1B号の東壁を共有するが、北壁を約1m、西壁を20～50cm、南壁を30～50cmほど拡張している。その規模は、北辺4.5×南辺4.8×南北軸長6.2mを測り、面積は22.24㎡である。四辺はやや湾曲気味に巡り、その壁面勾配は約67度である。床面は約20cmの比高差で北方から南方へと緩傾斜し、全体的に敲き床状に踏み固められている。炉は、西側に長さ20cmほどの亜角礫を1石配置した楕円形状の掘り込み炉であり、柱穴P3・P4を結んだ

II 調査の結果



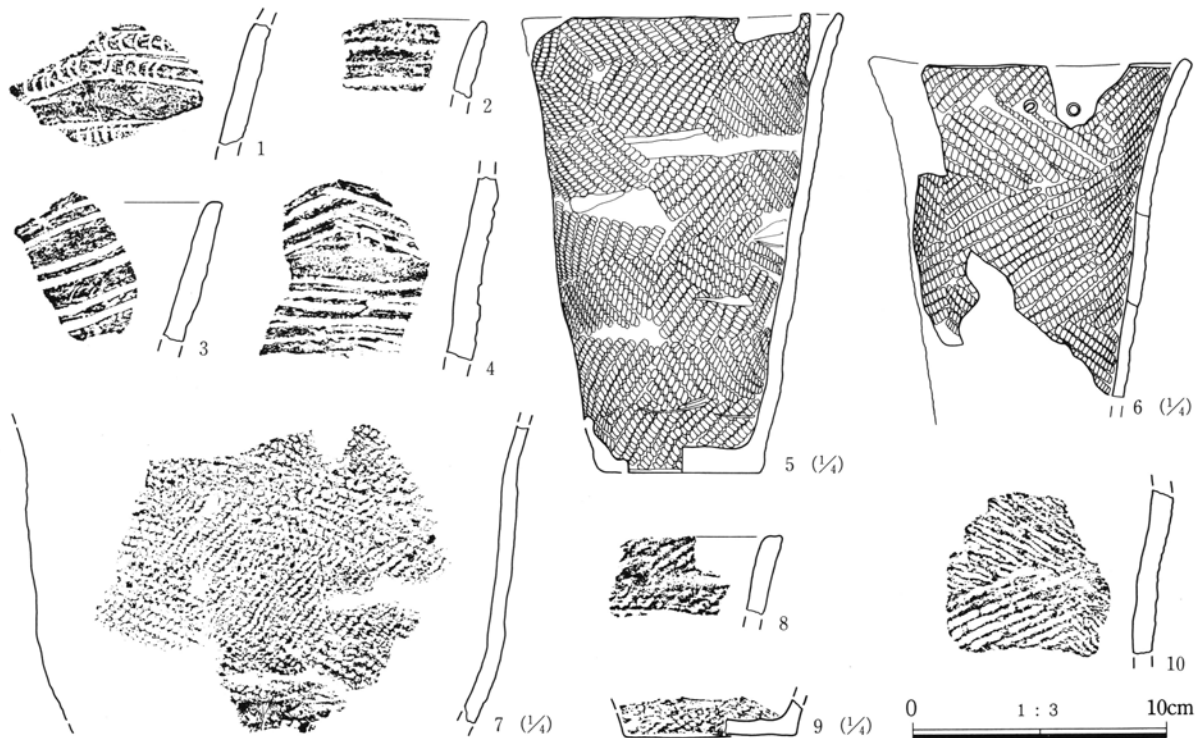
第215図 1B・1C号住居

軸線よりも若干内側に偏在する。その規模は、長軸39×短軸31×深さ10cmで、壁面は若干焼土化している。支柱穴は、住居外形のほぼ対角線上に4本存在する。各柱穴の芯々間を結んだ距離は、P1～P2：1.95m、P2～P3：3.8m、P3～P4：1.8m、P4～P1：3.5mで、またその規模(直径×深さ)は、P1：40×16cm、P2：40×19cm、P3：45×18cm、P4：30×15cmである。周溝は幅20～40cm、深さ20～33cmであり、直径20cm前後の壁柱穴と思われる小穴が10数カ所に見られる。その他の施設としては、北壁中央部を幅30cm、奥行き20cm、深さ30cmほどの大ききで方形に掘り広げた祭壇状の施設がある。この中からは、完形の深鉢土器(5)が横転して出土しているが、本来は立位だったものが転倒した可能性もある。

住居内の遺物としては、埋没土中も含めて土器破片330点、石器類94点が出土している。これらの土器破片は、黒浜式が187点(8・9・14・16～21)と総量の57%を占め、続いて有尾式(1～7・10～13・15)が118点の36%、諸磯a式が9点、同b式(22～26)が10点、加曾利E4式が5点、田戸下層式が1点となる。黒浜式の中で主体を占めているのは、縄文地文のみの

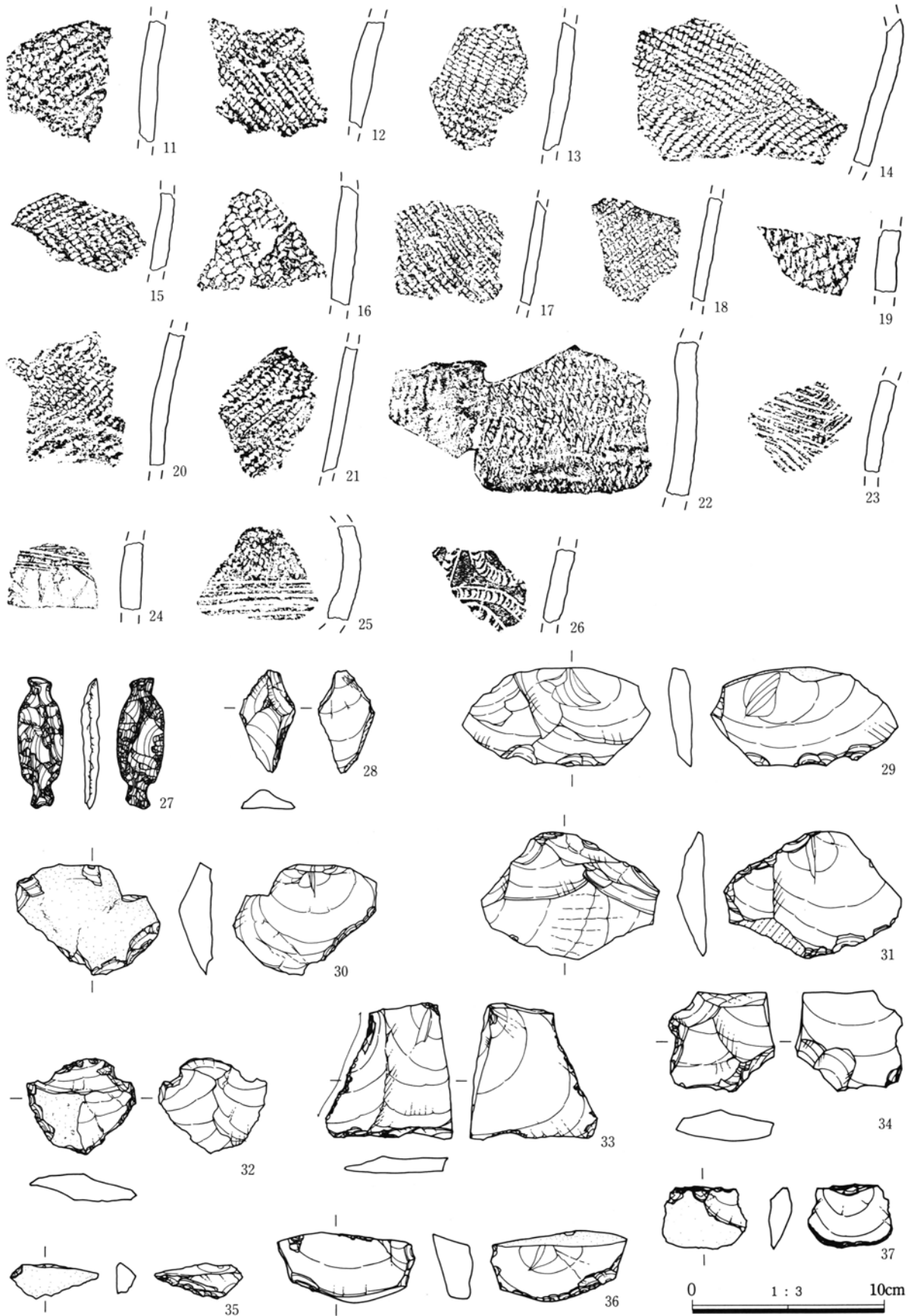
3類11点とそれに縄文以外の文様不明な小破片173点であり、有文土器はコンパス文を施す1類が3点存在するのみである。有尾式の場合もほぼ同様であり、縄文地文のみの5類(5～7)が69点、縄文地意外の文様不明が38点、爪形文や平行沈線文で菱形のモチーフを描く2類(1～4)が11点となる。この両型式に関しては、縄文地のみで構成される黒浜式3類と有尾式5類との区別が難しく、ここでは便宜的に斜行あるいは羽状構成を黒浜式に、菱形構成を有尾式に比定したに過ぎない。有文土器の対比では、有尾式が黒浜式を若干上回るが、5・6のように有尾式5類に比定した土器は、屈曲のない円筒形状の器形から見れば、黒浜式に分類すべきものであろう。

石器では、削器29点(28～45)、凹石類4点(59～62)、石匙(27)・打製石斧(56)・ハンマーストーン(58)・台石(63)・石核(57)など各1点、剥片類56点などがある。削器は基本的に不定形剥片を用いているが、形状別の数量では縦位長方形が10点と最多で、次いで縦位楕円形状と横位楕円形状とが各6点、台形状と逆三角形とが各3点、三角形が1点となる。27の石匙は、両端に摘み部の付くやや得意なも



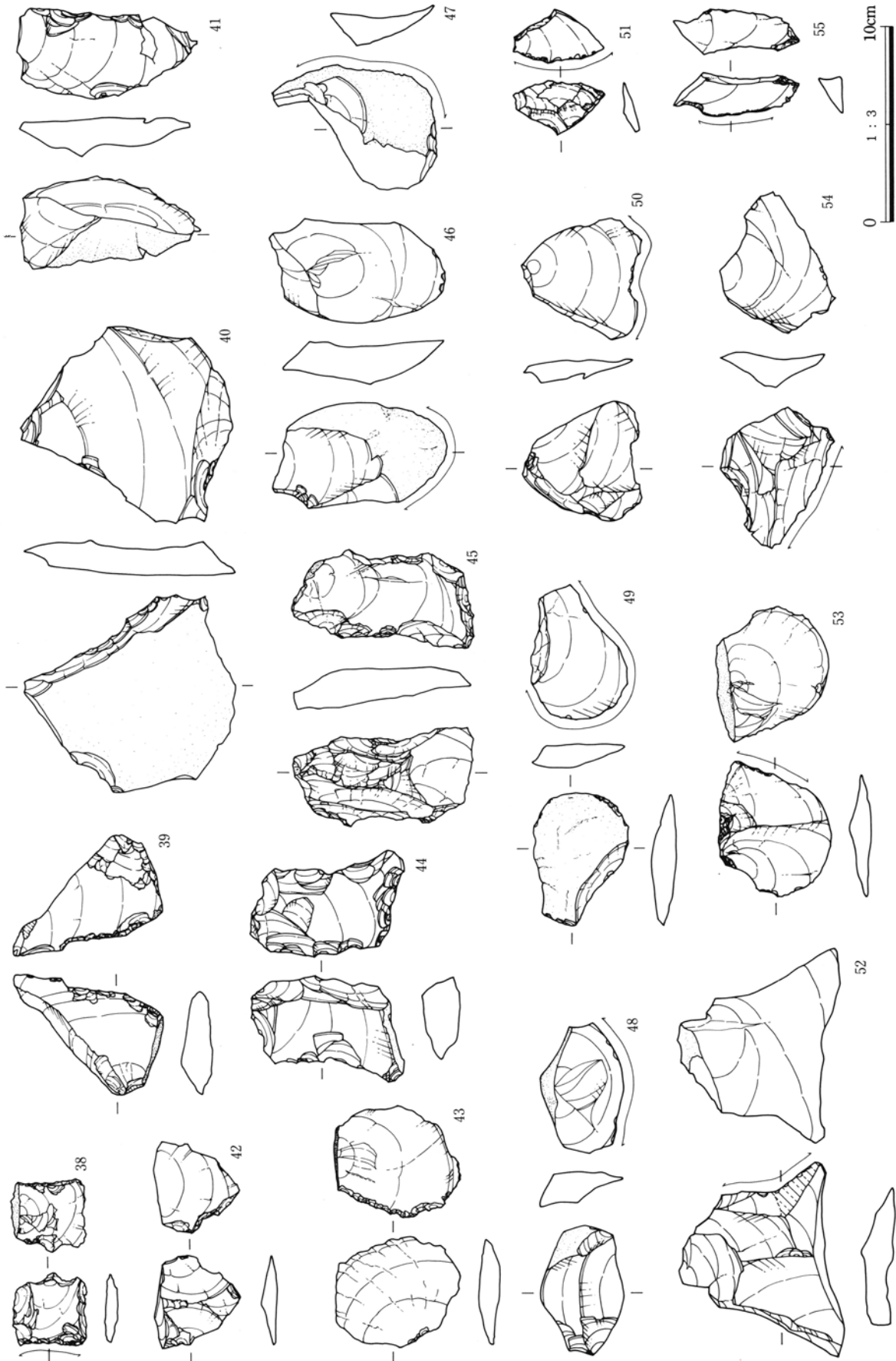
第216図 1号住居出土遺物(1)

II 調査の結果



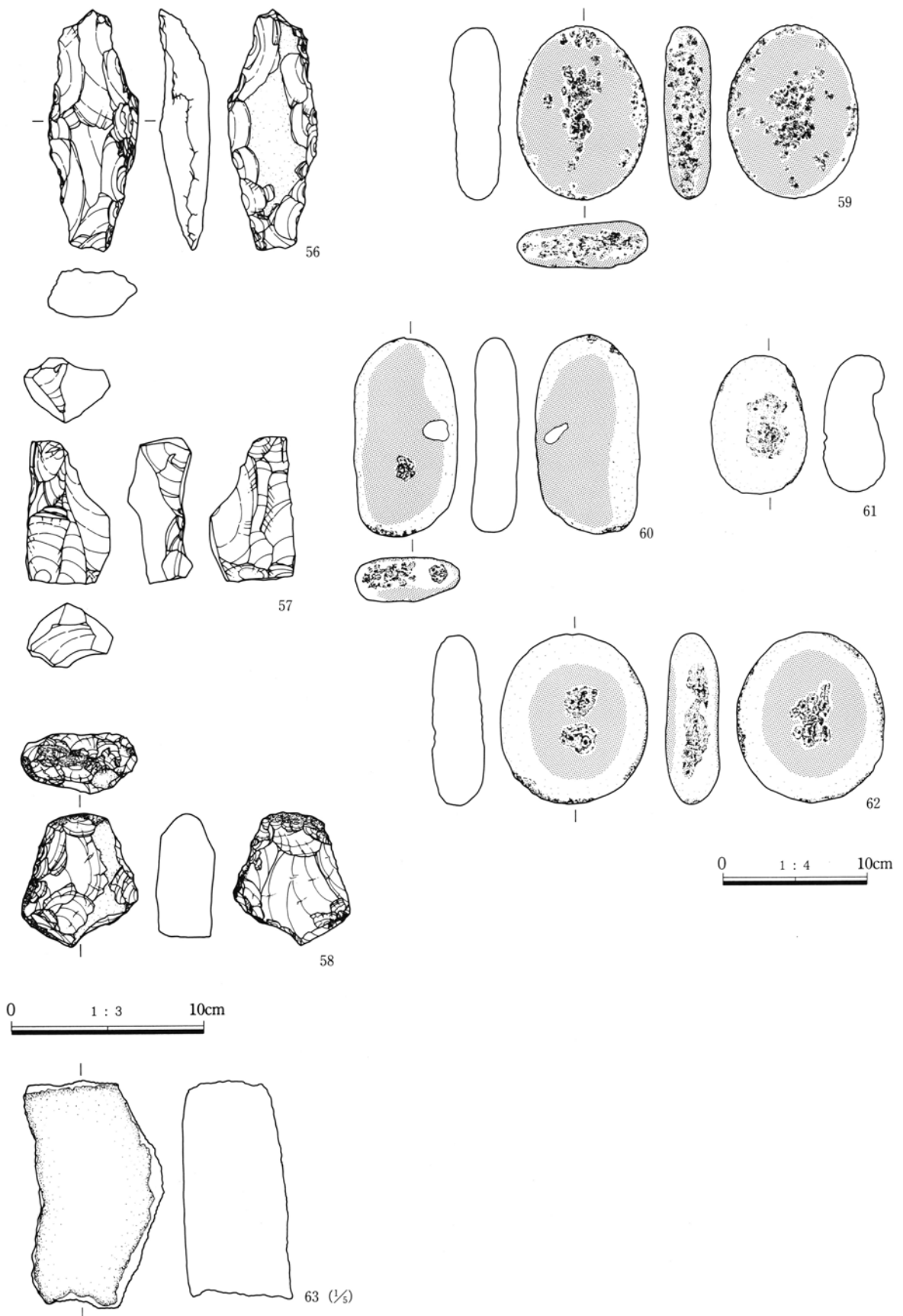
第217図 1号住居出土遺物(2)

2. 縄文時代



第218図 1号住居出土遺物(3)

II 調査の結果



第219図 1号住居出土遺物(4)

2. 縄文時代

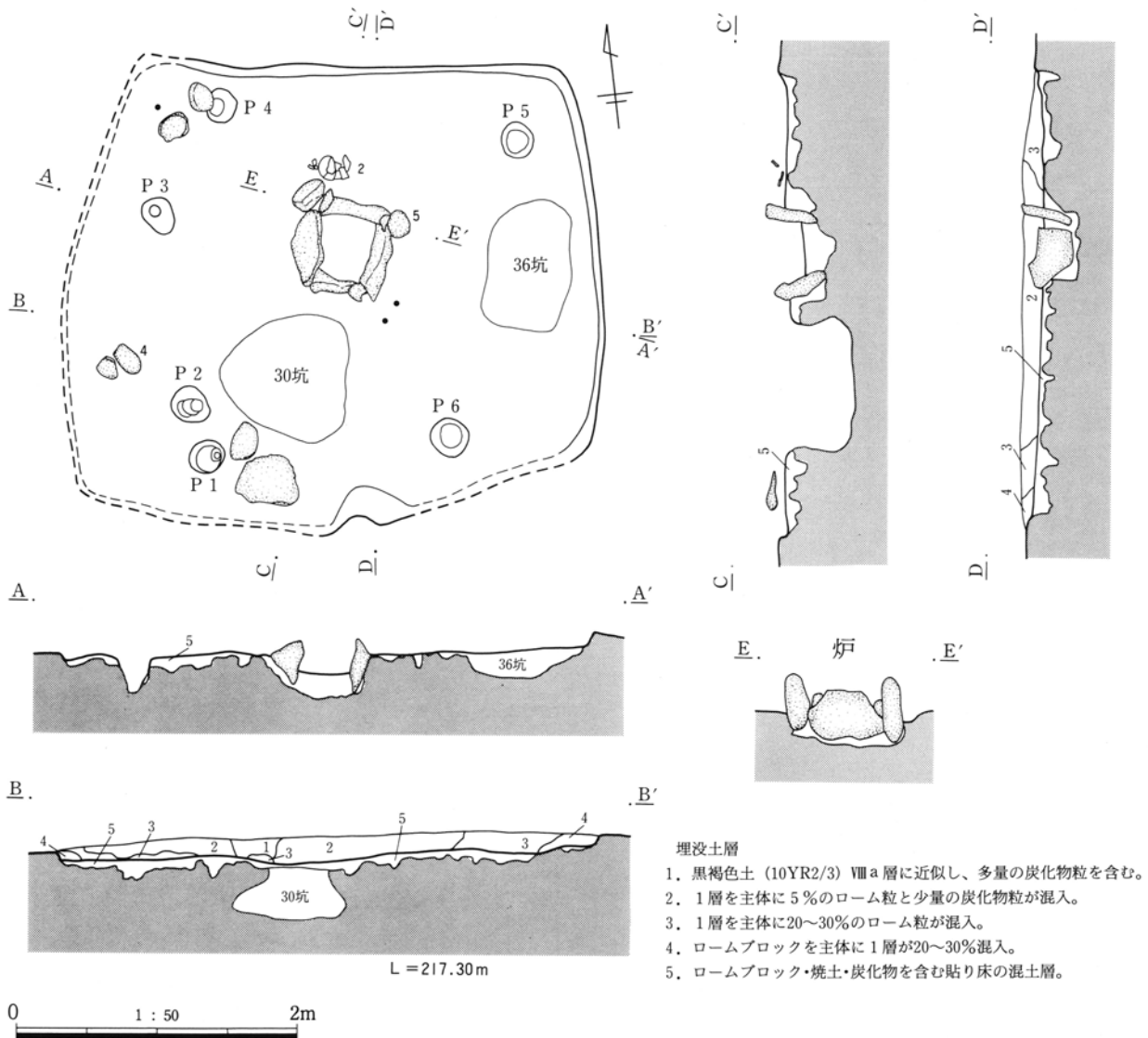
のである。凹石類は楕円形状が3点、円形状が1点であり、窪み穴とともに磨り面や敲打痕が複合している。石器系列別に見た使用石材は、削器などの打製系列が黒色頁岩26点(1,532g)を筆頭に、頁岩(85g)・珪質頁岩(45g)・流紋岩質凝灰岩(12g)・黒曜石(7g)、黒色安山岩(12g)など各1点がある。凹石などの使用痕系列では、粗粒輝石安山岩(3,681g)・変質安山岩(500g)・溶結凝灰岩(682g)・石英閃緑岩(510g)・ひん岩(420g)・黒色頁岩(150g)など各1点があり、両系列間では使用する石材に大きな差異が存在する。打製系列と有機的関係を有する石核や調整剥片類では、打製系列には見られなかった変質安山岩・変質玄武岩・砂岩・ひん岩なども合計で10点

(95g)認められるが、やはり主体的なのは黒色頁岩の43点(789g)である。

当住居の帰属時期を判断するための有文土器は乏しいが、祭壇状施設内の黒浜式土器(5)やコンパス文土器を重視すれば、黒浜式の新段階の可能性が高い。尚、柱穴P1に近接して43号土坑が存在するが、この上面に床面が構築されており、时期的には当住居に先行する。(写真: PL99~101・104・105)

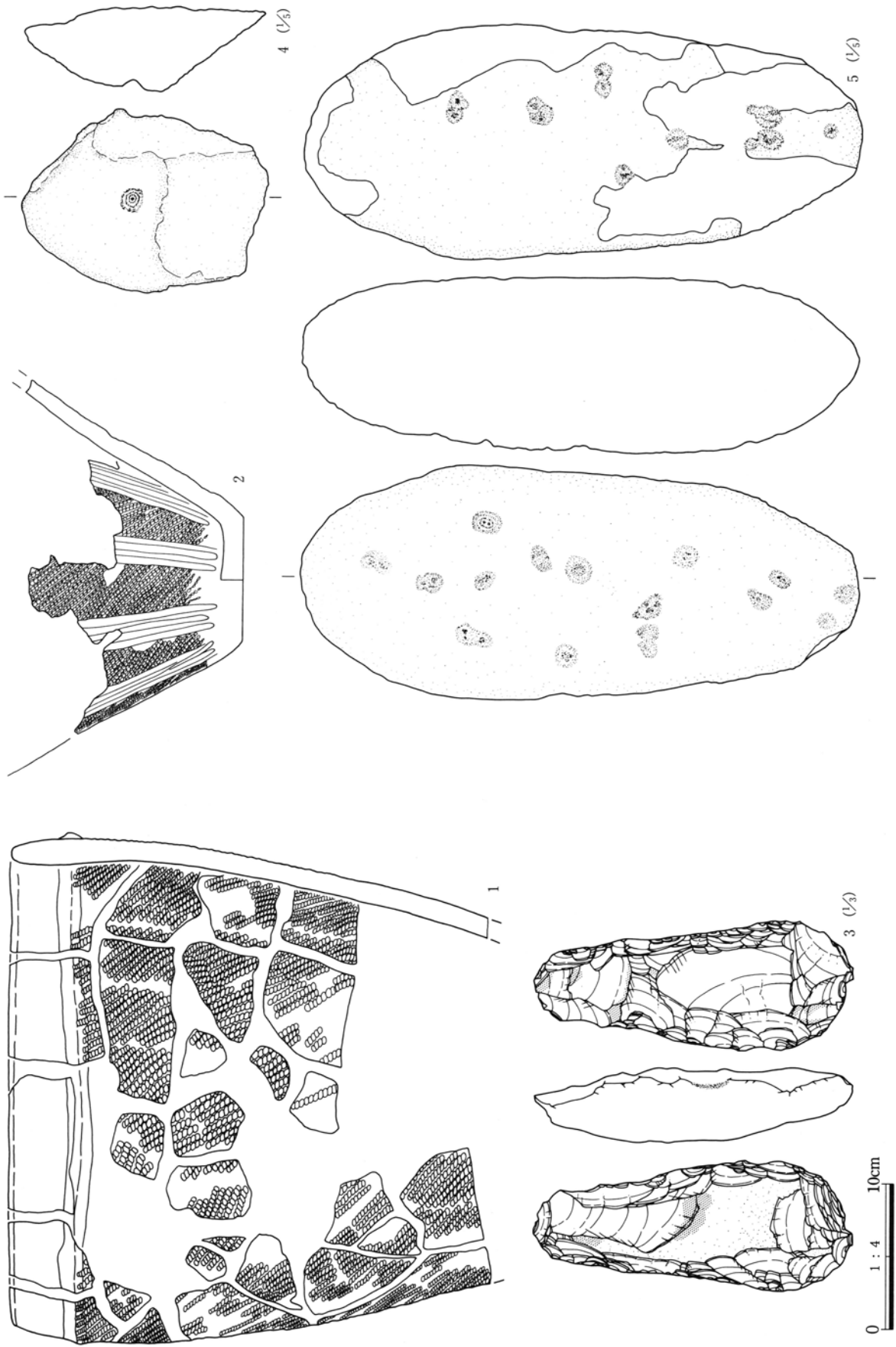
B. 2号住居

II区のEP-52グリッドに位置する。東西方向の住居長軸は等高線にほぼ直交し、その方位はN85度Wである。ローム土までの掘り込みが浅いために、



第220図 2号住居

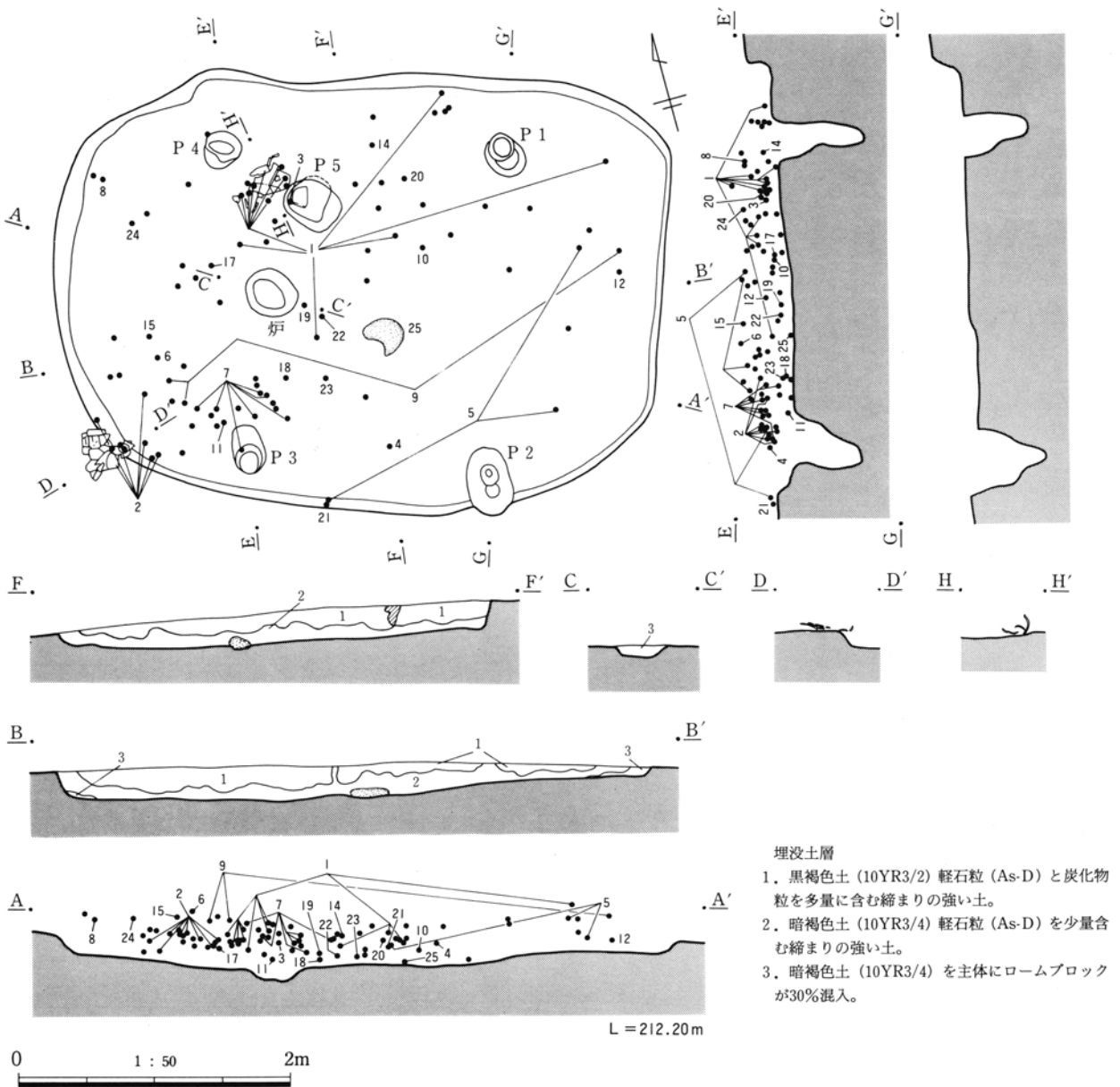
II 調査の結果



第221図 2号住居出土遺物

斜面の下方にあたる南辺から西辺にかけての壁面が不明瞭であるが、北・東壁面の状況や柱穴の配列から見て、方形あるいは五角形状を呈すると推定される。その規模は、長軸3.8×短軸3.2mを測り、面積は10.74㎡である。北・東辺は若干湾曲して走行し、その壁面勾配は約80度である。床面は約10cmの比高差で東方から西方へと緩傾斜し、全体的に敲き床状に踏み固められている。炉は長径30～55cmほどの安山岩の垂角礫を4石用いて、一辺約70cmの正方形に巡らせた石囲い炉であり、床面中央部のやや北壁寄りに位置する。また、北辺炉石の両隅には、長径30～50

cmの楕円形状の河床礫(粗粒輝石安山岩)を石柱状に立てている。各炉石には、被熱による剥離やひび割れが認められ、深さ20cmの底面にも焼土が堆積する。柱穴は6本が検出されたが、その配列が炉を挟んでシンメトリーになるとすれば、他に36号土坑と重複して確認不能な1～2本が存在すると思われる。各柱穴の芯々間を結んだ距離は、P1～P2：0.4m、P2～P3：1.4m、P3～P4：0.85m、P4～P5：2.15m、P5～P6：2.15m、P6～P1：1.7mで、またその規模(直径×深さ)は、P1：25×40cm、P2：30×31cm、P3：25×24cm、P4：23×29cm、P5：25×32cm、P6：

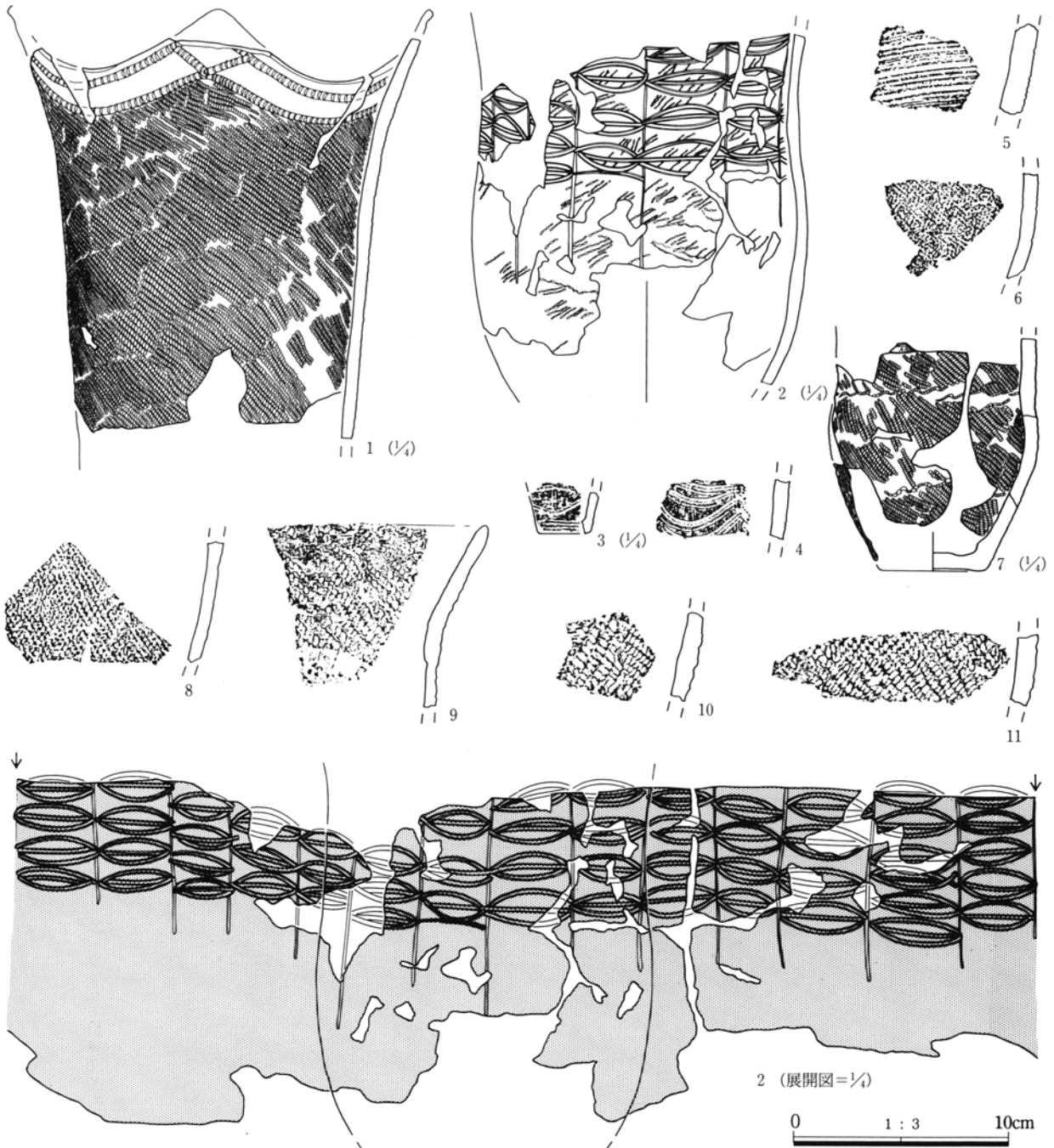


第222図 3号住居

II 調査の結果

25×29cmである。周溝は存在していない。住居内からは、田戸下層式1点、早期無文4点、黒浜式4点、諸磯a・b式各1点、加曾利E3式10点(2)・同4式1点(1)等の土器片や、剥片23点、削器1点、打製石斧1点(3)、多孔石2点(4・5)などの石器が出土している。炉の北側に隣接して床面直上より出土したNo.2の深鉢土器底部を除き、全て埋没土中あるいは床面より5～10cm浮き上がった状態での出土である。

No.1の土器は、わずか1片が埋没土中から出土しただけで、大半の破片がEG-47～49グリッドに散在していたことから、当住居に伴出する可能性は低い。また2点の多孔石の内のNo.5は、石囲い炉の右上隅に立石状に配置されたものであり、片面に凹み穴をもつNo.4は柱穴P2の西側に近接して床面より3cmほど浮いた状態で出土している。No.2土器の出土状況を重視すれば、当住居は加曾利E3式期に



第223図 3号住居出土遺物(1)

2. 縄文時代

比定することができる。尚、30・36号土坑が重複して存在するが、これらの上面に床面が構築されており、時期的に当住居よりも遡る。

(写真：PL102・103・105)

C. 3号住居

Ⅲ区のFH-60グリッドに位置する。東西方向の住居長軸は等高線にほぼ平行し、その方位はN73度Wである。平面形状は、四隅の丸い隅丸方形を呈し、その規模は長辺4.5×短辺3.2m、面積11.96㎡を測る。四辺の壁は内湾して走行し、その壁面勾配は約68度である。床面は、傾斜面のローム土を北側で20cm、南側で8cm掘り込むが、約15cmの比高差で北方から南方へと緩傾斜している。全体的に堅緻な床面であるが、特に炉の北側や柱穴P1とP2の間は敲き床状に踏み固められている。炉は長径40×短径35×深さ10cmの楕円形状を呈する掘り込み炉で、床面中央部よりもやや西側に偏在する。炉の壁面や底面は、被熱により若干焼土化している程度で、短期間の使用を思わせる。柱穴は5本存在するが、おそらくP1～P4を支柱穴とする構造であろう。各柱穴の芯々間を結んだ距離は、P1～P2：2.4m、P2～P3：1.8m、P3～P4：2.3m、P4～P1：2.1mで、またその規模(直径×深さ)は、P1：35×45cm、P2：32×50cm、P3：25×51cm、P4：30×65cm、P5：43×47cmである。周溝は存在していない。

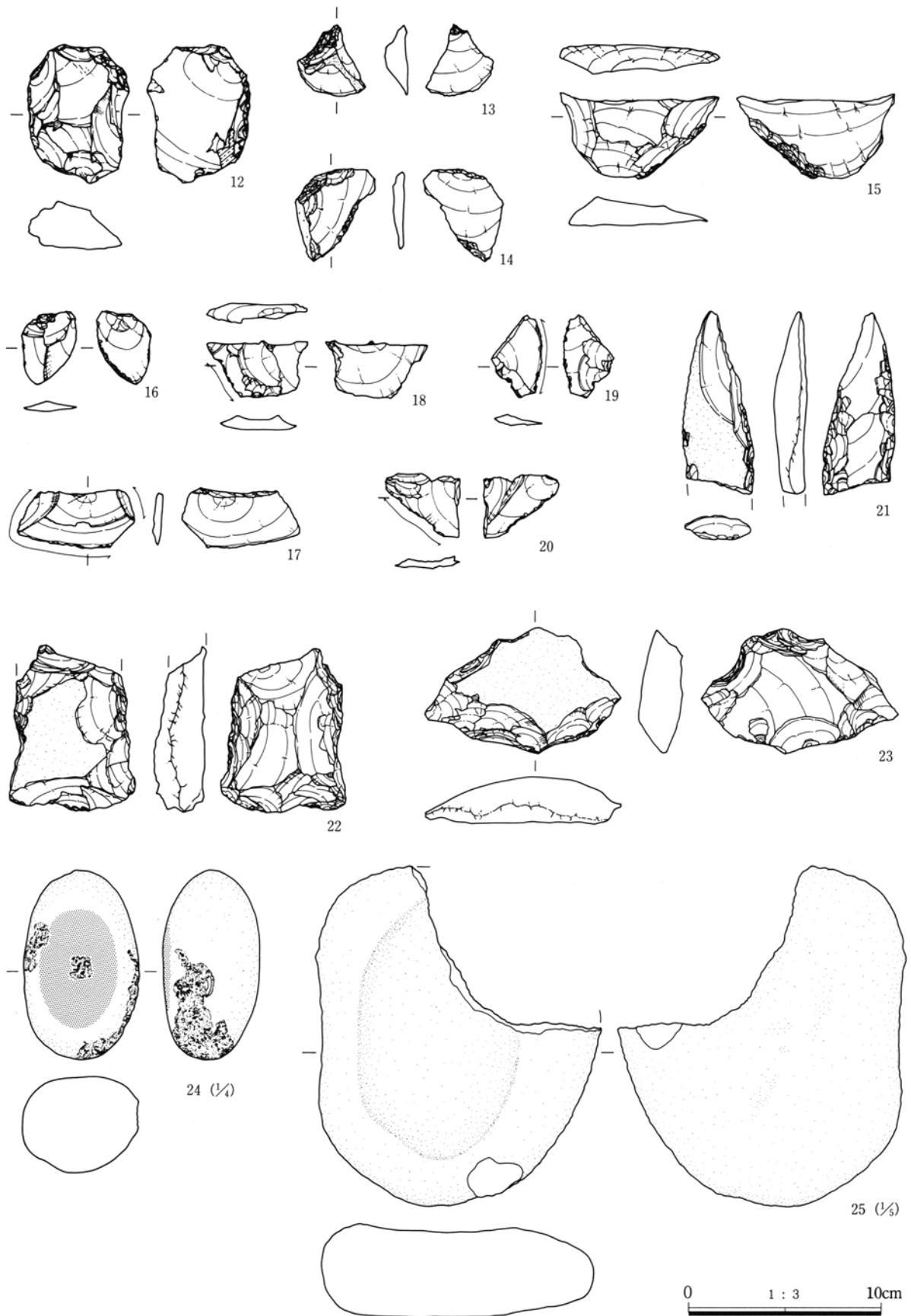
住居内からは、有尾式3点(10・11)、黒浜式27点(9)、諸磯a式62点(1～4・6～8)、諸磯b式2点(5)などの土器片や、削器9点(12～17・20)、打製石斧2点(21・22)、礫器(23)と石皿(25)が各1点、剥片16点などの石器類が出土している。これらの中で当住居に伴うと考えられる遺物としては、炉の北側に近接して床面直上より出土したNo.1や、北西隅の壁面に覆い被さるように出土したNo.2の諸磯a式土器がある。この他に、住居中央部付近より床面に密着して出土したNo.25の石皿がある。これら以外の遺物は、全て埋没土中あるいは床面より5cm以上浮き上がった状態での出土である。

諸磯a式土器の内容は、木葉状や弧状の肋骨文が23点(2～4)、平行爪形文が19点(1)、縄文地文のみが2点、文様構成不明な小破片18点(6～8)である。各土器の縄文原体は、ほとんどのものが単節RLの横位施文であるが、No.2のようにLRを施すものもある。

出土量の多い削器は、縦長剥片を使用するものが6点に対して横長剥片のものが3点であり、前者が卓越している。石器系列別の石材は、削器・打製石斧などの打製系列では黒色頁岩点が8点と多いが、黒色安山岩も4点と少なからず存在する点で注意される。

(写真：PL106・107)

II 調査の結果



第224図 3号住居出土遺物(2)

(3) 土 坑

I・II区42基、III区2基の計44基が検出されている。各土坑の検出は、ローム土(IX層)上面にて行ったが、実際の掘り込み面を44号で観察すると、約40cm上位のVIII a層の上面にあることが確認できる。各土坑ともに、類似した埋没土をもつことや前期の土器片を中心に出土することから見て、VIII a層上面が当時の掘り込み面=生活面と考えられる。こうした点は、犬子塚遺跡の例と同様であり、両遺跡間における層位的な対応関係を看取することができる。

各土坑の規模については、第12表に記載してある通りであり、ここでは全体的な状況やいくつかの特徴ある土坑について記述を行いたい。先ず、全体的な状況であるが、規模的には直径が1m前後で、平面形状が円形を基調とするものが大半を占めている。また断面形状は、ローム土下位への掘削深度の深い5・6・10・12・14・17・18・22・23・26・29・30・35・39・42・46号などでは、いずれも壁面がオーバーハングする状態が認められ、いわゆる「袋状土坑」に近い形状を有している。こうした円形状土坑がその主体を占める現象は、犬子塚遺跡でのあり方とも共通している。またこれらの土坑を埋める土は、基本的にVII層やVIII a層に類似した黒褐色土層を主体としており、それらがレンズ状に堆積するケースが多い。これらの土坑は、その形態や埋没土の状態から貯蔵穴としての用途が推定されるが、使用後に埋め戻されることなく自然に埋没したと判断される。これら以外に、楕円形状を呈する8・36号なども存在している。8号はロームブロックを含む暗褐色土がかなり不規則に堆積する状況も認められ、上記の袋状土坑とは機能・用途が異なる可能性もある。

ほとんどの土坑からは、土器片を中心とした遺物が検出されている。比較的多量(20点以上)の土器片を出土する土坑としては、1・7・14・22・23・26・29・35号などがあり、特に14号は94点を出土している。これらの遺物のほとんどは、埋没土の上・中層内に包含されるケースが多ことから、おそらく土坑としての

機能停止後に、自然埋没してゆく過程でゴミ捨て場的に投棄されたものか、あるいは周辺に散乱していたものが流れ込んだかのいずれかであろう。しかし、31号では胴下半部を欠失した深鉢形土器が、底面から20cmほど浮いて逆位の状態で検出されており、人為的な配置を窺わせる。一步理解を進めるならば、この土器の出土状態は死者の顔面を覆う鉢被り的な用途を想起させる。埋没土のあり方も、ロームブロックをかなり含んだ暗褐色土がやや複雑に堆積しており、これらの諸点から見て、当土坑は墓的な性格をもつと思われる。また、先の楕円形状を呈する8号も、31号と同様の性格を持つ可能性が高い。

各土坑の時期については、全く土器を出土しない15基を除いて、その出土土器の型式により判断すれば、有尾式期4基、黒浜式期8基、両型式を伴出するもの15基、諸磯a式期2基となる。分布的には、有尾・黒浜式期の土坑が同期の1号住居の周辺に存在し、同様に諸磯a式期の土坑も同期の3号住居の近辺に散在しており、両者の有機的関係を窺うことができる。中期加曽利E3式期の2号住居と同段階に比定される土坑は認められないが、時期不明の15基の中に当該期の土坑が存在する可能性もある。いずれにしても、有尾・黒浜式期では住居数に対比して土坑数の多い点特徴的である。当期では、1号住居の拡張回数に象徴されるように、諸磯a式期や加曽利E3式期よりも居住期間の長いことが推察されるが、土坑数量の多さはそれを反映したものとしてとらえることができよう。(写真: PL108~119)

尚、各土坑の埋没土については、ともして類似した内容が認められることから、統一的に記号化して表現した。その内容については、以下の通りである。

埋没土層

1. 黒褐色土(10YR3/2)軽石粒(As-D)を多量に含み、締まりと粘性に富む。
- 1'. 1層に類似するが、ロームブロックを5%含む。
2. 暗褐色土(10YR3/4)軽石粒(As-D)を少量含み、締まり・粘性に富む。
- 2'. 暗褐色土(10YR3/3)を主体にロームブロックが5%混入。軽石粒多量。
3. 暗褐色土(10YR3/4)を主体にロームブロックが5%混入。軽石粒多量。
- 3'. 暗褐色土(10YR3/4)を主体にロームブロックが20~30%混入。軽石粒多。
4. 暗褐色土(10YR3/4)とロームブロックとが1:1で混入。軽石粒少量。
5. ロームブロックを主体に暗褐色土(10YR3/4)が10~20%混入。軽石粒少。

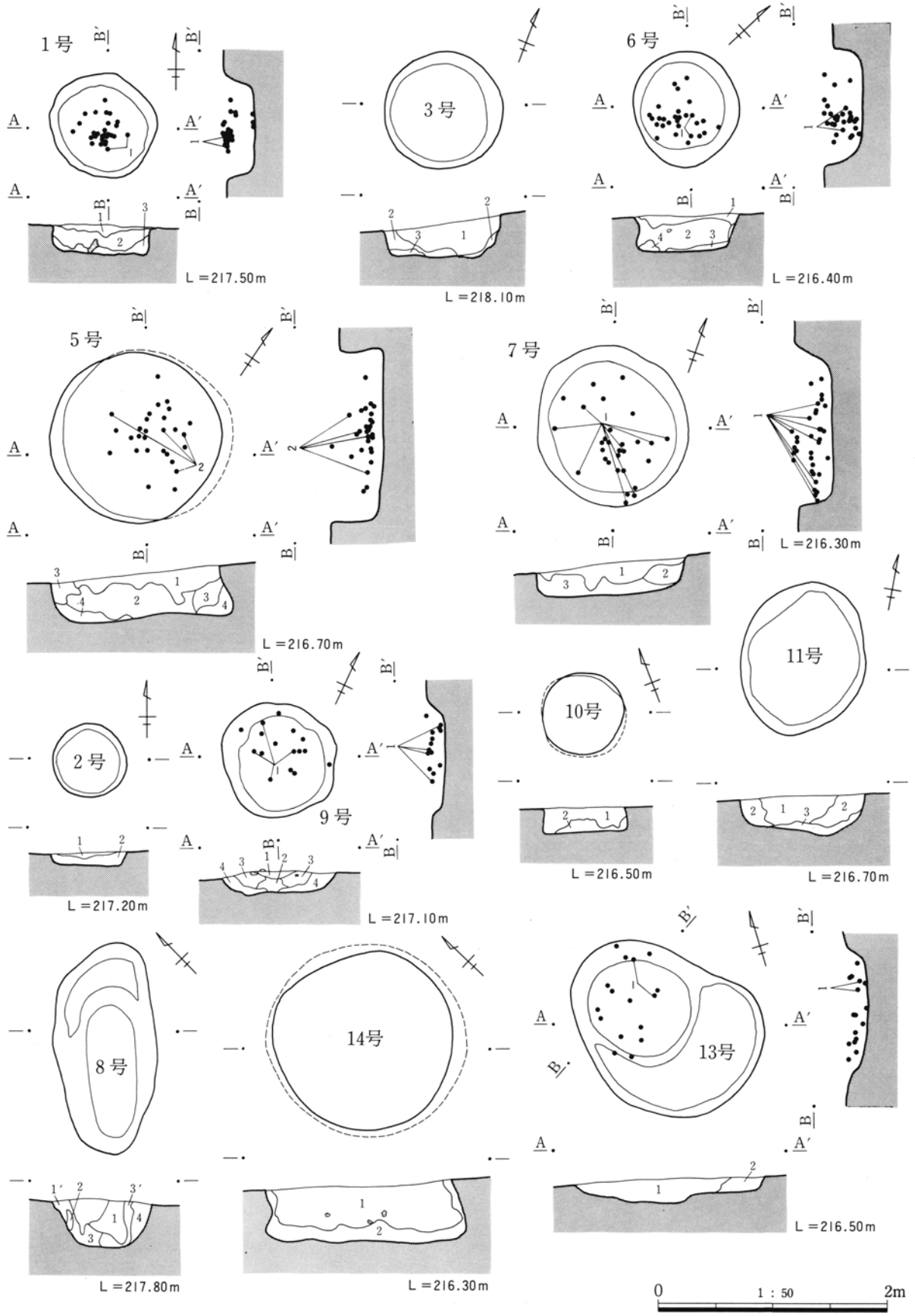
II 調査の結果

第12表 土坑の規模一覧

(単位: cm)

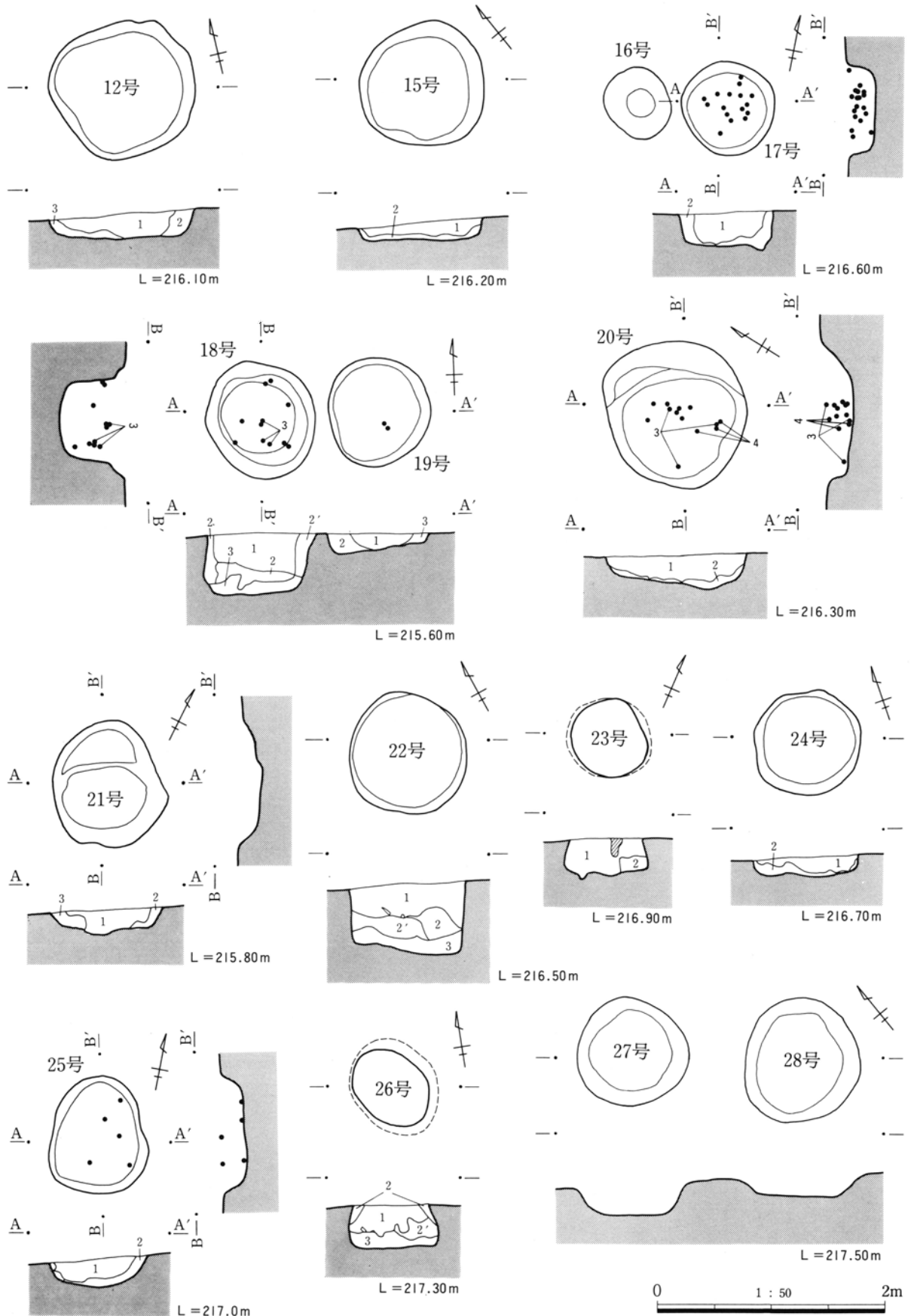
番号	位置	平面形	規 模 長径×短径×深さ	時 期	備 考
1	EJ-54	円形	95×86×28	黒浜式期	
2	EQ-57	円形	65×63×12		
3	ER-59	円形	105×102×34		
4	欠 番				
5	ET-58	円形	150×150×46	有尾(2a類)・黒浜(2c類)式期	有尾式主体
6	ET-58	円形	101×93×30	有尾(2b類)・黒浜(1b類)式期	両型式拮抗
7	EU-58	円形	140×132×30	有尾(5類)・黒浜式期	有尾式主体
8	EJ-55	楕円形	182×92×45		
9	EQ-56	円形	100×100×20	有尾(5類)・黒浜式期	両型式拮抗
10	ES-56	円形	74×72×23	黒浜(2c類)式期	
11	ER-56	円形	135×112×36	有尾(5類)・黒浜(1a類)式期	両型式拮抗
12	ET-51	円形	128×114×32	黒浜式期	
13	ES-51	楕円形	177×133×21	有尾(5類)・黒浜式期	有尾式主体
14	ET-51	円形	154×150×54	有尾(2a・5類)・黒浜(1a・3c類)式期	有尾式主体
15	ES-53	円形	110×110×16	黒浜(1類)式期	
16	ER-51	円形	63×57		
17	ES-51	円形	82×80×34	有尾(2b類)・黒浜式期	両型式拮抗
18	ES-50	円形	108×92×54	黒浜式期	
19	ES-50	円形	96×88×11	黒浜(1c類)式期	
20	ET-50	円形	130×126×30	有尾(2b類)・黒浜(3c類)式期	黒浜式主体
21	EU-50	円形	113×96×20		
22	ES-50	円形	110×106×68	有尾(2b類)・黒浜(1b・3類)式期	有尾式主体
23	EQ-53	円形	73×70×31	有尾(2b類)・黒浜(3類)式期	
24	ER-55	円形	93×90×18		
25	EO-53	楕円形	103×85×25	有尾式期	
26	EP-55	円形	90×72×38	有尾(2b類)・黒浜(1a類)式期	両型式拮抗
27	EM-51	円形	100×92×28		
28	EM-49	円形	110×100×20		
29	EL-49	円形	100×90×49	有尾(2b類)・黒浜(1a類)式期	10倒木を切る
30	EO-52	円形	90×90×40	黒浜式期	2住が切る
31	EP-55	円形	75×62×50	有尾(2b類)式期	
32	欠 番				
33	EK-49	円形	?×72×50	有尾(2b類)・黒浜式期	12倒木が切る
34	EP-54	円形	75×73×18		
35	EP-49	円形	120×103×46	有尾(2b・5類)・黒浜(3類)式期	両型式拮抗
36	EO-52	楕円形	82×49×18		2住が切る
37	ET-50	円形	80×68×9		
38	EN-53	不明	不明	有尾(2b類)式期	
39	EA-48	円形	100×90×30		
40	DY-49	円形	102×100×38	黒浜(3類)式期	
41	EF-48	円形	130×114×52		42坑を切る
42	EF-47	円形	110×100×45		41坑が切る
43	EI-53	円形	70×64×56		1住が切る
44	EF-50	円形?	122×?×90	有尾式期	
45	FG-90	円形	74×68×11	諸磯a式期	
46	FE-58	円形	100×88×45	諸磯a(1・9類)式期	

2. 縄文時代



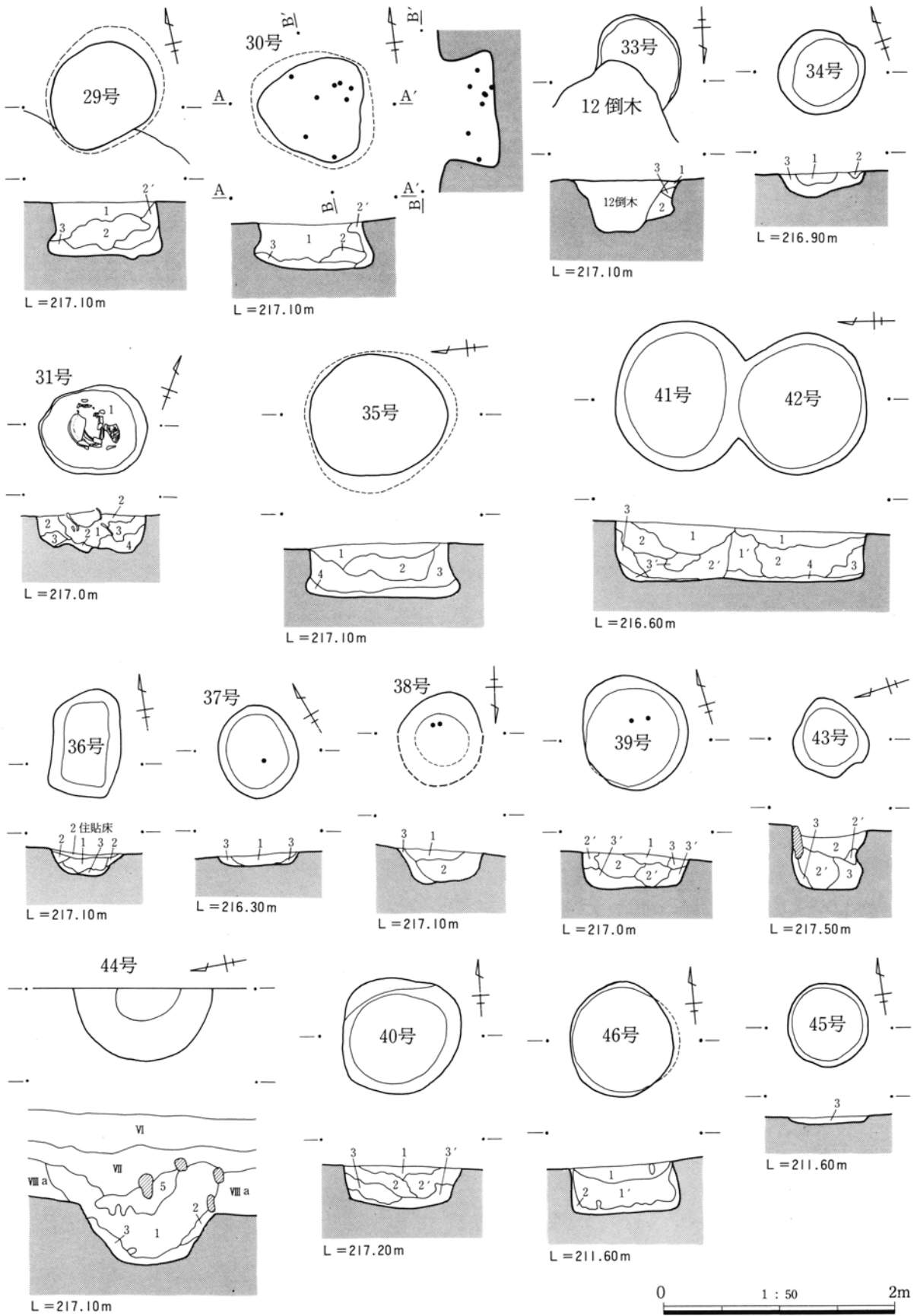
第225図 1~11・13・14号土坑

II 調査の結果



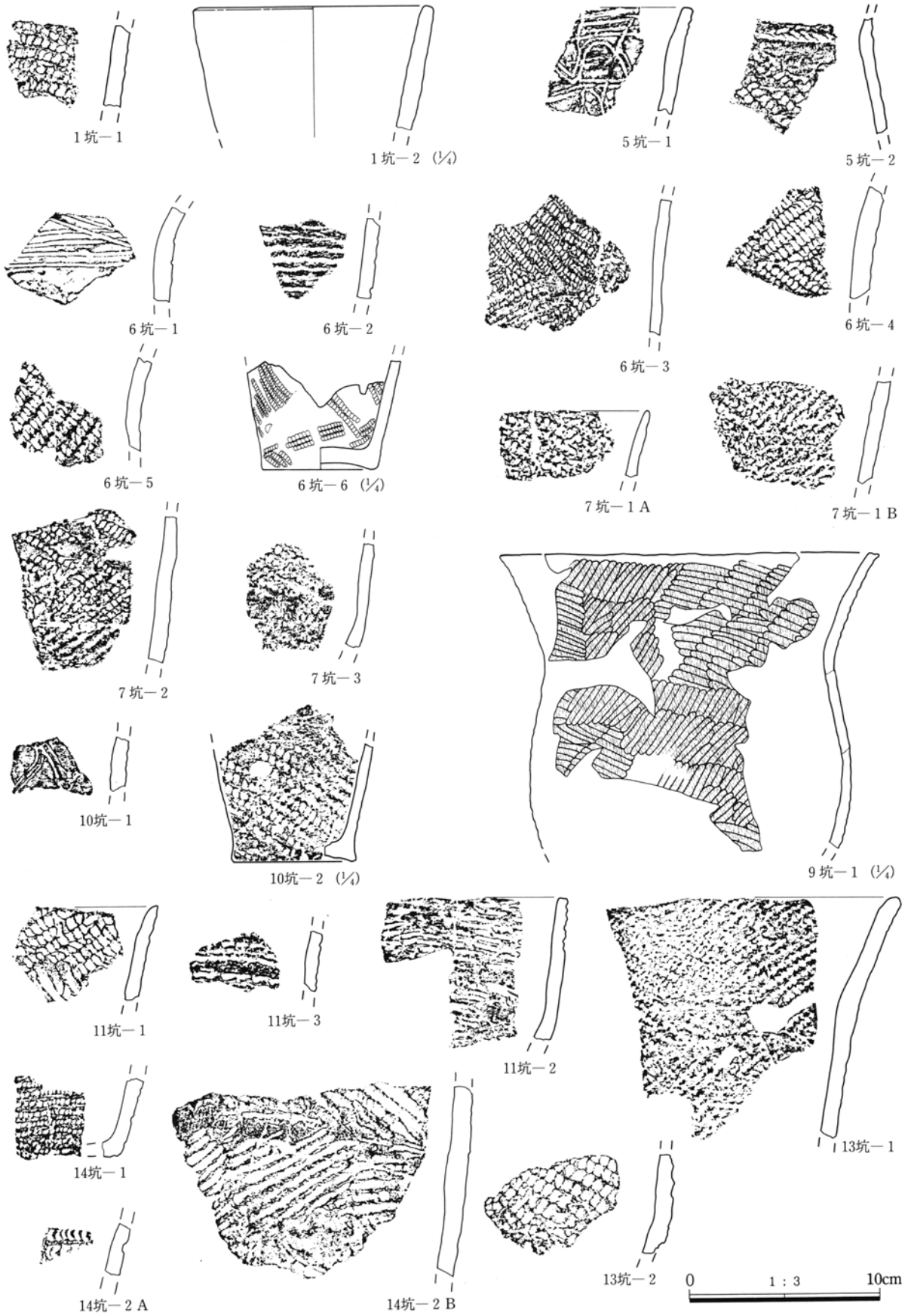
第226図 12・15~28号土坑

2. 縄文時代



第227図 29~46号土坑

II 調査の結果

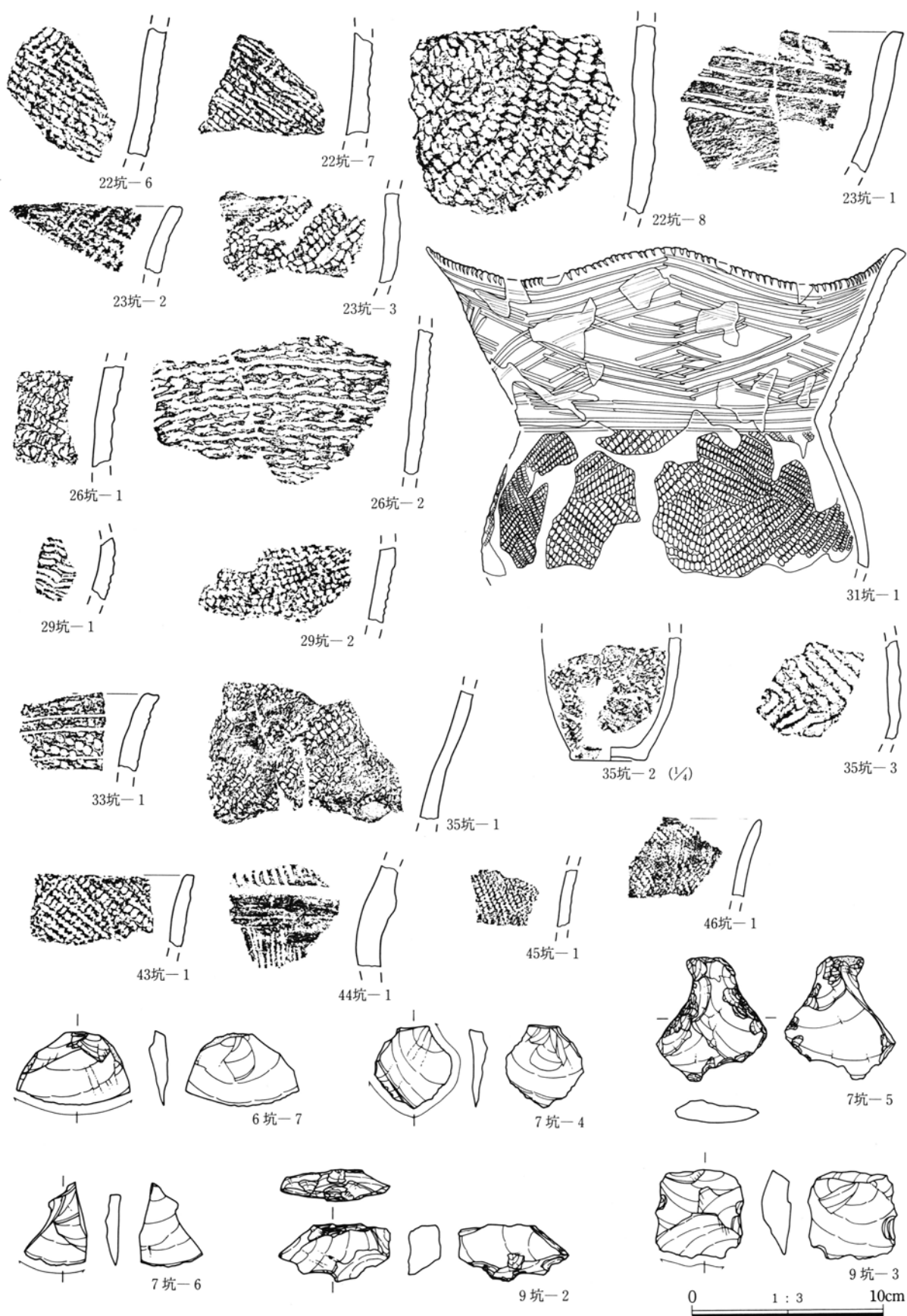


第228図 土坑出土遺物(1)



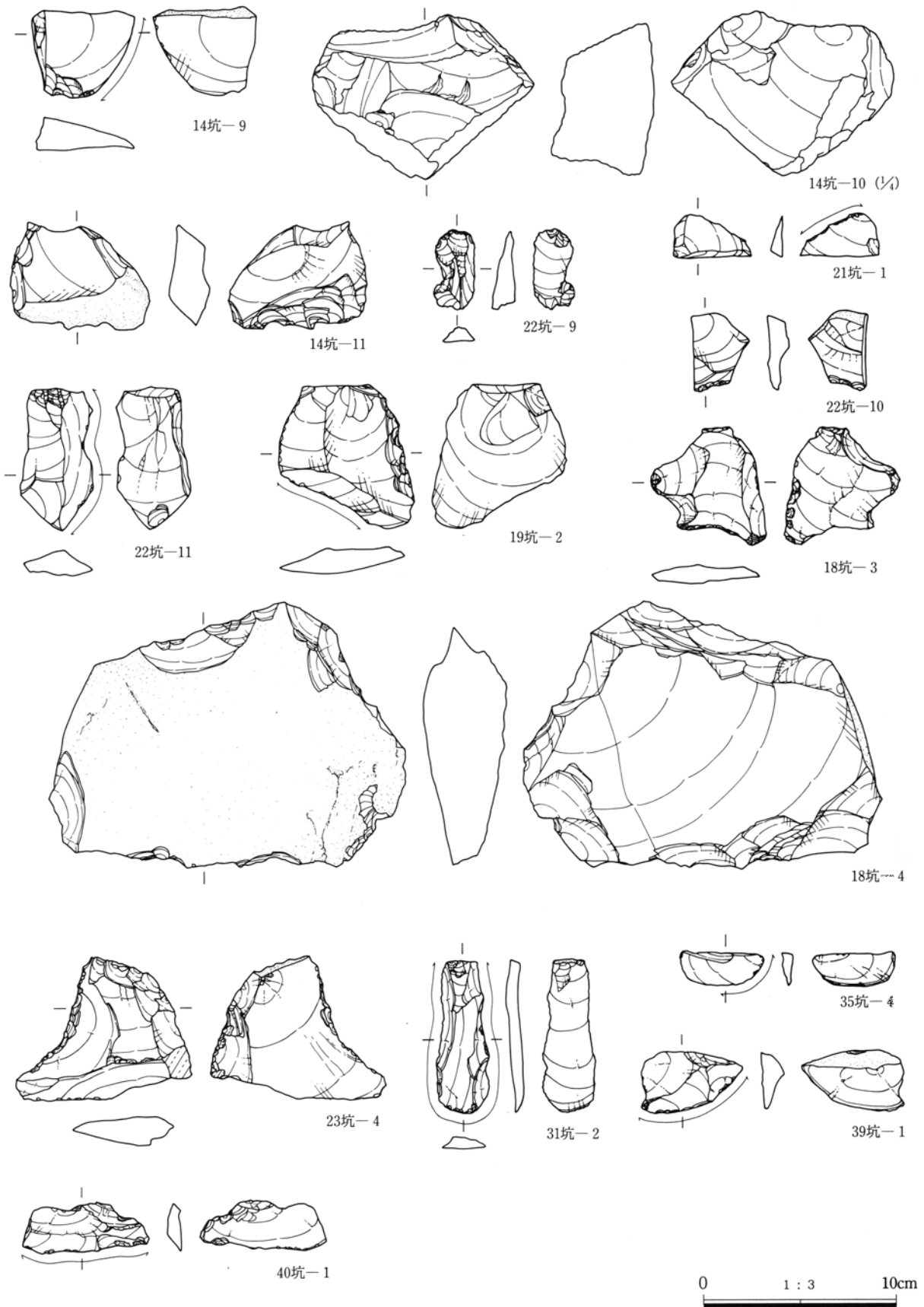
第229図 土坑出土遺物(2)

II 調査の結果



第230図 土坑出土遺物(3)

2. 縄文時代



第231図 土坑出土遺物(4)

II 調査の結果

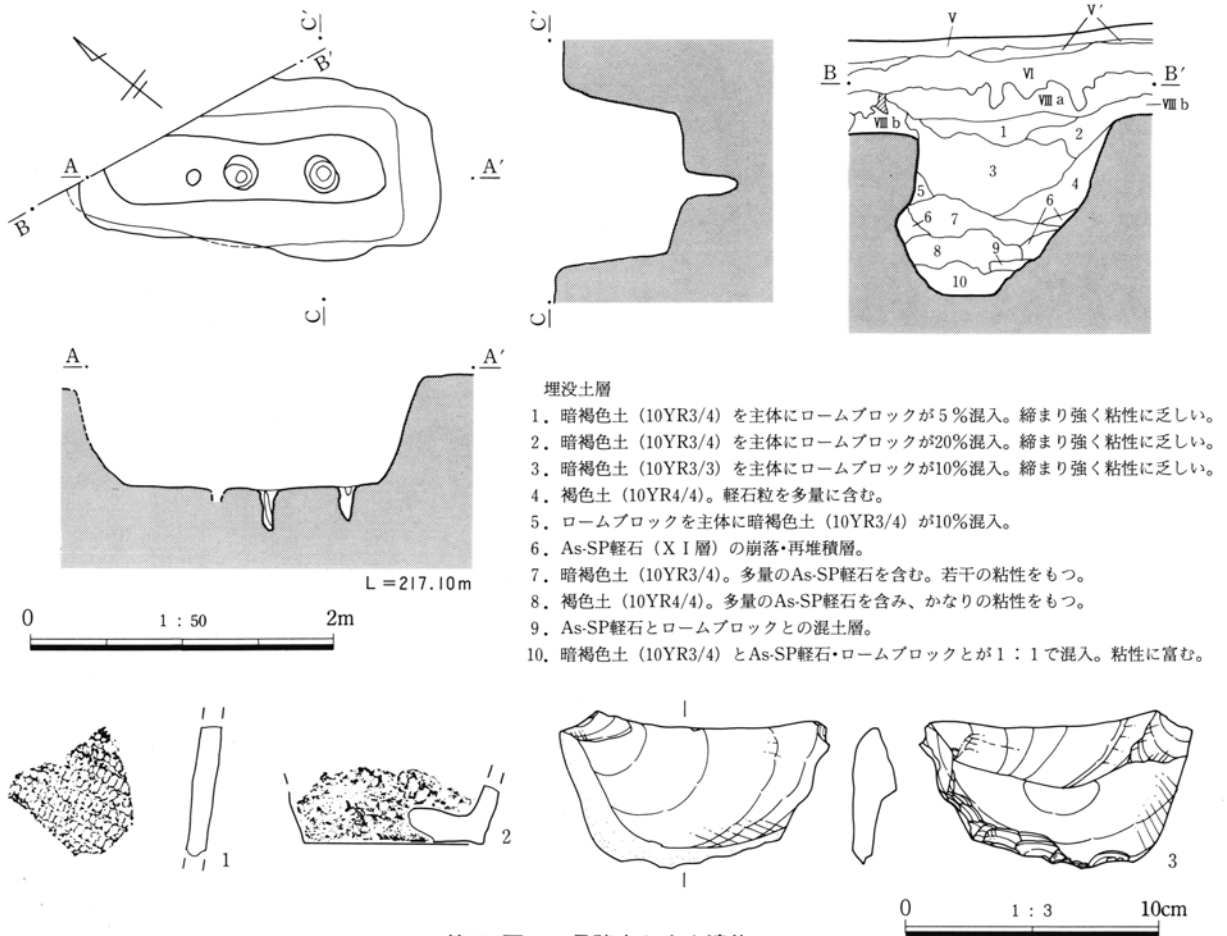
(4) 陥 穴

II区の北側調査区境界において、1基(1号)が検出されたのみである。境界の土層断面で見ると、VIII b層上面から掘り込んでいるのが確認できる。全体の約3分の1が発掘区域外となるために全掘されていないが、平面形状は四隅が若干丸みを帯びた長方形形状を呈すると推定される。また、断面形状は、短軸方向での壁面がほぼ直線的に約80度の勾配で外傾し、底面は水平に近いフラット面を有する。開口部での規模は、長軸2.4m×単軸1.1mで、掘り込み面からの深さは1.2mを測る。底面の長軸に沿って、直径10~20cm、深さ25cm前後の小ピット3個が認められ、その内部には直径4~5cmほどの直立する暗褐色土の堆積が確認された。このピットは、その位置や埋没土の状態から見て、逆茂木を埋設あるいは打設した痕跡と考えて問題ないだろう。穴全体の埋没

土は、最上層に黒色土がレンズ状に堆積し、自然埋没の状態を示している。

地形との関係を見ると、緩斜面からやや急斜面への変換点付近において、等高線とその長軸がほぼ平行するように穿鑿されている。ちなみに、長軸線の方位は、N47度Wである。犬子塚遺跡例とは、形態や方位的に北西-南東方向をとる点で共通しており、相互に何らかの関係を有する可能性もある。

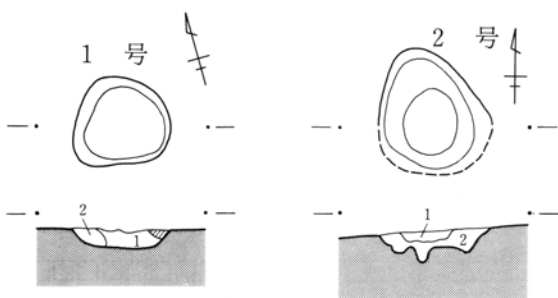
時期については、埋没土中より有尾式(2a類)土器を主体に黒浜式(3a類)土器などの破片が14点出土しており、これを重視すれば前期の所産となる。しかし、掘り込み面がVIII b層上面という点から考えると、少なくともVIII a層上面から掘り込む有尾式期の1号住居や土坑などよりも古いことは確実である。いずれにしても時期の確定はできないが、これらの土器片は埋没過程で混入したものと考えるのが妥当であろう。 (写真: PL120)



(5) 焼土痕

II区において、2基が検出された。1号はVIII a層の上面で、また2号はVIII b層上面においてそれぞれ確認することができた。第233図は、各焼土痕の焼土・炭化物の平面および垂直的な散布範囲を図化したものである。1・2号ともに不整形円形状の平面散布を呈するが、その範囲は1号が長軸60×短軸50cm、2号が長軸90×短軸70cmの広がりをもつ。土層断面図で見ると、被熱により焼土化した範囲が、地表下約10cmにまで及んでいることが判別できる。これら焼土痕の形成要因については、焚き火等の人為的な加熱により生じた可能性が高い。

ところでこれら焼土痕の形成時期やその性格については、遺物を伴出しないために確定することは難しい。しかし、時期についてはそれぞれの確認面を重視すれば、1号は1号住居と同様の前期に、また2号はそれよりも遡ると考えられる。一方、その性格に関しては、すでに犬子塚遺跡例で既述したように、屋外炉的なあり方を想定し得るであろう。ただ、堅穴住居内にも明確な炉が存在しており、用途的には異なっていたとも考えられる。(写真：PL125)



埋没土層

1. 暗褐色土 (10YR3/4) 多量の焼土粒と少量の軽石粒 (As-D) を含む。
2. 1層に類似するが、焼土粒の含有量が少ない。

0 1 : 50 2m

第233図 1・2号焼土痕

(6) 倒木痕

IX層のローム上面において、I・II区では16基、III区では5基の計21基の倒木痕を検出した。犬子塚遺跡での調査方法と同様に、当遺跡でも倒木痕の調査に関して、埋没土と基本土層との対比や転倒方向を割り出すことを主眼として、ローム層上面での平面プラン確認状況を図化した。調査期間との兼ね合いもあり、個々の断ち割調査については行っていない。尚、規模や形状について第13表に記載してあるので、そちらを参照されたい。

規模的には大小さまざまであり、長径が約5mを越えるもの(4・8・11号)や、2mに満たないもの(7・12・17号)もあるが、全体的には2~4mの規模を有するものが主体を占めている。平面形状は、不整形ながらも円形や楕円形を基調としている。逆転埋没土層のあり方に注目すれば、VIII a層およびVIII b層以下を巻き込む1~4・7~17・20・21号などのAグループと、VI層以下を巻き込む18・19号などのBグループに二分することができる。上記した大規模なものは、下位のXII・XIII層のローム層やAs-BP軽石層までを巻き上げるケースも見られる。

犬子塚遺跡例と同様に、この逆転層の堆積ライン方向と直行する軸線を基にして、各倒木の転倒方向を割り出すと、大半のものが東方向あるいは南東方向からの営力により転倒していることが判明する。さらに、その転倒方向を方位との角度に置き換えて30°単位で区分してみると、S61~90°WとS91~120°Wが各5基ずつで最も多く(前者：1・3・9・15・19号、後者：2・4・10・13・17号)、次いでS31~60°Wが4基(7・8・18・20号)となる。11・21号はこれら3グループから若干外れるが、基本的に東方向からの営力による転倒である点は共通する。しかし、12・14号などはそれらとは全く反対の西方向からの営力で転倒しており、先のグループとは異なった要因が想定される。

各倒木痕の形成時期については、ほとんどのものが不明確であるが、有尾式期あるいは黒浜式期に比

II 調査の結果

定される29号土坑により切られる10号倒木や、逆に同期の33号土坑を切る12号倒木などの存在からみると、全て一時期に形成されたものではないことと共に、縄文時代前期の遺構との重複関係を有していることが判る。また、こうした土坑との重複関係をもつものと、他の倒木における逆転堆積層の内容の類似性を考慮すれば、その多くが縄文時代の前期に形成された可能性が高いと思われる。

前述したように、当遺跡の倒木痕は規模・形状・埋没土の状況・転倒方向等の諸点において、白井北中道II遺跡および吹屋犬子塚遺跡での例と類似性を有している。このことは、3遺跡の倒木痕がともに関連した原因(大型の台風等の強風)により生じたということと、河岸段丘の上・中位という地形差はあるものの、類似した樹種で構成される植生であったことを示唆するものであろう。勿論、これらの倒木痕が、複数時にわたって形成されたものであることは、先に述べたとおりである。

台風等における風向きは、常に一定方向に吹くわけではなく、基本的な風向を持ちつつも多様であるのが実際のところであろう。S30~120°Wという転倒方位のばらつきは、転倒時期の混在と共にこの事が多分に反映された結果であると考えられる。各倒木痕の形成時期や同時存在するものを特定することは、かなり困難なことである。

しかし、仮にその事がなし得るならば、古環境や古気候の復元に一役を担うことも可能であろう。かなりの頻度で遺跡調査が進行している赤城山南麓では、このような倒木痕が縄文時代前期を中心とした遺構との重複関係において多見される。想像をたくましくすれば、縄文時代前期には大規模な台風の襲来が頻繁であったと見なすこともできよう。

いずれにしても、従来から漫然と見過ごされがちであった倒木痕について、いろいろな視点からの情報収集と検討がなされるべきであろう。

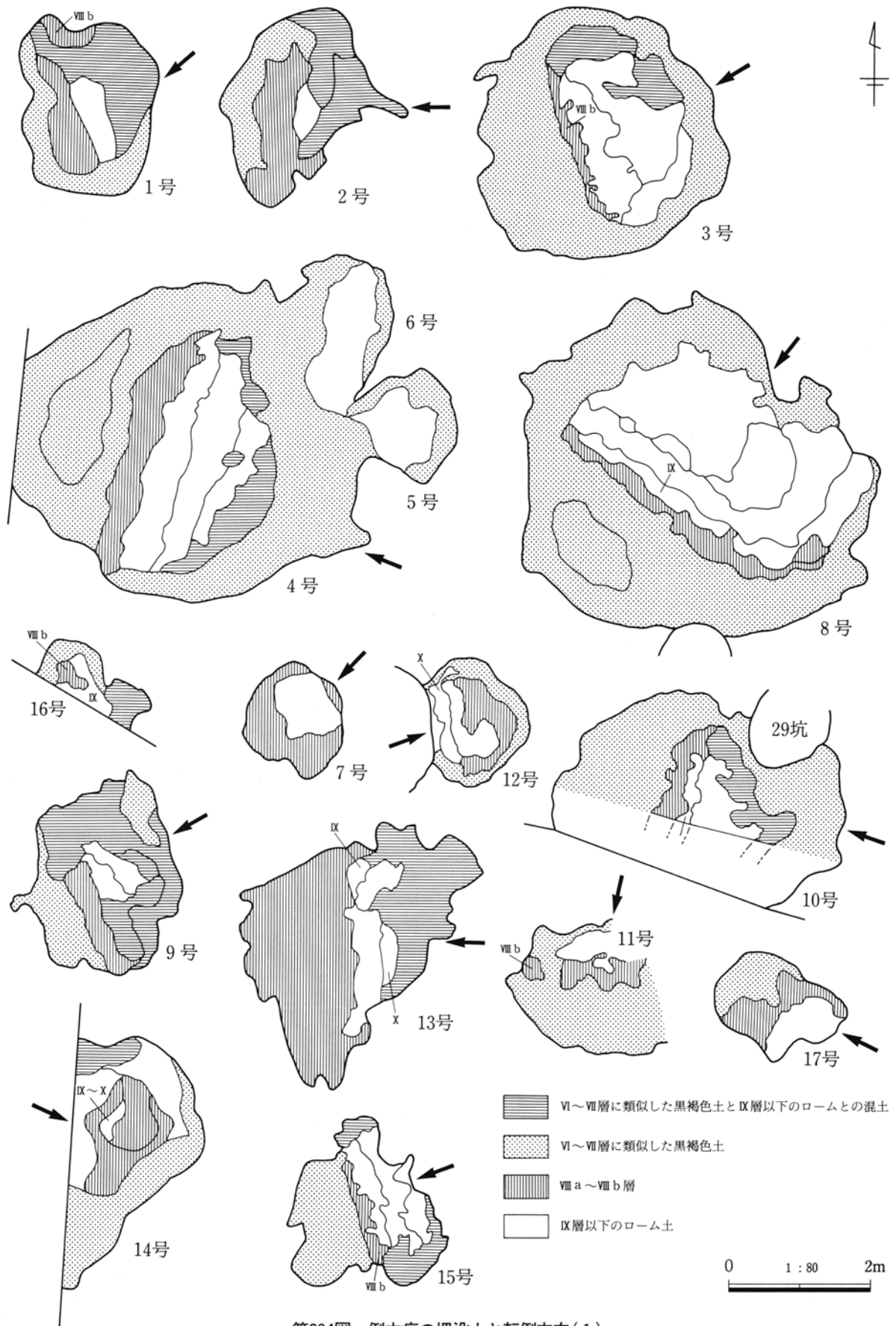
(写真：PL121・122)

第13表 倒木痕の規模一覧

(単位：cm)

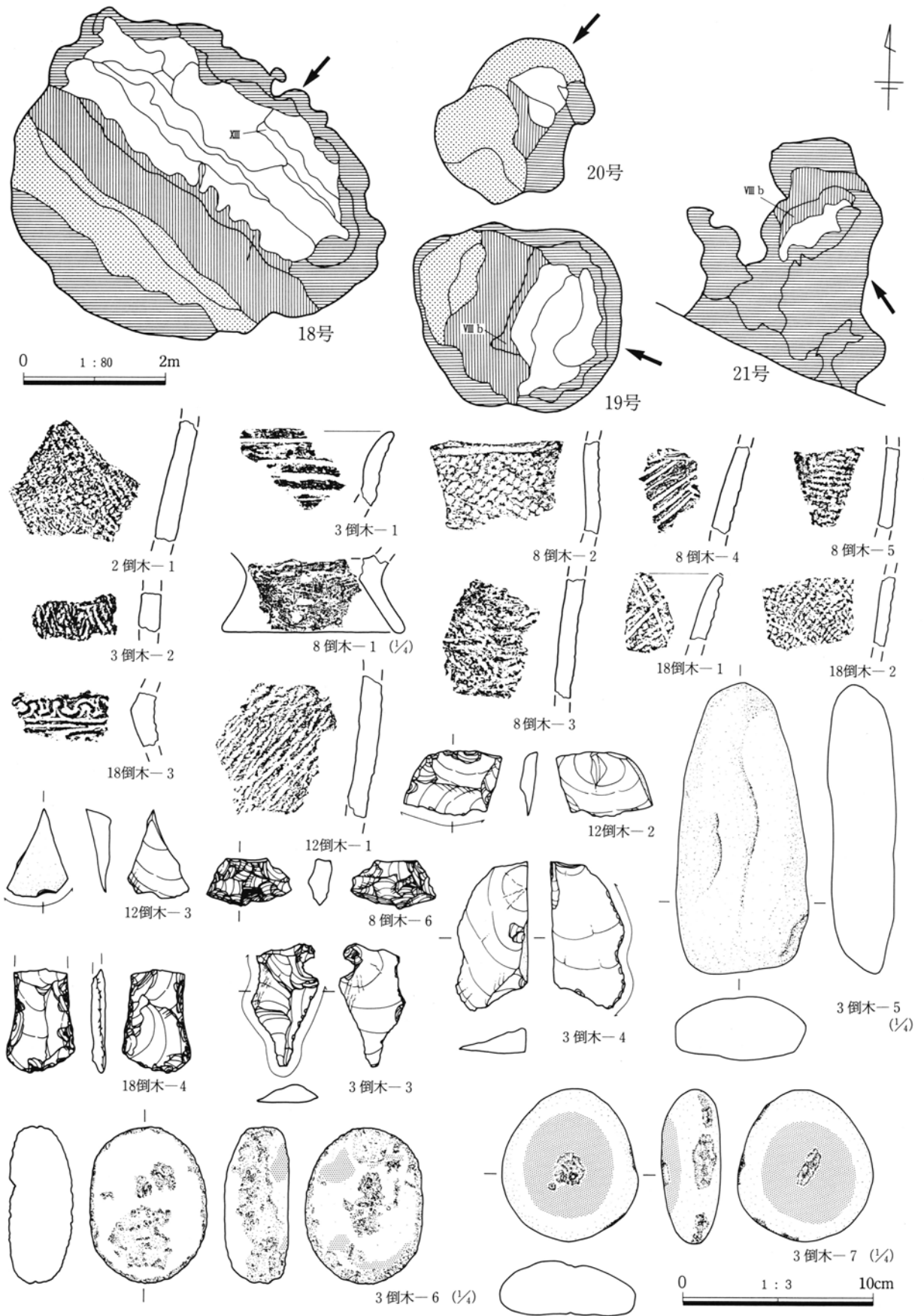
番号	位置	規 模 長径×短径×深さ	転倒方位	埋没土
1	EQ-57	240×180×?	S 62°W	VIII b・IX
2	EO-56	260×210×?	S 93°W	VIII b・IX
3	ES-53	380×340×?	S 66°W	VIII b~X
4	EV-52	480×440×?	S 107°W	VIII b~XI
5	EV-52	160×120×?	不明	IX
6	EU-53	160×140×?	不明	IX
7	EV-51	160×140×?	S 57°W	VIII b・IX
8	ER-56	500×450×?	S 39°W	VIII b~XII
9	EO-50	270×210×?	S 63°W	VIII b~X
10	EM-48	410×260×?	S 103°W	VIII b~X
11	EJ-49	220×180×?	S 6°W	VIII b・IX
12	EL-49	180×150×?	N 80°E	VIII b・IX
13	EG-50	340×300×?	S 91°W	VIII a~X
14	EM-51	350×200×?	N 99°E	VIII a~X
15	EE-51	220×200×?	S 72°W	VIII b~XI
16	ED-43	160×80×?	不明	VIII b・IX
17	FQ-59	200×130×?	S 116°W	VIII b・IX
18	FO-57	530×420×?	S 39°W	VI~XIV
19	FN-57	290×260×?	S 95°W	VI~X
20	FK-61	240×180×?	S 41°W	VIII b~X
21	FE-53	320×280×?	S 142°W	VIII a~IX

2. 縄文時代



第234図 倒木痕の埋没土と転倒方向(1)

II 調査の結果



第235図 倒木痕の埋没土の転倒方向(2)および出土遺物

(7) 包含層の出土遺物

A. 出土状況

前項でも既述したように、I～III区の8,200m²の範囲には、50～80cm厚の縄文時代の遺物包含層が存在し、これに関わる堆積土層は、VI層の黒ボク土、VII層の淡色黒ボク土、VIII層の黒褐色土の三層である。ただし、VII層はその堆積が全体的に薄く、VIII a層と癒合しているところが多い。従って、VII層からの遺物出土量もVI・VIII a層に比べて少ない。各層の出土遺物は、草創期前半から後期にわたり、土器19,809点、剥片を含む石器6,566点がある。遺物の出土量は、北中道II遺跡や犬子塚遺跡に比べて最も多いが、総体的には前期を中心としている点で、各遺跡ともに共通している。

出土土器の時期別の内訳(第14表参照)は、草創期前半1点、同後半104点、早期835点、前期18,166点、中期251点、後期452点で、前期が全体の92%を占めている。草創期後半から早期にかけての土器片が、かなりの数量に達していることや、最多数を有する前期において9,562点の黒浜式に次いで諸磯a式が3,433点も存在する点は、北中道II遺跡や犬子塚遺跡には認められなかった特徴である。

各期土器の出土層位は、草創期から前期段階のものはVI～VIII b層にまでまたがっているが、VIII b層からの出土量は僅少で、全体的にはVIII a層を中心としてVI・VIIにまたがる状況を示している。中・後期の土器は、その出土がVIII b層には全く見られず、総体的にVI層からの出土量が多いことなど、草創期や前期に比べてより上層からの出土傾向が認められる。

遺跡内における各型式別の土器の分布傾向については、付図のドットマップを参照されたいが、大別時期を単位にしてみると、その分布にはかなりの偏在性が認められる。例えば、草創期と前期はII区を中心にしてIII区へ広がるが、早期はI・II区にほぼ限定され、中期はII区またはIII区を中心にし、後期は

III区を中心にしてI・II区へ広がるというあり方を有している。さらに詳細に見ると、出土土器総数の92%を占める前期の有尾・黒浜・諸磯式土器の分布は、ほとんど重複する状況にある。これは、犬子塚遺跡でも認められた現象であり、時間的な断続を挟ませつつも、かなり長期にわたって継的に同一地点を利用したことを示すものであろう。また、後期の加曾利B2式土器には、特徴的な出土状況を有するものが認められる。例えば、ほぼ完形に復元された第256図531の深鉢はIII区FD～FF-56・57グリッドのVII層中において8×6mほどの範囲に散在して出土し(写真PL124)、また525の浅鉢土器はI区のVII層中から正位の状態出土している(写真PL125 e・f)。いずれも遺構を伴っていないが、状況的には黒ボク土中でもあることから、何らかの遺構の掘り込みが存在した可能性も否定できない。

当遺跡の調査区域内には、草創期・早期・後期の遺構は確認されていないことから、これら各期の遺物については、調査区域外に存在するであろう生活関連遺構に付随する形でもたらされたと想定される。ただし、後期の加曾利B式期に関しては、東側に隣接する犬子塚遺跡IV・V区でも相当量の土器が検出されており、それらとも何らかの関係性を有しているだろう。調査区を単位に見た土器の時期別分布傾向は、いうまでもなく便宜的なものでしかないが、時期によって微妙に選定地点を変えていることが窺える。

石器については、器種別に見ると削器が907点(使用痕を持つ剥片293点を含む)と最も多く、打製石斧の195点、礫器的なものを含む既存の器種に該当しない加工痕を有するもの(便宜的に「加工石器」と呼称する)151点がそれに次ぐ。磨石類は124点、石鏃は85点、石匙65点といずれも少なからず存在する。他の器種は僅少であるが、残核・原石95点や調整剥片4,856点の存在は、遺跡内に原石を持ち込んで石器製作が行われたことを示しているが、ハンマーとしての敲き石は3点と極めて少ない。また、草創期後半の石器として特徴的な三角錐形石器やスタンプ形石器は、合わせても3点に過ぎず、同期土器片の多さに

II 調査の結果

比べてその僅少さが際だっている。出土状況の中で注目されるのは、II区のVIII a層中から358の砥石に隣接して出土した452の磨製石斧がある。この磨製石斧は破損しており、あたかも再研磨するために砥石のそばに置かれたものの、そのまま放置されたような状態を示している。

石材では、石鏃を除く石匙・削器・石斧などの「打製系列」の石器には黒色頁岩が多用され、全体の77%を占めている。またそれらの石核や剥片に占める黒色頁岩の比率も77%と同比率を有しており、北中道II遺跡や犬子塚遺跡と同様に「打製系列」における同石材の優位性が際立っている。85点の石鏃の場合、黒曜石は26%を占めるに過ぎず、黒色頁岩・チャート・黒色安山岩が各々20%前後を占めており、在地産の多様な石材で構成される点が特徴的である。また磨石・石皿等の「使用痕系列」の石器には、在地産の粗粒輝石安山岩が43%と多用されており、やはり当遺跡でも「打製系列」の石材選別とは明確な差異を有している。

各器種の時期については、形態的特徴からある程度時期判別できるものを除いたとしても、圧倒的多数のものが明確な時期を特定することが難しい。しかし、各器種の遺跡内における分布がII・III区を主体にしていることや、先の前期の遺構や黒浜式を中心とした土器群の分布傾向とも合致している点を考慮すれば、確率的に大半のものは前期に帰属するものと考えられる。(写真：PL123～149)

B. 出土土器の概要

a. 草創期後半の土器(第239図 1～6)

当該期の遺構はその存在が確認されていないが、撚糸文2点(1)、絡条体条痕文21点、無文81点の104点が存在し、II区を中心にIII区へと広がりを持つ。出土層位は、73%のものがVIII a層に包含され、他時期の土器群よりも下層から出土する傾向を有する。1・2の撚糸文や条痕文は、口唇部直下より細密に施文されており、夏島式に比定される。無文土器については、大半のものが胴部の小破片ということもあ

り型式の判別が難しいが、5のような外反する口縁部形態や胎土・焼成などの特徴が先の有文土器と類似することから、ともに夏島式に分類されるものが主体をなすと思われる。絡条体の原体は、R以外は認められない。胎土は、有文・無文を通じて角閃石や石英の粗砂・礫を含むBタイプが主体的である。また同期前半の隆起線文土器の小破片が、II区より1点検出されている。

尚、各土器の分類基準や観察一覧は351～356・375～381頁に記載されている。

b. 早期の土器(第239・240図 7～44)

草創期と同様に当該期の遺構はその存在が確認されていないが、押型文15点(7～9)、表裏縄文1点、沈線文161点(10～30)、条痕文28点(41～44)、無文630点(31～40)の総計835点がある。各土器の出土層位はいずれもVIII a層を主体にしているが、その分布は押型文とそれに平行する表裏縄文がIII区に集中し、沈線文はI区を主体にII区にかけて広がり、無文はII区を主体にI区にかけて広がるという差異が見られる。

押型文土器 山形文5点(7)、楕円文10点(8・9)であり、文様構成は山形文が直交密接施文、楕円文が横位密接施文となる。胎土は山形文がBタイプ、楕円文は繊維を含有するDタイプが主体をなす。

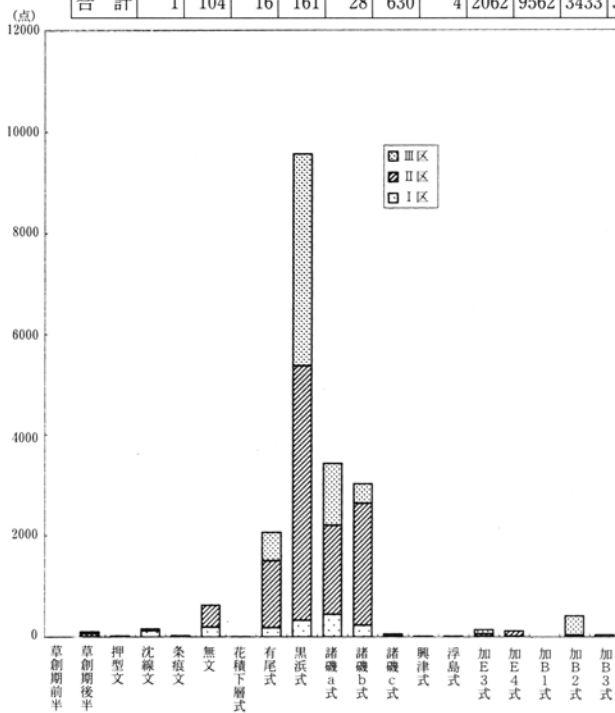
沈線文系土器 三戸式が12点(15・17・18・23・28)の他は全て田戸下層式(10～14・16・19～22・24～27)や同上層式(29・30)である。ともに鋸歯状文を主体とした文様構成であるが、三戸式は沈線文帯を挟んで横位に、田戸下層式は縦位に構成されている。胎土はともにBタイプが主体的であるが、白色の安山岩や石英の粗砂・礫を含むGタイプの他に、田戸式では繊維を含有するDタイプなどもある。

多数を占める無文土器(31～40)は、口唇部形態や内外面の整形痕、胎土などのあり方から、前述の草創期後半の無文土器とは区別される。基本的には、三戸・田戸式に伴出すると考えられ、胎土はBタイプを主体にD・F・Gタイプなどがある。

条痕文系土器 表面のみと表裏の両面に施文する

第14表 包含層出土土器の型式別・層位別一覧

	草創期		早期				前期							中期			後期			合計	
	前半	後半	押型	沈線	条痕	無文	花積	有尾	黒浜	諸a	諸b	諸c	興津	浮島	十三善	加E3	加E4	加B1	加B2		加B3
VI層	1	17	2	38	10	136	0	480	3072	1355	1103	24	11	11	7	77	82	2	121	38	6587
VII層	0	5	2	2	2	4	0	139	1120	310	101	1	0	0	0	19	3	0	210	0	1918
VIIIa層	0	76	12	117	14	472	4	1376	4967	1694	1722	14	0	0	6	38	26	0	79	0	10617
VIIIb層	0	5	0	0	0	10	0	11	91	34	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	188
不明	0	1	0	4	2	8	0	56	312	40	65	1	2	0	0	4	2	0	2	0	499
合計	1	104	16	161	28	630	4	2062	9562	3433	3028	40	13	11	13	138	113	2	412	38	19809
I区	0	1	0	120	0	189	0	178	320	441	232	19	0	3	0	4	5	2	14	38	1566
II区	1	65	0	36	10	441	4	1320	5052	1763	2412	4	13	5	13	50	107	0	20	0	11316
III区	0	38	16	5	18	0	0	564	4190	1229	384	17	0	3	0	84	1	0	378	0	6927
合計	1	104	16	161	28	630	4	2062	9562	3433	3028	40	13	11	13	138	113	2	412	38	19809



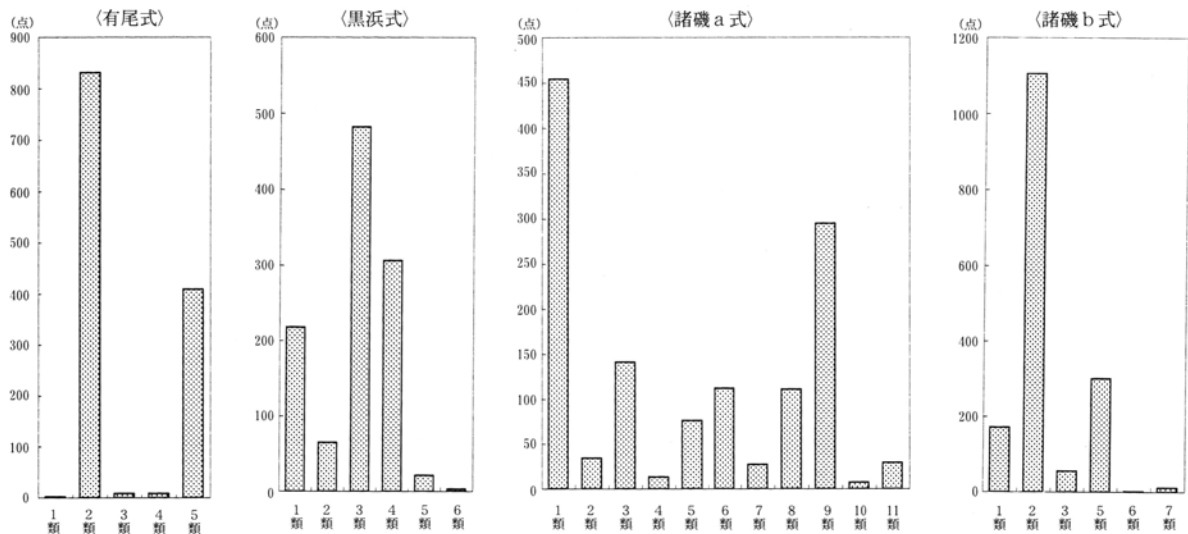
第236図 包含層出土土器の型式別点数

ものが見られるが、前者(41・42・44)は沈線文土器に類似した整形痕や胎土を有する。後者(43)は、微量の繊維を含有した堅緻な胎土の特徴から、鶴ヶ島台式と思われる。

c. 前期の土器(第240～254図 45～514)

遺構としては、有尾・黒浜・諸磯a式期の竪穴住居2棟や43基の土坑が確認されており、自ずと当該期の土器が主体を占めている。総量的な内訳は、花積下層式4点(45～48)、有尾式2062点(49～158)、黒浜式9,562点(159～302)、諸磯a式3,433点(303～437)、諸磯b式3,028点(438～504)、諸磯c式40点(505・507～510・512)、興津式13点(513・514)、浮島式11点、十三善提式13点(506・511)などである。

花積下層式 第240図に掲載した45～48の4点が



第237図 前期土器の分類別点数

II 調査の結果

全てである。0段多条の単節縄文を斜位方向に回転させて縦位の条となるのが特徴的であり、48のように内面にも縄文を施文するケースが認められる。胎土は、いずれも繊維を含むDタイプである。

有尾式 量的に黒浜式や諸磯 a・b 式に後続して 2,062点が存在するが、その内の804点が分類不能の小破片である。爪形文や平行沈線文が菱形状に文様構成される 2類(49~84)が831点、縄文地のみで菱形状に構成される 5類(86~115)が409点、図としては掲載していないが爪形文が三角形状に構成される 3類が 8点、そして爪形文による菱形・三角形状構成が簡略化されて平行状となった 4類(85)が 8点、口唇部下に縦位の短沈線文をもつ 1類が 2点などであり、有文土器が840点と多数を占める。

2類は平行沈線による 2b 類(58~83)が626点と多数を占め、爪形文の 2a 類(49~57)が203点となる。2類の口頸部には、基本的に地文が施されないが、2b 類の中には縄文地を有するもの(73~76)も少数認められる。

5類の器形は、口縁部が若干内湾するものを含んでいるが、大半は外傾・外反気味に開口する。また平行口縁を主体として、波状口縁は少数に止まる。

縄文の施文は、2種類の原体を用いて菱形状に構成するのを基本としている。縄文構成の明瞭な大形破片でカウントした原体種別数量は、単節同士を併用施文するものが822点(57%)と最多で、無節同士が212点(15%)、附加条第1種同士が72点(4%)と続く。単節と無節、あるいは単節と附加条第1種などの異種原体同士の併用例は、18点(1%)と少ない。単節・無節原体でみた基本撚り(0段時)は、 $r : 1 = 1.2 : 1$ となって r 縄が若干優勢であるが、その差は僅少である。

各類ともに口縁部が外傾し、胴部中位で強く括れるキャリパー的な器形を呈する。胎土については、実測したもののみのサンプル的な分類ではあるが、Dタイプが49%、Cタイプが40%、Fタイプを中心としたその他が11%となる。

総量的に菱形状構成の 2類を主体とするあり方か

ら見れば、時間的には有尾式の中段階を中心に展開したと想定することができる。

黒浜式 前期土器の中で最多数を占める黒浜式は、小破片のために分類不能なもの8,467点を除けば、縄文地のみで構成される 3類482点(186~223)、縄文の条や施文単位に沿って米字文などの平行爪形文を施す 4類306点(224・225・229~237)、コンパス文や平行沈線などが施文される 1類218点(159~177・180~182)、半截竹管による波状沈線文の 2類65点(179・183~185・227)、爪形文間の無文部に幾何学文的なモチーフを描く 5類21点(226・228)、無文深鉢の 6類 3点(238)などに分類される。3・6類を除いた有文土器の総数は、610点に止まる。

3類の内訳は、斜行縄文の 3a 類(186~204・208~223)が114点と多く、羽状構成の 3b 類(205~207)は39点である。縄文構成の判別できない329点は、先の比率から推定すれば、その大半が 3a 類に比定されるものだろう。これらの器形は、口縁部が外傾する円筒形状または胴部中位で括れて口縁部が外反する甕形を呈する。この 3類に関しては、吹屋犬子塚遺跡例と同様に縄文地のみで構成される有尾式 5類との区別が難しく、ここでは便宜的に斜行あるいは羽状構成を黒浜式に、菱形構成を有尾式に比定したに過ぎない。有文土器の対比では、黒浜式が610点なのに対して有尾式が840点と逆に上回っており、本来的な総量は両者がほぼ拮抗するものと考えられる。

爪形文をもつ 4類は、米字状に構成される 4a 類(224・225)が158点と主体を占め、口縁部や頸部に横位施文される 4c 類(229~237)が115点である。縄文施文は両類ともに菱形状に構成されている。器形は、1・7類と同様に口縁部が内湾ぎみに開口するキャリパー形を呈する。

1類は、半截竹管の波状文的なコンパス文と押引状列点文端を交互に横位全面施文する 1c 類(162~173・180~182)が80点と主体を占め、他に縄文地の口縁部や頸部にコンパス文を施す 1d 類(175~177)の44点、端正なコンパス文や平行沈線文を多段に施文し、口縁部に縦位の区画線を有する

有尾式の分類別点数

1類	2類		3類		4類		5類		不明	合計
	a	b	c	不明	a	b	c	不明		
2	203	626	1	1	8	8	409	804	2062	

黒浜式の分類別点数

1類	2類			3類			4類			5類			不明	合計					
	a	b	c	d	不明	a	b	c	不明	a	b	c							
15	5	80	44	74	2	2	44	17	114	39	329	158	115	33	1	20	3	8467	9562

諸磯c式の分類別点数

1類	2類		不明	合計
	a	b		
32	6	2	40	

諸磯a式の分類別点数

1類	2類				3類		4類			5類			不明	合計										
	b	c	d	e	f	不明	a	b	不明	a	b	c												
63	4	28	3	4	352	34	1	33	107	13	50	6	20	112	27	103	8	295	7	2	27	1	2133	3433

諸磯b式の分類別点数

1類	2類		3類		4類		5類		不明	合計			
	a	b	不明	a	b	a	b						
171	209	32	864	3	52	274	26	1	1	1	10	1384	3028

有尾式の縄文原形別点数

1類	1a2b		1b2a		2類		2a4a		2a4b		2a7l		2b4b		4類	
	a	b	ab	類	a	b	ab	類	a	b	ab	類	a	b	ab	類
28	7	212	10	7	102	103	627	19	1	1	6	13	13	169		

黒浜式の縄文原形別点数

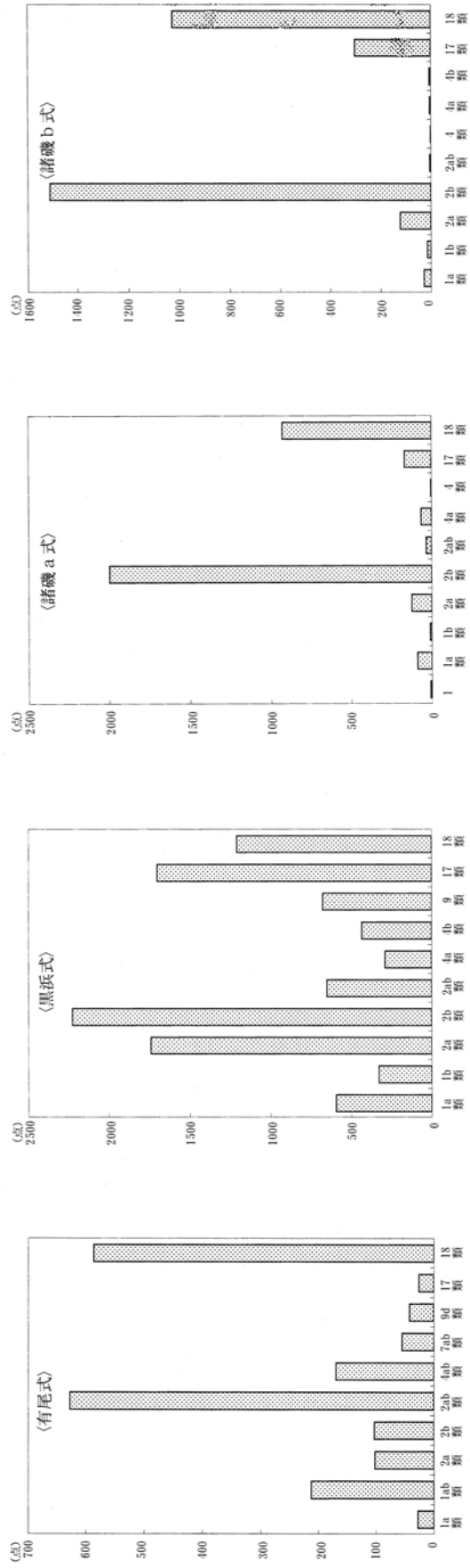
1類	2類		2a4b		2b4b		3b類		4類		4b7l		5類		
	a	b	ab	類	a	b	ab	類	a	b	ab	ac	類	b	
594	328	183	20	1740	2222	650	1	2	1	289	433	116	1	10	1

諸磯a式の縄文原形別点数

1類	2類		4類		17類		18類		合計		
	a	b	ab	a	不明	a	不明				
81	10	1	18	124	1996	33	64	2	178	926	3433

諸磯b式の原形別点数

1類	2類		4類		17類		18類		合計		
	a	b	ab	a	b	ab	不明				
28	15	123	1511	7	5	6	1	1	305	1026	3028



第238図 前期土器の縄文原形別点数

II 調査の結果

1a類(159~161・174)の15点、未掲載であるが多截竹管状あるいは櫛歯状工具により波状文的コンパス文と平行沈線文を交互に横位全面施文する1b類の5点などがある。1a類の中には、胴半部に縄文地を有するもの(159)があり、犬子塚遺跡の同類とは若干の差異がある。1d類を除き、基本的に縄文地を持たない傾向にある。

2類は、口縁部の無文地に平行・波状の沈線文を施す2c類(179・183~185・227)が44点と最も多い。縄文地の口縁部に平行沈線文を施す2b類(178)は2点のみで、モチーフ的に4c類とも共通するものがある。

5類の226・228は、爪形文や平行沈線文のあり方が2類や4類とも類似している。尚、226は体部に屈折部をもつ浅鉢土器である。

縄文原体のあり方は、無施文のものを除いて全体的には0段2条の単節が4,612点(69%)と最も多く、0段多条の単節は839点(13%)に過ぎない。無節は1,125点(17%)と多いが、附加条第1種は30点、単軸絡条体第1類は24点など、総体的に用いられる原体の種類は少なく、正反縄の合撚りや結節などは僅かに2点が存在するのみである。単軸絡条体第1類に分類したものの中には、113・114などのように無節縄2本を用いる例も見られる。2種類の原体を併用施文するものは966点、1種類のもの5,684点であるが、全体的な縄文構成を判読できない小破片もカウントされており、この数値を直接に特定の傾向把握に結びつけることはできない。しかし、縄文地のみ3類で見ると、斜縄文の3a類と羽状縄文の3b類とが1:0.34の割合であり、これを考慮すれば先の差はかなり実体を反映したものと推定される。2種類原体併用例の内訳は、単節同士が767点(79%)、無節同士が183点(13%)であり、異種原体を併用するのは13点(1%)と僅少である。無節や単節の基本撚り(0段時)は、rとlが1:0.8の割合であり、若干rが卓越している。

胎土については、サンプリング的にカウントしたのみであるが、Dタイプ57%、Cタイプ37%を中心

として、結晶片岩を含むFタイプなどが6%認められる。

4類の米字文や1類のコンパス文を主体としたあり方から、時間的には黒浜式のII~III段階を中心に展開したと考えられる。

諸磯a式 当期に帰属する遺構には3号住居や45・46号土坑などがあり、その周辺部から3,433点の土器片が確認されている。文様構成不明なもの2,134点を除いて、口頸部に肋骨文を施す1類(303~315・317~338・370)が450点と最多を数える。次いで、縄文以外の文様を持たない9類295点(372~387)、木葉文を施す3類141点(339~346)、口縁部に平行爪形文を施す6類112点(350~358)、口縁部に横位波状文を施す8類111点(361~370)、口頸部に平行爪形文や円形竹管文の垂下を施す5類76点(348・349)、口頸部に格子目文を施す2類34点(316)、縄文地に円形竹管文などの垂下を施す7類27点(359・360)、口頸部に平行沈線文を施す4類13点(347・351)、無文土器の10類7点(388・389)、浅鉢の11類30点(390~393)などがある。

1類の中で主体をなすのは、木葉状肋骨文の1b類63点(303~309・311・320・322・323)であり、次いで斜行状肋骨文の1d類28点(324・333~336・338・370)、横線状肋骨文の1e類3点(315・319・337)、弧状肋骨文の1c類4点(310・312~314)、菱形状肋骨文の1f類4点(317・318・321・326)の順となる。文様構成の判然としない353点は、先の量的な比率から見ればその過半数が1b類に帰属すると思われる。306・312・355などは、口縁部の幅狭な爪形文間に鋸歯文を施している。また1類の口頸部は無文地が中心であるが、317・321・326などのような縄文地を有するものもある。

3類は入組木葉文を施す3b類(339~346)が33点であり、木葉文が形状を留める3a類は1点に過ぎない。類別できない107点の大半は、3b類に帰属すると見てよいだろう。

6類の中には、350・355・358のように部分的に鋸歯状のモチーフをもつものがあり、1類や8b類など

の口縁部文様と共通した要素が認められる。

8類は波状文が重畳する8a類(362~369)が103点であり、鋸歯状文の8b類(361)は8点と少ない。8b類は鋸歯状文が重畳しないことや円形竹管文が併用されないことなど、8a類とは根本的な相違がある。

9類は基本的に縄文以外の文様をもたないが、口縁部に横列の円形竹管文をもつ371の様な例もある。また器形は平縁が主体的だが、372の様な波状縁も僅かに存在する。

10類の無文土器(388・389)の器面は、研磨に近似した篋撫痕が顕著である。389は口径が10cmに満たないミニチュア的なものと思われる。

11類の浅鉢は、木葉文を施す11a類(391・392)が2点、平行線文間の縄文を磨り消す11b類(393)が27点、無文の11c類(390)が1点となる。

縄文は、各類を通して横位施文の単節RLを用いる例が1,996点と最も多く、全体の85%を占める。他に無節L81点や0段多条の単節RL64点などが、目立ったところであるが、二種類の単節による羽状縄文も33点存在している。これらを基本撚り(0段時)に換算すれば、rが94%を占めるのに対してlは6%に過ぎず、圧倒的にrが卓越する状況にある。

1類を始めとした深鉢の器形は、胴部下半に若干の膨らみを持ち、緩やかに立ち上がって口縁部がラップ状に開口するものが大勢を占め、波状縁が卓越している。またサンプリングによる資料で見た胎土は、Bタイプが84%を占め、結晶片岩を含有するEタイプやA・Iタイプなどは16%に過ぎない。

量的に充実している1類で見れば、1b類の木葉状肋骨文も施文の粗さが目立ち、新しい様相を見せている。また1d類の斜行状肋骨文や3類の入組状木葉文なども少なからず存在することから、諸磯a式でも新段階に位置付けられるものが主体を占めている。

諸磯b式 文様構成の判別不能な1,384点を除き、横位の集合沈線により文様を施す2類(444~460・469~472)が1,105点と最多で、他に縄文地のみの5

類301点(473~484)、連続爪形文の1類171点(438~443)、浮線文の3類55点(461~468)、無文深鉢の6類1点、浅鉢の7類11点(485・486)などがある。

2類は、864点が類別不能なものであるが、対弧状や渦巻状のモチーフをもつ2a類(444~453・457・458・460)が209点、それらのモチーフが簡略化されて横位集合沈線文が多段構成される2b類(469~472)が32点となり、2a類が卓越している。従って、文様構成の不明な864点の大半は、2a類に比定されると想定される。

3類では、低平で繊細な浮線文の3b類(462~468)が52点と主体を占め、太めの浮線文の3a類(461)は僅か3点のみである。文様構成は判然としないが、爪形文の1類とともに2類に類似した対弧・渦巻状のモチーフが描かれると思われる。

5類は、口唇部に連続した刺突文を施す5b類は僅か26点(473)があるのみで、他は縄文以外無施文の5a類(474~484)が274点と主体を占める。器形は平縁かつ外反気味に開口するものが主で、475のような波状口縁は少ない。

浅鉢土器の7類は、縄文地のみの7a類(485)が10点、無文の7c類(486)が1点のみである。

縄文原体は、単節が1,641点(RL:1,511点、LR:123点、両者併用:7点)と最多で、無節の43点(L:28点、R:15点)がこれに次ぐ。他に0段多条の単節13点なども見られるが、バラエティに乏しい。0段時の基本撚りは、rが全体の92%を占める。

各類の器形は、2a類や3類が口縁部の内湾するキャリパー状を呈し、1類や2b類は口縁部が外傾あるいは「く字状」に内折する。

サンプリングによる胎土の傾向は、Bタイプが85%を占めるが、Eタイプが10%存在する点で特徴的である。

当遺跡の諸磯b式については、新段階の4類を全く欠くことや古段階の3a類が僅少なことを考慮すれば、総体的には中段階を主体としていると言えよう。

II 調査の結果

諸磯c式 胴部に縦位集合沈線文をもつ1類が32点(505・507～510・512)と、小破片のために図には掲載していないが有節沈線文の2類が6点、類別できないもの2点の合計40点が存在するのみである。1類の内訳は、小破片が多いために不明瞭ではあるが、耳状や棒状の貼付文の加飾に乏しい1a類(505・507～510・512)が主体を占めるようである。胎土は諸磯a・b式に類似して、Bタイプが主体的である。

その他 前期に属する上記以外の土器として、興津式13点(513・514)と浮島式11点、十三菩提式13点(506・511)などがある。

d. 中期の土器(第254・255図 515～522)

当該期の遺構として2号住居1棟が存在するが、加曾利E3式138点(515～520)や同4式113点(521・522)は住居周辺を中心に分布している。同3式の縄文原体は、複々節64点(RLR:57点、LRL:7点)、単節28点(LR:21点、RL:7点)が主なもので、基本撚り(0段時)は1が84%を占める。胎土はBタイプが主体的である。同4式の縄文原体は、単節59点(LR:58点、RL:1点)、無節36点(Lのみ)、0段多条の単節9点(LRのみ)などがあり、単節と無節の基本撚りが異なっている。胎土は同3式と同様に、Bタイプが主体的である。

e. 後期の土器(第255・256図 523～532)

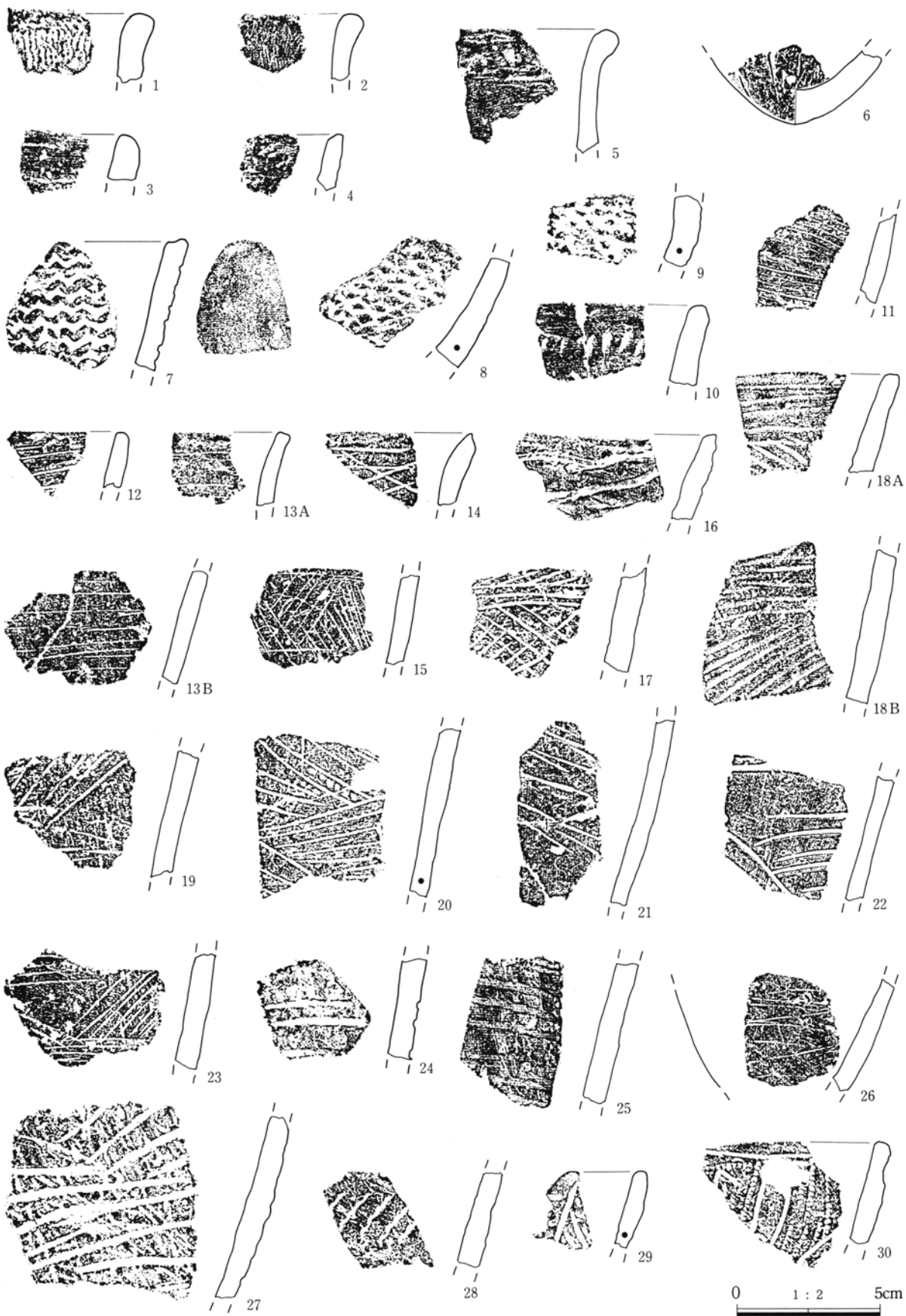
加曾利B1式が2点(526)、同2式が412点(523～525・531・532)、同3式が38点(527)存在するが、前二者はIII区を、後二者はI区を中心に出土している。量的に多い同2式は、広義の磨消縄文を施した精製的な深鉢(531・532)と浅鉢(523～525)が主体的で、粗製的な無文深鉢(528・529)は少ない。突起を含めた文様単位数は、深鉢が3単位であるのに対して、浅鉢は4単位となる。縄文原体は、無節138点(Lのみ)、単節150点(LR:148点、RL:2)、0段時多条の単節1点(LRのみ)などが見られる。これらは同一個体の破片数を含めてカウントしたものであり、有意な数値ではないが、無節と単節とでは0段時の基本撚りが異なることは注意される。胎土は、Bタイプと結晶変岩を含むEタイプが目立つ。

同3式の527は、口唇部に推定9個の耳状突起を有し、内外両面ともに、丁寧な研磨が施されている。

f. 土製品(第256図 533)

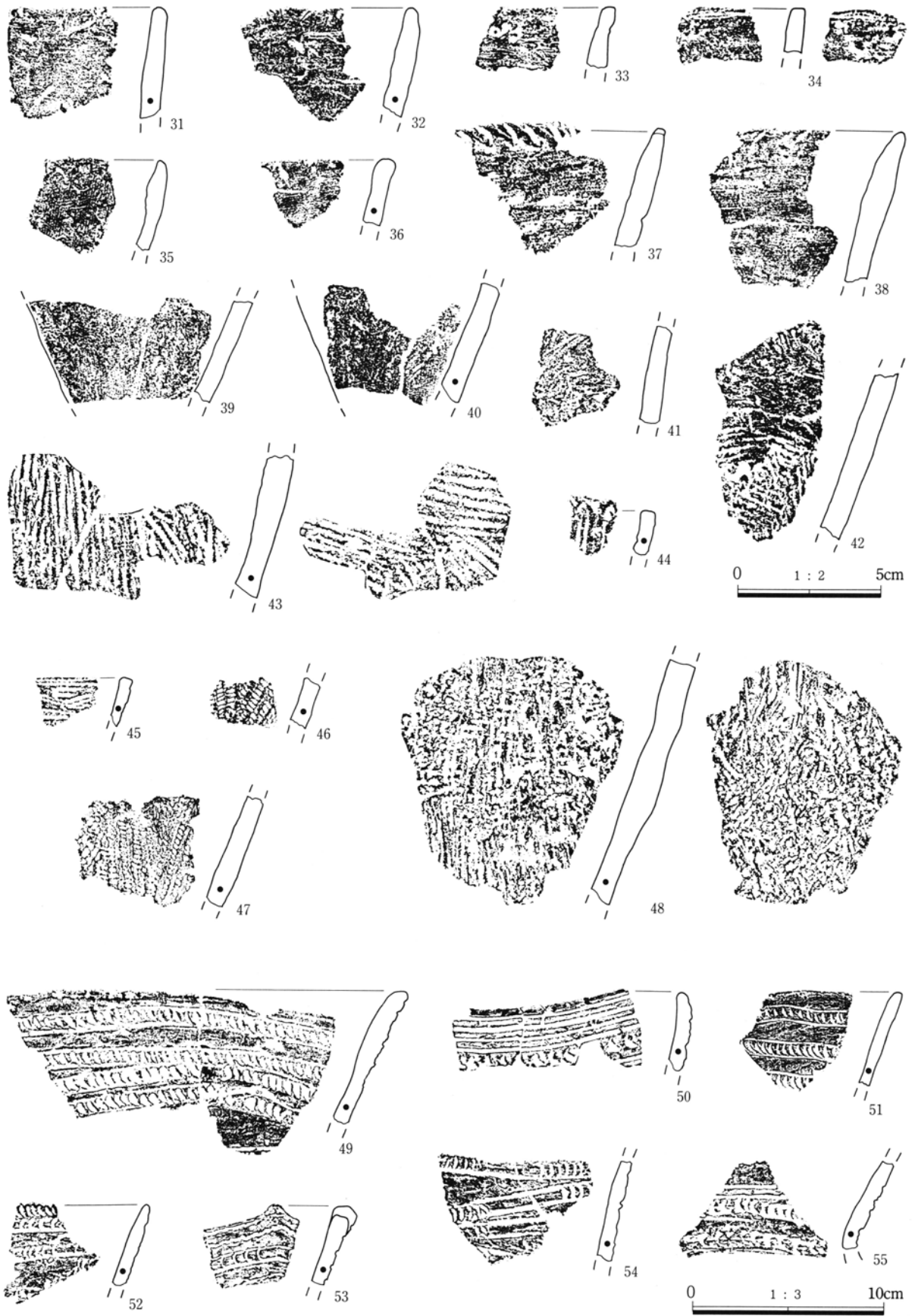
533は外径40mm、幅13mm、厚さ6mmを計り、横断面形が楕円形を呈する。表面には指頭状の整形痕を残しているが、リング状の形態から見て耳飾りとするのが妥当であろう。胎土はBタイプ。

2. 縄文時代



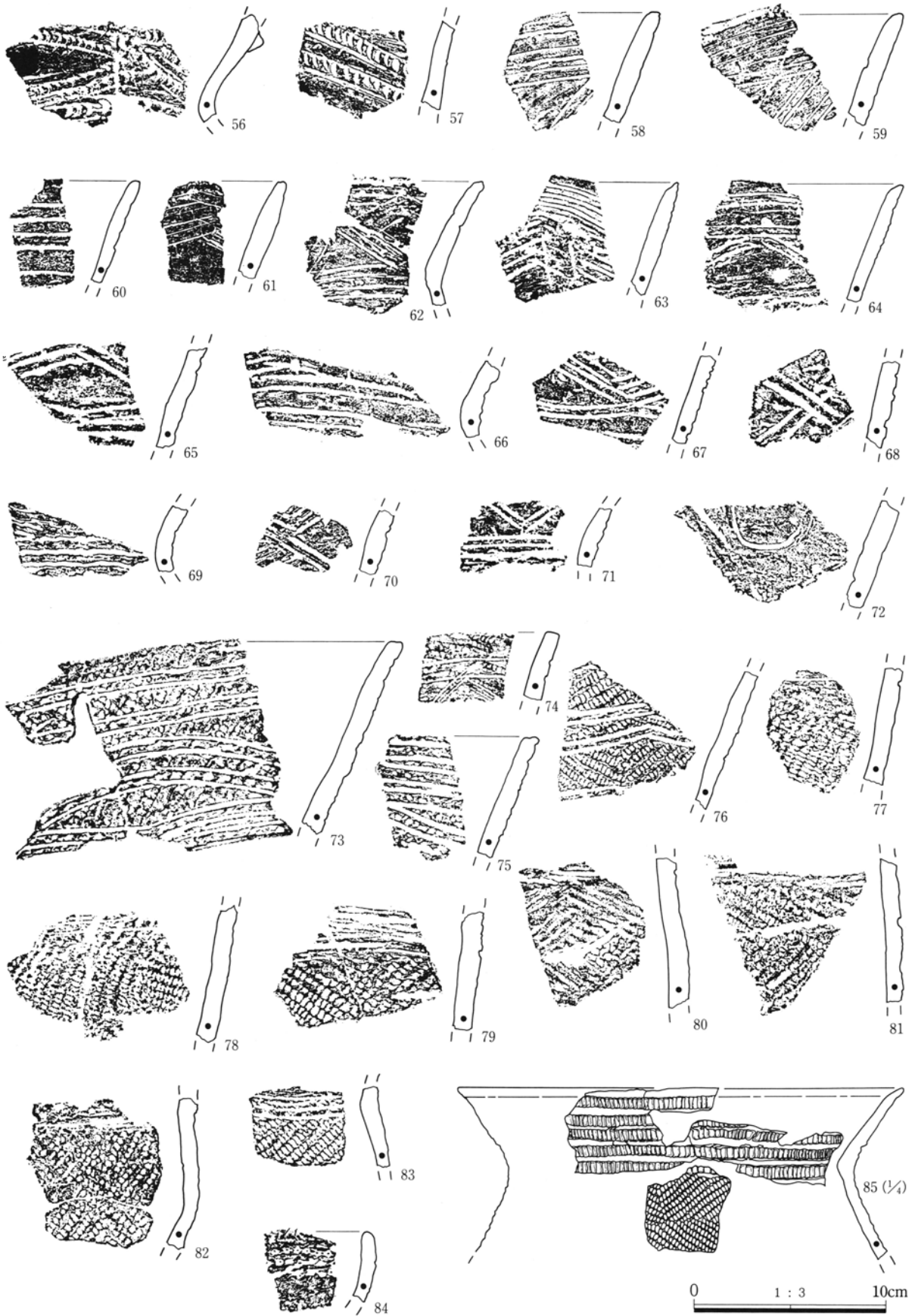
第239図 包含層出土の土器(1)

II 調査の結果



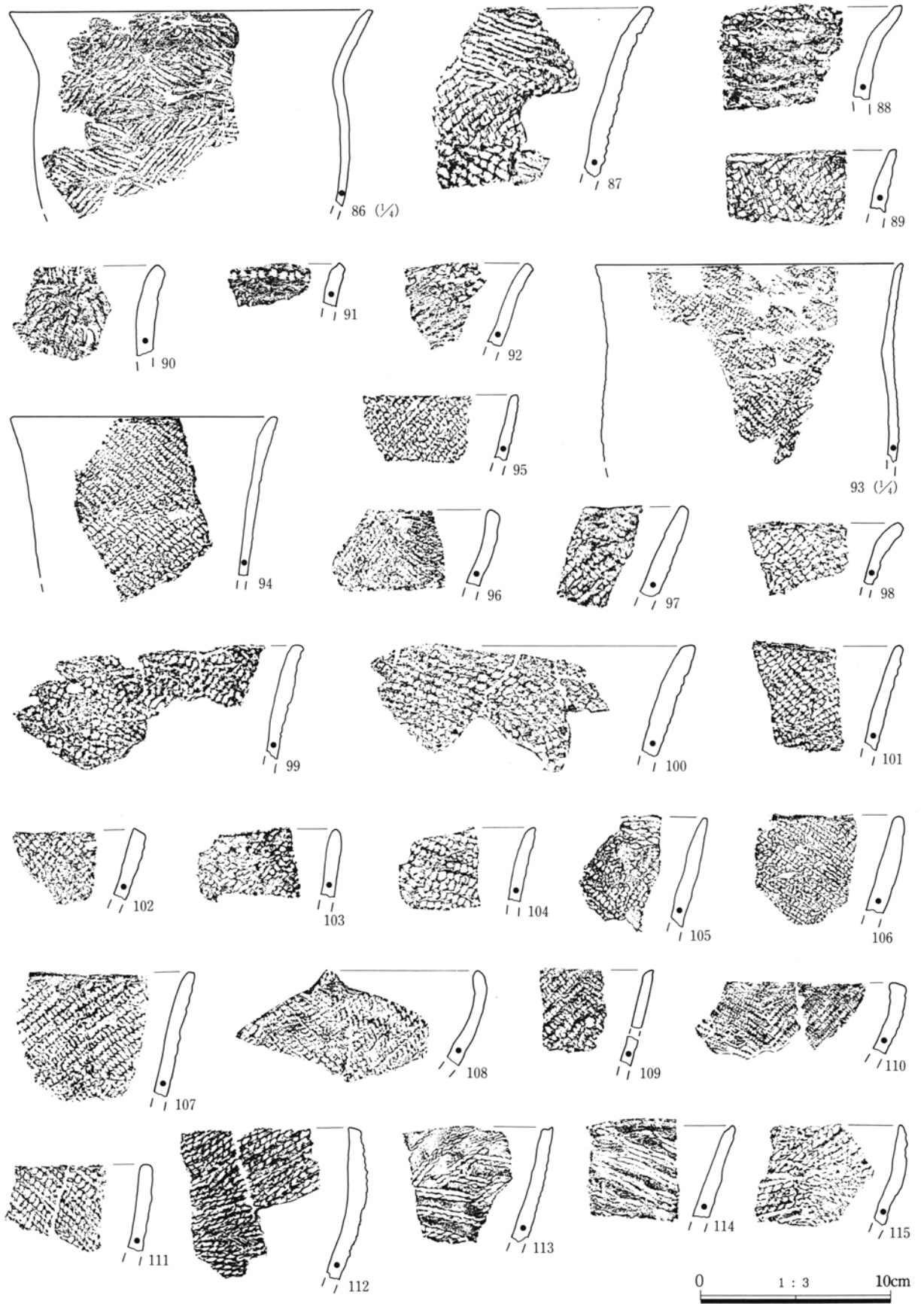
第240図 包含層出土の土器(2)

2. 縄文時代

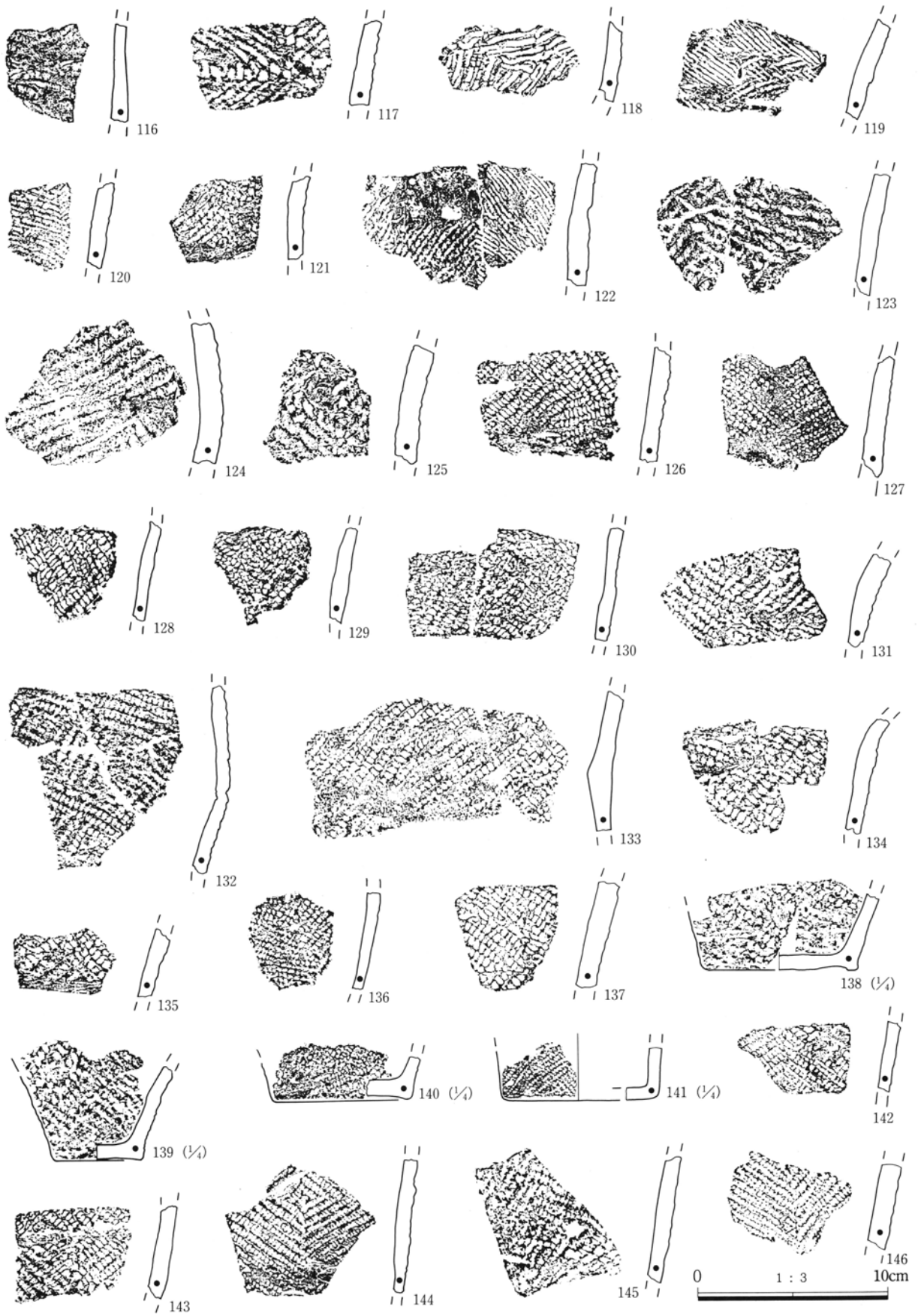


第241図 包含層出土の土器(3)

II 調査の結果

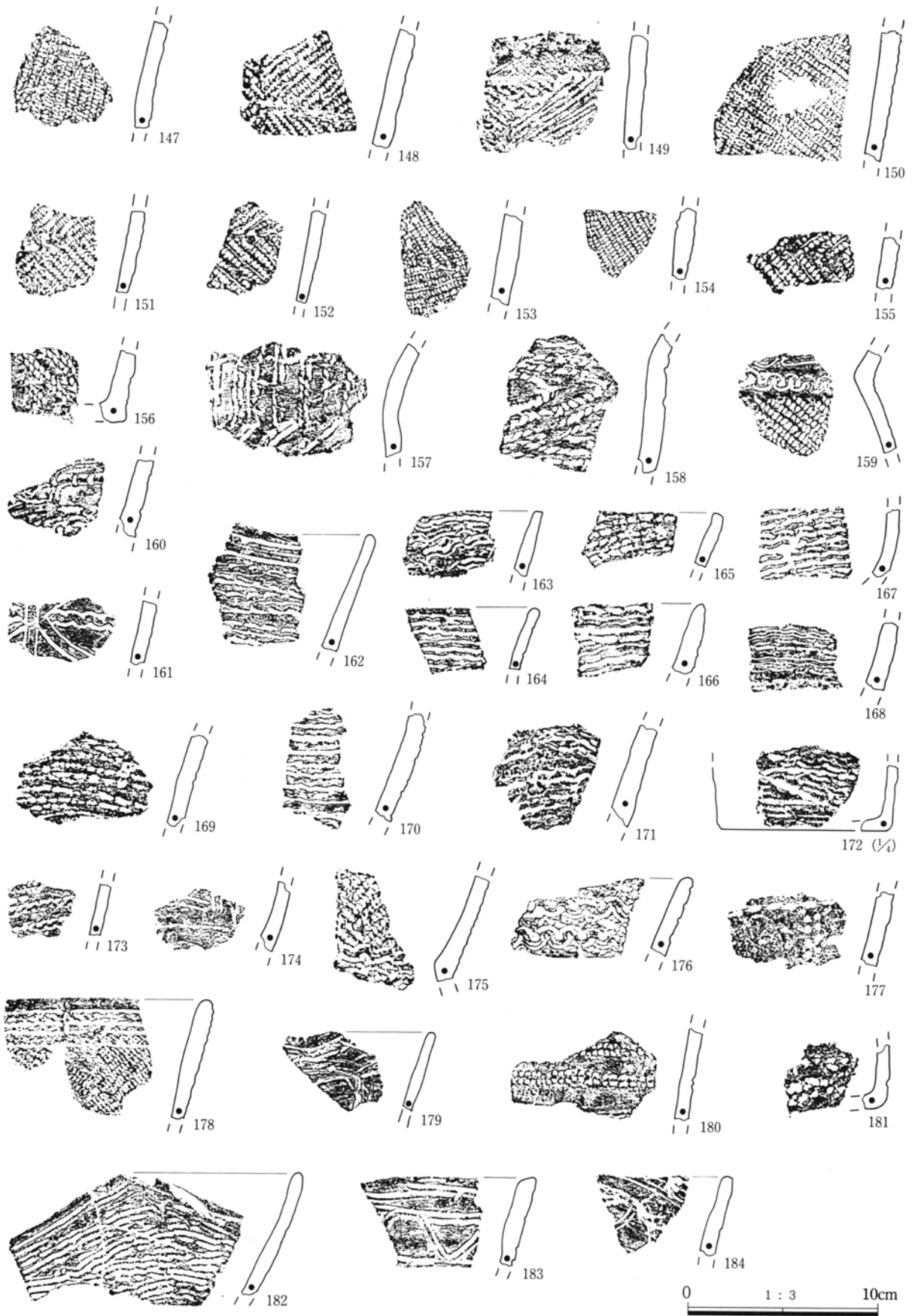


第242図 包含層出土の土器(4)

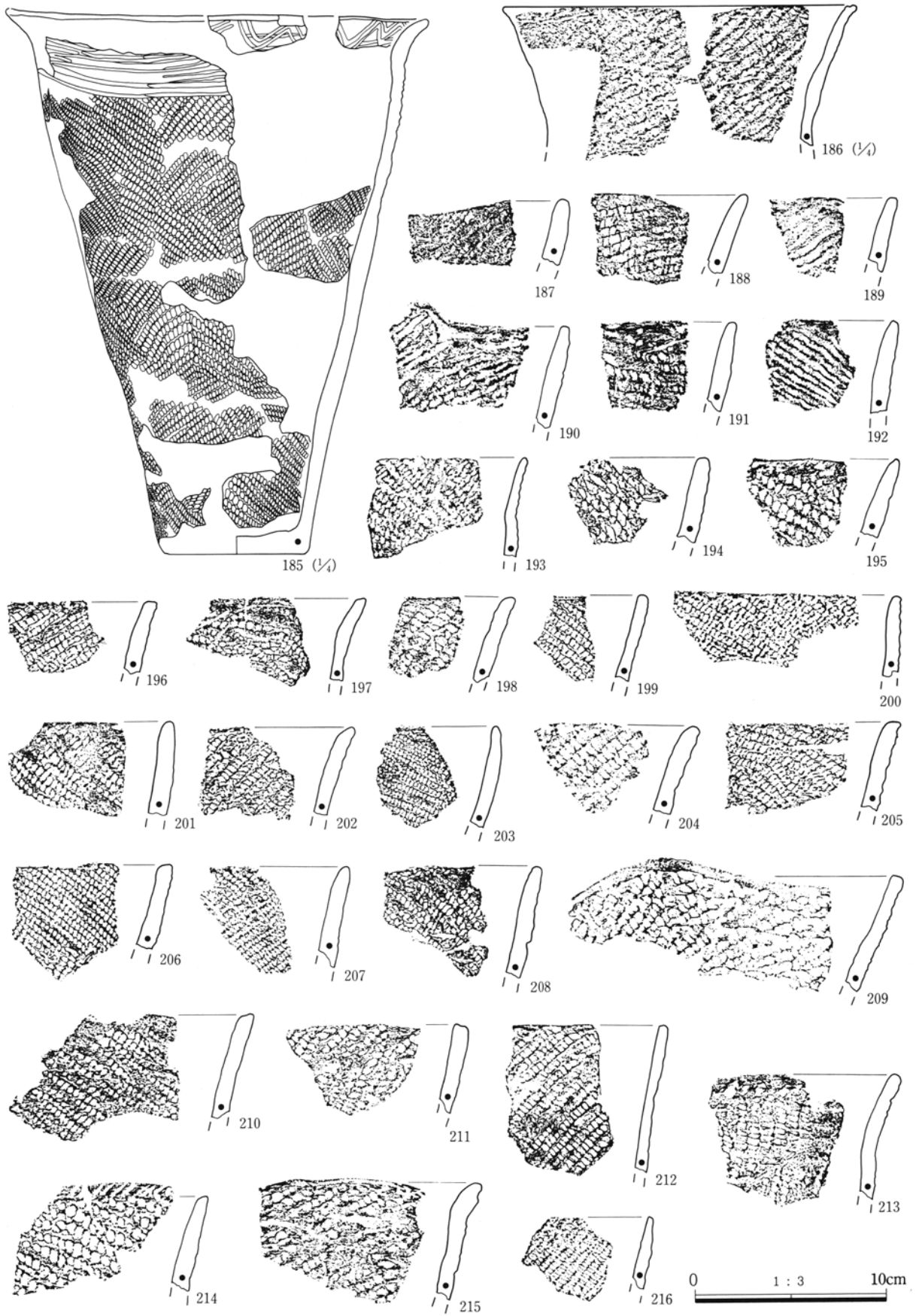


第243図 包含層出土の土器(5)

II 調査の結果

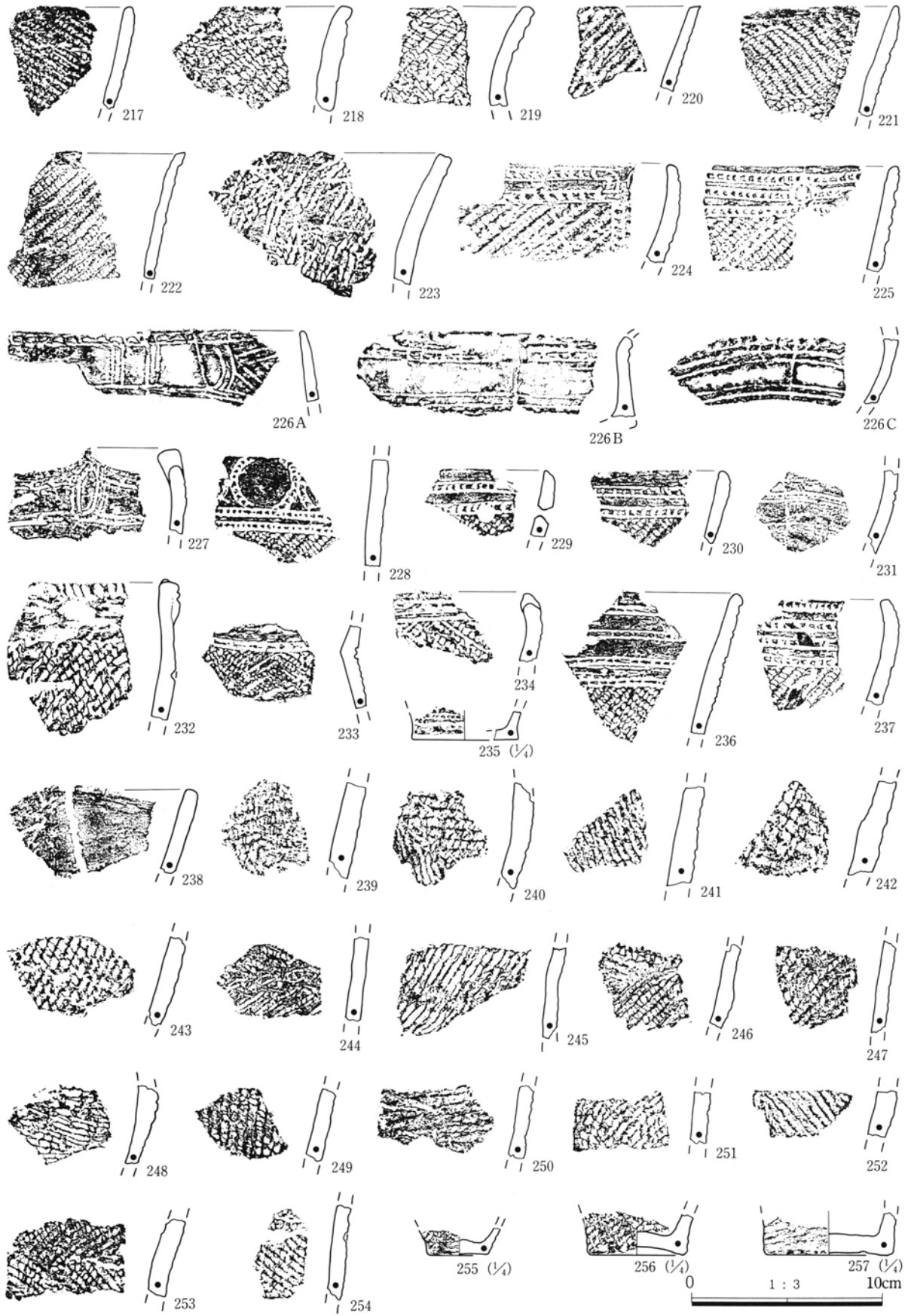


第244図 包含層出土の土器(6)



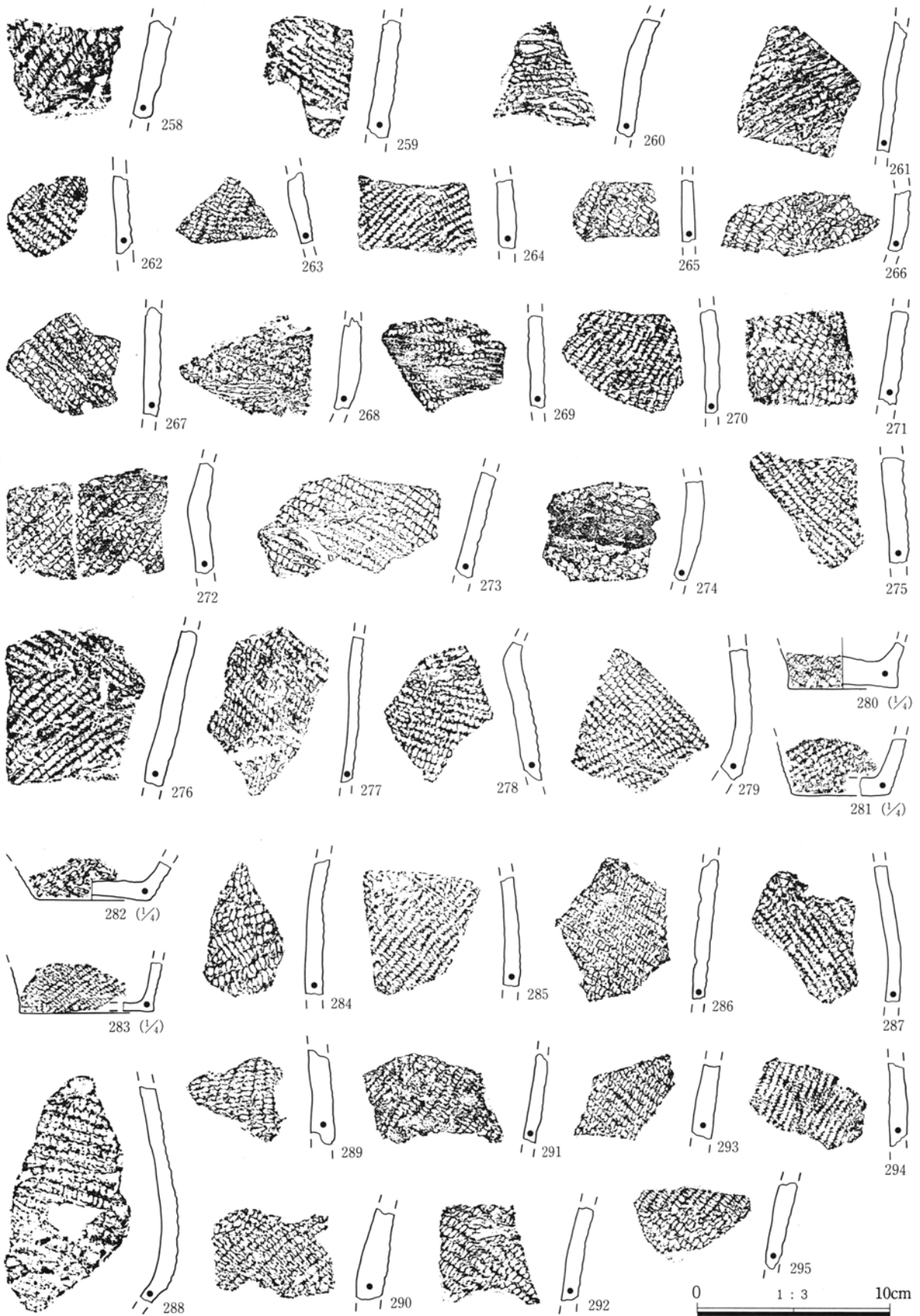
第245図 包含層出土の土器(7)

II 調査の結果



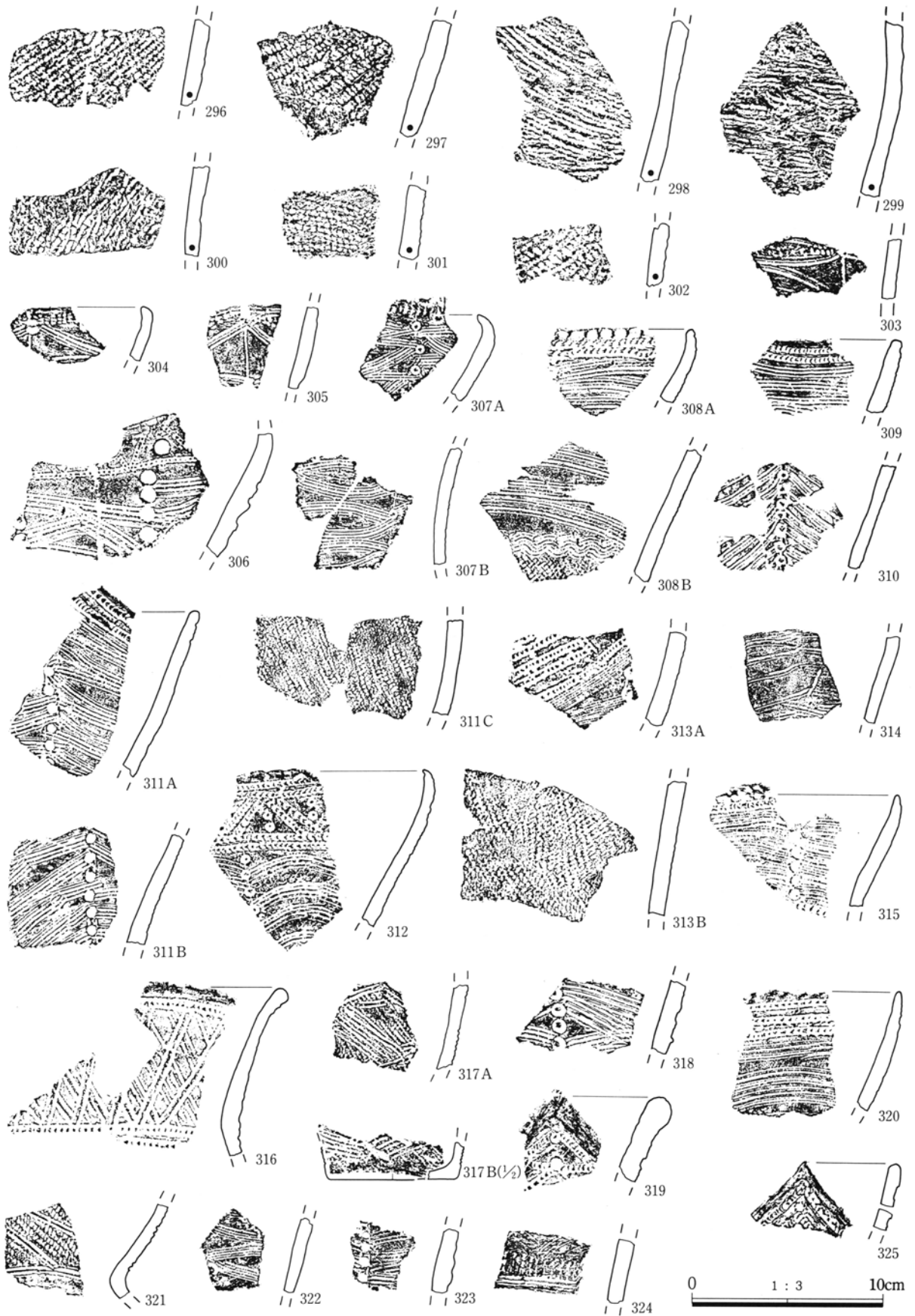
第246図 包含層出土の土器(8)

2. 縄文時代



第247図 包含層出土の土器(9)

II 調査の結果



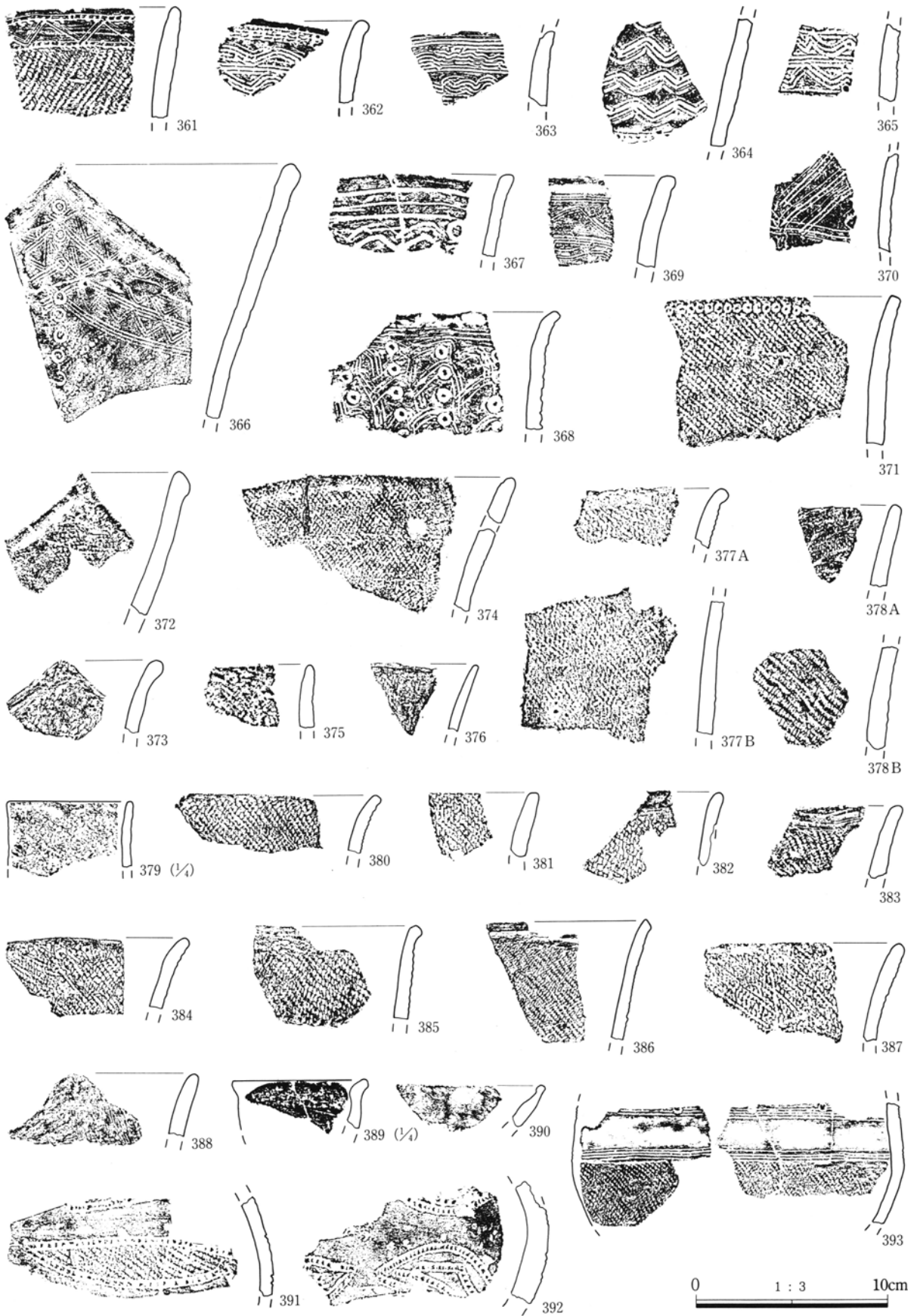
第248図 包含層出土の土器(10)

2. 縄文時代



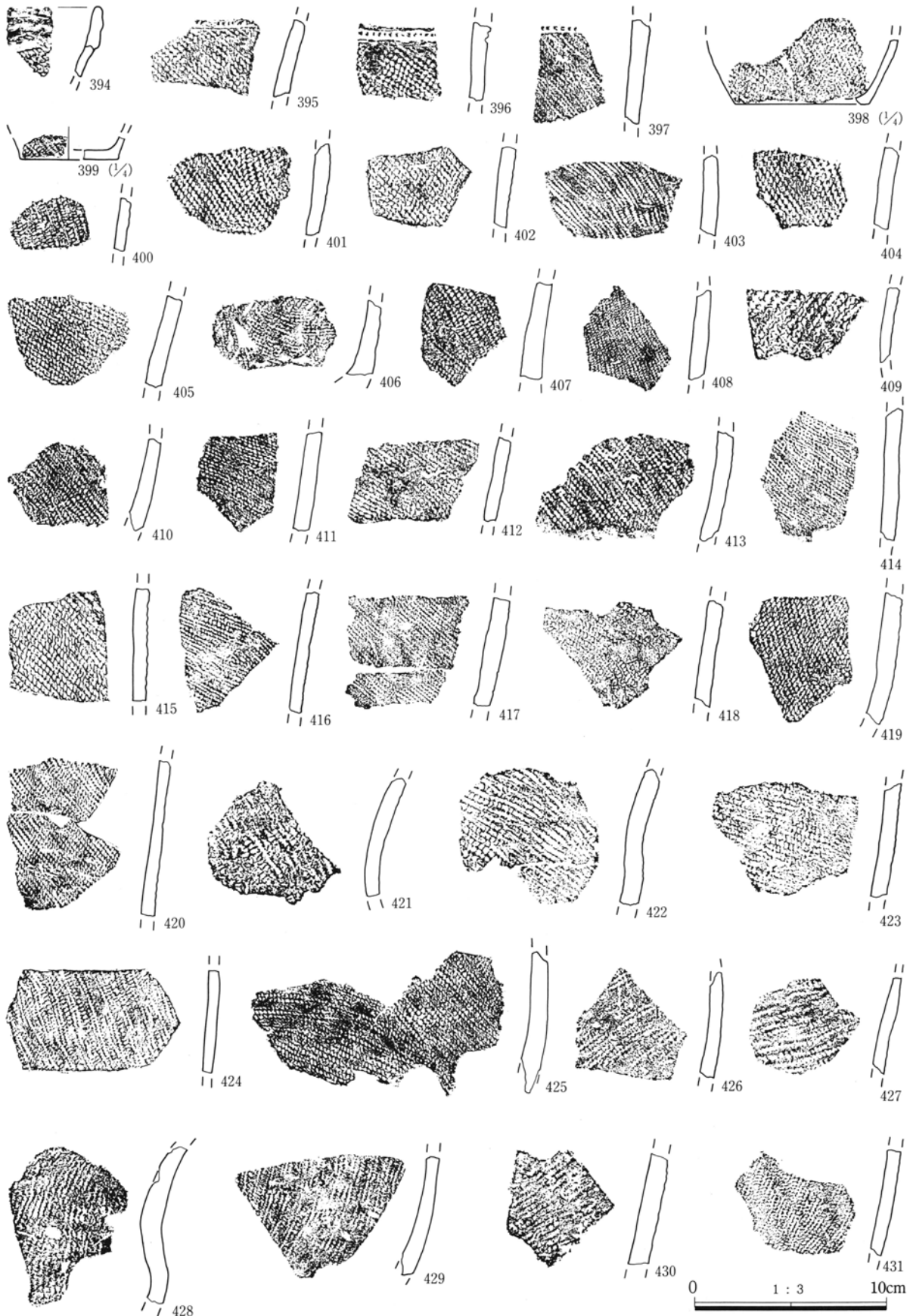
第249図 包含層出土の土器(11)

II 調査の結果



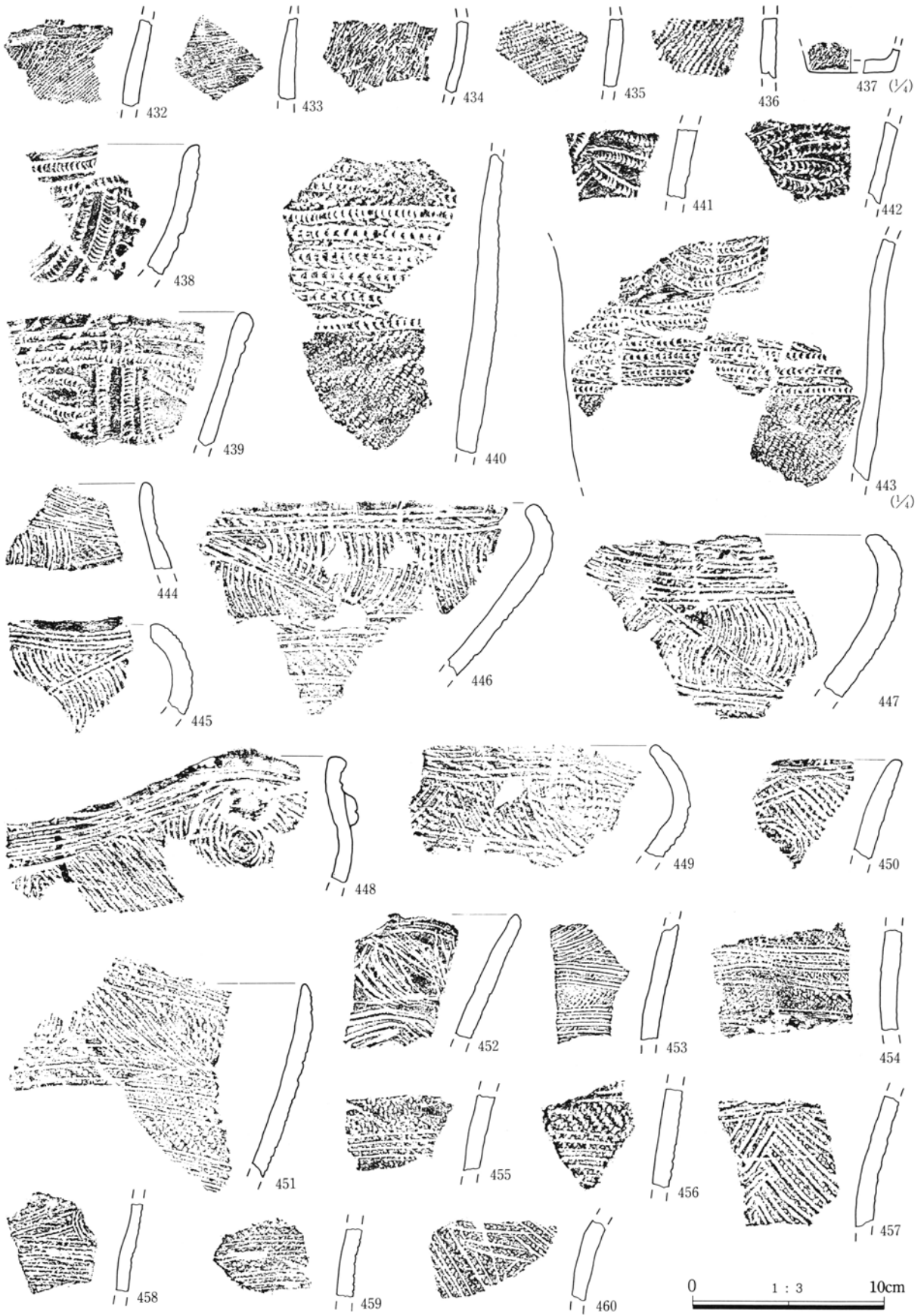
第250図 包含層出土の土器(12)

2. 縄文時代



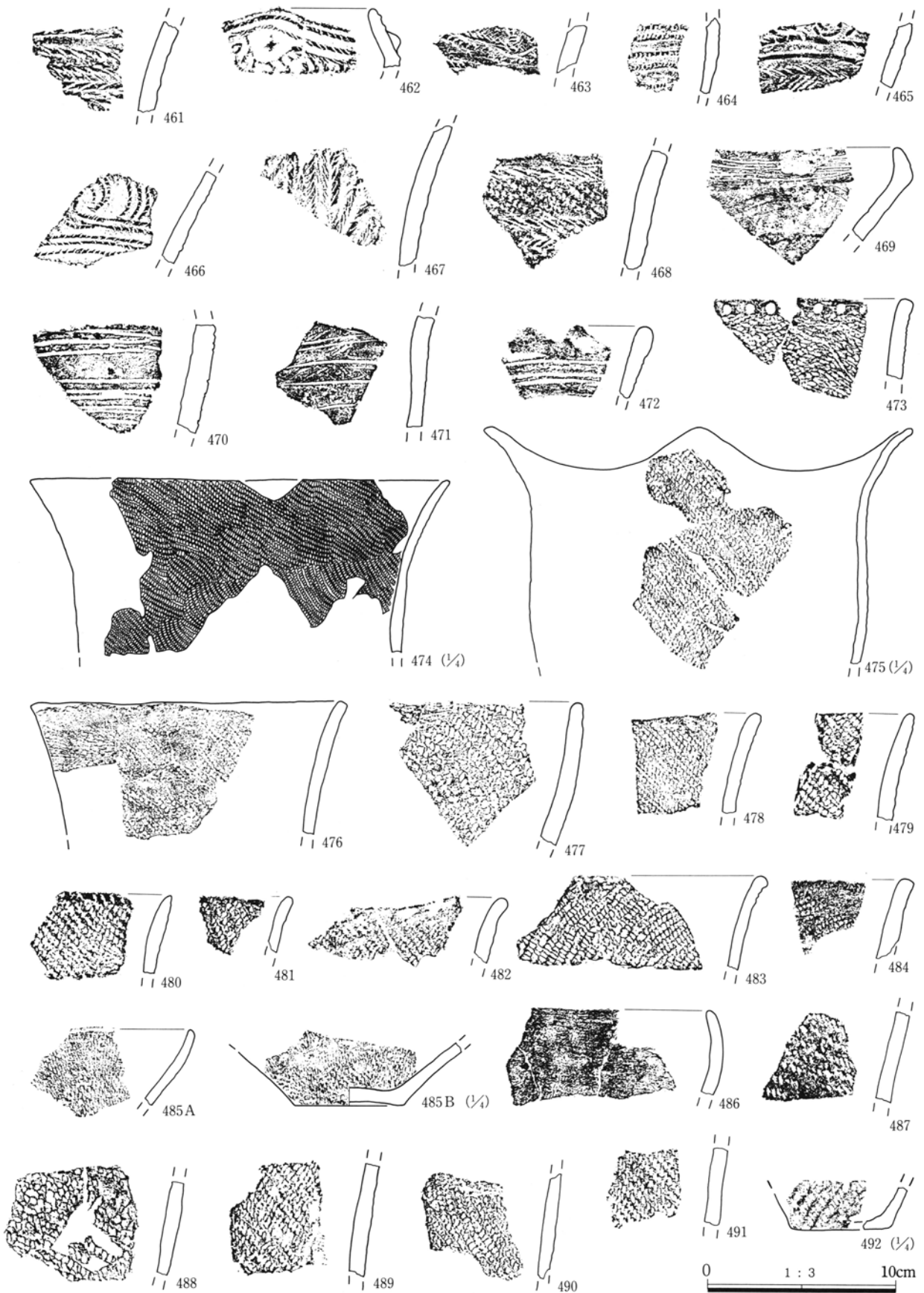
第251図 包含層出土の土器(13)

II 調査の結果



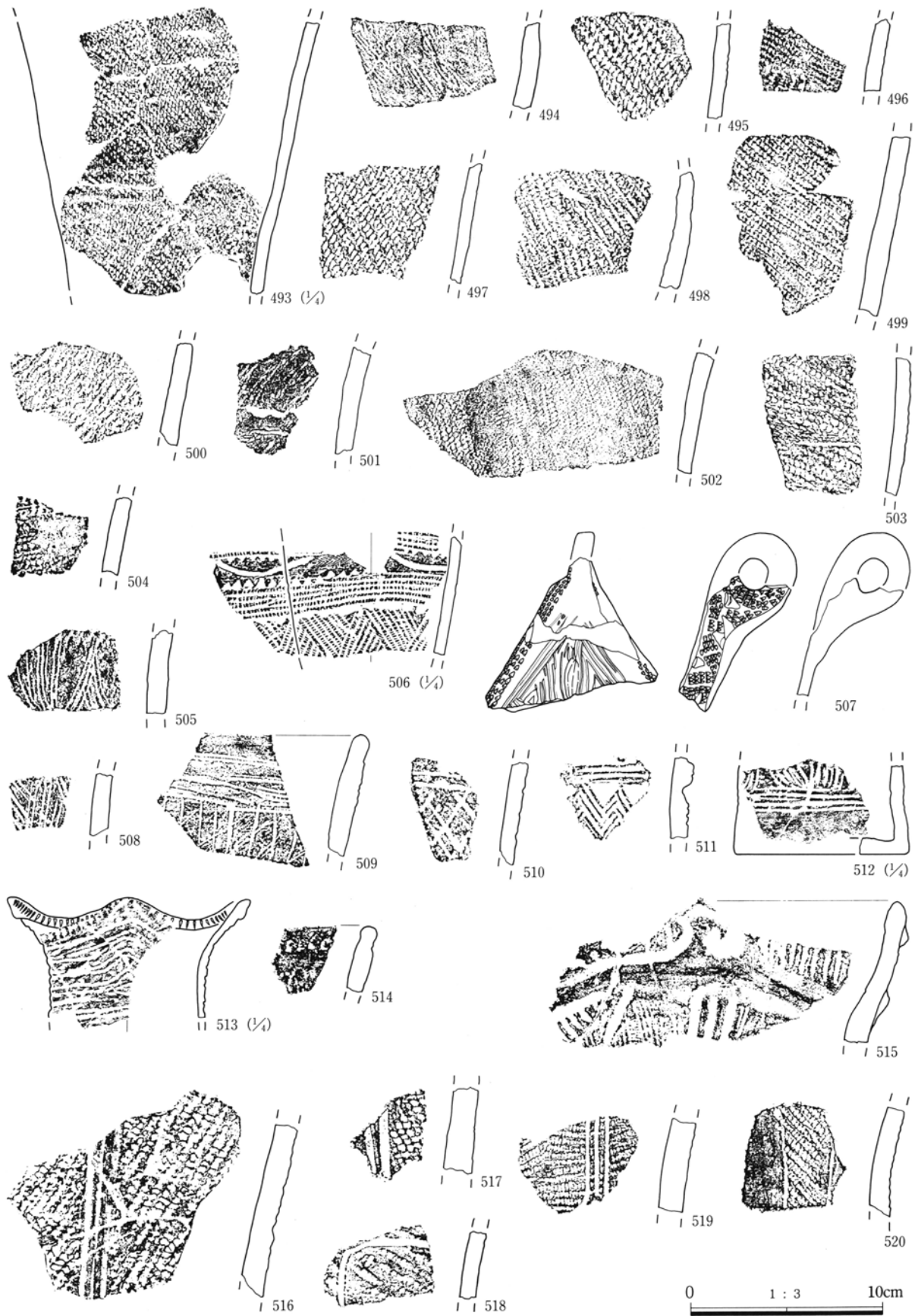
第252図 包含層出土の土器(14)

2. 縄文時代

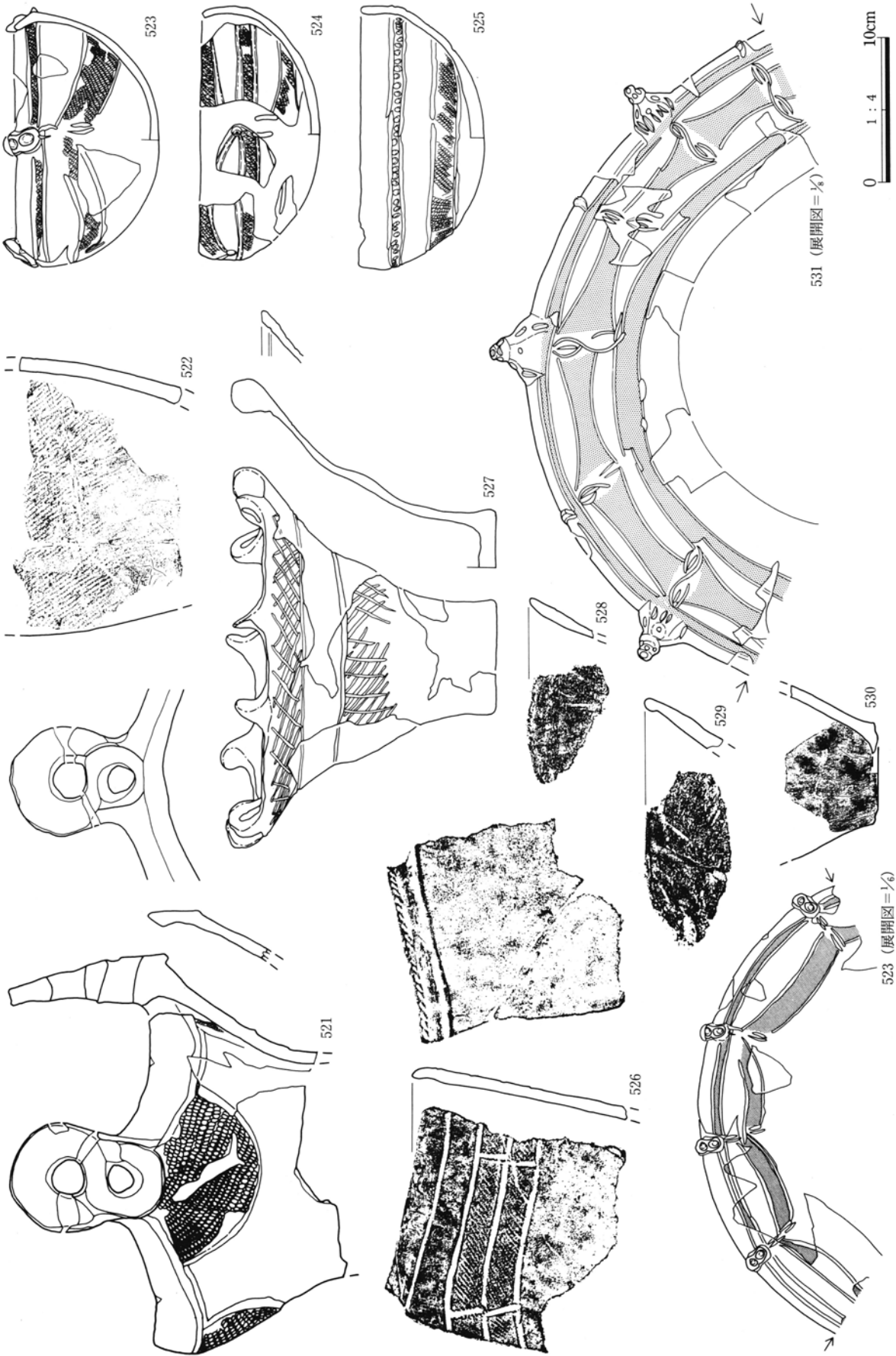


第253図 包含層出土の土器(15)

II 調査の結果

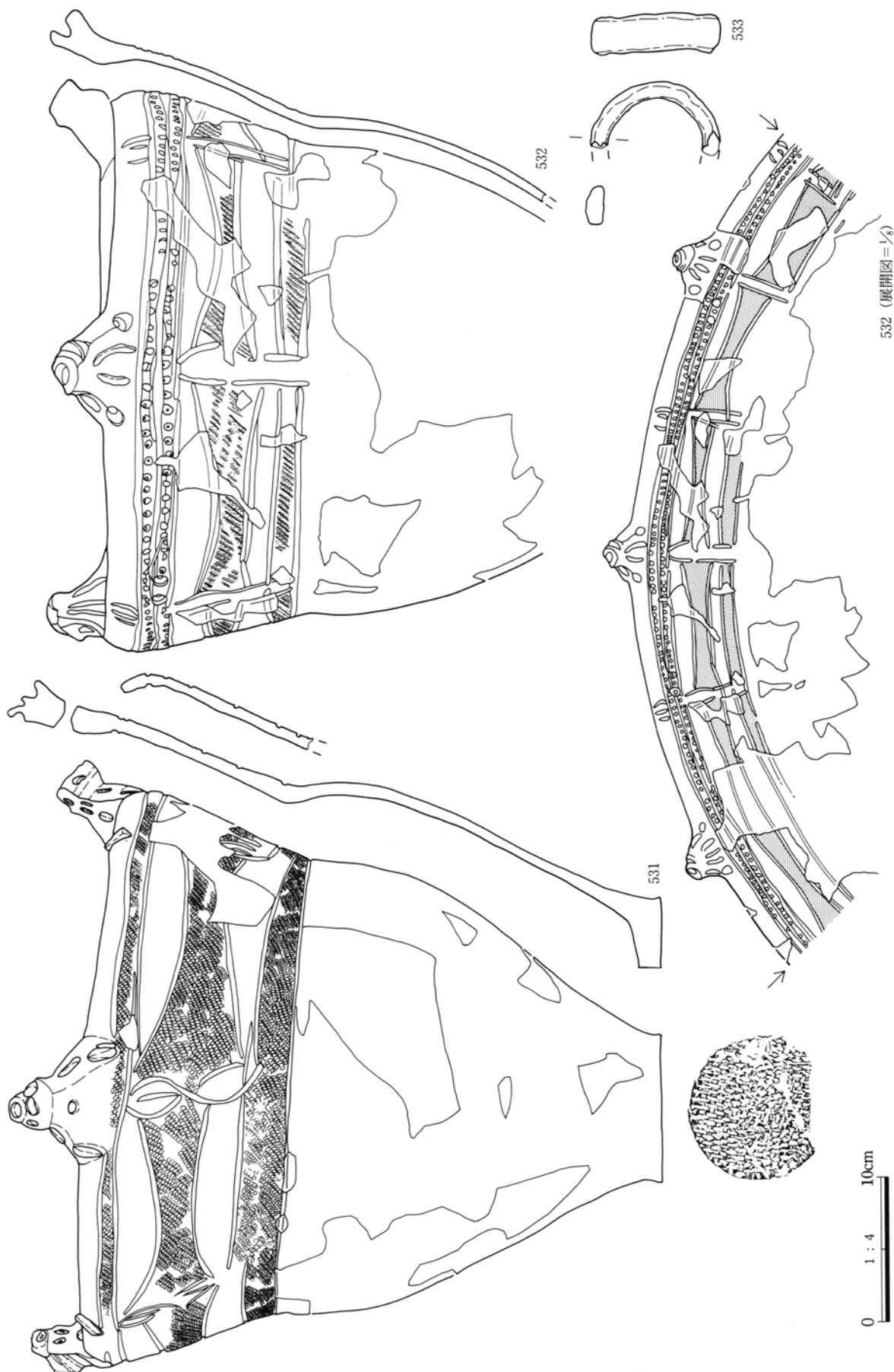


第254図 包含層出土の土器(16)



第255図 包含層出土の土器(17)

II 調査の結果



第256図 包含層出土の土器(18)

C. 出土石器の概要

総数で6,566点が出土しているが、そのうち剥片類が4,856点と全体の74%を占める。1,418点の「打製系列」石器の中で主体を占めるのは、使用痕を有する剥片を含めた削器907点であり、打製石斧195点、石鏃83点、礫器的なもの68点を含む既存の器種に該当しない加工痕を有するもの151点、石匙65点などがある。162点の「使用痕系列」石器では、凹石・敲き石を含めた磨石類が124点と最多で、他に特殊磨石18点、石皿11点、砥石とハンマー各3点、台石2点などがある。40点の「複合技術系列」石器では、磨製石斧32点を筆頭に装身具6点、多孔石と石棒各1点が存在する。出土地点はII区に55%、III区に28%、I区に17%という比率が示すように、II区を中心にしてその周辺へ拡散する傾向をもつが、基本的に土器の分布状態をトレースする関係にある。出土層位はVIII a層に53%、VI層に35%、VII層に9%、VIII b層に1%であり、大半の石器がVI～VIII a層に集中している。VII層の出土量が希薄なのは、層厚が薄いことによる。

尚、各器種の分類基準や観察一覧については、357・358・382～387頁を参照されたい。

a. 石鏃(第263～267図 1～73・76～80)

完存40点、欠損41点の計81点が検出され、ここでは小破片3点を除く78点を掲載した。分類不能の5点を除いて、無茎(1～5類)66点と有茎(6・7類)10点の両者が存在するが、前者が後者の6倍以上を占める。無茎では、基部が平坦な1類(1～12・77)、基部が弱く湾曲状に挟れる2類(13～28・30～40)、基部がノッチ状に挟れる鋏形鏃的な3類(49・50・52・54・60・62)、かなり強くV字状に挟れる4類(41～48・51・53・55～59・61・63)、基部が円弧状の5類(76)などが認められる。有茎では、基部が平坦かそれに近い6類(64～66)、基部が突出する7類(67～73)などがある。無茎鏃には、13のように表裏両面の稜部が研磨されて平坦化したものがある。また一部に原礫面を残す18や80などは、未製品として提示したが、18は調整剥片の可能性もある。

数量的に少ない5類を除いた各類は、大きさの差異から見て長さ15mm以内・重さ1g未満の小形品、長さ20～25mm・重さ1g前後の中形品、長さ30mm以上・重さ2g前後の大形品に細分することができる。例えば、1類では小形品(1・2)と中形品(4～12)とに、2類では小形品(18～22)と中形品(23・24・26～28・30・31・33・34・40)と大形品(32・36)とに、3類では中形品(49・50・62)と大形品(52・54・60)とに、4類では小形品(41・42)と中形品(29・35・43～48・51・53・55・56)と大形品(57～59・61・63)とに分けられる。より厳密に見れば、3類の大形品は62などの鋏形鏃とは異なるものであり、別タイプとして分類されよう。6・7類の場合、茎部を除いた長さで見れば、6類は中形品(64・65)と大形品(66)とに分かれるが、7類はいずれも中形品で構成される。各類の大形品の中でも特に目立つのは、3類の60のようなものであり、長さ45mm、重さ3gを越える。一方、小形品では1類の1・2や2類の19～22があり、いずれもその重さは0.5g未満である。

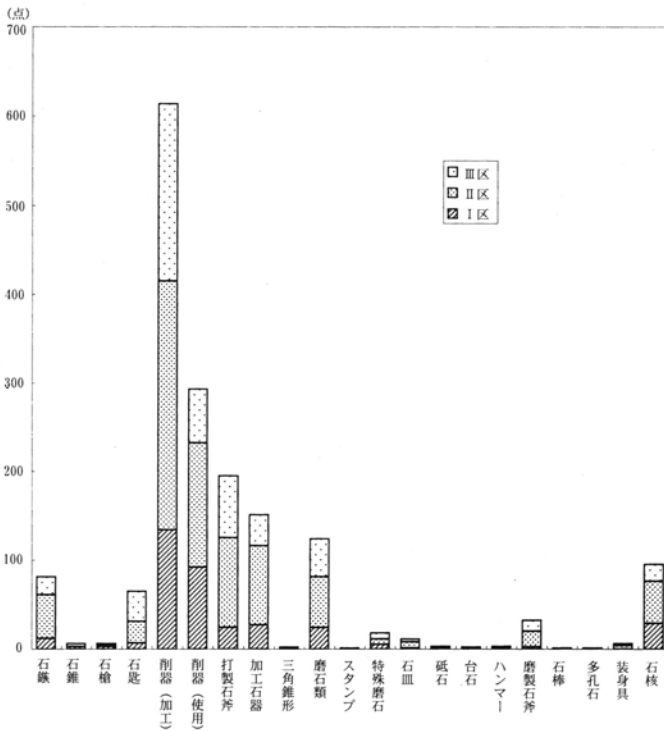
石材で見ると、黒曜石22点(27%)、チャート・黒色安山岩が各17点(各20%)、黒色頁岩が16点(20%)、珪質頁岩8点(10%)、珪質凝灰岩2点(2%)、珪質準片岩1点(1%)であり、黒曜石以外の県内産石材が約7割近くを占める。黒曜石は1・2類に、在地産石材は3・4・6・7類に多用される傾向にあり、特定形式と石材とが相関性をもつことを示唆している。尚、上記石材については、珪質準片岩を除いて石核や調整剥片が検出されており、当遺跡内での石鏃製作が想定できるが、珪質準片岩製については完成品としてもたらされている可能性が高い。またチャート製が遺跡内で作成されたと推定される点は、北中道II遺跡や犬子塚遺跡の様相とは異なっている。

出土位置はII区(49点)を中心にして、III区(20点)とI区(12点)にまでまたがり、その出土層位はVIII a層が41点、VI層が29点、VII層が10点、VIII b層が1点である。出土層位と各形態との有意な関係は認め難いが、1類1・2などの小形品は草創期に、3類62の鋏形鏃は早期に、2類や4類は前期に、6・7類は後

II 調査の結果

第15表 包含層出土石器の器種別・層位別一覧

	打製系列										使用痕系列						複合技術系列				その他		合計
	石鏃	石槍	石錐	石匙	削器1	削器2	加工	打斧	三角錐	凹石類	スタンプ	特磨	石皿	砥石	台石	ハンマー	磨斧	石棒	多孔	装身具	石核	剥片	
VI層	29	1	2	24	176	109	46	80	1	38	0	6	2	0	1	1	13	1	0	3	37	1713	2283
VII層	10	0	2	5	71	18	10	25	0	19	0	2	0	1	0	0	2	0	0	0	5	444	614
VIII a層	41	5	2	32	343	154	84	84	1	62	1	10	8	2	1	2	17	0	1	3	49	2571	3473
VIII b層	1	0	0	1	5	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	56	70
不明	0	0	0	3	19	10	7	5	0	5	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	4	72	126
合計	81	6	6	65	614	293	151	195	2	124	1	18	11	3	2	3	32	1	1	6	95	4856	6566
I区	12	3	0	7	134	92	27	24	0	24	0	5	1	0	0	0	2	0	1	0	29	763	1124
II区	49	1	3	24	281	140	89	101	2	57	1	6	7	2	2	2	18	1	0	4	47	2744	3581
III区	20	2	3	34	199	61	35	70	0	43	0	7	3	1	0	1	12	0	0	2	19	1349	1861
合計	81	6	6	65	614	293	151	195	2	124	1	18	11	3	2	3	32	1	1	6	95	4856	6566



第257図 包含層出土石器の器種別点数

〈各種石器の分類別数量一覧〉

石 鏃

分類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	7類	不明
合計	13	26	6	19	1	3	7	3

石 匙

分類	横型	縦型
合計	36	29

磨製石斧

分類	1類	2類	不明
合計	13	4	15

削器 1 (加工痕)

分類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	不明
合計	101	224	94	70	63	59	3

削器 2 (使用痕)

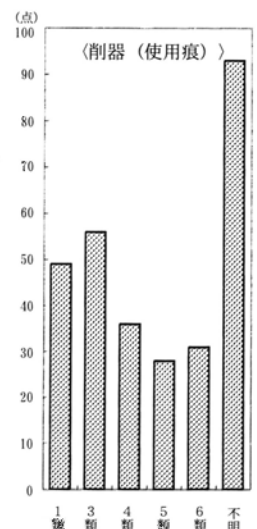
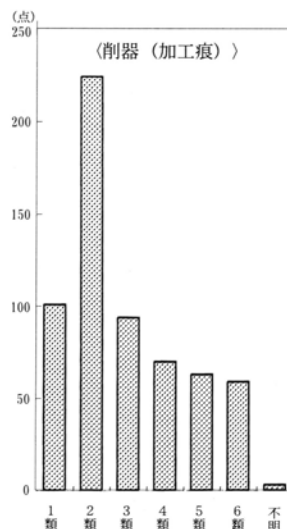
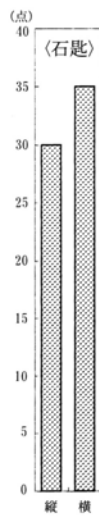
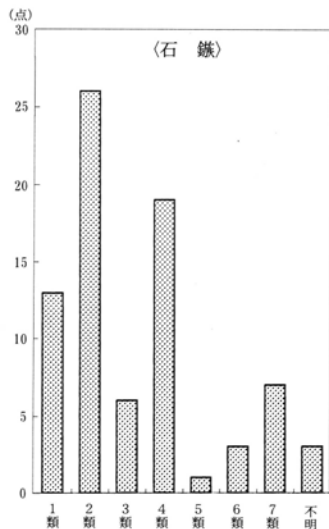
分類	1類	2類	3類	4類	5類	6類	不明
合計	49	92	56	36	28	31	1

打製石斧

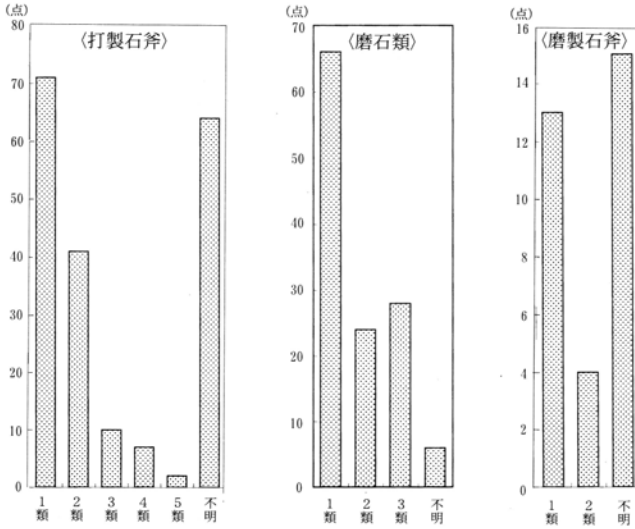
分類	1類	2類	3類	4類	5類	不明
合計	71	41	10	7	2	64

凹石・磨石・敲石類

分類	1類	2類	3類	不明
合計	66	24	28	6



第258図 各種石器の分類別点数 (1)



第259図 各種石器の分類別点数 (2)

〈各種石器の石材別数・重量一覧〉

石 鏃

石材コード	17	22	56	64	65	66	67
点数	8	2	1	16	22	17	17
重量	10	3	1	28	24	23	29

石 槍

石材コード	4	64	65	66
点数	1	3	1	1
重量	1	396	2	2

石 錐

石材コード	45	64
点数	1	5
重量	2	69

石 匙

石材コード	12	17	45	52	58	64	66	67
点数	2	5	1	1	1	48	3	4
重量	10	65	19	1	2	1,023	6	53

削器 1 (加工痕)

石材コード	2	4	5	6	7	13	16	17	19	22	25	26	27	32	34	39	64	65	66	67	不明
点数	1	8	3	7	1	2	12	18	2	1	1	1	2	1	2	1	495	5	5	41	5
重量	1	804	699	682	199	182	398	751	87	5	66	28	355	9	352	39	22,250	9	19	1,353	

削器 2 (使用痕)

石材コード	4	5	6	13	16	17	22	26	27	28	34	50	64	65	66	67	不明
点数	2	1	3	1	9	8	1	1	1	3	1	1	225	17	3	15	1
重量	138	109	276	74	191	69	11	4	18	112	190	30	7,186	40	18	371	

ハンマーストーン

石材コード	27	44	64
点数	1	1	1
重量	198	295	99

加工石器

石材コード	4	5	6	7	13	16	17	26	27	28	30	34	48	64	65	66	67	不明
点数	4	3	4	1	2	3	3	1	3	2	1	2	1	108	5	2	4	2
重量	1,660	912	1,004	540	441	403	127	167	1,018	480	530	474	11	17,405	11	5	245	

打製石斧

石材コード	4	5	6	7	16	17	25	26	27	28	33	50	51	52	64	67	不明
点数	8	2	7	4	7	5	1	2	2	3	1	2	1	2	142	5	1
重量	731	399	1,130	487	678	511	30	612	239	346	151	192	73	128	12,745	188	

三角錐形石器

石材コード	64
点数	2
重量	426

凹石・磨石・敲石類

石材コード	4	5	7	10	16	25	28	29	33	34	44	52	64
点数	3	53	7	2	3	7	6	1	2	31	7	1	1
重量	687	24,089	2,857	774	444	2,729	2,003	72	603	16,567	3,713	116	49

石 皿

石材コード	5	25	34
点数	9	1	1
重量	24,866	8,600	

スタンプ形石器

石材コード	7
点数	1
重量	453

特殊磨石

石材コード	4	5	7	25	33	34	44
点数	1	4	3	1	1	5	3
重量	1,008	1,977	1,859	384	405	2,682	2,133

砥 石

石材コード	5	24
点数	2	1
重量	3,793	920

台 石

石材コード	5
点数	2
重量	7,040

磨製石斧

石材コード	5	13	14	26	29	31	41	52
点数	1	1	2	22	1	3	1	1
重量	2	10	120	3,115	75	29	169	2

石 棒

石材コード	44
点数	1
重量	7,800

多孔石

石材コード	5
点数	1
重量	639

装身具

石材コード	17	30	31	43	55	不明
点数	1	1	1	1	1	1
重量	1	7	4	5	1	

II 調査の結果

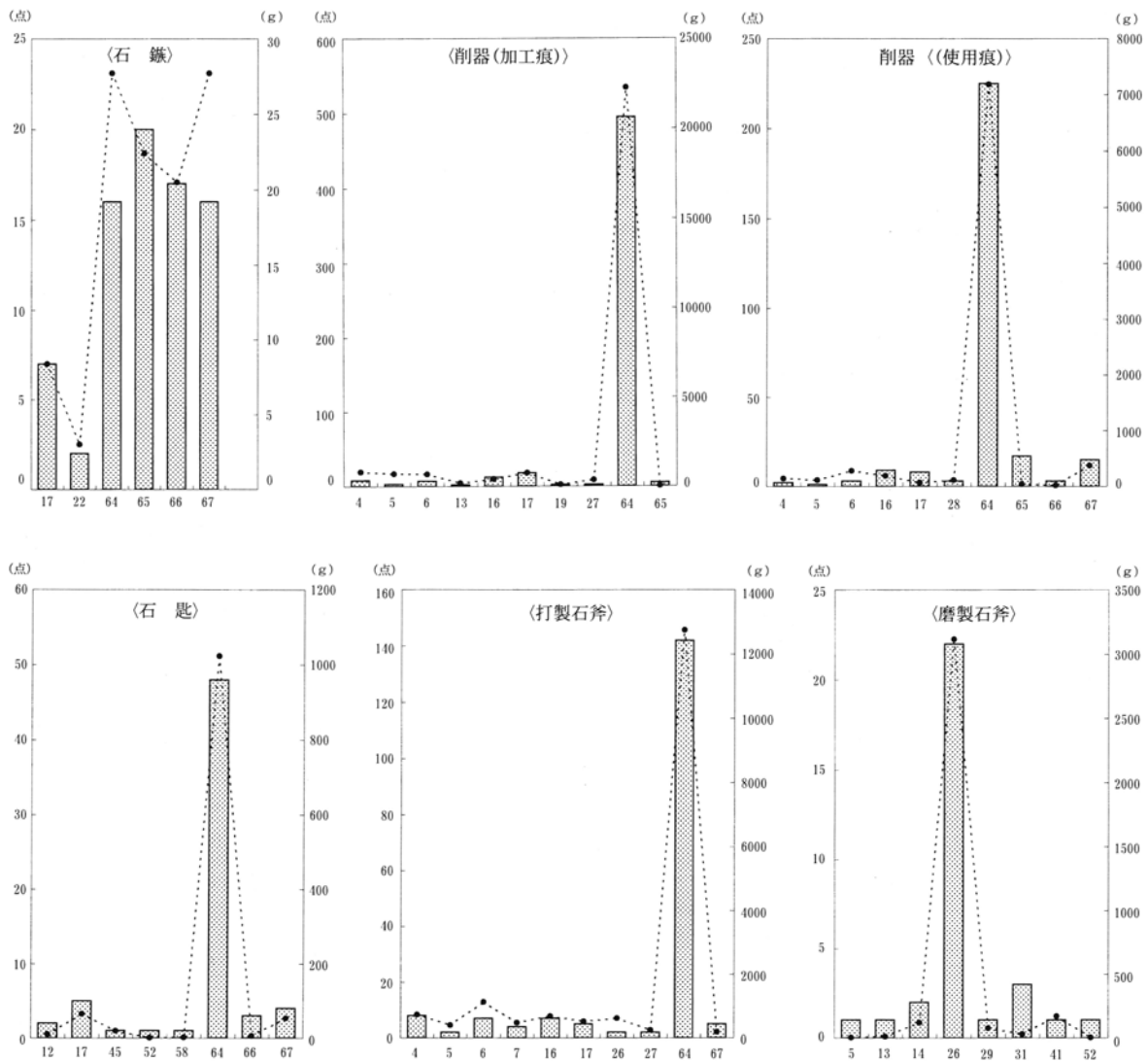
石 核

石材コード	4	5	6	7	12	13	17	27	28	52	53	64	65	66	67	不明
点数	2	2	4	2	1	1	1	3	1	2	1	45	16	2	11	1
重量	1,021	950	1,321	1,040	38	220	18	384	526	2,254	134	7,431	167	8	2,601	

剥 片

石材コード	1	2	4	5	6	7	12	13	15	16	17	18	19	22	24	25	26	27
点数	1	7	50	39	56	15	2	4	1	122	80	1	10	1	1	1	4	28
重量	10	8	542	263	896	729	8	59	2	615	605	54	95	5	17	1	57	752

石材コード	28	32	34	39	40	41	44	45	48	50	52	54	57	64	65	66	67	不明
点数	93	7	4	1	1	1	4	11	1	16	19	1	1	3,752	91	25	384	21
重量	1,451	54	66	114	24	68	292	35	9	150	365	1	2	40,454	123	81	4,595	



第260図 各種石器の石材別点数（1）（折線は重量）

期にそれぞれ比定されるものだろう。

b. 石 槍(第267・268図 74・75・81~84)

I区3点、II区1点、III区2点の計6点が検出さ

れ、その出土層位はVIII a層が5点、VI層が1点である。81・82・84は、直接加撃による粗雑な調整加工を施して、やや不整形で厚みのある体部を有する。74・

2. 縄文時代

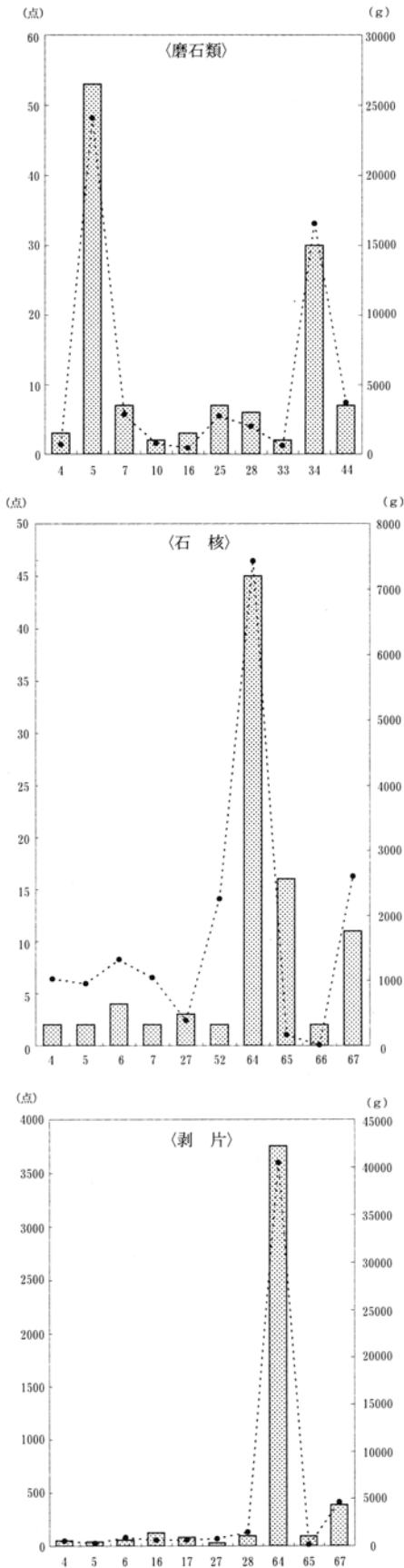
83は両面に丁寧な押圧剥離を施すが、器肉はやや厚く、74は片面に原礫面を残す。形態的には、74・75・83のような小形品と81・82のような大形品、それらの中間的な84などがある。石材は黒色頁岩3点、黒曜石・チャート・細粒安山岩が各1点である。時期的には、81・82などは判然としないが、74・75・83などは草創期段階に比定されるだろう。

c. 石 錐(第268図 85~90)

II・III区ともに各3点の計6点が検出されたのみで、出土層位はVI・VII・VIII a層ともに各2点である。横長あるいは縦長の不定形剥片を素材として、先端の機能部を中心にやや粗雑な押圧剥離を施し、つまみ部の作出をはじめとした調整加工はほとんど行われないか、あるいは極めて微弱な状態に終始している。85・86・88・89は、三角形剥片の先端部を無加工で使用しており、回転動作に伴う刃こぼれ状の使用痕が認められる。90は他のものとは異なり、細い尖端部の作出が丁寧な押圧剥離により行われている。石材は黒色頁岩が5点と最も多く、他に珪質変質岩が1点認められるのみで、黒曜石をはじめとした他の石材が皆無な点は注意を要する。

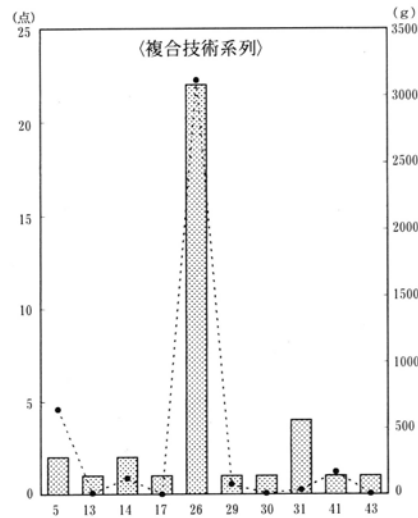
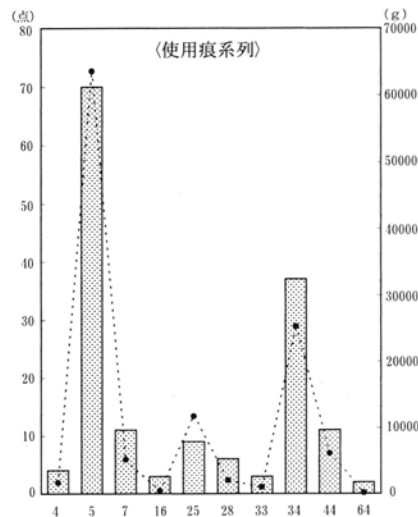
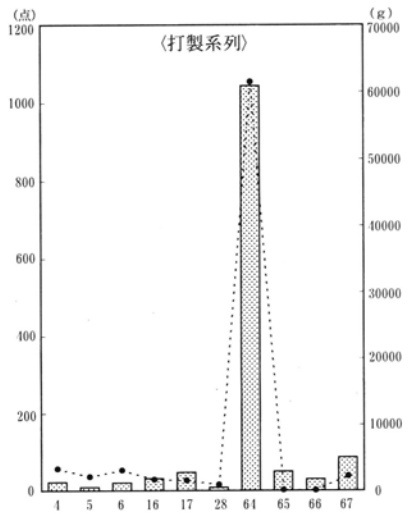
d. 石 匙(第268~272図 95~149)

横型36点(95~122)と縦型29点(123~149)の計65点が検出されている。III区の34点を中心にII区の24点、I区の7点があり、その出土層位はVIII a層32点、VI層24点、VII層5点、VIII b層1点である。形態と層位との相関性は確認できない。横長あるいは縦長の楕円形状の剥片を素材として、その形状をあまり改変することなく、主に片面方向からのやや粗い押圧剥離により刃部が作出されるものが多い。横型の摘み部は体部中央に付くものが主体的だが、上端部に斜位に付設されるもの(110~122)もあり、別タイプとしてのグルーピングが可能である。また大きさの点から見ると、横型が横幅4~5cmの小形品や横幅8cm前後の中形品で構成されるのに対して、縦型では長さ3cmの小形品もあるものの、その大半が長さ7~10cmの範囲に収まって変動幅が少ない。素材剥片の使い方特徴的なのは、横長剥片は横型石匙の



第261図 各種石器の石材別点数(2) (折線は重量)

II 調査の結果



第16表 包含層出土石器の系列・石材別重量一覧 (単位: g)

石材名	石材コード	打製系列		使用痕系列		複合技術系列		他(石核・剥片)	
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
アブライト	1	0	0	0	0	0	0	1	10
安山岩ガラス	2	1	1	0	0	0	0	7	8
角閃石安山岩	3	0	0	0	0	0	0	0	0
細粒安山岩	4	22	3,333	4	1,695	0	0	52	1,563
粗粒輝石安山岩	5	9	2,119	70	63,568	2	641	41	1,213
灰色安山岩	6	21	3,092	0	0	0	0	60	2,217
変質安山岩	7	6	1,226	11	5,169	0	0	17	1,769
花崗岩	10	0	0	2	774	0	0	0	0
玉髓	12	2	10	0	0	0	0	3	46
輝緑岩	13	5	697	0	0	1	10	5	279
変輝緑岩	14	0	0	0	0	2	120	0	0
赤碧玉	15	0	0	0	0	0	0	1	2
頁岩	16	31	1,670	3	444	0	0	122	615
珩質頁岩	17	47	1,533	0	0	1	1	81	623
硬質頁岩	18	0	0	0	0	0	0	1	54
点紋頁岩	19	2	87	0	0	0	0	10	95
凝灰岩	20	0	0	0	0	0	0	0	0
珩質凝灰岩	22	4	19	0	0	0	0	1	5
流紋岩質凝灰岩	24	0	0	1	920	0	0	1	17
溶結凝灰岩	25	2	96	9	11,713	0	0	1	1
変玄武岩	26	5	811	0	0	22	3,115	4	57
変質玄武岩	27	8	1,630	1	198	0	0	31	1,136
砂岩	28	8	938	6	2,003	0	0	94	1,977
凝灰質砂岩	29	0	0	1	72	1	75	0	0
蛇紋岩	30	1	530	0	0	1	7	0	0
変質蛇紋岩	31	0	0	0	0	4	33	0	0
石英	32	1	9	0	0	0	0	7	54
閃緑岩	33	1	151	3	1,008	0	0	0	0
石英閃緑岩	34	5	1,016	37	25,249	0	0	4	66
変閃緑岩	35	0	0	0	0	0	0	0	0
デイサイト	39	1	39	0	0	0	0	1	114
石英斑岩	40	0	0	0	0	0	0	1	24
変はんれい岩	41	0	0	0	0	1	169	1	68
葉ろう石	42	0	0	0	0	0	0	0	0
翡翠	43	0	0	0	0	1	5	0	0
ひん岩	44	0	0	11	6,141	1	7,800	4	292
珩質変質岩	45	2	21	0	0	0	0	11	35
雲母石英片岩	46	0	0	0	0	0	0	0	0
緑色片岩	48	1	11	0	0	0	0	1	9
ホルンヘルス	50	3	222	0	0	0	0	16	150
文象斑岩	51	1	73	0	0	0	0	0	0
流紋岩	52	3	129	1	116	1	2	21	2,619
白色硬質石英質岩	53	0	0	0	0	0	0	1	134
人工物	54	0	0	0	0	0	0	1	1
滑石	55	0	0	0	0	1	1	0	0
珩質準片岩	56	1	1	0	0	0	0	0	0
珩化木	57	0	0	0	0	0	0	1	2
変質凝灰岩	58	1	2	0	0	0	0	0	0
変質頁岩	60	0	0	0	0	0	0	0	0
緑泥片岩	61	0	0	0	0	0	0	0	0
緑色珩質岩	62	0	0	0	0	0	0	0	0
変質流紋岩	63	0	0	0	0	0	0	0	0
黒色頁岩	64	1,044	61,528	2	148	0	0	3,797	47,885
黒曜石	65	50	86	0	0	0	0	107	290
チャート	66	30	71	0	0	0	0	27	89
黒色安山岩	67	86	2,239	0	0	0	0	395	7,196
不分明	—	9				1		22	0
合計		1,413	83,390	162	119,218	40	11,979	4,951	70,715

第262図 各石器系列の石材別点数 (折線は重量)

ほとんどのものに使用されるが、縦型石匙の5割弱にも使用されている。素材剥片の作出時における打面を中心にして、原礫面を残すものが14%存在する。石材は、両型を通じて黒色頁岩が48点(74%)と多用され、珪質頁岩が5点(8%)、黒色安山岩が4点(6%)、チャートが3点(5%)の他に玉髓・珪質変質岩・流紋岩・変質凝灰岩など各1点が認められるが、黒曜石が皆無の点で注目される。また、97・103・123などの丁寧な押圧剥離が施されるものには、黒色頁岩が使用されていない点で注意される。

e. 削器(第272~280図 150~254・255~308)

不定形の横長剥片や縦長剥片を用材として、その縁辺部に粗雑な刃部加工を施すもの(150~254)と、刃こぼれ状の使用痕を有するもの(255~308)の二者があるが、基本的には両者とも類似した部位に機能部を有する。各器種を通じて最も点数が多く、前者は614点、後者は293点が存在する。それらの出土位置は、II区に46%が集中し、III区に29%、I区に25%となる。またその出土層位は、VIII a層が55%、次いでVI層が31%、VII層が10%の順である。

剥片形状による分類では、円・縦位楕円形状を1類、横位楕円形状を2類、台形状を3類、三角形状を4類、逆三角形状を5類、縦位長方形形状を6類とした。また、加工および使用痕の存在する機能部位による分類では、バルブ除去に伴う加工を含めてA~K類まで11分類してある。

素材とする剥片形状は、2~4類が横長剥片を、1・5・6類が縦長剥片を基本的に用いている。各類の中で最多となるのは2類の316点(35%)であるが、これを除外すれば他も10~17%の比率で一定量存在しており、極端な数量偏差は認められない。しかし、素材剥片の形状別で比較すれば、不明3点を除いて横長剥片系は572点(63%)、縦長剥片系は335点(37%)である。このように横長剥片系が優勢となる状況は、先の石匙でも同様であり、同剥片が量産される傾向の存在とともにその技術的背景が問題であろう。

加工・使用部位による分類では、下縁部を刃部とするA類の230点(25%)、片側縁部のB類198点(22%)、

下縁部と片側縁部のD類104点(11%)、周縁部すべてのF類68点(7%)などが主なものであり、他はいずれも6%に満たない。横長剥片系ではA類が38%、また縦長剥片系ではB類が40%と主体を占め、前者は下縁部を、後者は片側縁部をそれぞれ機能部とする傾向を有する。

平均的な大きさ(縦幅×横幅)や重量は、横長剥片系が46mm×52mm、重さ40g、縦長剥片系が56mm×44mm、重さ44gとなり、両者ともに類似した大きさをもつ。

石材は、黒色頁岩を筆頭に黒色安山岩・珪質頁岩・黒曜石・頁岩やその他の石材17種類が認められるが、黒色頁岩が全体の79%を占め、黒色安山岩が6%、珪質頁岩・黒曜石が各3%の他は、残りの石材18種を総計しても9%に過ぎない。全体の約6割のものは、片面あるいは縁辺に原礫面を残しており、外皮に近い副次的な調整剥片を用いるケースが多いことを示している。一方、黒曜石を用いるものは長さ2cm前後の小形品が大半であり、調整剥片だけでなく石核そのものの小形ぶりが窺える。

f. 加工石器(第268・280~285図 91~94・309~350)

何らかの意図的な加工痕を有するが、機能部の角度・形態などから既存の器種に分類することが不適当なものや、搔器・礫器的なものなどを一括した。合計で151点が存在し、II区に89点、III区に35点、I区に27点が分布する。出土層位はVIII a層が84点と主体を占め、VI層が46点、VII層が10点、VIII b層が4点となる。91・92・94は対向する上下端に打痕や刃こぼれ状の使用痕をもつもので、ピエス的な使用が想定される。また93・309~311などは、機能部の角度が約60度前後に加工されており、搔器的なものと思われる。319・321~350は、礫核や大形剥片を素材とした礫器的なものであり、68点が確認されている。328・330・336・339・340の下縁部には、使用による磨耗や敲打痕が認められる。使用石材は17種に及ぶが、そのうちの72%が黒色頁岩で占められている。

g. 打製石斧(第286~293図 359~439)

195点が確認されている。II区の101点を筆頭にIII区は70点、I区は24点出土し、その出土層位はVIII

II 調査の結果

a層が84点、VI層が80点、VII層が25点、VIII b層が1点である。短冊形・撥形・分銅形の三形態と、基部と刃部の寸法比率や側縁部の形状等を加味すると1～5類に分類できる。1類は基部・刃部幅比が1:1.5未満の短冊形、2類は同比が1:1.5以上の撥形、3類は同比が1:1.5以上で両側縁部が緩く湾曲する撥形、4類は「抉り」が浅い分銅形、5類は「抉り」が深くノッチ状となる分銅形である。

欠損による分類不能なものを除いて、数量的に最も多いのは1類であり、70点が存在する。次いで2類の43点、3類の15点、4類の3点、5類の2点となり、1類が2・3類の合計数を上回る点で特徴的である。数量の少ない4・5類を除いた各類の大きさ(長さ×刃部幅)や重量の平均値は、1類が長さ110mm×49mm・149g、2類が100mm×51mm・131g、3類が98mm×58mm・115gを測る。各類ともに機能部再生品を含めて大・小形品が存在するが、2・3類は1類に比べて小形の傾向をもつ。また1類では、361・363などの側縁が緩く湾曲するものが4割を占め、359・360などの直縁的なものとは類型を異にする。2類は小形品が主体的で数値のばらつきが少なく、比較的均一な大きさが指向されていたようである。3類も2類と同様に小形品が目立つが、433のような長さ130mmの大形品も少数認められる。

素材の面では、幅広の大形剥片を用いるとともに、その主剥離面が石斧の長軸に対して横位あるいは斜位になるように調整加工を施すケースが、1～3類の約6割強に認められる。また片面に原礫面を残すものも約6割強に及び、その状態から見て大きな原礫からの素材剥片を用いていると考えられる。その一方で、両面に原礫面を残すのは1点(370)に止まる。

調整加工のあり方は、白井北中道II遺跡や白井犬子塚遺跡で見られたのと同様に、1・3類では側縁部の刃つぶし的な敲打による階段状剥離が顕著で、刃部も両面調整によるものが主体的である。2類でも両面加工が多用されるが、階段状に剥離されるものは少なく、片面調整によるもの(367・394・406など)も少なからず認められる。

刃部形状については、各類を通じて円刃状のものが60%と最多で、直刃は24%、偏刃は14%となる。偏刃については、欠損後に粗雑な再加工による不整形なものが含まれており、本来的なパーセンテージはさらに少なくなると思われる。

1～3類の使用による磨耗痕は、全体の約3割弱にしか認められず、かなり低い比率となっている。それらの磨耗痕は、主に刃部から体部中央にかけて縦方向に残っている。基本的に表裏両面に残るケースが大半であるが、その程度はどちらかの片面が弱く、棒柄に密着する内面とその外面という装着面の差異を反映したものだだろう。欠損については73%のものに認められる。破断面での欠損方向は、その大半が基部から刃部への長軸方向の平坦面に対して、垂直方向からの加力によって折れた状態を示す。こうした磨耗痕や欠損のあり方は、掘り具としての上下・テコ運動を想定させる。また1～3類の残存部位の比率は、部位の特定できない小破片57%、再生品を含めた完形品が27%、刃部～体部破片と体部～基部破片が各7%などである。体部中央近辺を境にした刃部および基部の残存比率は、ほぼ拮抗している。出土地点を離れた欠損品同士の接合例は、6点(361・375・382・385・390・433)しか認められない。欠損品が完形品を凌駕することや、残存部位の顕著な偏在性が認められないこと、それに少なからず欠損品同士の接合例が存在するこのなどは、石斧の消費場所が遺跡内にも存在したことを示唆している。

石材は黒色頁岩が73%と主体を占め、細粒安山岩・灰色安山岩・頁岩の各4%などがそれに次ぐ。これら以外に14種類の石材が用いられるが、それらすべてを合わせても15%に過ぎない。黒色頁岩を主体とする用材傾向は、他の「打製系列」の石器群とも共通している。

h. 三角錐形石器(第285図 351・352)

II区のほぼ同一地点より2点が出土しているが、層位はVI層とVIII a層に分かれる。351は完形品であるが、352は体部中位から底部にかけて欠損する。351は側縁部が多角形状に整形され、全体的なフォーム

は六角錐状を呈する。背面と底面との角度は約60度であり、搔器的な整形加工が施されている。両者ともに一側面に原礫面を残し、石材も黒色頁岩を使用している。時期的には、第239図1～6などの擦糸文系土器に伴うと考えられる。

i. 石核(第294～296図 455～485)

原礫や残核を含めて、総計95点・17,249gが検出されており、出土地点はII区(47点)を中心にして、I区(29点)やIII区(19点)などに散布している。出土層位はVIII a層が49点と最多で、VI層の37点、VII層の5点、不明4点などである。石材別に見ると、黒色頁岩45点(数量比率47%、重量比率43%)、黒曜石16点(数量比率17%、重量比率0%)、黒色安山岩11点(数量比率12%、重量比率15%)、灰色安山岩4点(数量比率4%、重量比率8%)、流紋岩2点(数量比率2%、重量比率13%)などが主なもので、他に10種類の石材が認められる。その内の粗粒安山岩・灰色安山岩・玉髓・流紋岩・白色硬質石英質岩などの石核は、北中道II遺跡や犬子塚遺跡では検出されていない。黒色頁岩の占める比率の高さは、「打製系列」石器における同石材の卓越性と整合的であり、原石を持ち込んでの石器製作が行われたことを示すものだろう。原礫形状をもとに大別すれば、①径10～15cmの分割礫や扁平な原礫の平坦面を打面にして中形剥片を剥離するもの(477・479・483)、②径5～10cm未満の原礫平坦面や剥離面から小形剥片を剥離するもの(467・468・470～475・480～482・484・485)、③径5cm未満の原礫平坦面や剥離面から小形剥片を剥離するもの(455～466・469)、などに分けられる。両面からの錯向状の剥片剥離(470・471)や片面方向からの剥片剥離(467・485)、それに周縁部を打面にした求心的な剥片剥離(479・482・483)などが認められるが、その大半は横長剥片の作出がなされている。①からは石斧の素材剥片が、②からは石匙や削器などの素材剥片が作出されたと考えられ、石材も黒色頁岩を主体としている。③は黒曜石や珪質頁岩などの石材にほぼ限定されるが、剥離面長はほとんどのものが3cm未満であることから、石鏃用の素材剥片を作出したと考

えられる。尚、458・460・463は黒曜石の原礫であり、交易品として当遺跡に持ち込まれたサイズが、5cm未満の小振りなものであることに注意を要する。

j. 剥片

図としては掲載していないが、素材・調整剥片を含めて総数4,856点(52,602g)が検出されている。出土地点は、II区(2,744点)を中心としてIII区(1,349点)・I区(763点)に散在する傾向にあり、これは石核のあり方とほぼ合致する。出土層位はVIII a層2,571点(53%)、VI層1,713点(35%)、VII層444点(9%)、VIII b層56点(1%)であり、VIII a・VI層を中心としている。

石材は黒色頁岩3,752点・40,454g(数量比率77%・重量比率77%)、黒色安山岩384点・4,595g(数量比率8%・重量比率9%)、頁岩122点・615g(数量比率3%・重量比率1%)、砂岩93点・1,451g(数量比率2%・重量比率3%)、黒曜石91点・123g(数量比率2%・重量比率0%)、珪質頁岩80点・605g(数量比率2%!!重量比率1%)、灰色安山岩56点・896g(数量比率1%・重量比率2%)、細粒安山岩50点・542g(数量比率1%・重量比率1%)、などが主なものであり、その他に27種類の石材284点・3,321g(数量比率6%・重量比率6%)が認められる。黒色頁岩を中心とした上記石材のあり方は、先の「打製系列」の石器石材や石核石材のあり方と軌を一にしており、そのほとんどが同系列石器の製作に付随して作出あるいは排出されたものと言えよう。逆に言えば、これらの剥片に認められない石材(蛇紋岩・ホルンフェルス・珪質準片岩)を使用する「打製系列」の石器は、当遺跡外からの搬入品である可能性が高い。

石材別の平均的な大きさ(長径×短径)と重量は、黒色頁岩35mm×24mm・11g、黒色安山岩37mm×26mm・12g、頁岩29mm×21mm・5g、砂岩38mm×27mm・16g、黒曜石17mm×11mm・1g、珪質頁岩31mm×22mm・8g、灰色安山岩42mm×29mm・16g、細粒安山岩36mm×25mm・11g、となる。1点あたりの重量が10g未満の黒曜石・頁岩・珪質頁岩などは、主として石鏃・石錐・石匙などの石材に用いられており、製作目的の石器が

II 調査の結果

小形品であることと整合的である。16g前後の砂岩・灰色安山岩などは主として石斧の用材であり、自ずとその剥片も大ぶりなものとなる。同石材の中で最大の素材剥片は、長径114mm×短径60mm×厚さ38mm・重さ171gを計る。また黒色頁岩や黒色安山岩は、「打製系列」の大・小形の各種石器に多用される石材であり、前二者の中間的な数値となっている点も整合的である。

k. 磨製石斧(第293・294図 440~454)

II区が18点、III区が12点、II区が2点の計32点が出土している。出土層位はVIII a層が17点、VI層が13点、VII層が2点である。442を除いて、他の全てが使用による基部や刃部の欠損が認められる。形態的には体部断面が楕円形で、基部幅が狭く尖り気味の乳棒状を呈するものが主体を占め、440~443・445のような小形で定角的なものは5点のみである。乳棒状石斧の大きさは、447・452・451をベースに復元すれば体長約20cm以上、刃部幅7cm前後と考えられる。石材は、変玄武岩が22点(69%)と最多であり、次いで変質蛇紋岩3点(9%)、変輝緑岩2点(6%)などがある。この他に粗粒輝石安山岩・輝緑岩・凝灰質砂岩・変はんれい岩・流紋岩などが各1点存在する。これら石材の調整剥片や石核は、粗粒輝石安山岩を除いて皆無に近い状況であり、ほとんどの製品が遺跡外から完成品としてもたらされた可能性が高い。

l. スタンプ形石器(第285図 353)

図に掲載した1点が全てであり、II区のVIII a層から出土している。棒状礫を用いて、機能部の底面を1回の打割により作出する。底面は新鮮で、使用による磨耗痕は認められない。頭部に使用時の打撃による小剥離が存在する。体長11cm、底面幅7cm、重量450gで、石材は変質安山岩を用いている。

m. ハンマーストーン(第285図 354~356)

II区より2点、III区より1点の計3点が出土している。層位はVIII a層が2点、VI層が1点である。棒状礫をそのまま用いるもの(355)と、多少の整形加工を施すもの(354・356)とがあり、先端部や側縁部に敲打痕を有する。重量が200g前後の中形品(354・355)と、

100g未満の小形品(356)が認められる。石材は変質玄武岩・ひん岩・黒色頁岩が各1点である。

n. 特殊磨石(第296・297図 486~499)

断面が三角形の棒状礫を用いて、その陵部を機能部とするいわゆる「特殊磨石」と呼ばれるものである。III区から7点、II区から6点、I区から5点の計18点が存在する。層位はVIII a層が10点、VI層が6点、VII層が2点である。平坦面に窪み穴状の集合打痕をもつのは1点(499)のみだが、陵部の磨り面や先端部には敲打痕を有するものが多い。また陵部の磨り面は、1カ所に限定されるものが主体的であり、494のように3カ所全てに見られるのは少数である。体部中央で欠損する例が約5割に上るが、おそらく先端部を作用点としてスナップを利かせた使用方法により、損壊が生じたと思定される。長さ14~17cm、重さ800~1,000g前後のものが多く、石材は石英閃緑岩が5点、粗粒輝石安山岩が4点、変質安山岩とひん岩が各3点、細粒安山岩・溶結凝灰岩・閃緑岩が各1点である。他県の事例を見ると、時期的にはかなり幅を持つ石器とされているが、群馬県内では早期後半にほぼ限定される傾向にあり、本例も同様と思われる。

o. 凹石・磨石・敲石類(第297~299図 500~536)

円形や楕円形状を呈する扁平な河床礫を素材として、その表面に使用による窪み穴や磨り面(磨耗痕)・敲打痕を有するものを一括した。ほぼ片手の中に収まるサイズを有し、窪み穴と磨り面は複合することがかなりの頻度で認められ、また周縁部に敲打痕を持つものも多い。窪み穴は、基本的に多数回に及ぶ微細な敲打痕の集合により形成されているが、回転動作によって形成された播り鉢状を呈するもの(510~512・533)も僅かに認められる。総数124点が存在し、II区(57点)を中心にIII区(43点)・I区(24点)に散布している。出土層位は、VIII a層62点(50%)、VI層38点(31%)、VII層19点(15%)である。

素材形状は、楕円形の1類が66点(53%)と最多で、不定形の3類が28点(23%)、円形の2類が24点(19%)、不明6点(5%)となる。窪み穴の形成状況は、片面のみのものが10点に対して両面に付くもの

が31点と多く認められる。また磨り面あるいは敲打痕のみのものは、83点を数える。磨り面の形成は、両面が38点、片面が25点であり、それらと複合して周縁部にもあるものが10点存在する。窪み穴・磨り面・敲打痕が複合するもの17点(14%)、窪み穴・磨り面が複合するもの7点(6%)、窪み穴と敲打痕が複合するもの10点(8%)、磨り面と敲打痕が複合するもの35点(28%)の他に、窪み穴のみ7点(6%)、磨り面のみ15点(12%)、敲打痕のみ27点(22%)などがある。窪み穴と磨り面の形成における時間的關係は、ともに相前後する状況が認められ、「敲く」「磨る」という動作が相関した作業の中で行われたことを示す。平均的な大きさは、長径96mm×短径70mm、重さ443gである。石材は粗粒輝石安山岩(43%)と石英閃緑岩(25%)とが全体の7割弱を占め、磨石類における両石材の卓越した状況が窺える。その他に変質安山岩・溶結凝灰岩・ひん岩・砂岩など11種類(32%)が存在するが、各単体別に見れば6%を越えるものはない。

p. 砥石(第286図 357・358)

II区から2点、III区から1点の計3点が出土し、その層位はVIII a層が2点、VII層が1点である。357は三つの平坦面に幅1~2mmの線条痕が、358は片面に断面形がV字状で幅5~7mm・深さ3mm前後のやや幅広の線条痕が、それぞれ複数本認められる。また358は、多孔石に似た錐揉み状の窪み穴が線条痕に先だって形成されている。両者ともに粗粒輝石安山岩の河床礫を用いる。358は周縁部に破断面が存在するが、欠損ではなく粗い整形加工を施したと考えられる。各砥石の用途は特定できないが、358は線条痕の太さや断面形状から見て、磨製石斧の研磨工程に関わる可能性もあるだろう。

q. 石皿(第300・301図 538~547)

II区が7点、III区が3点、I区が1点の計11点が出土している。出土層位はVIII a層が8点と最多で、VI層が2点、表採が1点である。いずれも扁平な河床礫を素材とし、粗粒輝石安山岩を用いるものが9点を占め、溶結凝灰岩と閃緑岩が各1点に止まるが、いずれも近隣の利根川河床や段丘崖に産出する石材であ

る。全てのものが欠損品であるが、538~542・546は掃き出し口の付くタイプで定形的なものと思われる。その内の539・541は有縁で長形状を呈し、他は無縁の楕円形状を呈する。一方、543~545・547は磨り面が顕著に窪まない不定形のものである。また541~544の裏面には、集合打痕や錐揉み状の窪み穴が認められ、多孔石に似た性格も付与されていたことが類推される。546は地点を隔てて出土した3点の破片同士が接合した例であるが、使用過程で割れたと言うよりも故意に損壊した割れ方を示している。石皿全体に見る欠損率の高さと合わせて、廃棄などに伴う何らかの儀礼が存在したことを示唆するものであろう。

r. 台石

図としては掲載していないが、II区のVI層とVIII a層から各1点が出土している。石材には、いずれも粗粒輝石安山岩が使用されている。

s. 石棒(第301図 553)

II区のVI層から1点出土している。基部から体部中位にかけて欠損するが、現存部分も地点を隔てて出土したものが接合した。敲打後に研磨により整形され、石材はひん岩を使用する。

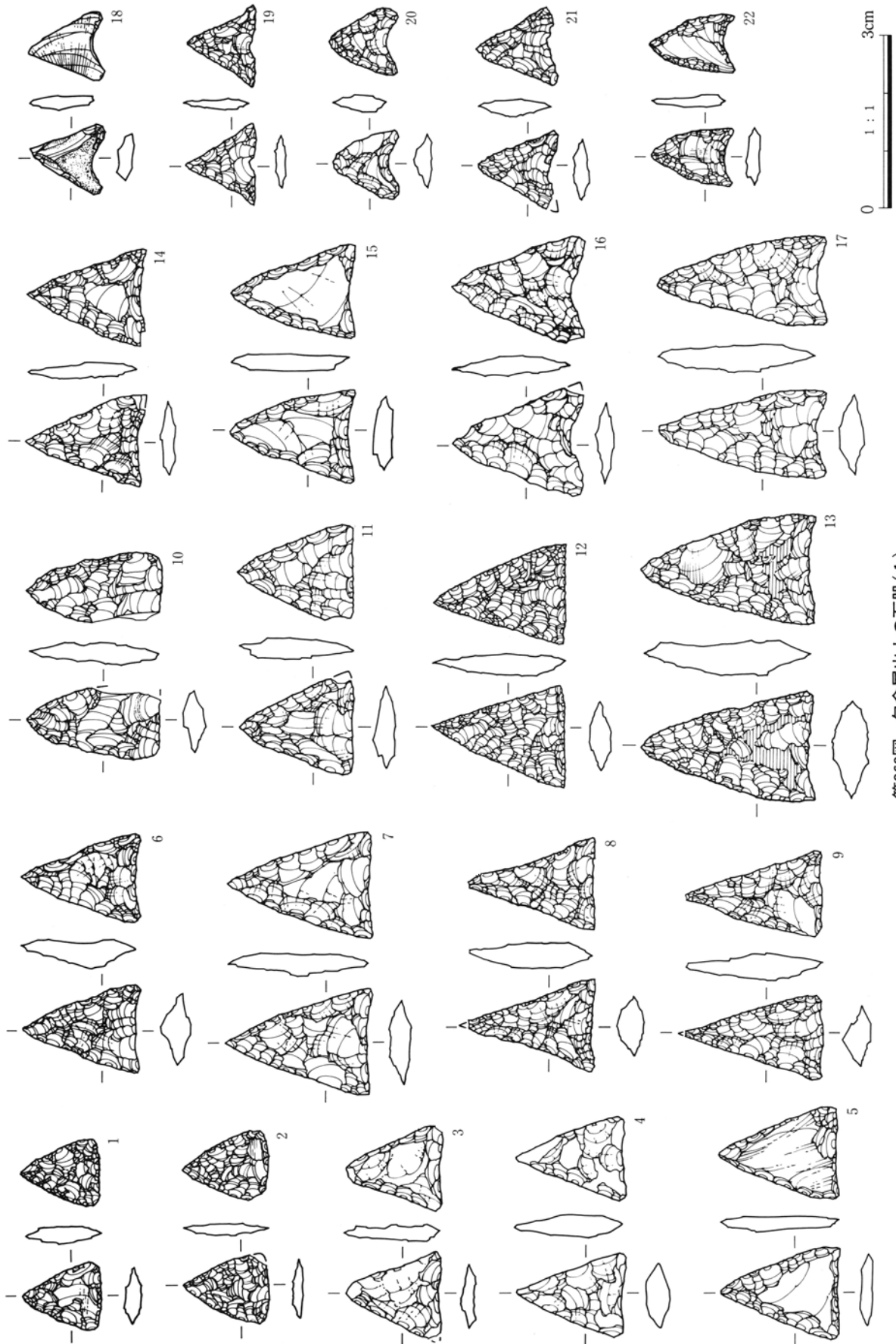
t. 多孔石(第300図 537)

I区のVIII a層から1点が出土したのみである。錐揉み状と集合打痕による窪み穴の両者が認められるが、時間的には前者が後者を切る関係にある。石材は、小振りな粗粒安山岩の亜角礫を使用する。

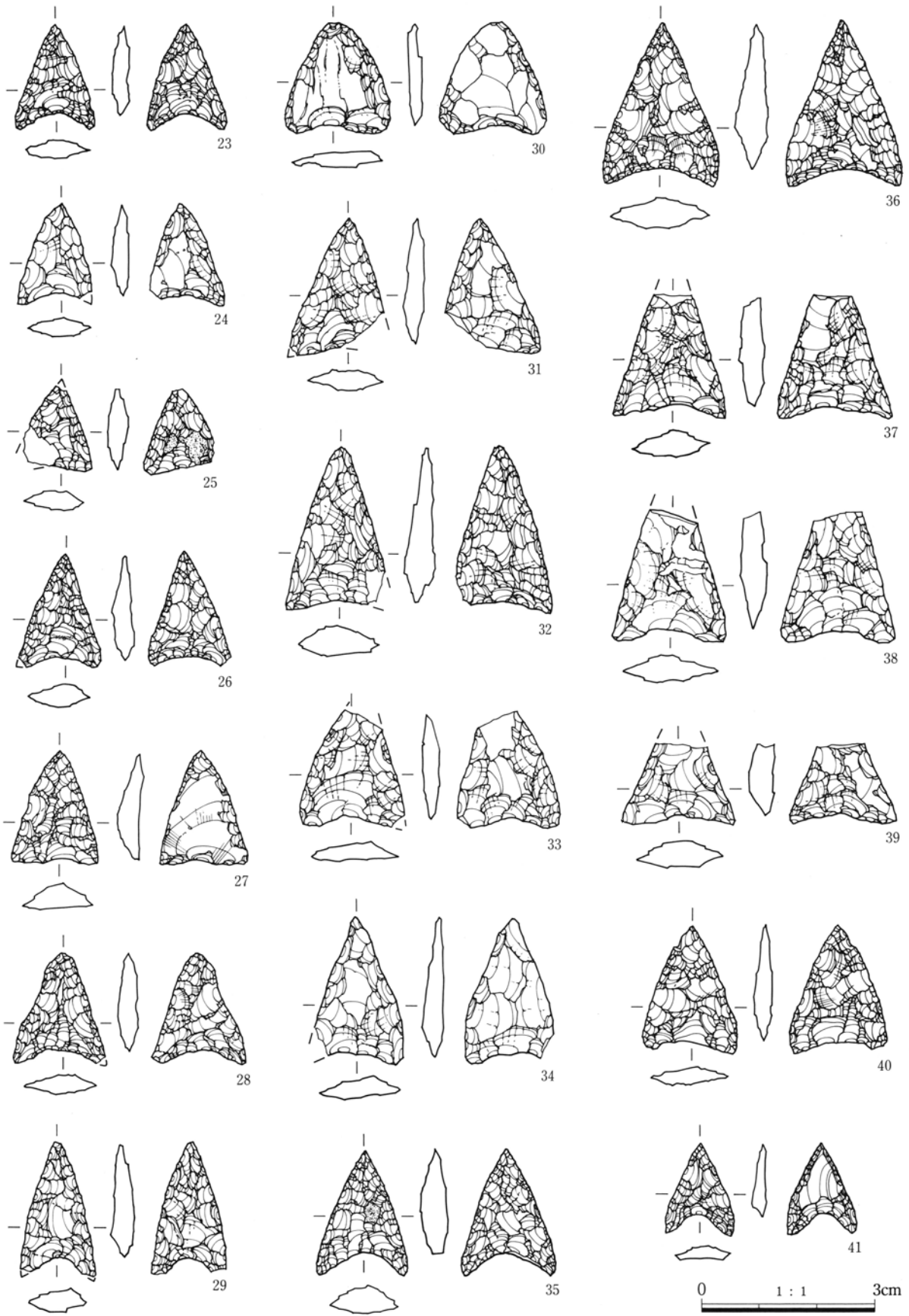
u. 装身具(第301図 548~552)

図に掲載したのは、玦状耳飾り2点(548・549)と中央部に穿孔を有する玉類3点(550~552)の計5点であるが、他に玦状耳飾りの小破片1点が存在する。前者はいずれもII区のVIII a層から出土し、後者はIII区2点・II区1点でVI・VIII a層にまたがる。これら全品が欠損している。石材は玦状耳飾りが蛇紋岩(548)あるいは変質蛇紋岩(549)、玉類が珪質頁岩(550)・翡翠(552)・滑石(551)を用いているが、滑石製の551は古墳時代のものが混入した可能性もある。

II 調査の結果

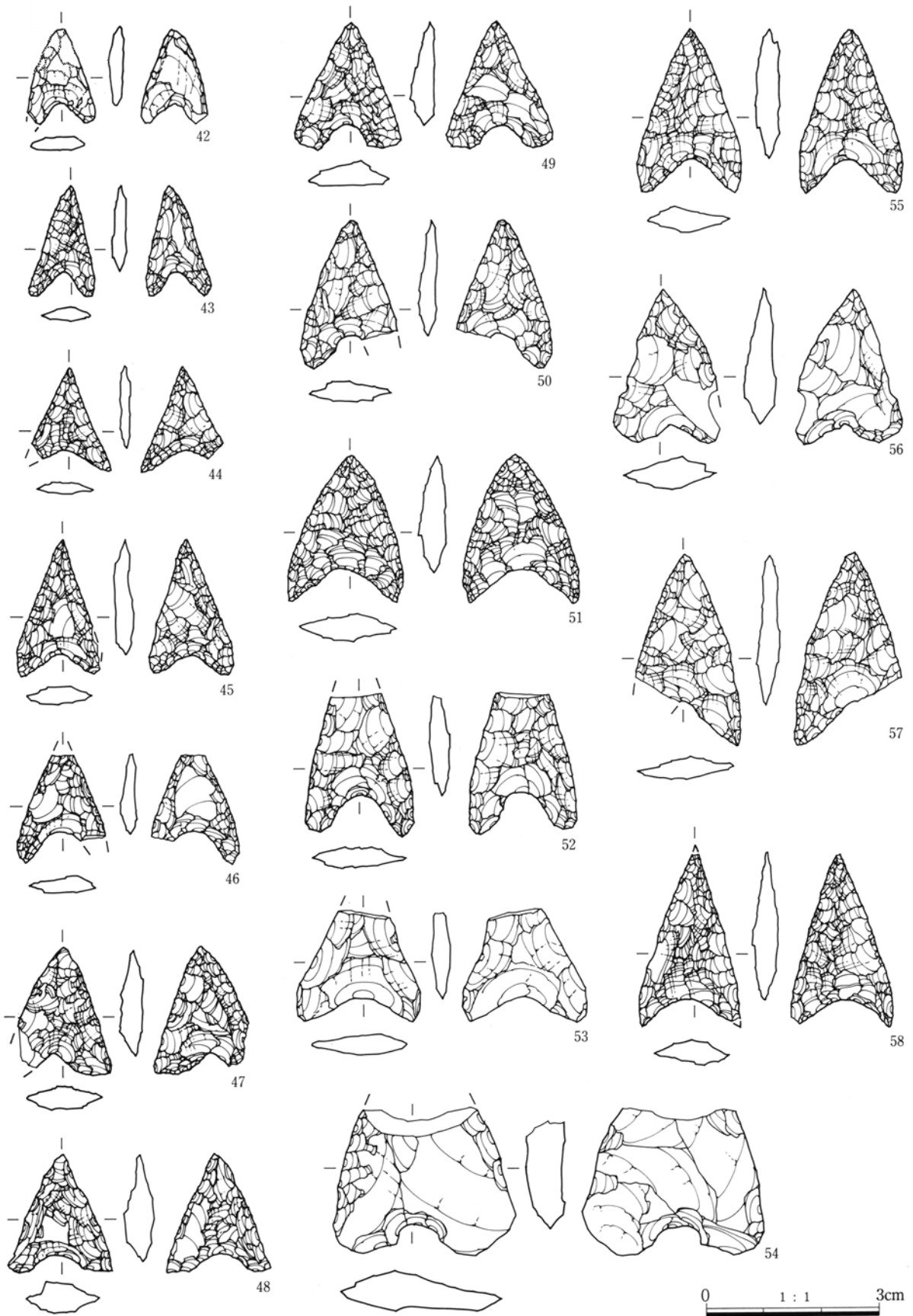


第263図 包含層出土の石器(1)

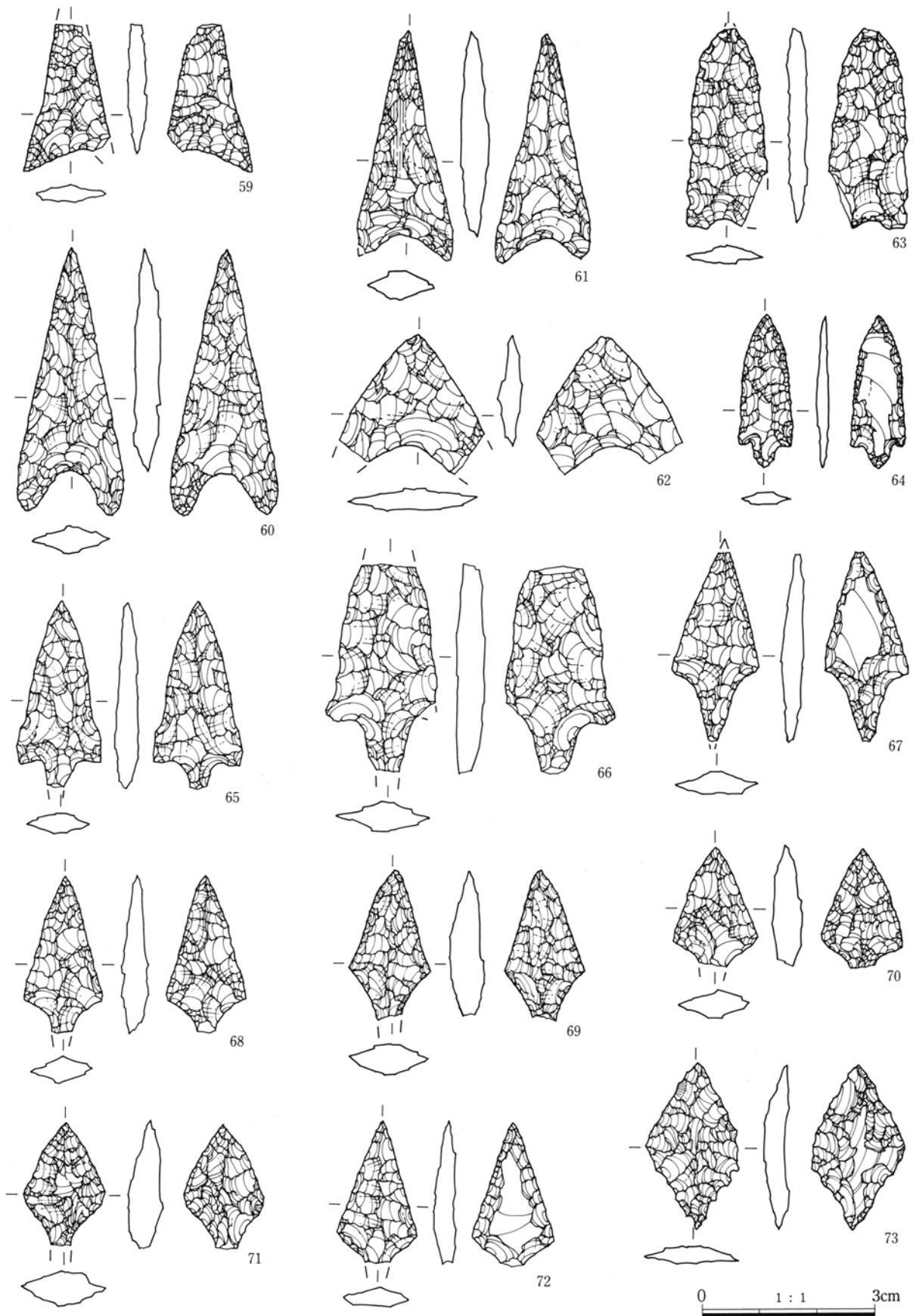


第264図 包含層出土の石器(2)

II 調査の結果

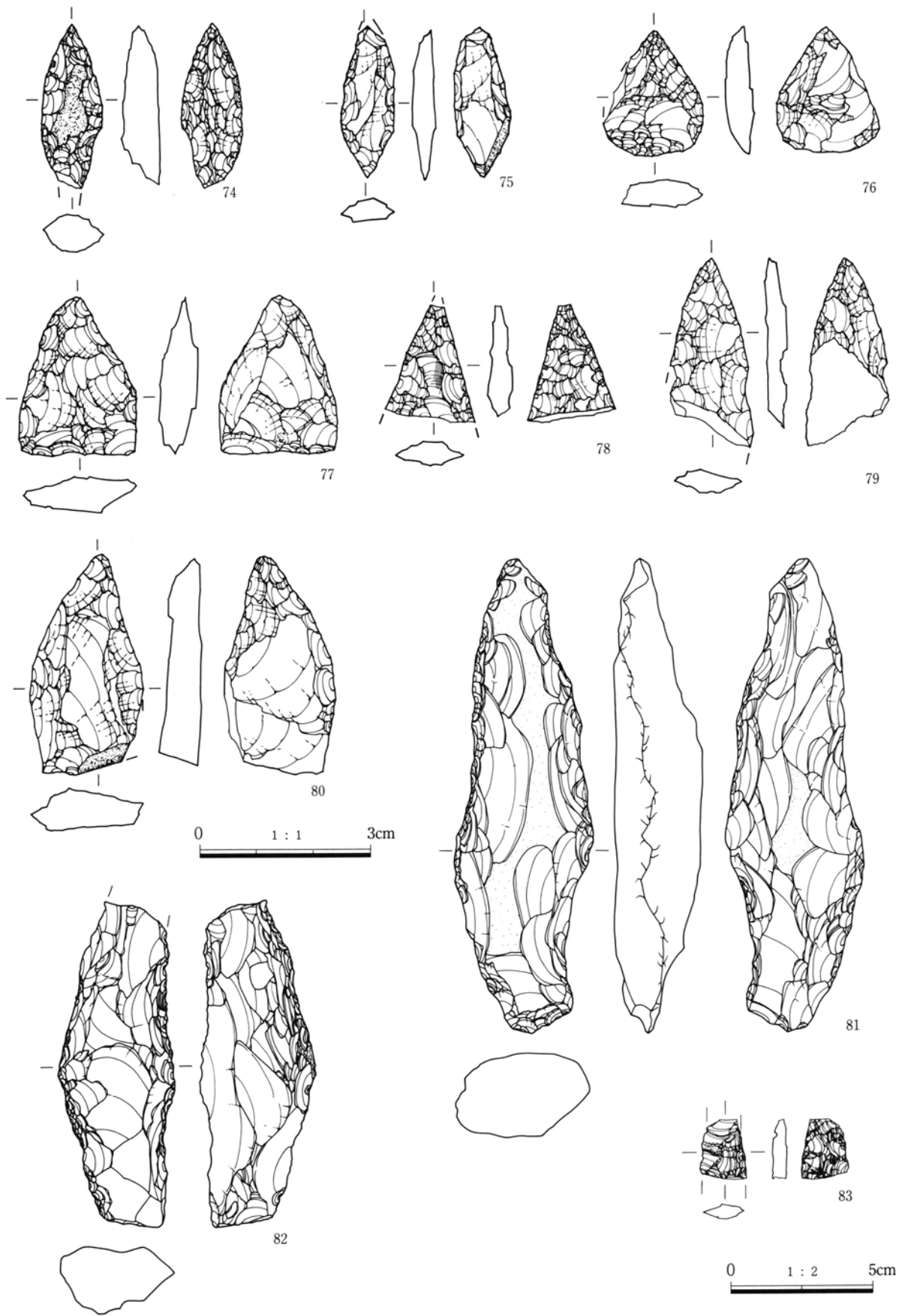


第265図 包含層出土の石器(3)



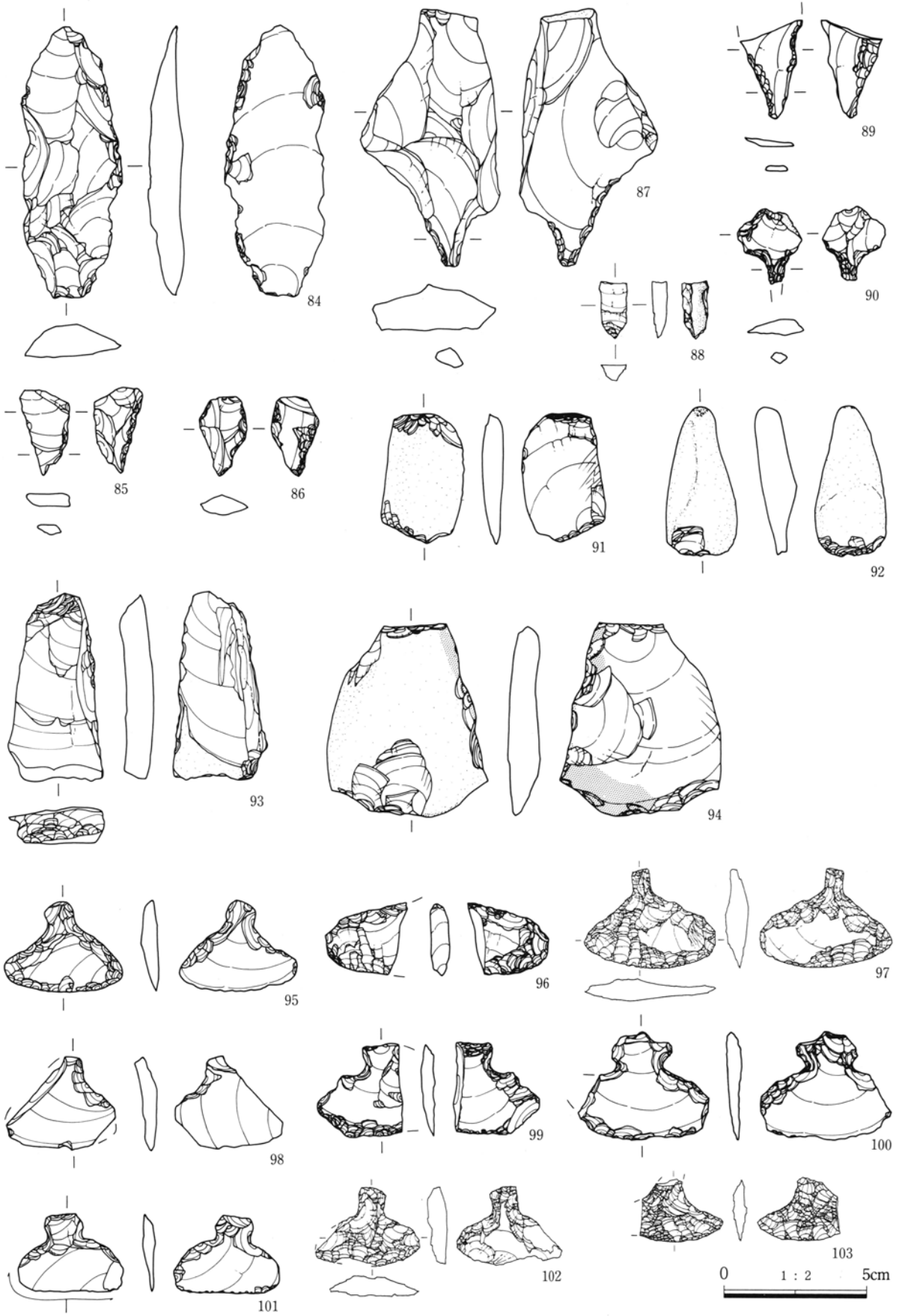
第266図 包含層出土の石器(4)

II 調査の結果



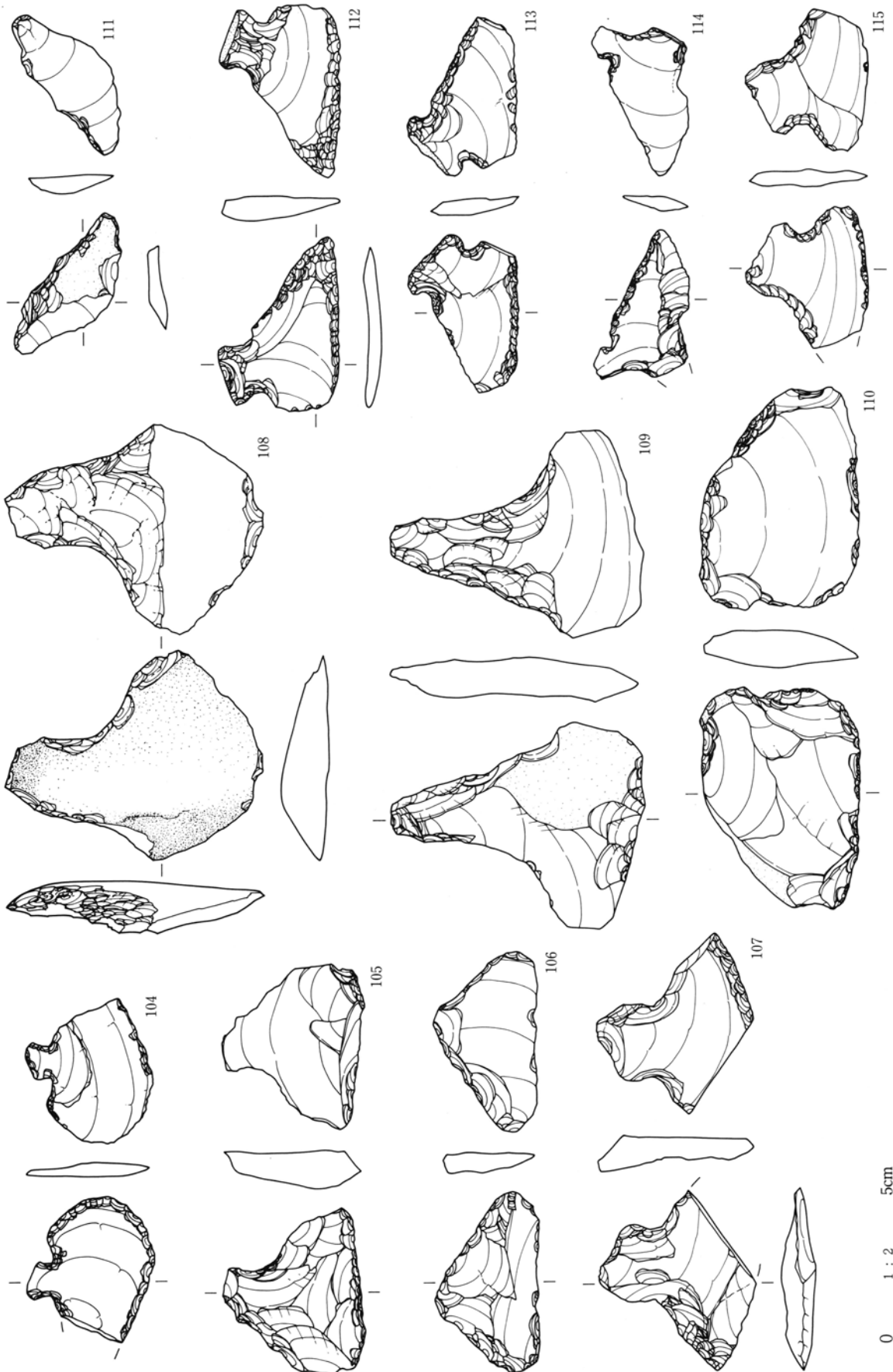
第267図 包含層出土の石器(5)

2. 縄文時代



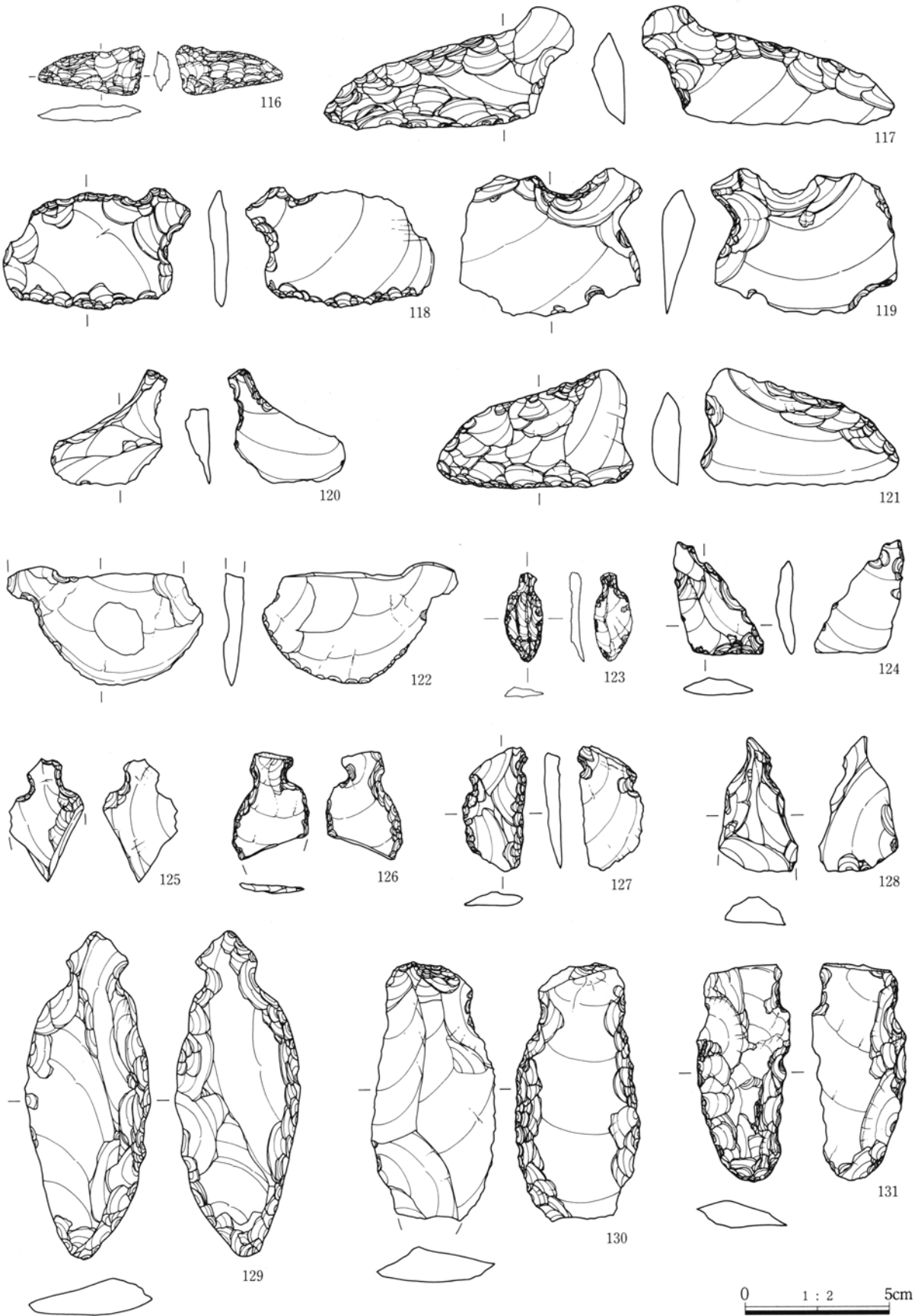
第268図 包含層出土の石器(6)

II 調査の結果



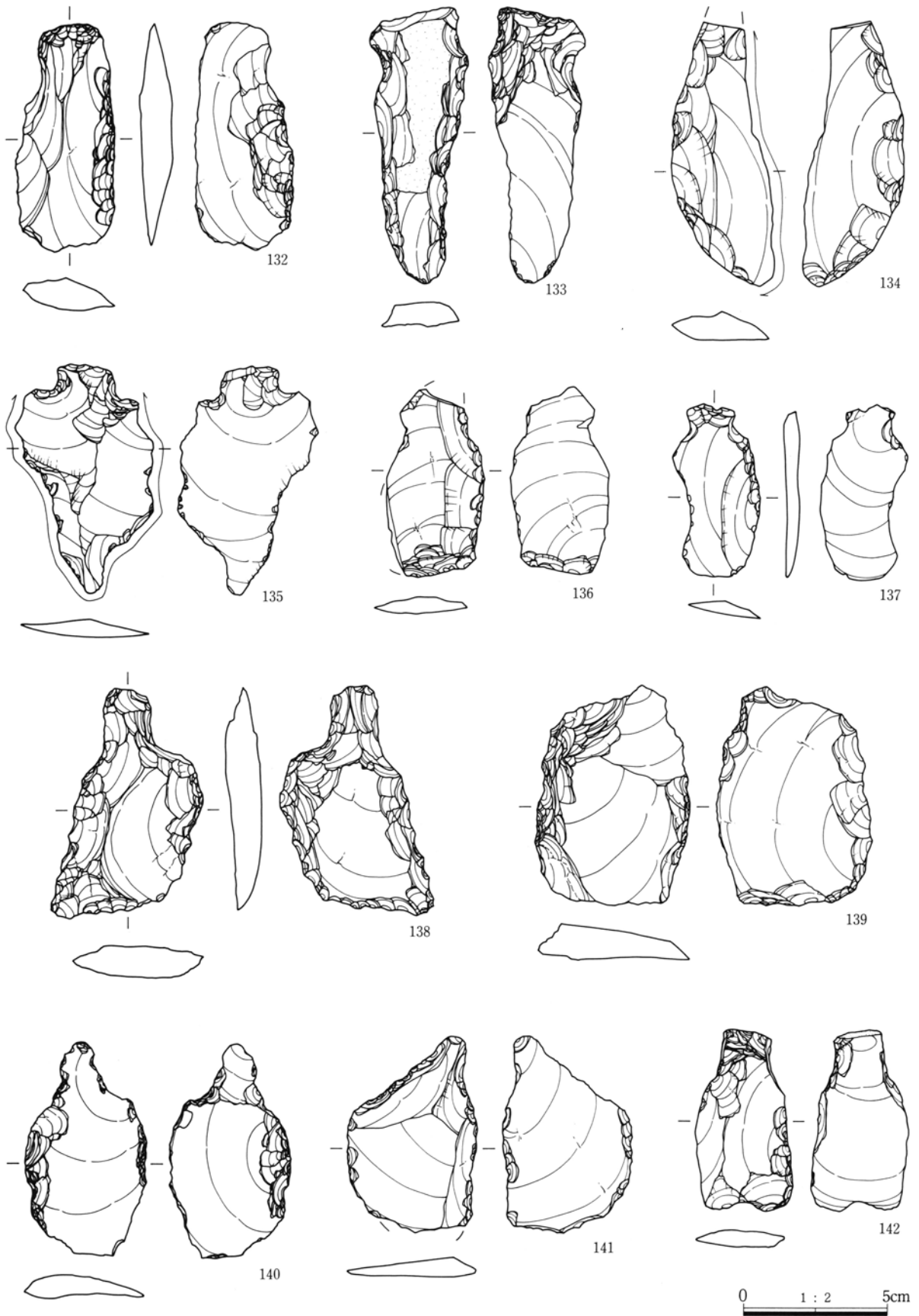
第269図 包含層出土の石器(7)

2. 縄文時代



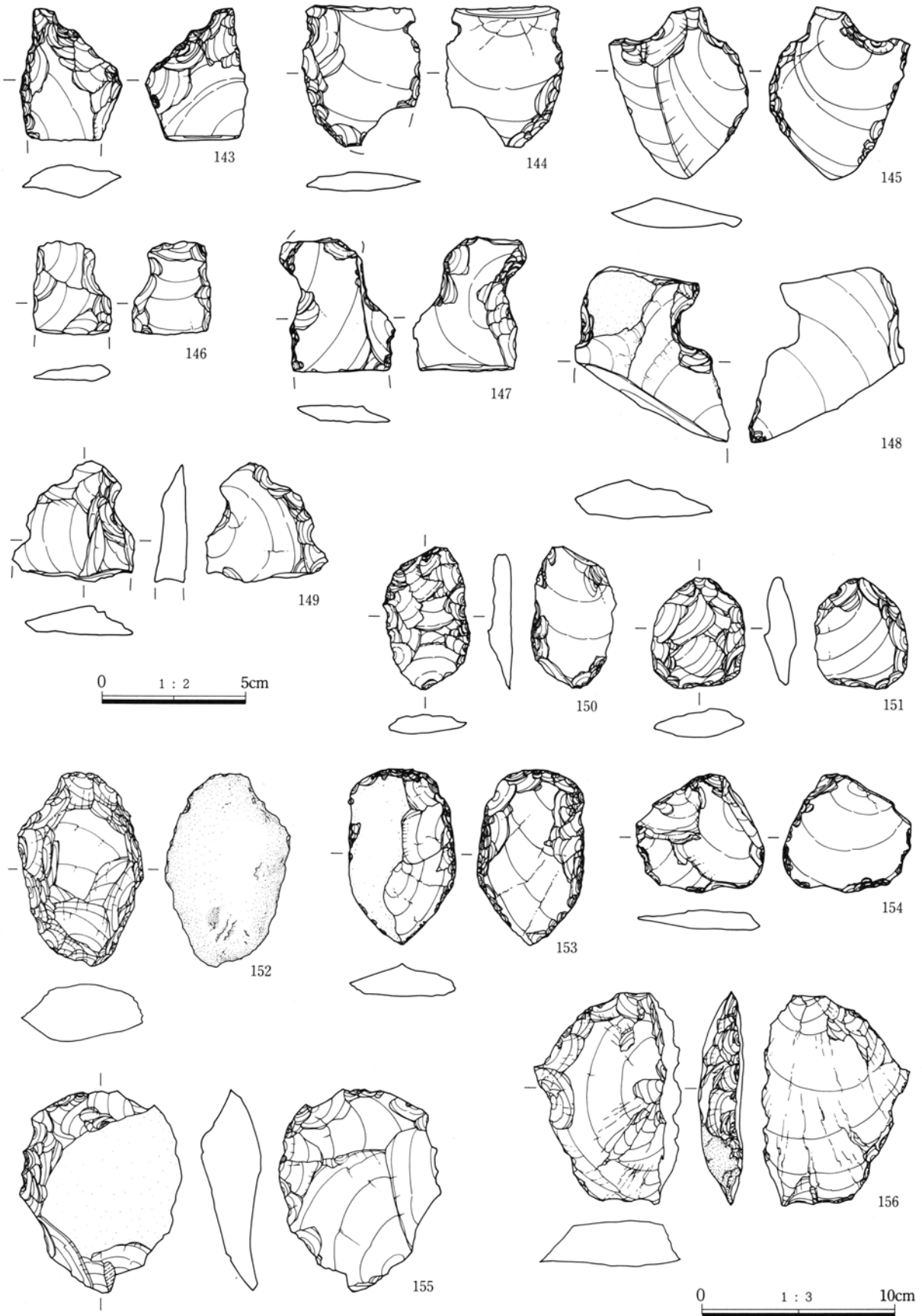
第270図 包含層出土の石器(8)

II 調査の結果



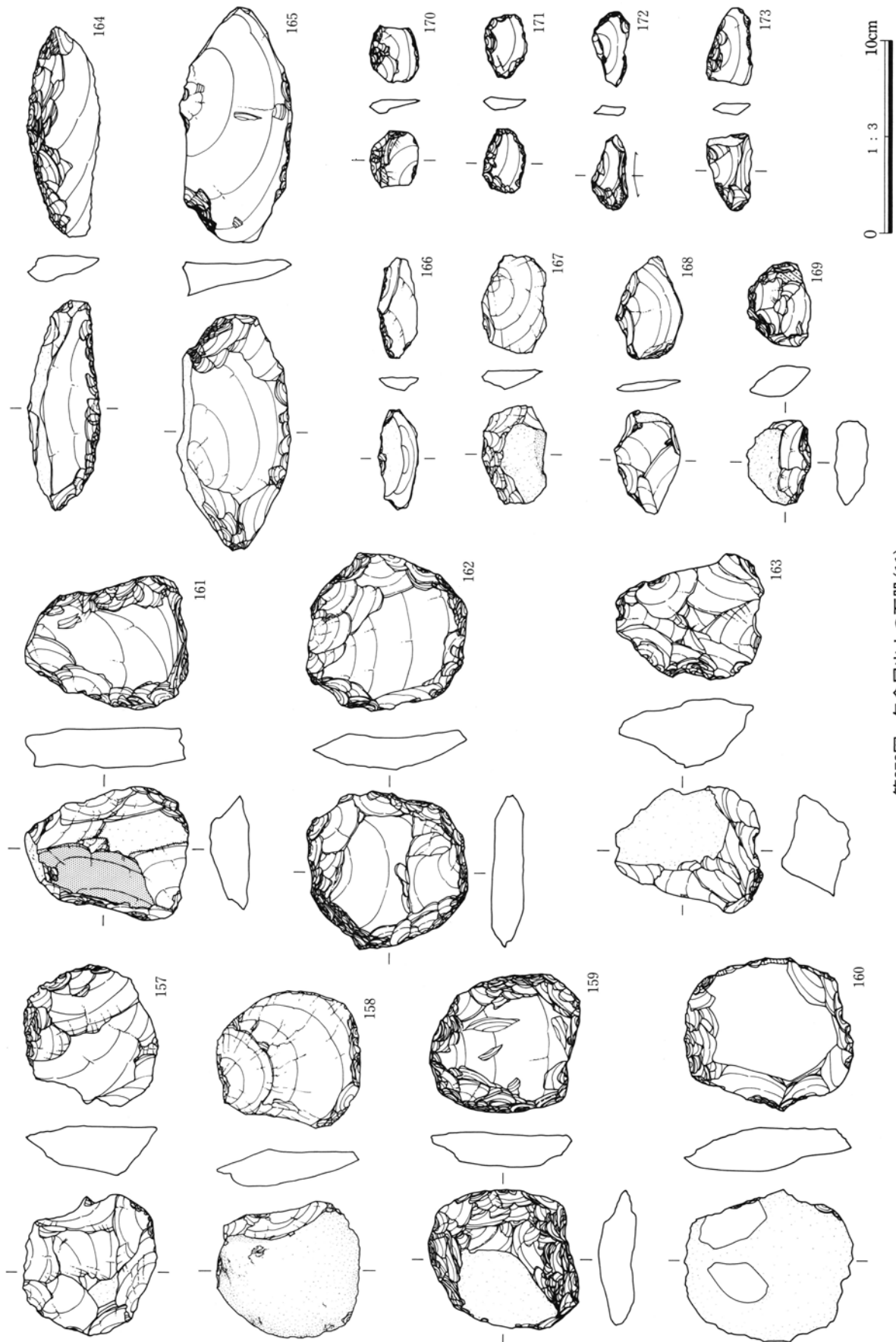
第271図 包含層出土の石器(9)

2. 縄文時代

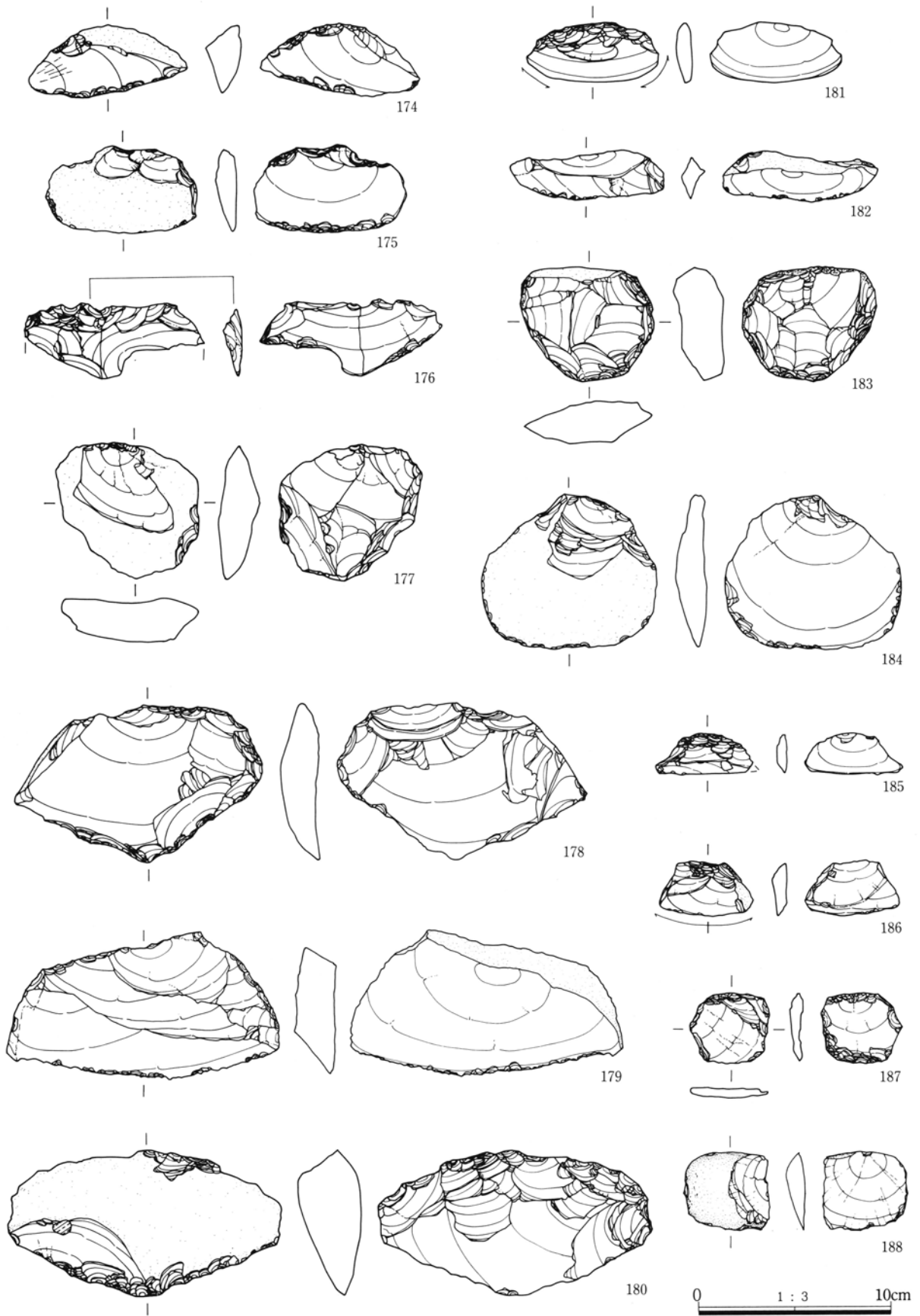


第272図 包含層出土の石器(10)

II 調査の結果

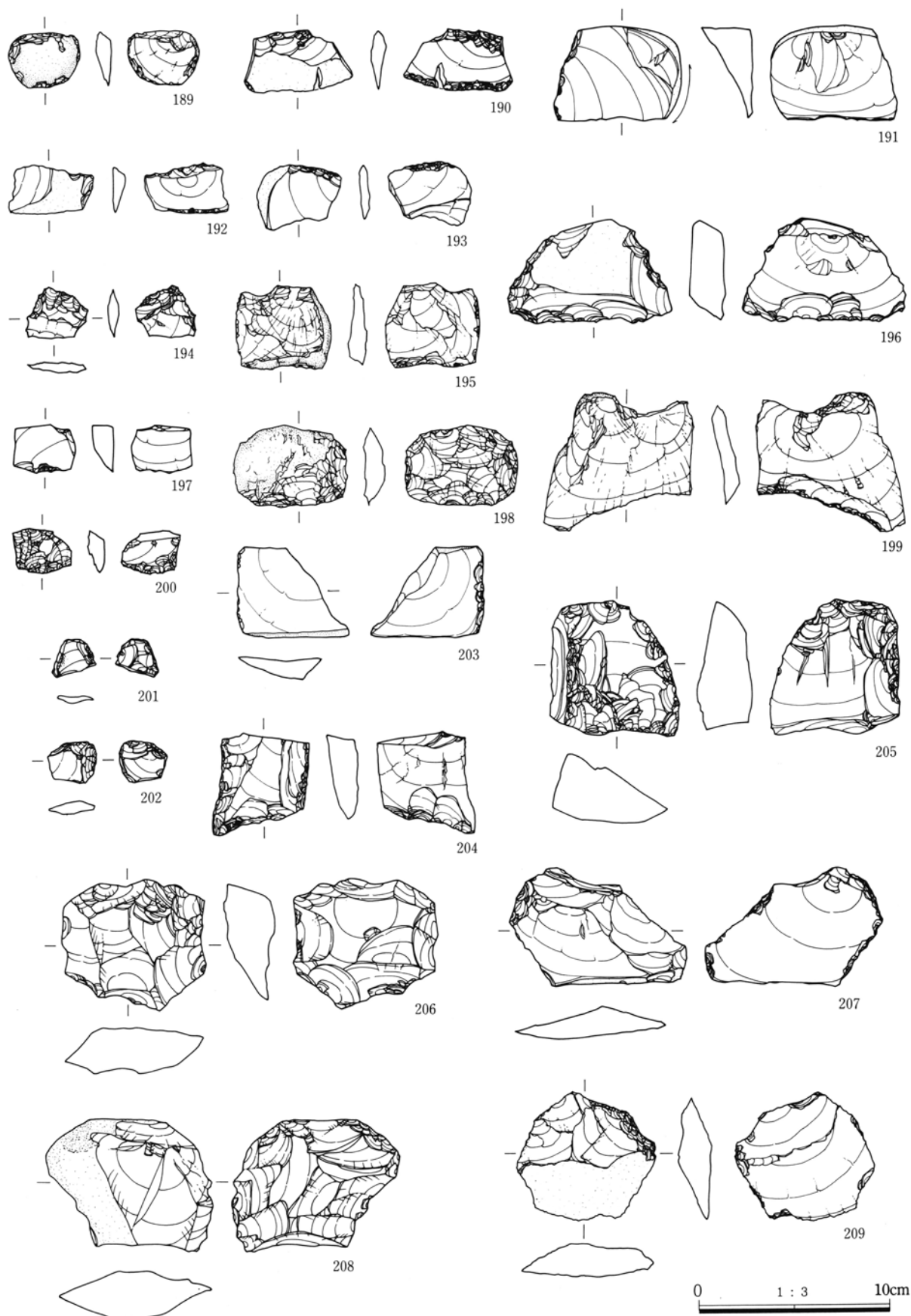


第273図 包含層出土の石器(11)

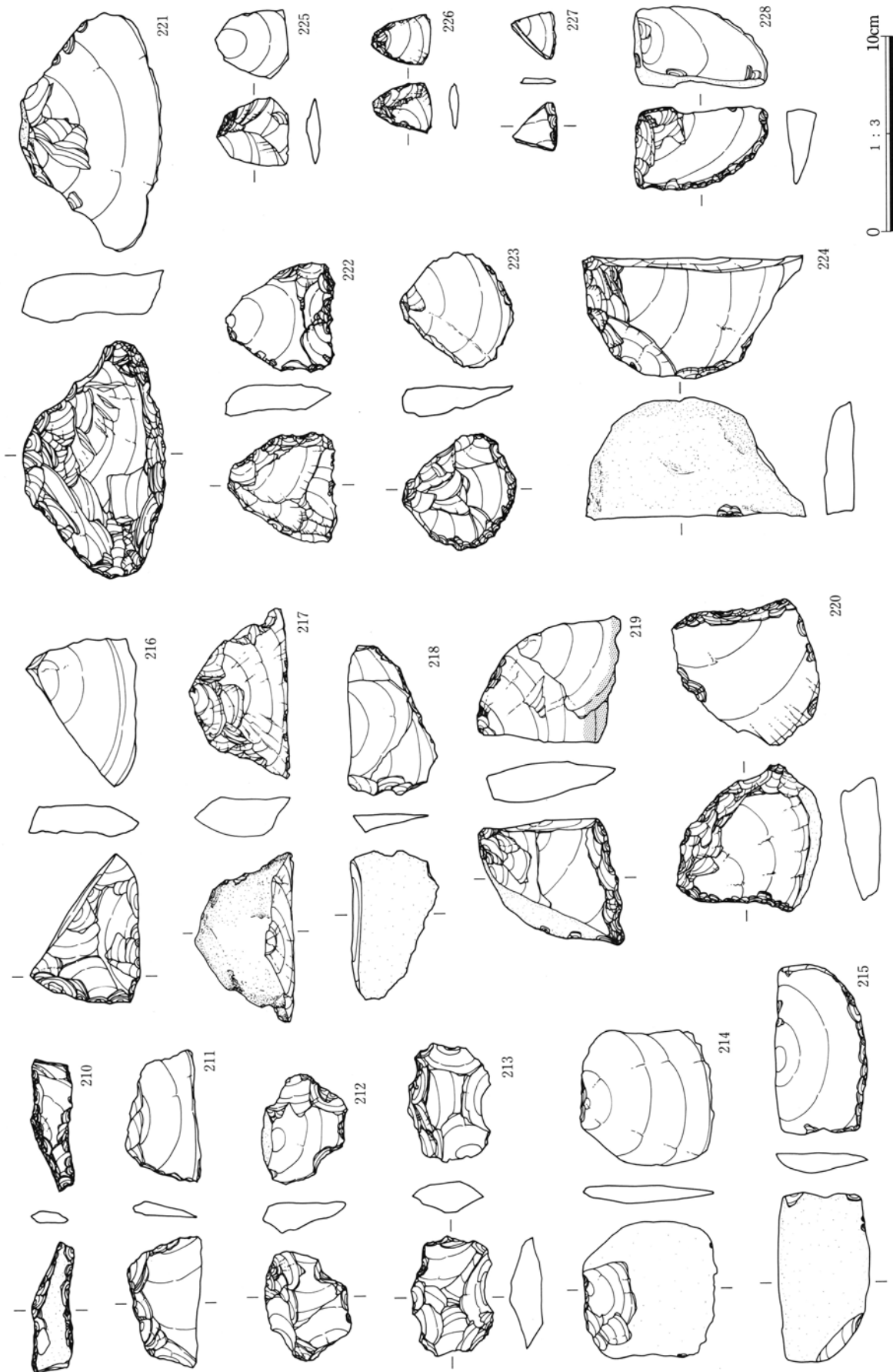


第274図 包含層出土の石器(12)

II 調査の結果

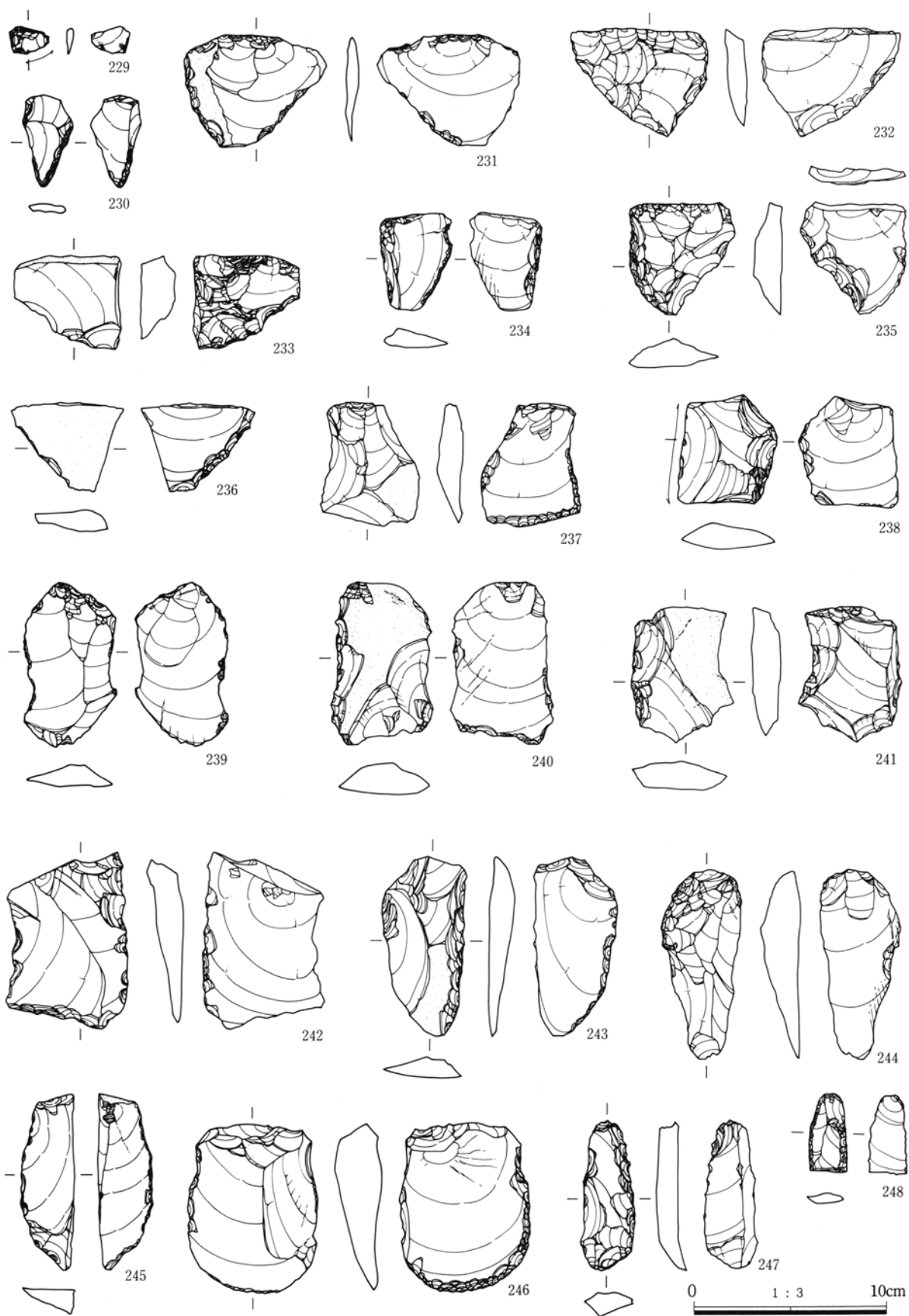


第275図 包含層出土の石器(13)



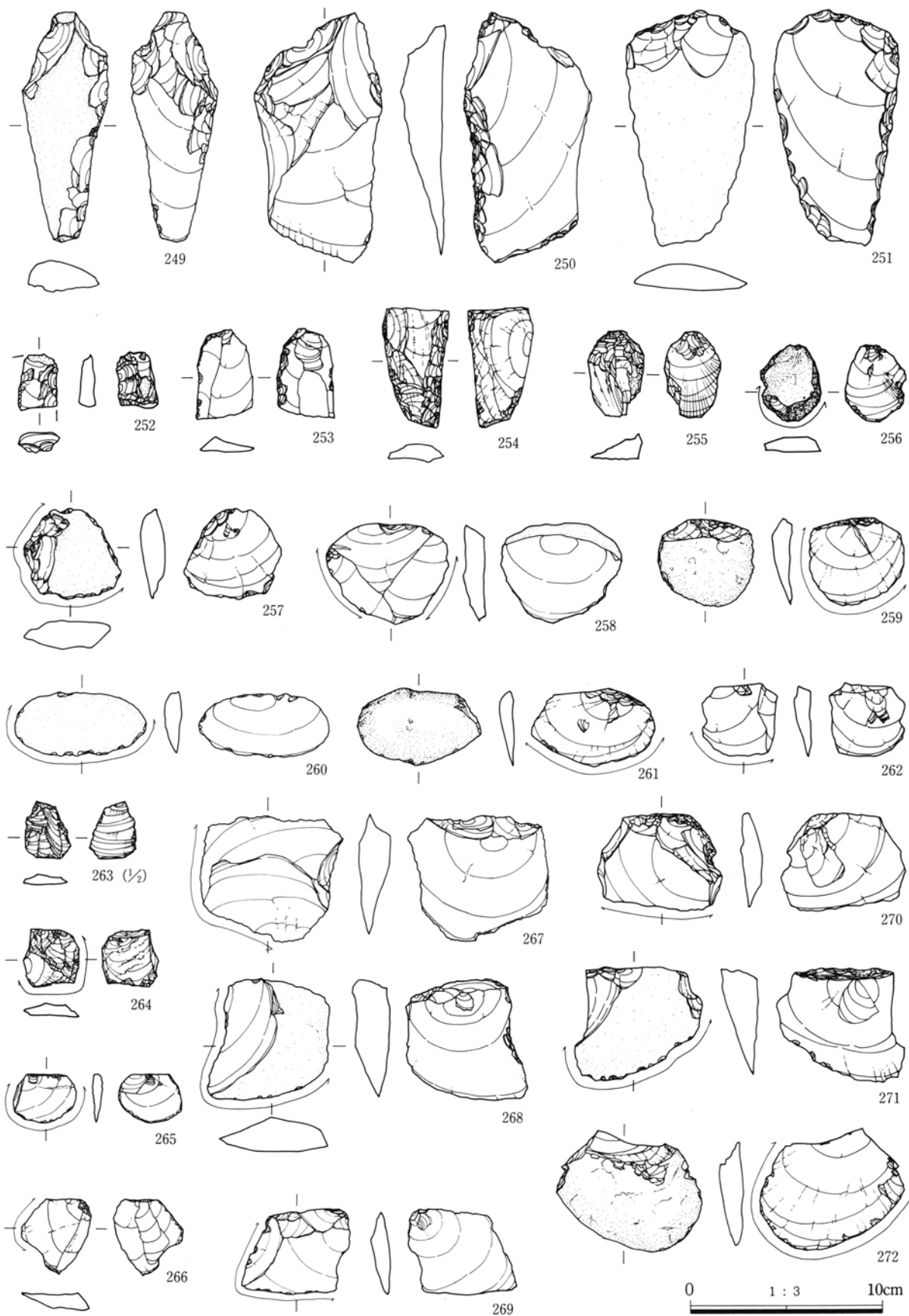
第276図 包含層出土の石器(14)

II 調査の結果

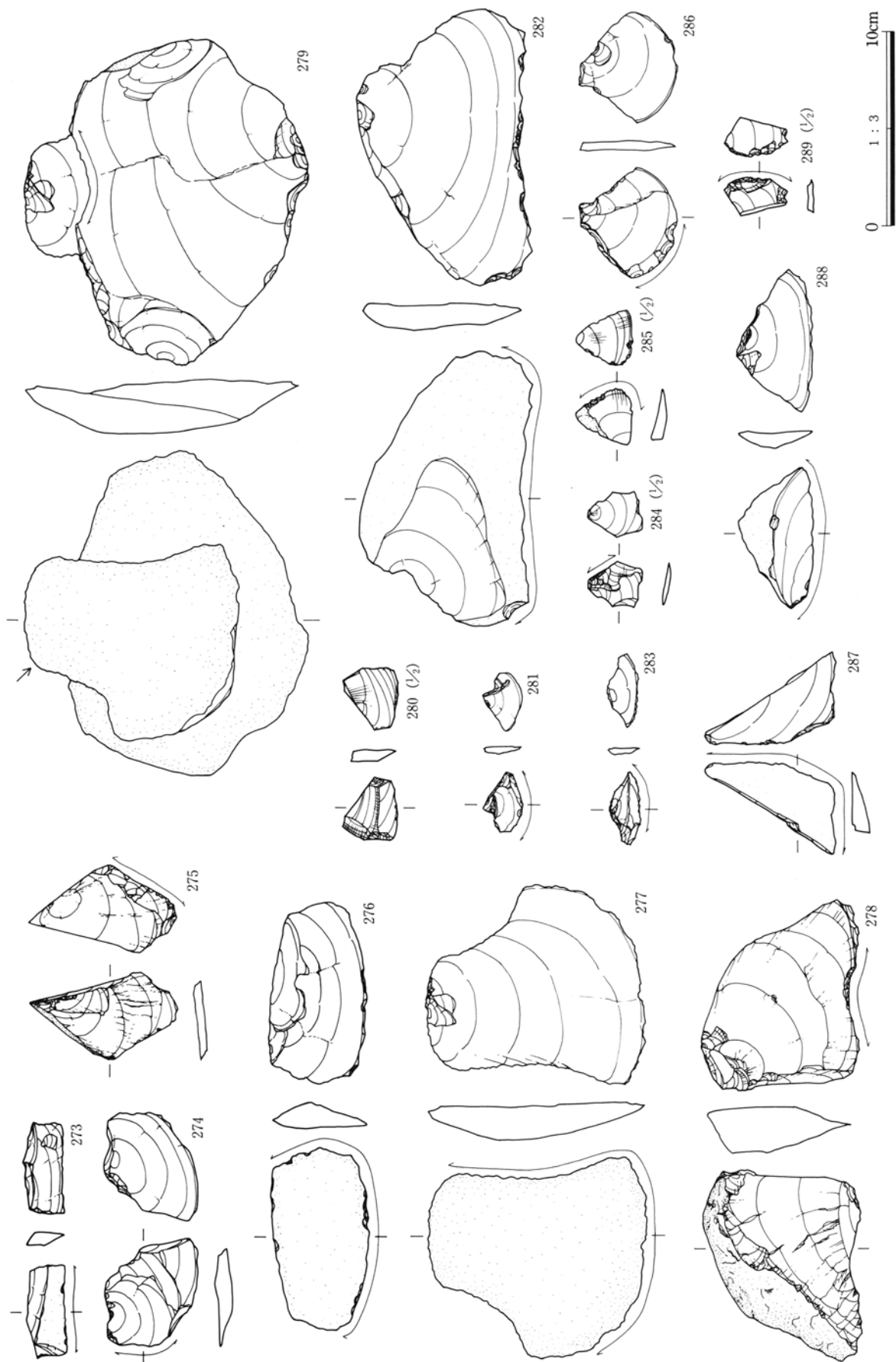


第277図 包含層出土の石器 (15)

2. 縄文時代

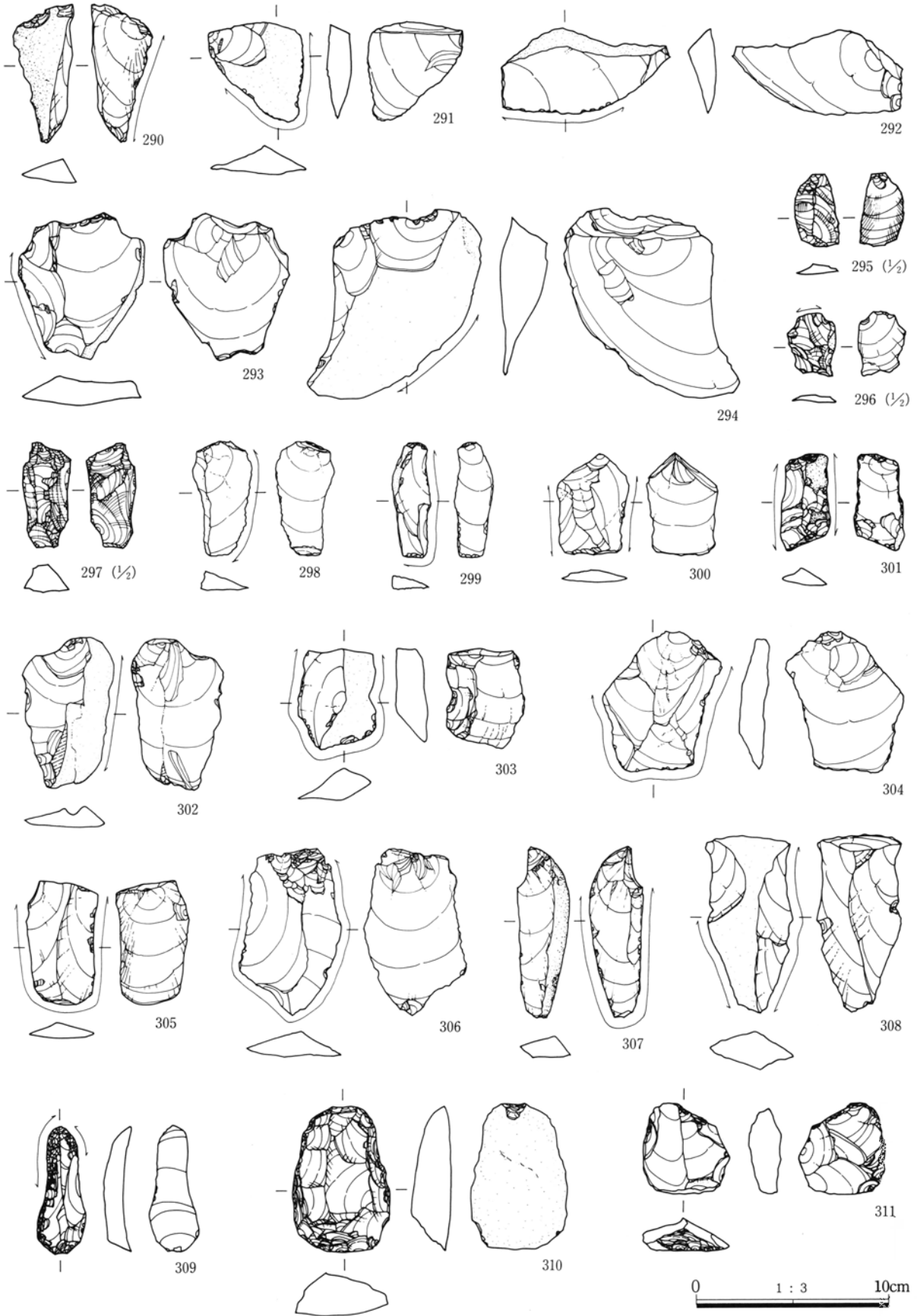


第278図 包含層出土の石器(16)



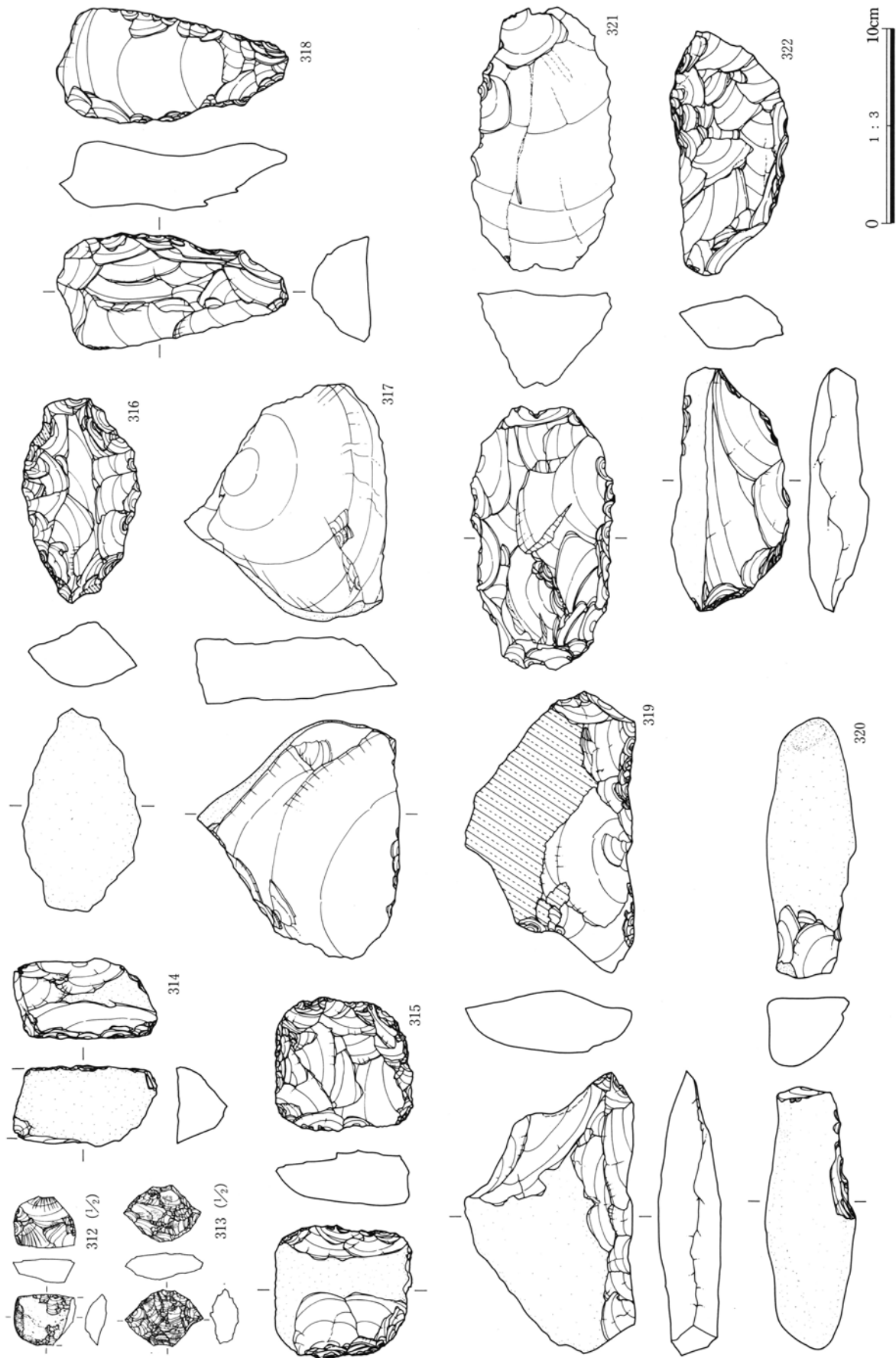
第279図 包含層出土の石器(17)

2. 縄文時代



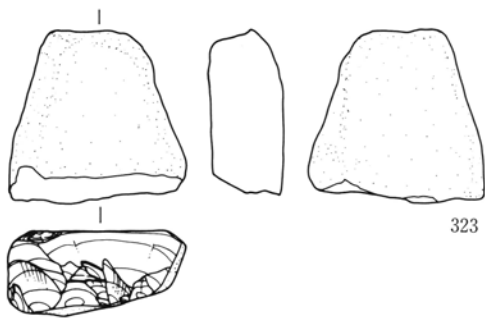
第280図 包含層出土の石器(18)

II 調査の結果

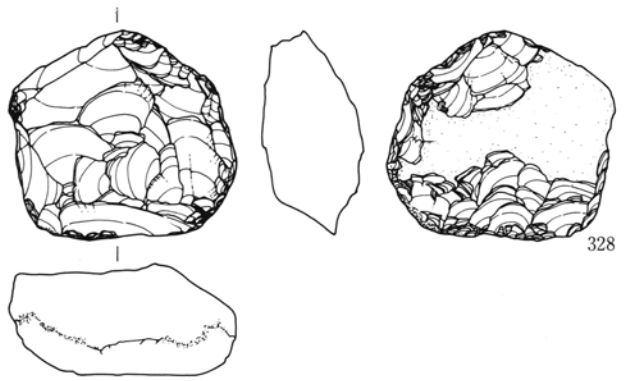


第281図 包含層出土の石器(19)

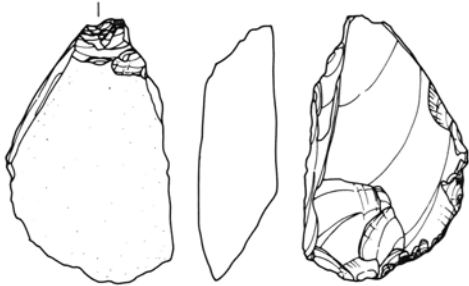
2. 縄文時代



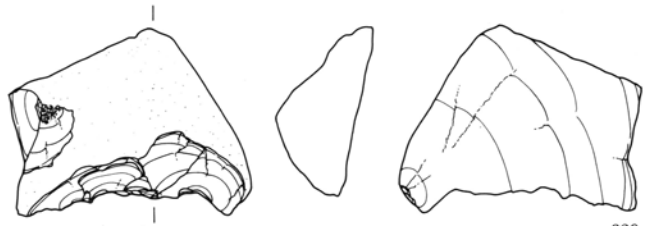
323



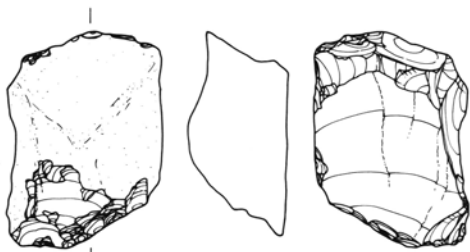
328



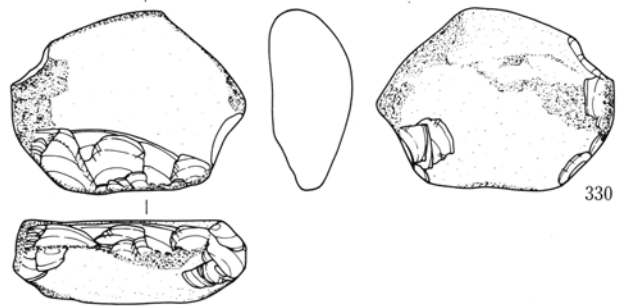
324



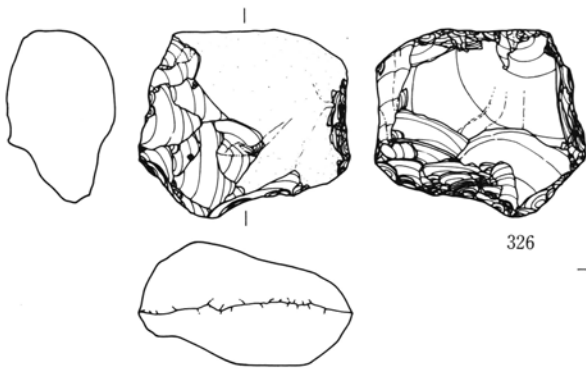
329



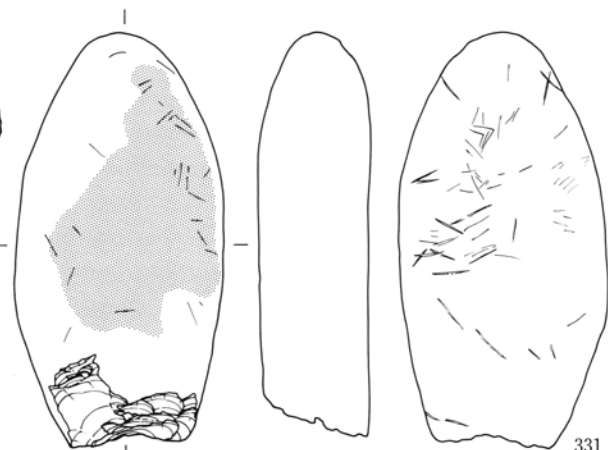
325



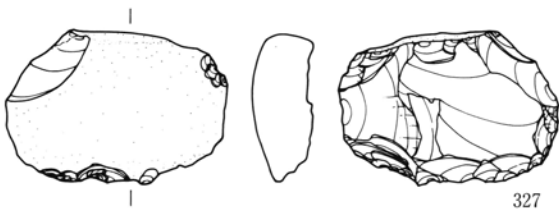
330



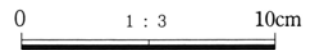
326



331

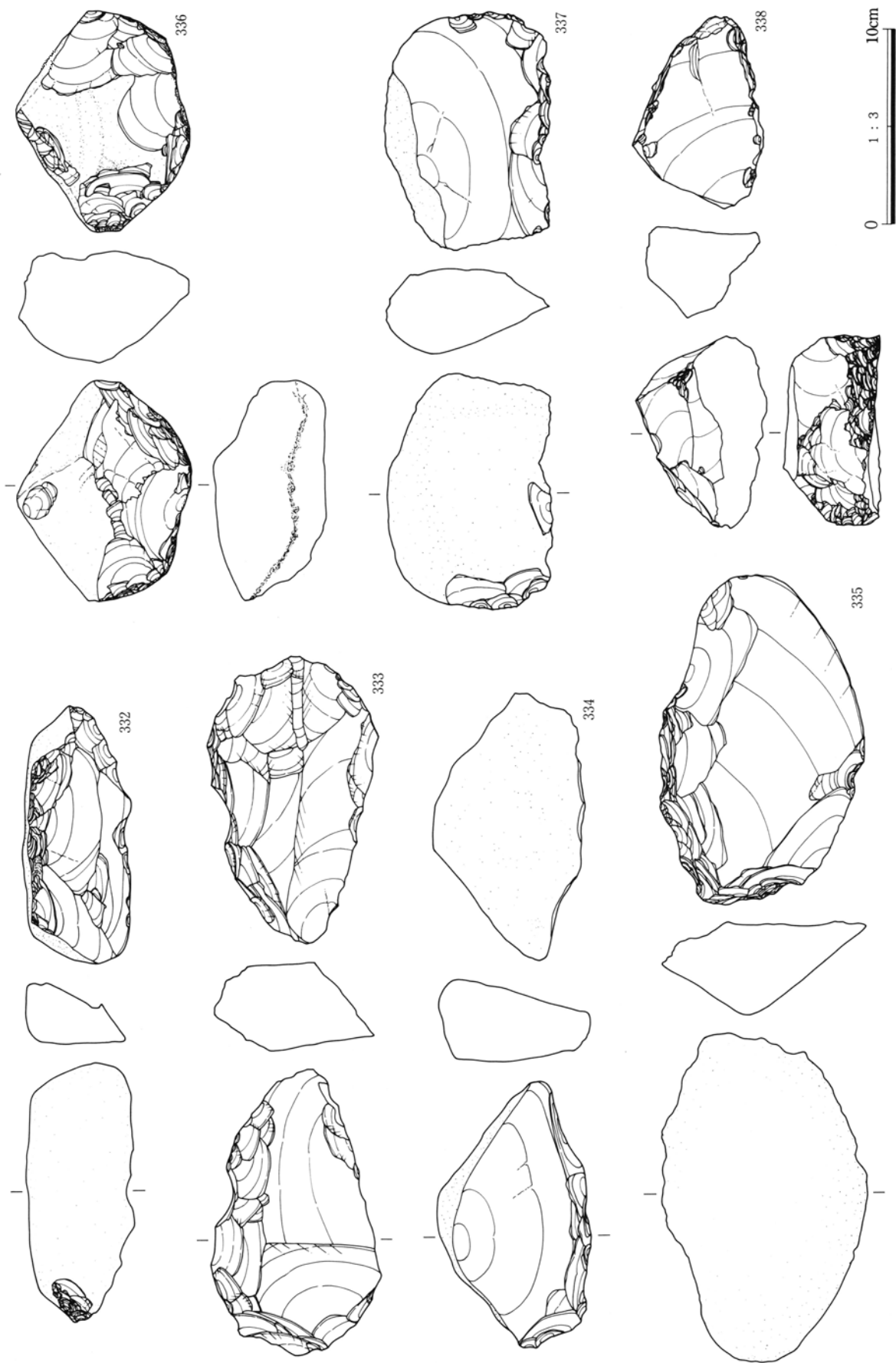


327

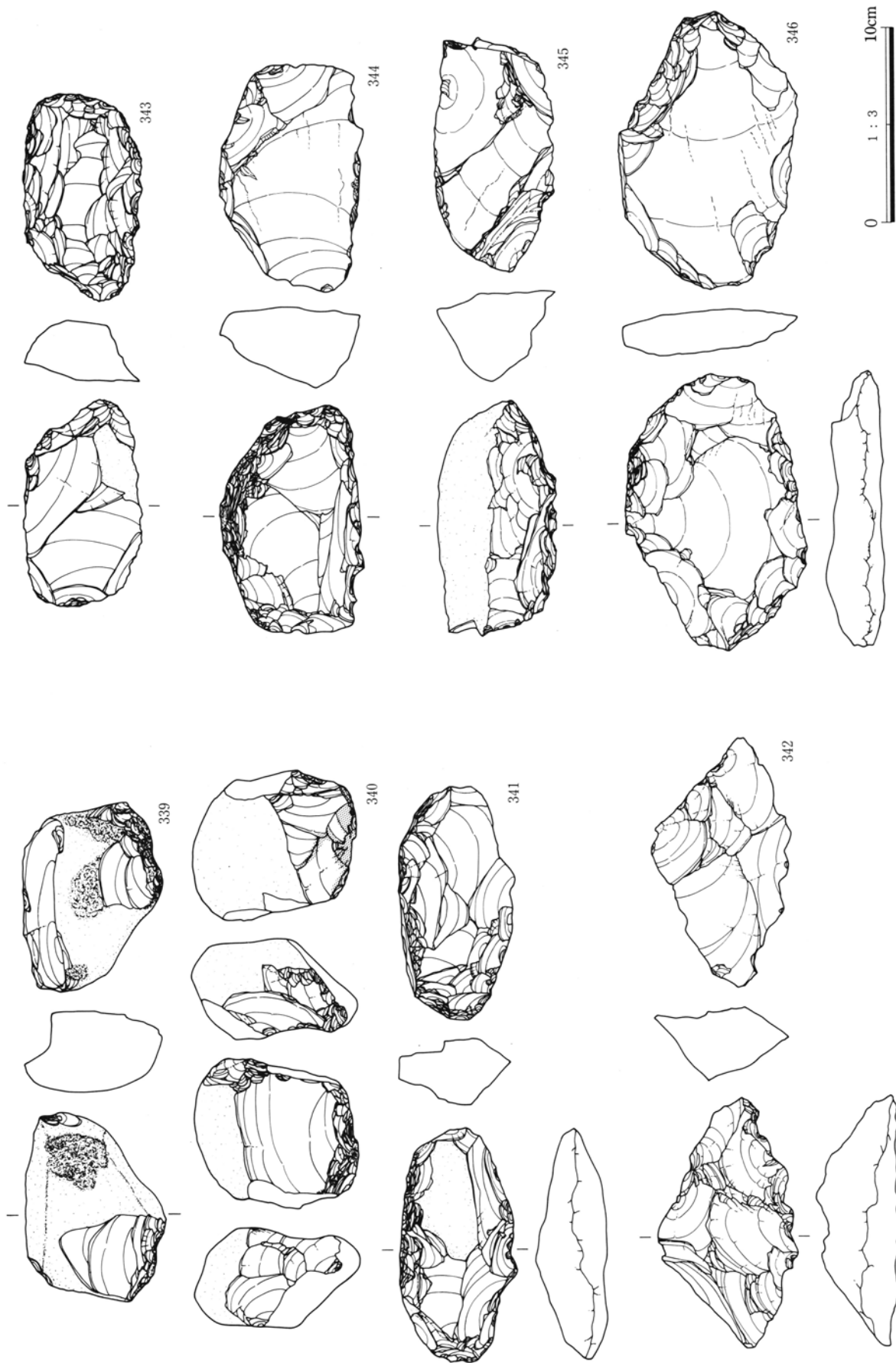


第282図 包含層出土の石器(20)

II 調査の結果

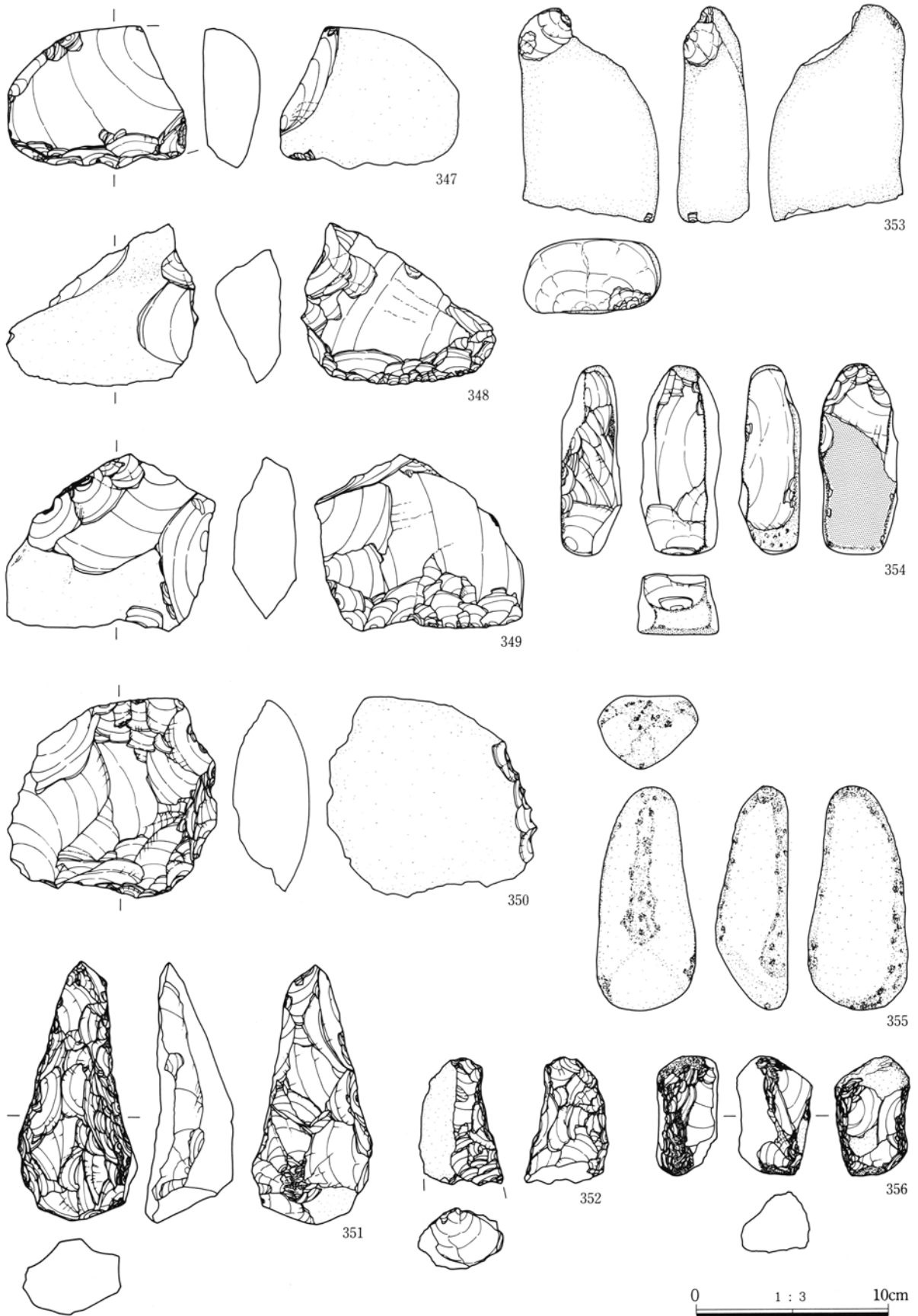


第283図 包含層出土の石器(21)



第284図 包含層出土の石器(22)

II 調査の結果

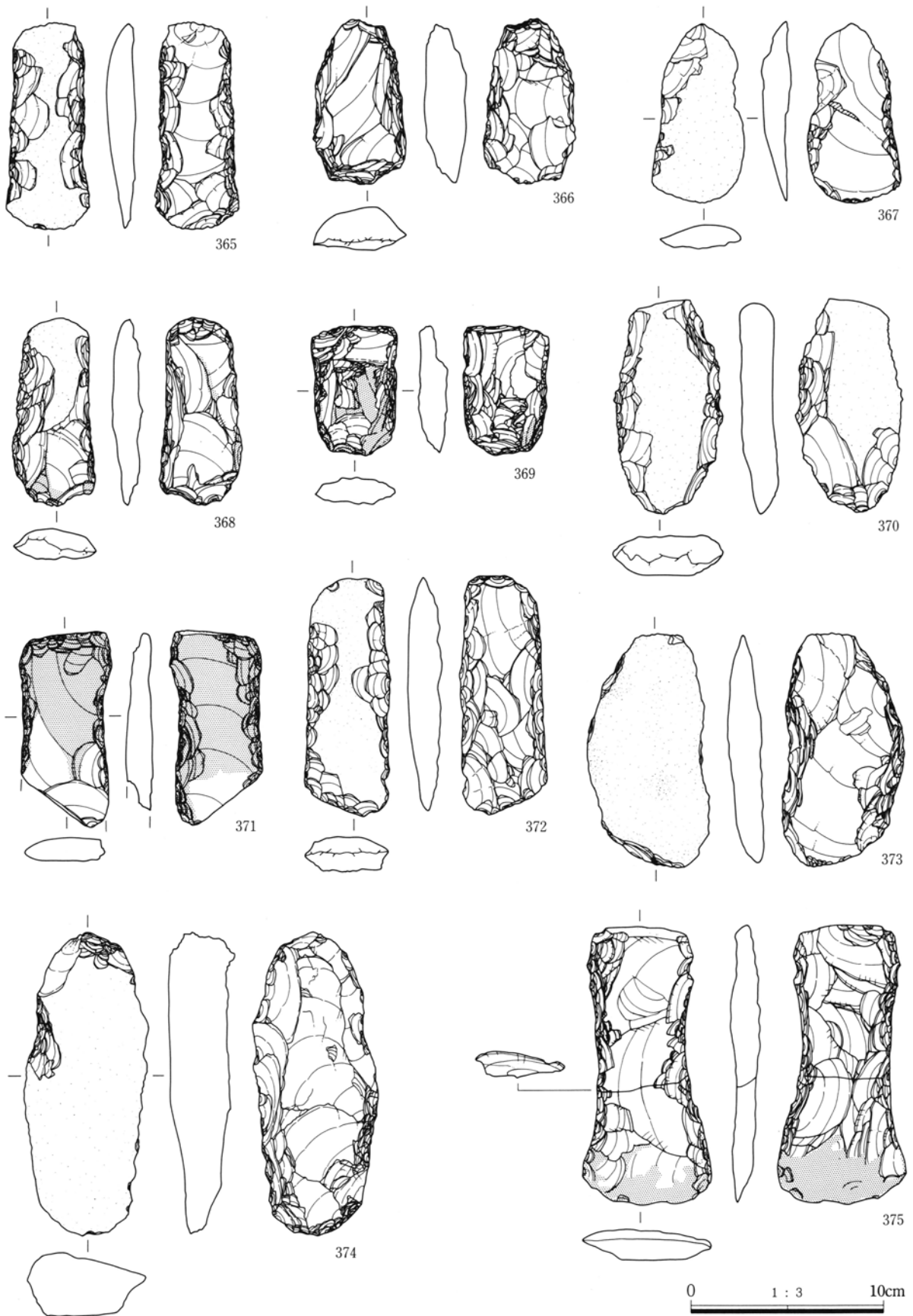


第285図 包含層出土の石器(23)

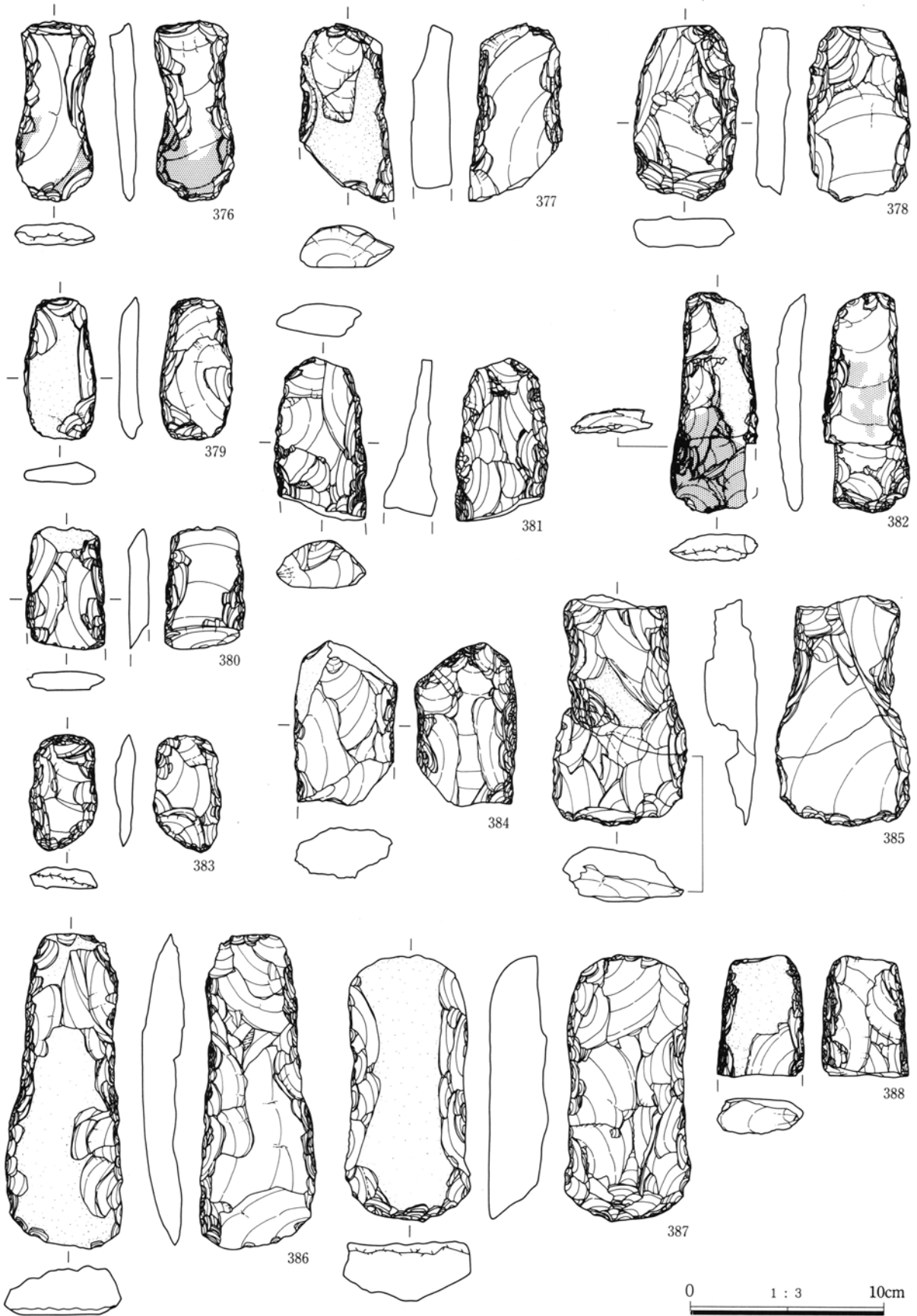


第286図 包含層出土の石器(24)

II 調査の結果

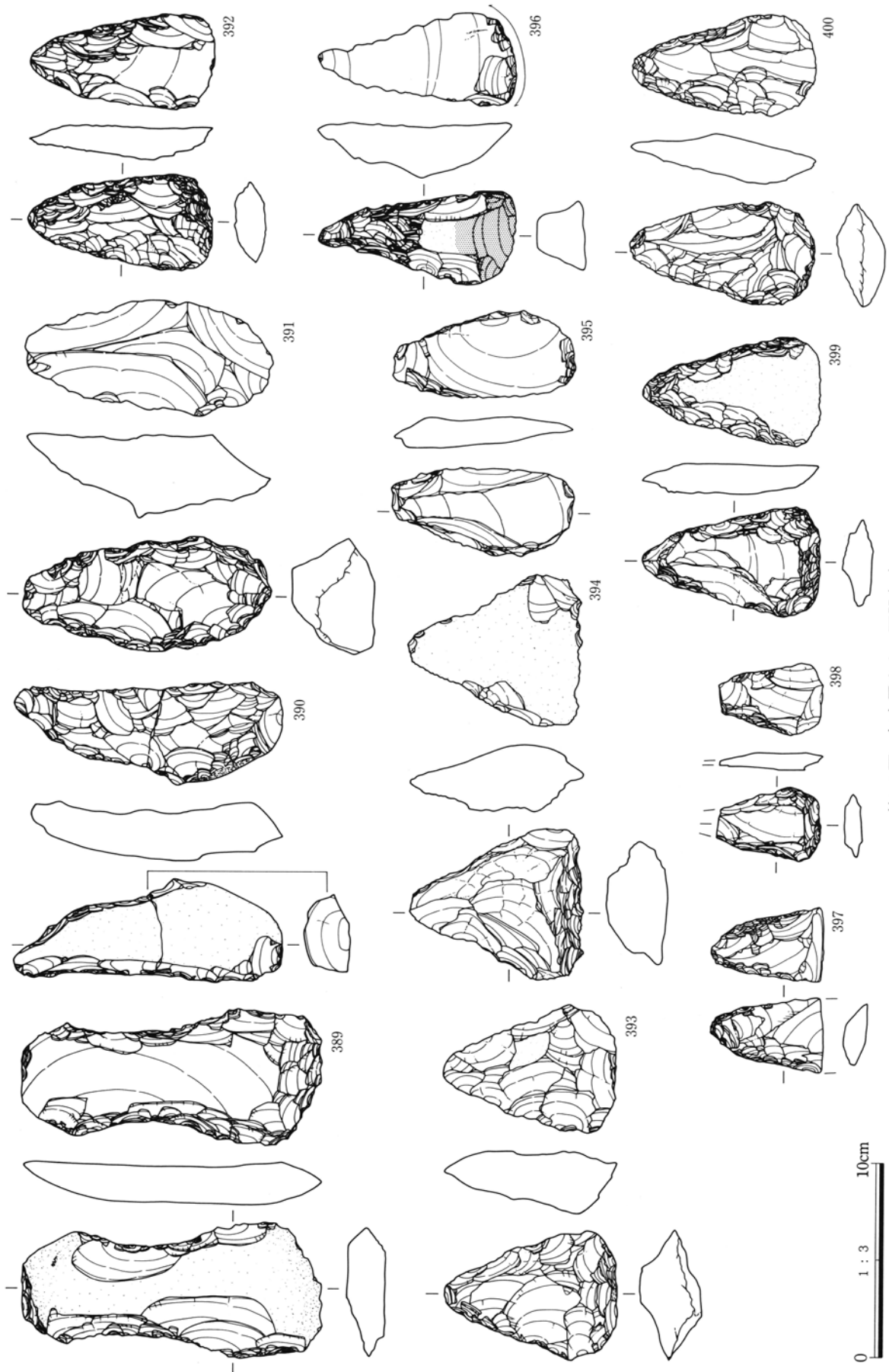


第287図 包含層出土の石器(25)

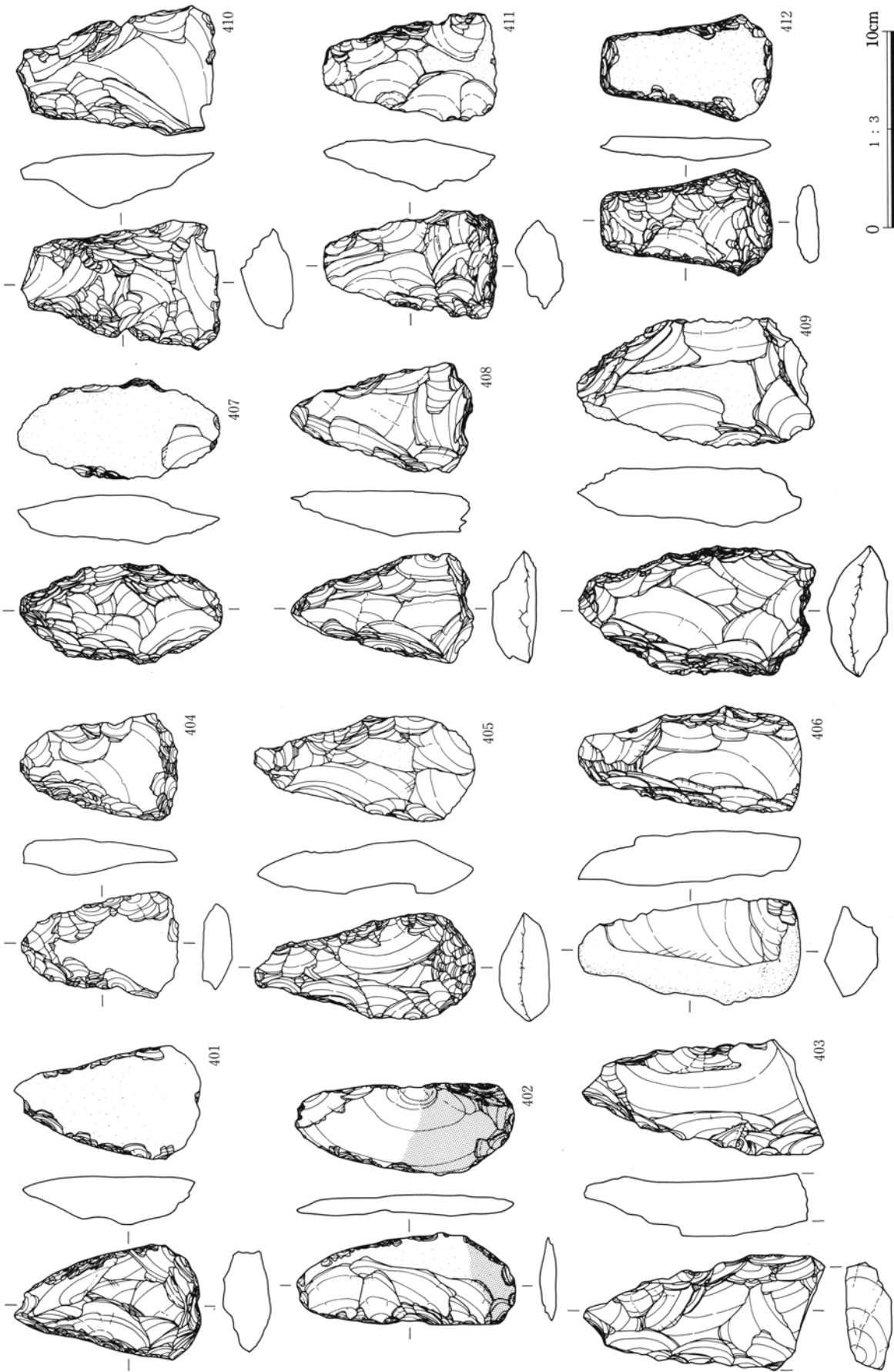


第288図 包含層出土の石器(26)

II 調査の結果

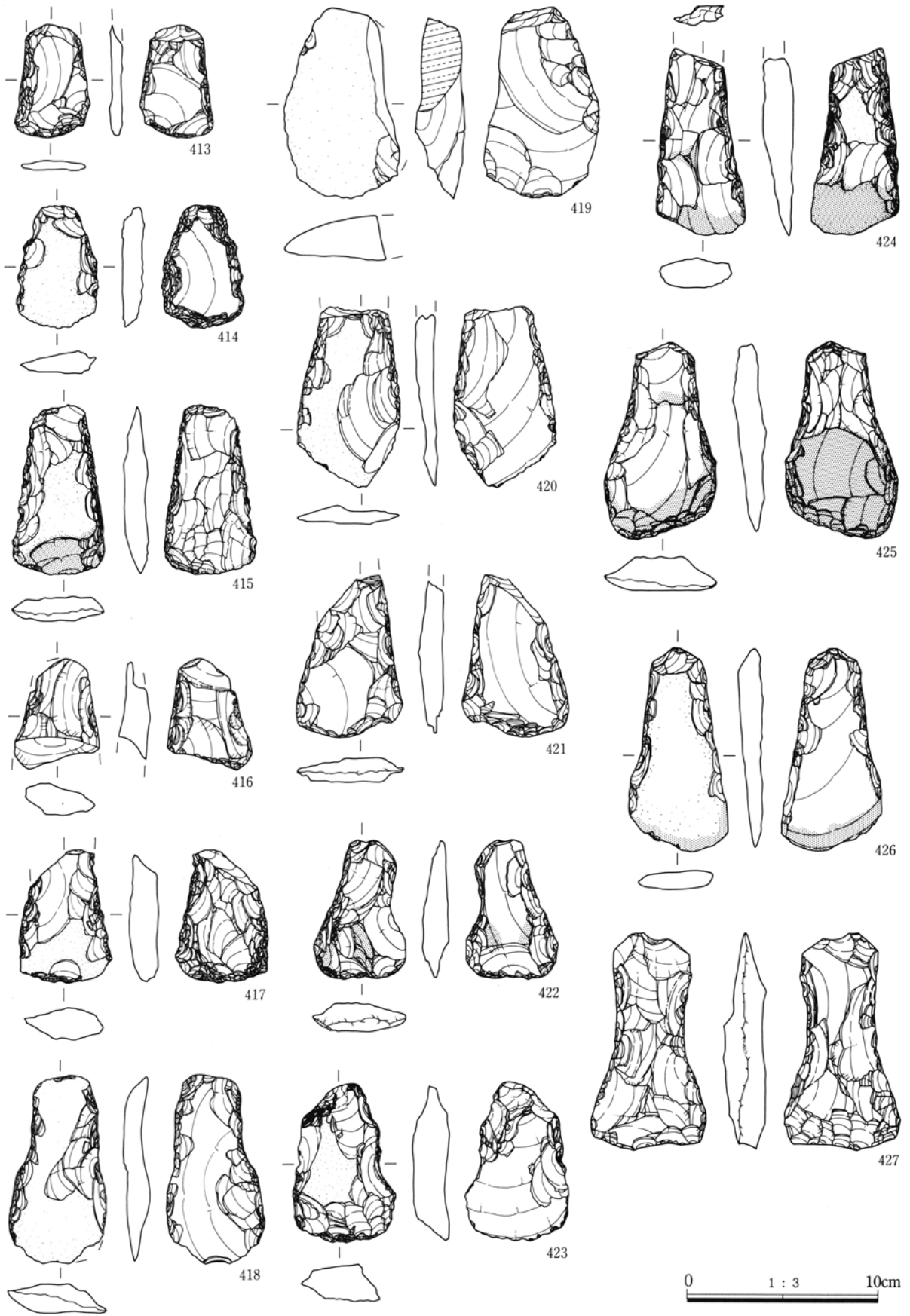


第289図 包含層出土の石器(27)

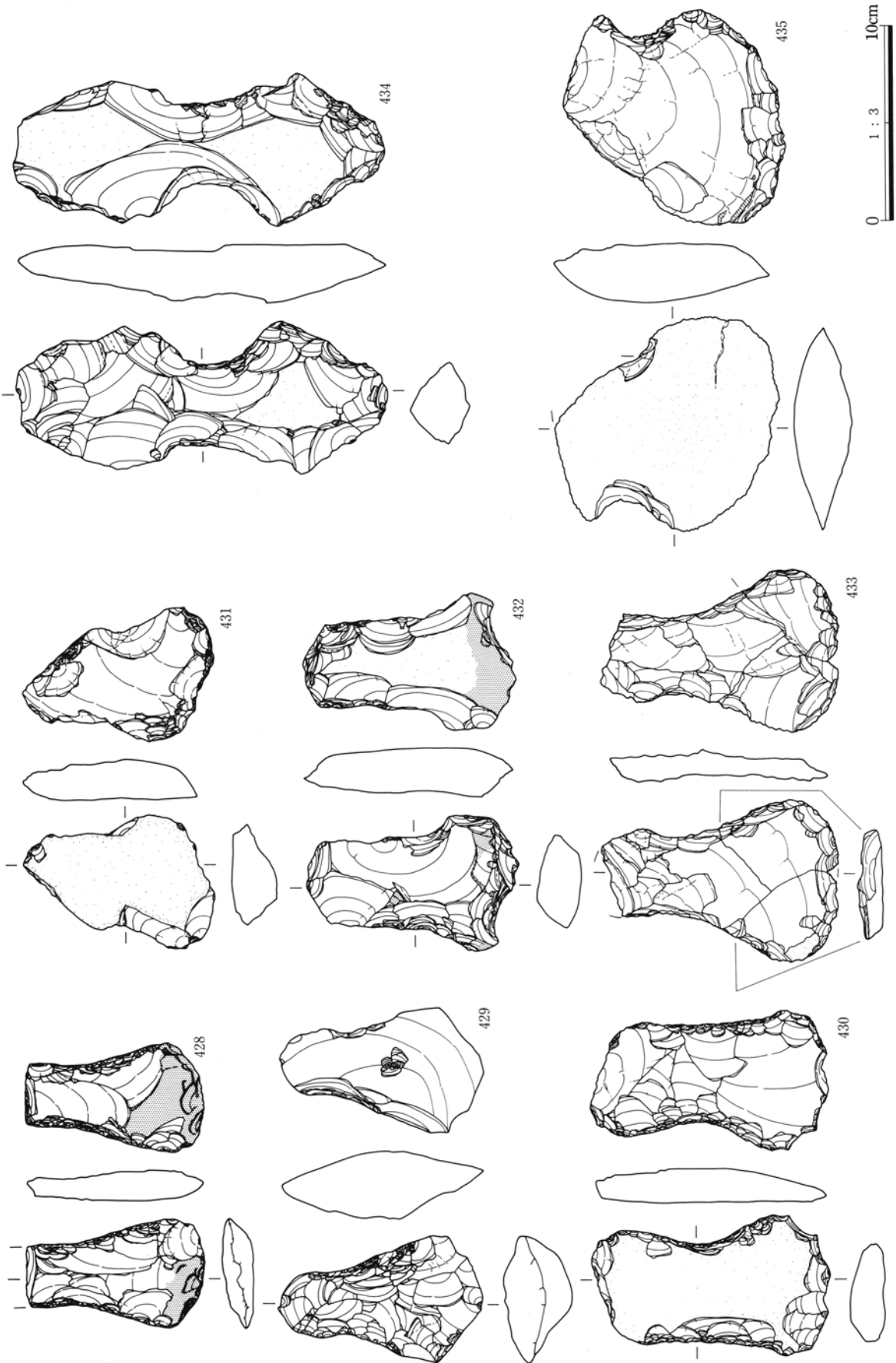


第290図 包含層出土の石器(28)

II 調査の結果

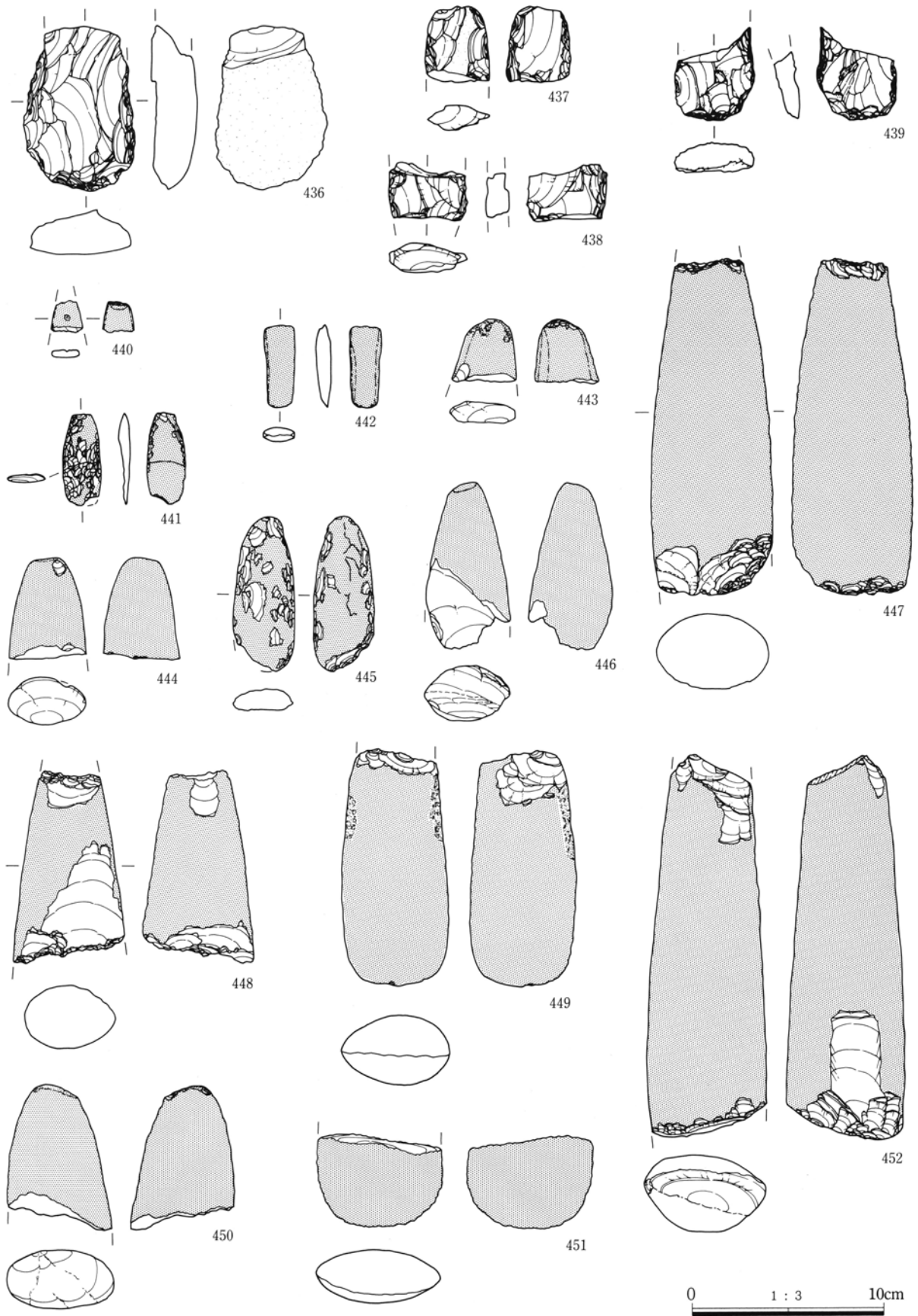


第291図 包含層出土の石器 (29)



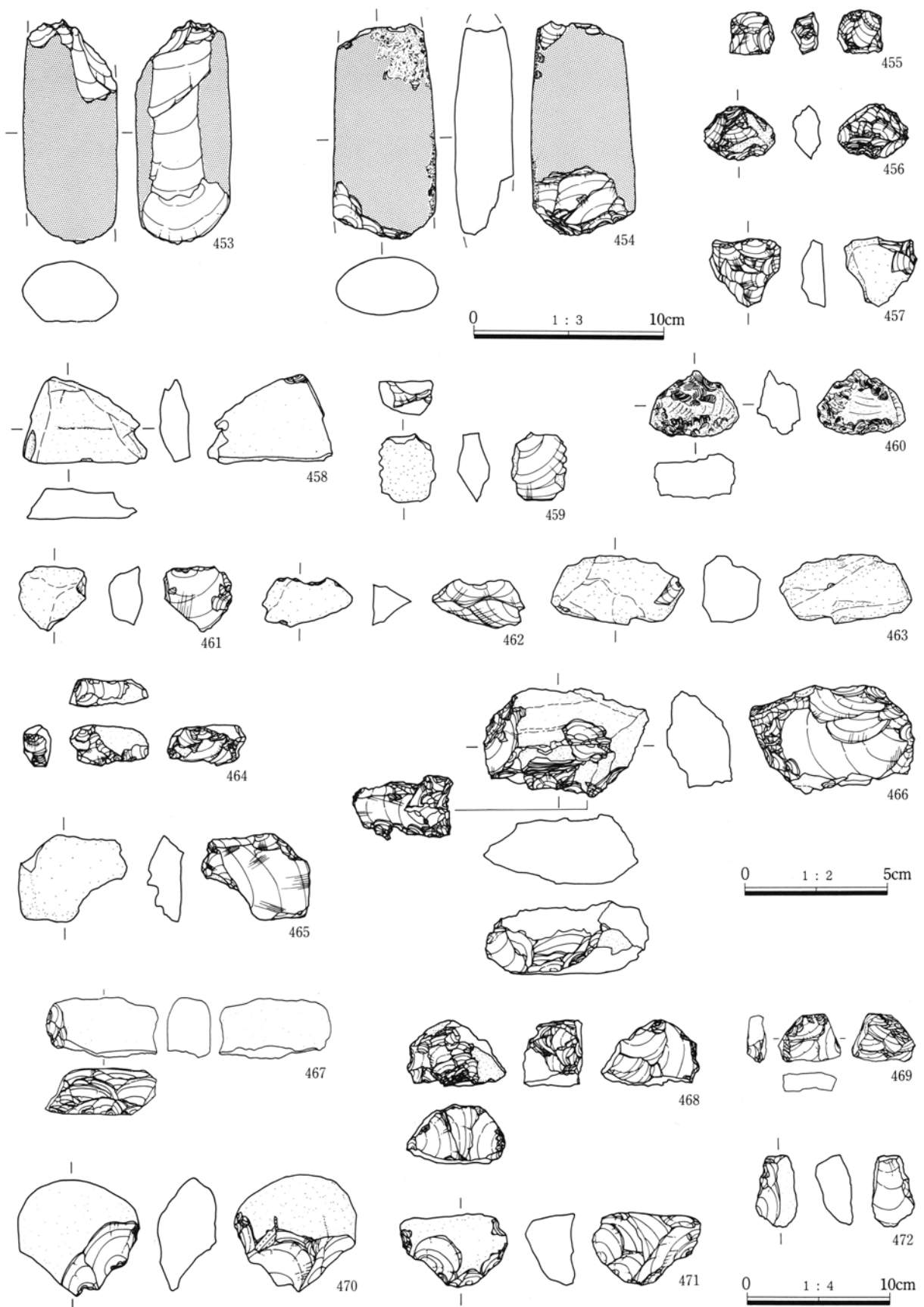
第292図 包含層出土の石器(30)

II 調査の結果



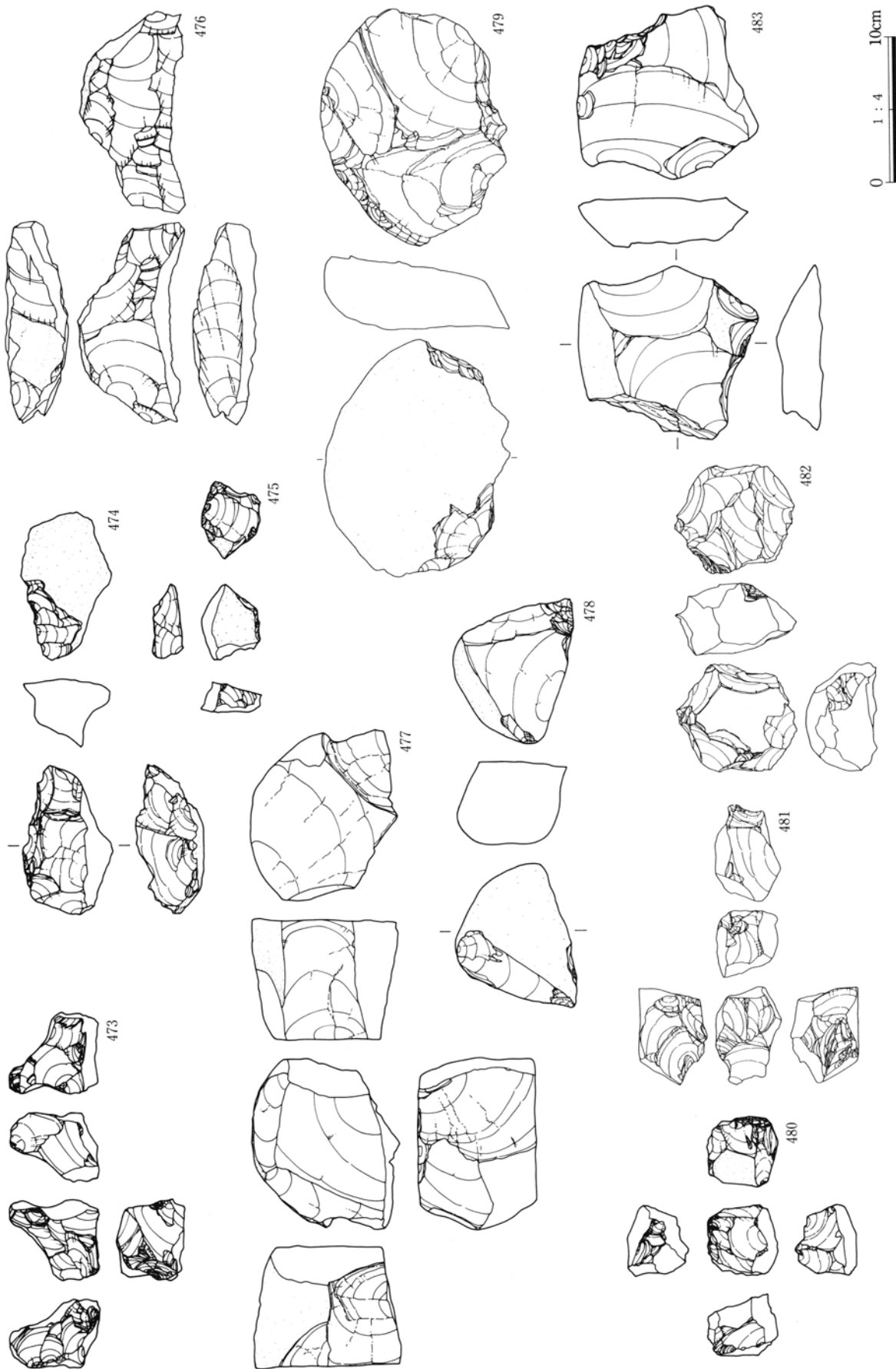
第293図 包含層出土の石器(31)

2. 縄文時代



第294図 包含層出土の石器(32)

II 調査の結果



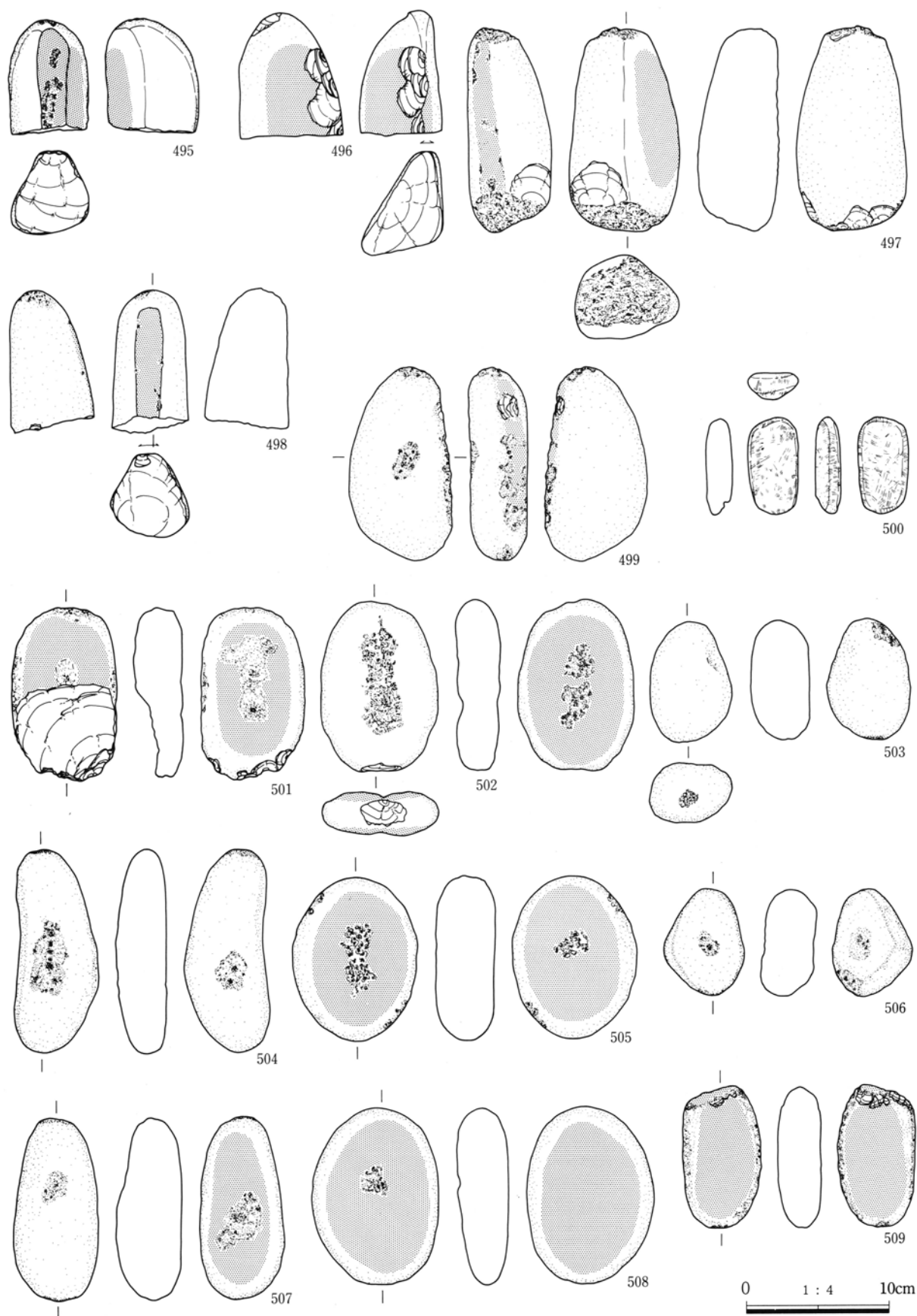
第295図 包含層出土の石器(33)

2. 縄文時代

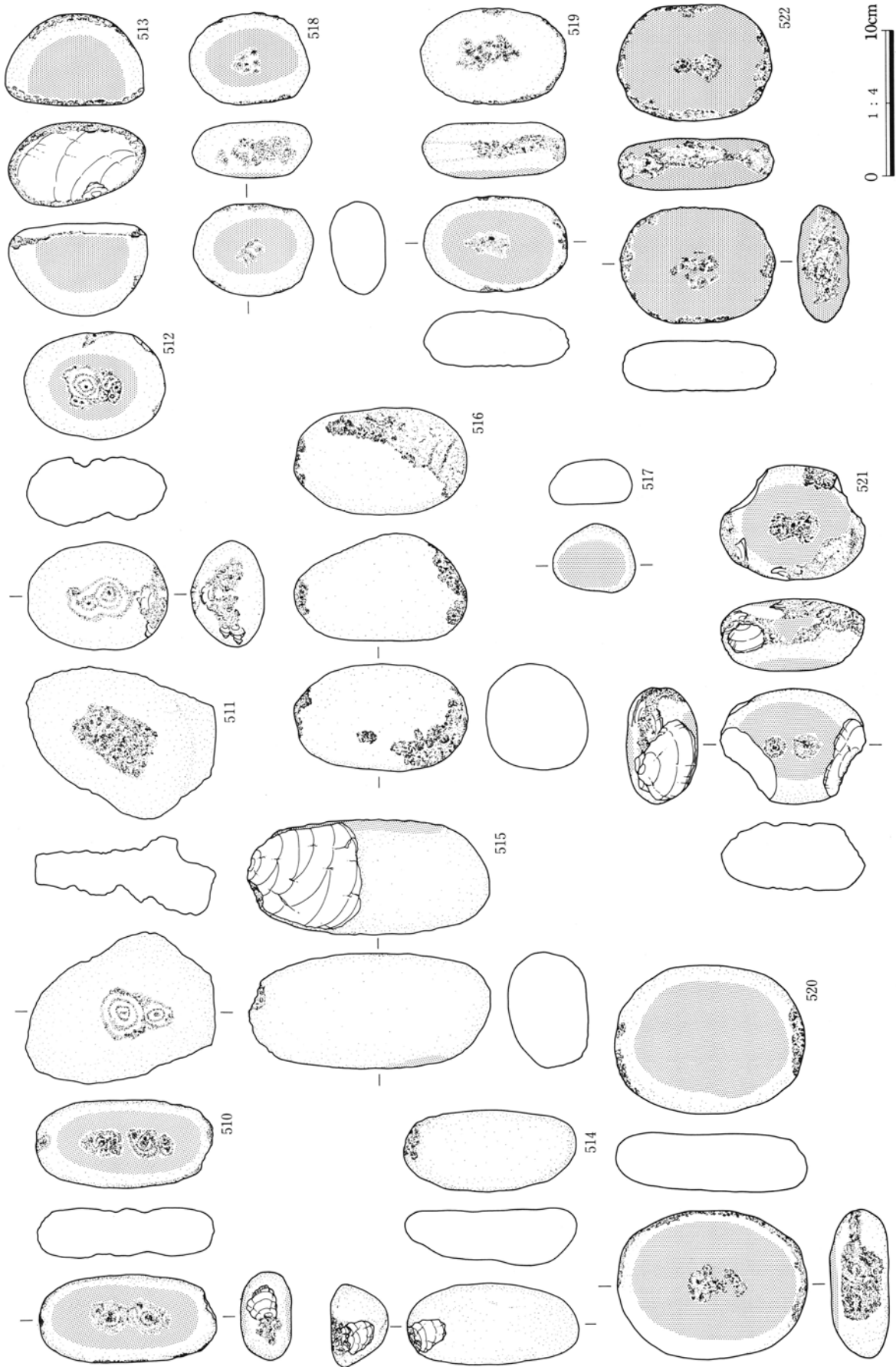


第296図 包含層出土の石器(34)

II 調査の結果

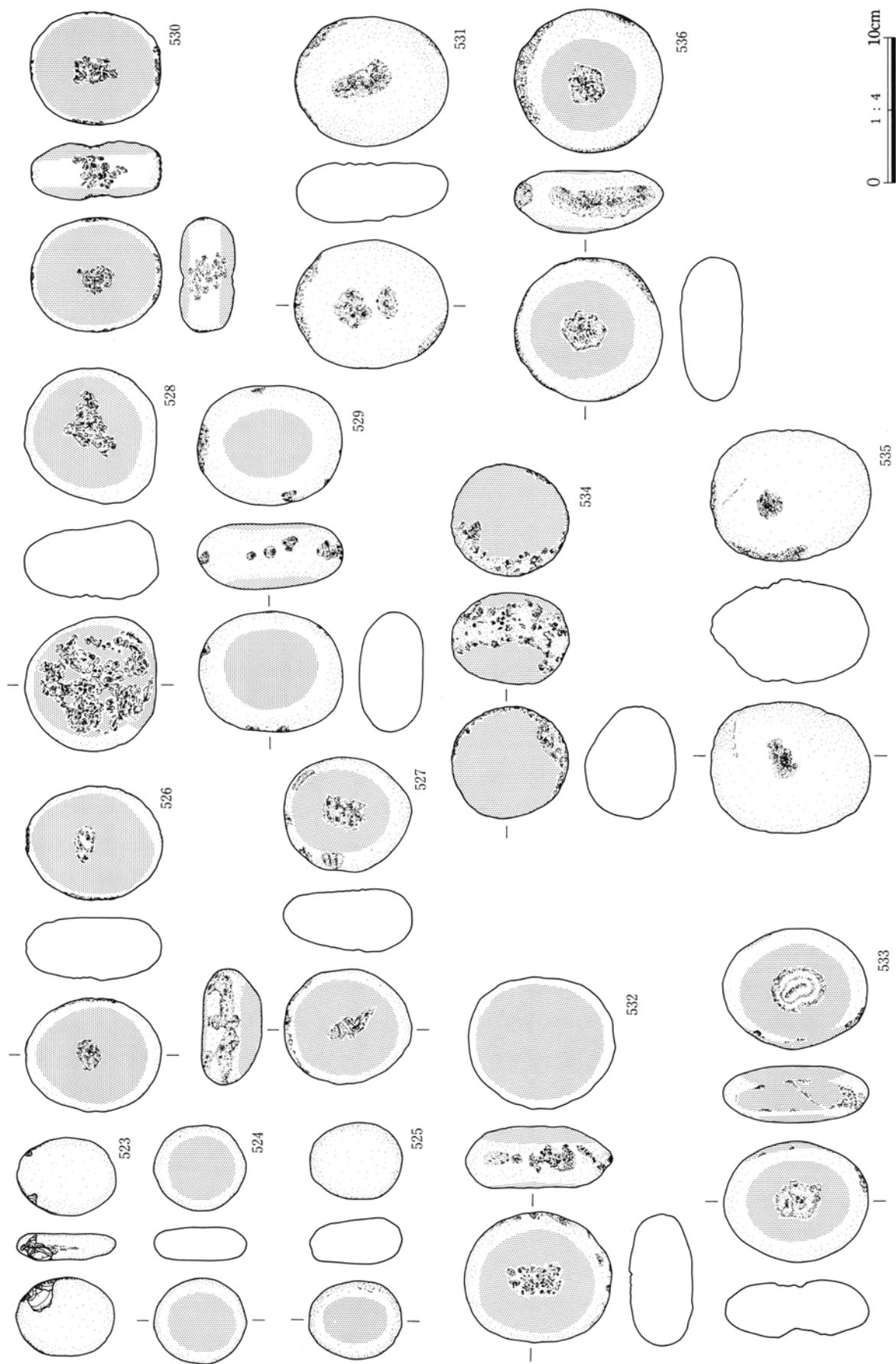


第297図 包含層出土の石器(35)



第298図 包含層出土の石器(36)

II 調査の結果

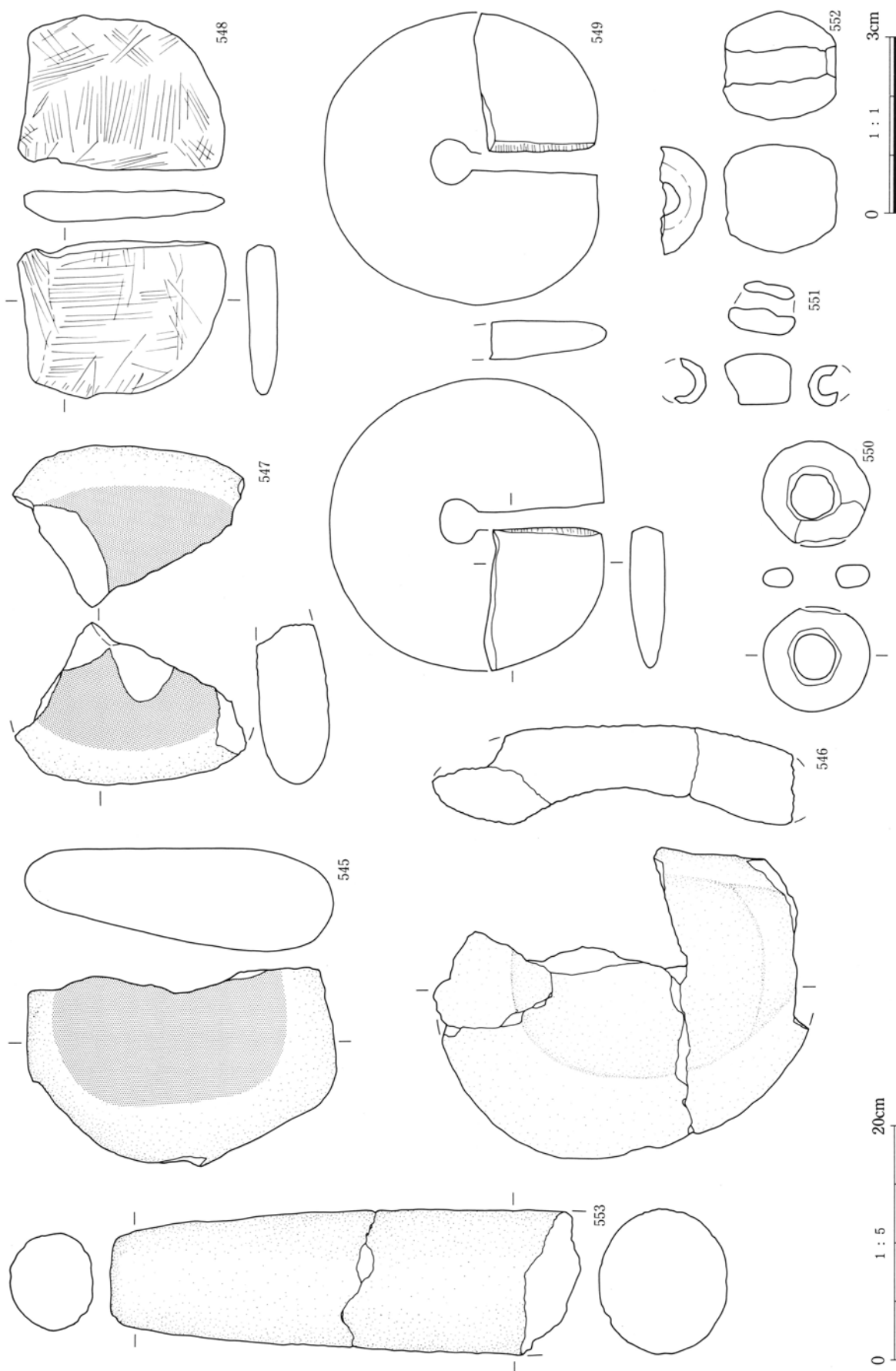


第299図 包含層出土の石器(37)



第300図 包含層出土の石器(38)

II 調査の結果



第301図 包含層出土の石器(39)

【出土遺物の分類の凡例】

■土器型式の分類

前期の有尾式・黒浜式・諸磯式については、以下のよう
に分類した。

〈有尾式〉

- 1 類：半截竹管により口縁幅狭部に縦位沈線文、口縁部に菱形文を施す。体部下半は2種類の原体で菱形構成の縄文を施す。器形は頸部でく字状に強く括れて口縁部が大きく外傾し、波状縁をもつ。
- 2 類：平行沈線文により、口縁部に菱形文を構成する。体部下半は2種類の原体を用いて菱形構成を主とした縄文を施す。器形は頸部で若干括れて口縁部が外傾気味に開口し、波状縁をもつ。
- ・ a 一口縁部や頸部の文様が半截竹管の爪形文で描出されるもの。
 - ・ b 一口縁部や頸部の文様が半截竹管の平行沈線文で描出されるもの。
 - ・ c 一口縁部や頸部の文様が、多截竹管あるいは櫛歯状工具の平行沈線文で描出されるもの。
- 3 類：口縁部および頸部の区画文が近接して三角形文を構成する。体部下半は2種類の原体を用いて菱形構成を主とした縄文を施す。器形は頸部で若干括れて口縁部が外傾気味に開口し、波状縁をもつ。
- ・ a 一口縁部や頸部の文様が半截竹管の爪形文で描出されるもの。
 - ・ b 一口縁部や頸部の文様が半截竹管の平行沈線文で描出されるもの。
 - ・ c 一口縁部や頸部の文様が、多截竹管の集合沈線文で描出されるもの。
- 4 類：口縁部に篋状工具による横位爪形文を多段に施す。体部下半は2種類の原体を用いて菱形構成の縄文を施す。器形は頸部でく字状に括れて口縁部が外傾し、平縁をもつ深鉢。
- 5 類：全面に菱形に構成された縄文を施す。器形は頸部に若干の括れをもつものや円筒形状のものがある。

〈黒浜式〉

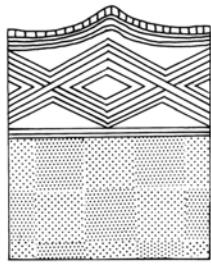
- 1 類：半截あるいは多截竹管によるコンパス文を横位に施すもの。器形は頸部で括れて、口縁部が内湾気味に開口するものが目立つ。4 単位に小突起が付く平口縁が主体的であるが、波状口縁も僅かに存在する。
- ・ a 半截竹管により端正なコンパス文や平行沈線文を交互に横位多段施文し、口縁部には縦位の区画線を施す。同下半部に押引状列点文を併用するものもある。縄文地を持たないものが多い。
 - ・ b 多截竹管あるいは櫛歯状工具により、4～5 条単位の波状文的コンパス文と平行沈線文を交互に横位全面施文する。縄文は基本的に施文されない。
 - ・ c 半截竹管による波状文的なコンパス文と押引状列点文端を交互に横位全面施文し、縄文は基本的に施文されない。
 - ・ d 全面に縄文を施し、口縁部や頸部に1～2 条の横位のコンパス文を施す。器形は、a～c 類と同様に平口縁が主体を占めている。

- ・ b 一口縁部に平行沈線文のみを施すもの。
 - ・ c 一口縁部に平行沈線文や円形文・波状文などを施す。
- 3 類：口縁部から底部にかけて縄文を全面施文するもの。器形は頸部が若干括れるものと円筒形状の両者が存在する。
- ・ a 一口縁部に縦位の短隆線が垂下するもの。
 - ・ b 二種類の原体を用いて横位の羽状縄文を施すもの。
 - ・ c 横位の斜行縄文を施すもの。
- 4 類：器面全体に2種類の原体を用いて縄文を菱形に構成し、その条や施文単位に沿って平行爪形文を施すもの。器形は口縁部が内湾するキャリパー状で、平縁を呈する。
- ・ a 一爪形文を米字状に多段施文するもの。
 - ・ b 一爪形文を方形に施文するもの。
 - ・ c 一爪形文を口縁部や頸部に横位施文するもの。
- 5 類：口縁部の平行爪形文で挟まれた間に円形状や方形の幾何学文様を描出するもの。体部下半は縄文を施す。器形は屈曲の少ない円筒形状を呈する。
- ・ a 一口縁部に円形文を施すもの。
 - ・ b 一口縁部に方形文を施すもの。
- 6 類：口縁部に沈線文や縄文などが全く施文されない無文深鉢土器。器形は口縁部が外傾気味に開口し、波状縁をもつ。

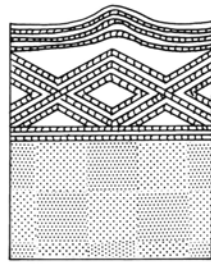
〈諸磯 a 式〉

- 1 類：口頸部に半截あるいは多截竹管による肋骨文を施すもの。体部下半は地文の斜行縄文を施す。器形は口縁部が大きく外反して開口するものが多く、波状縁と平縁がある。
- ・ a 一葉脈状の肋骨文を施すもの。
 - ・ b 一木葉状の肋骨文を施すもの。
 - ・ c 一弧状の肋骨文を施すもの。
 - ・ d 一斜行状の肋骨文を施すもの。
 - ・ e 一横線状の肋骨文を施すもの。
 - ・ f 一菱形状の肋骨文を施すもの。
- 2 類：口頸部に半截竹管による格子目文を施すもの。器形は1 類に類似するが、平縁を主体とする。
- 3 類：口頸部に半截竹管による木葉文を施すもの。器形は1 類に類似するが、平縁を主体とする。
- ・ a 一木葉文と円形竹管文を施すもの。
 - ・ b 一入組木葉文と円形竹管文を施すもの。
- 4 類：口頸部に半截竹管による横位の平行沈線文を施すもの。器形は1 類に類似する。
- 5 類：口縁部と頸部に半截竹管による平行爪形文あるいは平行沈線文を、口頸部に平行爪形文や円形竹管文の垂下列をそれぞれ施す。器形は1 類に類似する。
- ・ a 一爪形文あるいは平行沈線文と円形竹管文の垂下列を施すもの。
 - ・ b 一円形竹管文の垂下列を施すもの。
- 6 類：口縁部に半截竹管による幅狭の平行爪形文を施すもの。器形は1 類に類似する。
- 7 類：縄文地に円形竹管文や指頭状圧痕文の垂下列を施すもの。器形は1 類に類似する。
- 8 類：口縁部や口頸部に多截竹管による波状文を施すもの。器形は1 類に類似するが、平縁のものが多い。

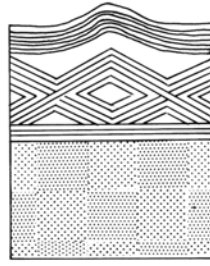
II 調査の結果



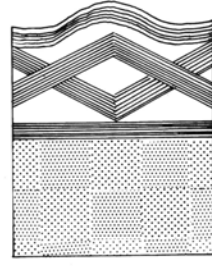
(有尾式 1類)



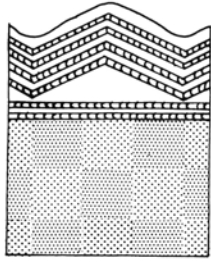
(有尾式 2a類)



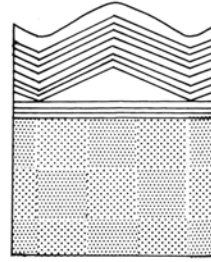
(有尾式 2b類)



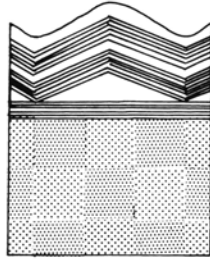
(有尾式 2c類)



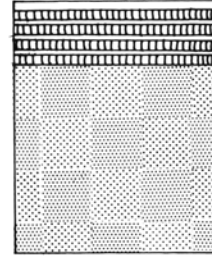
(有尾式 3a類)



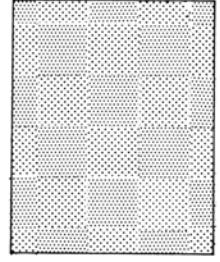
(有尾式 3b類)



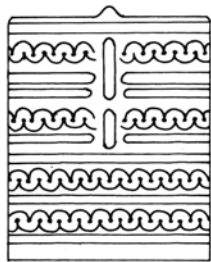
(有尾式 3c類)



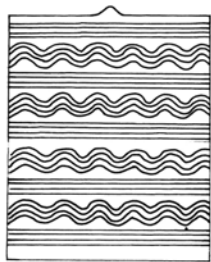
(有尾式 4類)



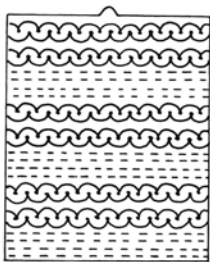
(有尾式 5類)



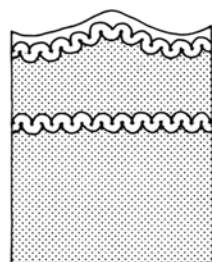
(黒浜式 1a類)



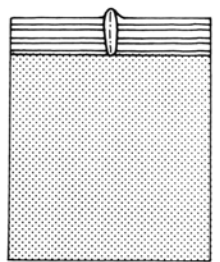
(黒浜式 1b類)



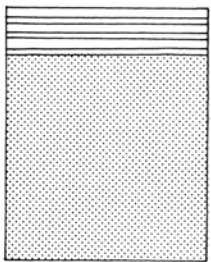
(黒浜式 1c類)



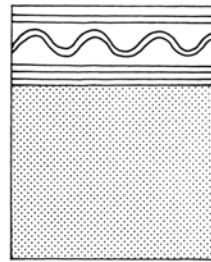
(黒浜式 1d類)



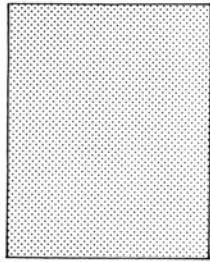
(黒浜式 2a類)



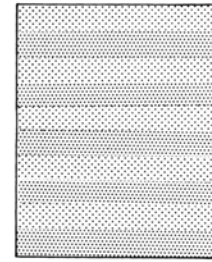
(黒浜式 2b類)



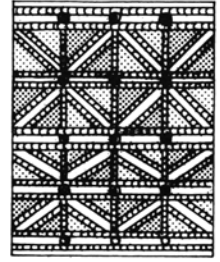
(黒浜式 2c類)



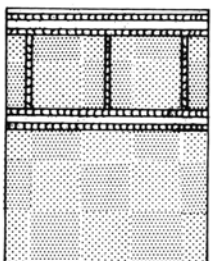
(黒浜式 3a類)



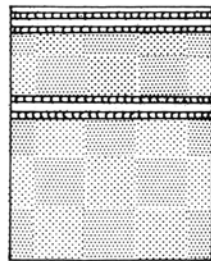
(黒浜式 3b類)



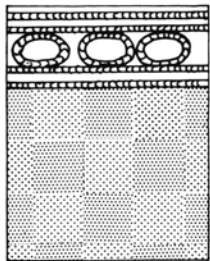
(黒浜式 4a類)



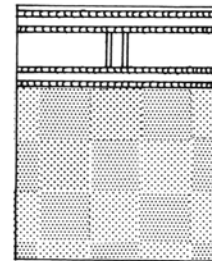
(黒浜式 4b類)



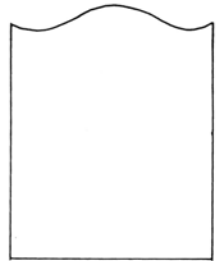
(黒浜式 4c類)



(黒浜式 5a類)



(黒浜式 5b類)



(黒浜式 6類)

第302図 前期土器型式の分類模式図 (1)

- a—口頸部に重畳した波状文や円形竹管文を施すもの。
 - b—口頸部に鋸歯状文を施すもの。
- 9類：器面全体に縄文のみを施すもの。器形は1類に類似するが、ほぼ平縁のみで構成される。
- 10類：地文を含めて全く無施文の深鉢である。器形は1類に類似する。
- 11類：浅鉢土器を一括した。体部上半に沈線文を、下半に縄文を施す。器形は口縁部が外傾気味に開口するものが多い。
- a—半截竹管による木葉文や円形竹管文を施すもの。
 - b—半截竹管による横位平行沈線文や円形竹管文を施すもの。
 - c—無文のもの。

〈諸磯 b 式〉

- 1類：横位の斜行縄文を地文として、口頸部に半截竹管を用いた幅広の爪形文により、弧状・凡字状や渦巻き状の文様を描出する。器形は口縁部が大きく外反しつつ開口し、平縁と波状縁とがある。
- 2類：横位の斜行縄文を地文として、口頸部から体部にかけて多截・半截竹管を用いた平行沈線文で、凡字状や渦巻き状の文様を描出する。器形は口縁部が大きく内湾して靴先状に内屈したり、緩く「く字状」に内折するもの、外傾気味に開口するものなどがある。前二者は波状縁、後者は平縁を呈する。
- a—口頸部に凡字状や渦巻き状の文様を施すもの。
 - b—口頸部から体部下半にかけて横位集合沈線文を多段に施すもの。体部下半に渦巻き状や弧状の沈線文を施すものも認められる。
- 3類：横位の斜行縄文を地文として、口頸部に浮線文による凡字状や渦巻き状の文様を描出する。器形は口縁部が大きく内湾あるいは靴先状に内屈し、波状縁を有する。
- a—やや太目の浮線文を有するもの。
 - b—低平な浮線文を有するもの。
- 4類：口頸部から体部下半にかけて、半截あるいは多截竹管を用いた集合沈線文や矢羽根状沈線文を多段に施文する。基本的に横位の斜行縄文を地文とするが、掻き消されている場合が多い。器形は口縁部が緩く「く字状」に内折するか外傾気味に開口し、前者は波状縁、後者は平縁となる。
- 5類：口縁部から底部にかけて横位の斜行縄文を全面施文するもの。器形は頸部で若干括れて外傾気味に開口し、平縁を呈する。
- a—縄文以外に加飾されないもの。
 - b—口唇部に連続した刻み目や刺突を有するもの。
 - c—口縁部に耳状や円形の貼付文を有するもの。
- 6類：口縁部に沈線文や縄文などが全く施文されない無文深鉢土器。篋状工具による撫で整形痕が顕著に認められる。器形は口縁部が外傾気味に開口し、波状縁をもつ。
- 7類：浅鉢土器を一括した。口縁部が強く内折するものもある。
- a—縄文地のみもの。
 - b—口縁部から体部にかけて入組状木葉文を施すもの。
 - c—無文のもの。

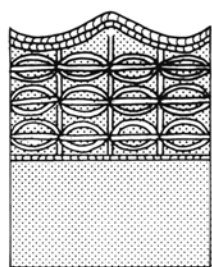
〈諸磯 c 式〉

- 1類：多截竹管を用いた集合沈線により、口頸部には平行状や横位矢羽根状の集合沈線文を、以下体部下半にかけて懸垂文や縦位の矢羽根・弧状の文様を施す。器形は口縁部が内湾気味に開口し、頸部で段状に屈折するものもある。平口縁を基本とする。
- a—口縁部を中心に、円形状・耳状・棒状などの貼付文を加飾するもの。
 - b—結節浮線文を施すもの。
- 2類：多截竹管を用いた有節沈線文により、渦巻き状の文様を描出されるもの。小破片のために器形は判然としないが、口縁部が大きく外反すると想定される。
- 3類：縄文を地文として、口縁部を中心に耳状や棒状の貼付文を施すもの。器形は頸部で括れて口縁部が外傾する。口唇部は折り返し状を呈し、平縁となる。

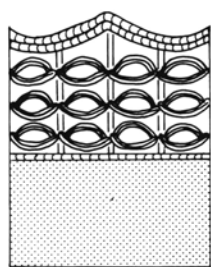
■土器胎土の分類

- Aタイプ：かなり多量のチャート・白色安山岩・乳白色石英の礫・粗砂と、少量の透明度の高い石英及び赤色安山岩の礫・粗砂を含む。
- Bタイプ：かなり多量の角閃石・白色安山岩の礫・粗砂と少量の透明度の高い石英の礫・粗砂を含む。
- Cタイプ：Aタイプに繊維を含有するものだが、各岩石粒の含有量は少ない。
- Dタイプ：Bタイプに繊維を含有するものだが、角閃石粒の含有量は少ない。
- E類：結晶片岩の礫や乳白色の石英の礫・粗砂を多量に含む。
- Fタイプ：Eタイプに繊維を含有するもの。
- Gタイプ：Bタイプに類似するが角閃石をほとんど含まず、多量の白色安山岩礫・粗砂と少量の石英粗砂を含む。
- Hタイプ：Gタイプに繊維を含有するもの。
- Iタイプ：多量の乳白色石英粗砂と微量の透明石英を含む。
- Jタイプ：Iタイプに繊維を含有するもの。

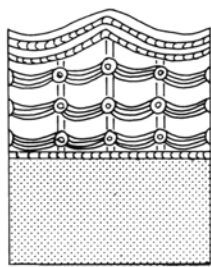
II 調査の結果



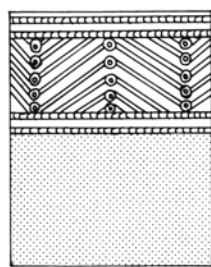
(諸磯 a 式1a類)



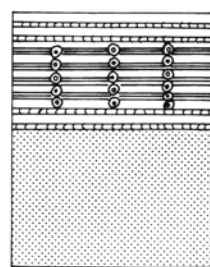
(諸磯 a 式1b類)



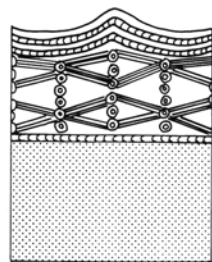
(諸磯 a 式1c類)



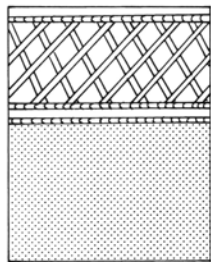
(諸磯 a 式1d類)



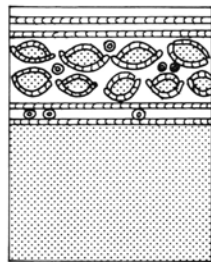
(諸磯 a 式1e類)



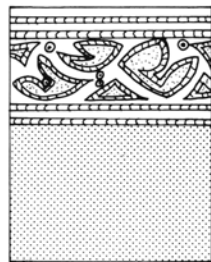
(諸磯 a 式1f類)



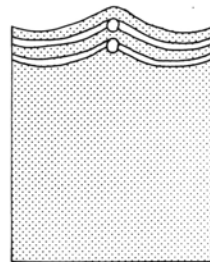
(諸磯 a 式2類)



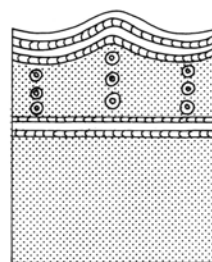
(諸磯 a 式3a類)



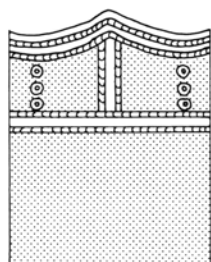
(諸磯 a 式3b類)



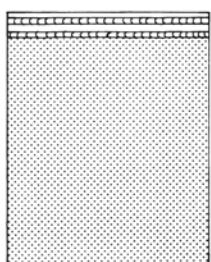
(諸磯 a 式4類)



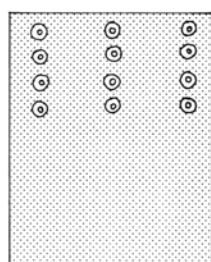
(諸磯 a 式5a類)



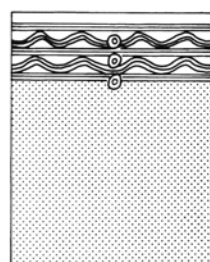
(諸磯 a 式5b類)



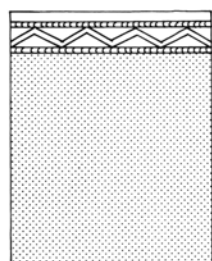
(諸磯 a 式6類)



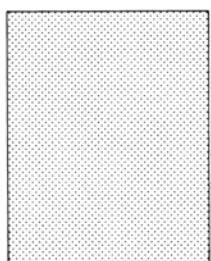
(諸磯 a 式7類)



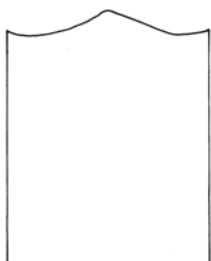
(諸磯 a 式8a類)



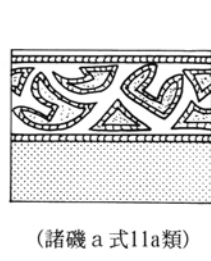
(諸磯 a 式8b類)



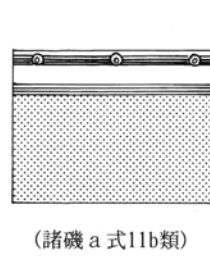
(諸磯 a 式9類)



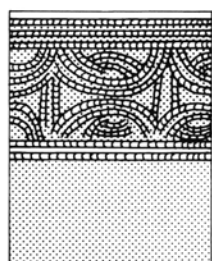
(諸磯 a 式10類)



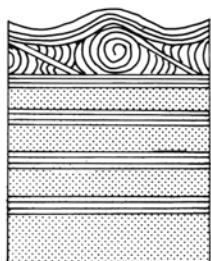
(諸磯 a 式11a類)



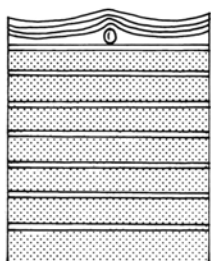
(諸磯 a 式11b類)



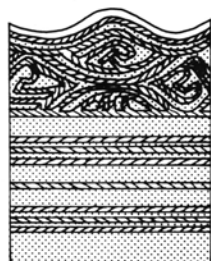
(諸磯 b 式1類)



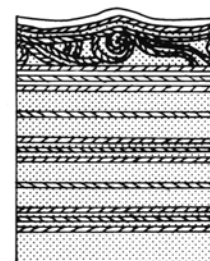
(諸磯 b 式2a類)



(諸磯 b 式2b類)

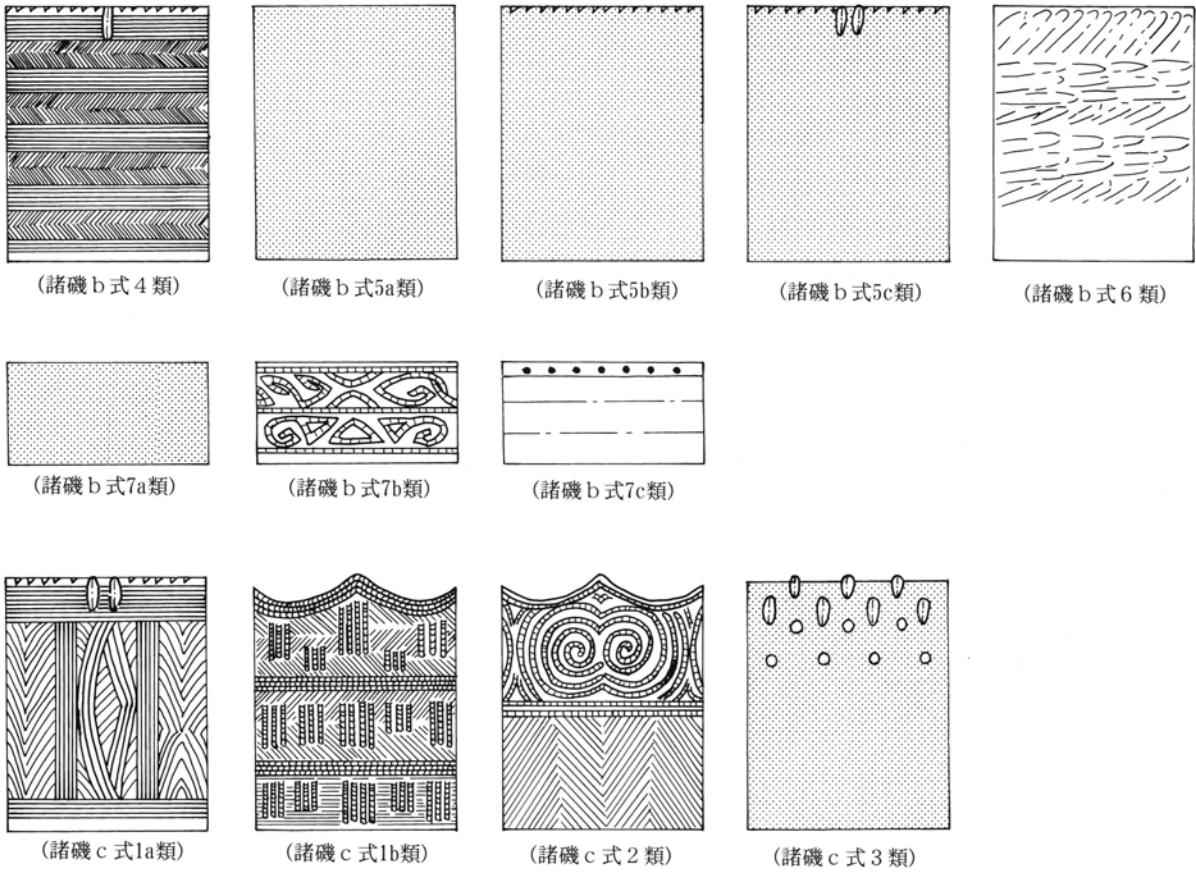


(諸磯 b 式3a類)



(諸磯 b 式3b類)

第303図 前期土器型式の分類模式図(2)



第304図 前期土器型式の分類模式図(3)

■縄文原体の分類

遺物観察表における縄文原体の分類番号は、下記の通りの内容を表す。

- 1. 無節斜縄文 a = L b = R
- 2. 単節斜縄文 a = L R b = R L
- 3. 複節斜縄文 a = L R L b = R L R
- 4. 0段多条

$$\begin{array}{ccc}
 a = R \left\{ \begin{array}{l} L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \\ r \\ r \end{array} \right. \\ L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \end{array} \right. \end{array} \right. &
 b = L \left\{ \begin{array}{l} R \left\{ \begin{array}{l} l \\ l \\ l \\ l \end{array} \right. \\ R \left\{ \begin{array}{l} l \\ l \end{array} \right. \end{array} \right. &
 c = R \left\{ \begin{array}{l} L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \\ r \\ r \\ r \end{array} \right. \\ L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \\ r \end{array} \right. \end{array} \right. &
 d = L \left\{ \begin{array}{l} R \left\{ \begin{array}{l} l \\ l \\ l \\ l \end{array} \right. \\ R \left\{ \begin{array}{l} l \\ l \end{array} \right. \end{array} \right.
 \end{array}$$

- 5. 直前段多条 (1段多条)

$$a = L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \\ R \end{array} \right. \quad b = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \\ L \end{array} \right.$$

- 6. 直前段反撚り

$$a = L \left\{ \begin{array}{l} L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \end{array} \right. \\ L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \end{array} \right. \end{array} \right.$$

II 調査の結果

7. 附加条第1種

$$a = L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} + R \right. \quad b = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} + L \right. \quad c = L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} + L \right. \quad d = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} + R \right.$$

$$e = L \left\{ \begin{array}{l} R \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 1 \\ 1 \\ 1 \end{array} \right. + R \\ R \left\{ \begin{array}{l} 1 \\ 1 \end{array} \right. \end{array} \right. \quad i = R \left\{ \begin{array}{l} L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \\ R \end{array} + R \\ L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} \right. \end{array} \right. \quad j = R \left\{ \begin{array}{l} L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \\ r \end{array} + L \\ L \left\{ \begin{array}{l} r \\ r \end{array} \right. \end{array} \right.$$

$$f = L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} + r \right. \quad g = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} + 1 \right. \quad k = L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} + 1 \right. \quad l = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} + r \right.$$

8. 附加条第2種

$$a = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} + R R \right. \quad b = L + L \quad c = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} + R \right.$$

9. 単軸絡条体第1類 a = L 1条 b = R 1条 c = L 2条 d = R 2条

10. 結 節 a = L b = R c = L L d = R R

11. 結束第1種 a = R L + L R b = L + R

12. 末端の結縛 a = 他条結縛 L b = 他条結縛 R c = 自条結縛 L d = 自条結縛 R

13. 単軸絡条体第3類 a = R

14. 直前段合然り

$$a = R \left\{ \begin{array}{l} L \left\{ \begin{array}{l} R \\ R \end{array} \\ R \left\{ \begin{array}{l} L \\ L \end{array} \right. \end{array} \right. \quad b = R \left\{ \begin{array}{l} L \\ R \end{array} \right.$$

15. 単軸絡条体第5類 a = L L b = R R

16. 側面環付 (ループ) a = L

17. 判読不能

18. 縄文無施文

■各種石器の分類

〈石 鏃〉

全体形状の分類

- 1 類—基部が平坦な平基無茎鏃。
- 2 類—基部に僅かな抉りをもつ凹基無茎鏃。
- 3 類—基部に鍬形鏃的な深い∩状の抉りをもつ凹基無茎鏃。
- 4 類—基部に深い∧状の抉りをもつ凹基無茎鏃。
- 5 類—基部が円弧状の円基鏃または未製品。
- 6 類—基部がほぼ平坦な平基有茎鏃。
- 7 類—基部が突出する凸基有茎鏃。

〈削器（加工・使用痕のある剥片）〉

全体形状の分類

- 1 類—円形または縦位楕円形状のもの。
- 2 類—半月形または横位楕円形状のもの。
- 3 類—台形および横位長方形形状のもの。
- 4 類—三角形形状のもの。
- 5 類—逆三角形形状のもの。
- 6 類—縦位長方形形状のもの。

加工・使用部位の分類

- A 類—下端に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- B 類—片側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- C 類—両側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- D 類—下端と片側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- E 類—下端と両側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- F 類—全周に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- G 類—上端に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- H 類—上端と両側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- I 類—上端と片側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- J 類—上端と下端に加工痕あるいは使用痕をもつ。
- K 類—上・下端と片側縁に加工痕あるいは使用痕をもつ。

〈打製石斧〉

全体形状の分類

- 1 類—基部幅と刃部幅との比が1:1.5未満の短冊形。
- 2 類—基部幅と刃部幅との比が1:1.5以上の撥形。
- 3 類—基部幅と刃部幅との比が1:1.5以上で、両側縁が緩く湾曲する撥形。
- 4 類—体部中位の抉りが浅い分銅形。
- 5 類—体部中位の抉りが深いノッチ状となる分銅形。

刃部形状の分類

- A 類—円弧状のもの（円刃）。
- B 類—平縁状のもの（直刃）。
- C 類—左側または右側に傾斜するもの（偏刃）。

素材の分類

- 1 類—表裏両面に剥離面で構成されるもの。
- 2 類—片面に原礫面を残すもの。
- 3 類—表裏両面に原礫面を残すもの。

残存状態の分類

- a 類—完形。
- b 類—基部を欠損するもの（上部1/3を欠損）。
- c 類—基部～体部中位を欠損するもの（上部1/2を欠損）。
- d 類—刃部のみが残存するもの（上部2/3を欠損）。

- e 類—刃部を欠損するもの（下部1/3を欠損）。
- f 類—刃部～体部中位を欠損するもの（下部1/2を欠損）。
- g 類—基部のみが残存するもの（下部2/3を欠損）。
- h 類—左・右側縁部の片側を欠損するもの。
- i 類—小破片のため部位不明なもの。
- j 類—基部と刃部を欠損するもの。

〈三角錐形石器〉

加工状態の分類

- 1 類—礫面を残さずに全面加工されるもの。
- 2 類—1 側面に礫面を残すもの。
- 3 類—2 側面に礫面を残すもの。

残存状態の分類（打製石斧の分類に同じ）

〈スタンプ形石器〉

形態と加工状態の分類

- 1 類—側縁部に加工を施さないもの。
- 2 類—片側縁部にのみ加工を施すもの。
- 3 類—両側縁部に加工を施すもの。

凹穴・敲打痕・磨耗面の分類（磨石類の分類に同じ）

〈特殊磨石〉

機能部位による分類

- A 類—一稜部に機能部をもつもの。
- B 類—二稜部に機能部をもつもの。
- C 類—三稜部に機能部をもつもの。

凹穴・敲打痕・磨耗面の分類（磨石類の分類に同じ）

〈凹石・磨石・敲石類〉

形態分類

- 1 類—楕円形状のもの。
- 2 類—円形状のもの。
- 3 類—不定形状のもの。

凹穴の分類

- A 類—両面に1個の凹み穴をもつ。
- B 類—両面に2個以上の凹み穴をもつ。
- C 類—片面に1個の凹み穴をもつ。
- D 類—片面に2個以上の凹み穴をもつ。
- E 類—片面に1個、他片面に2個以上の凹み穴をもつ。

敲打痕の部位による分類

- A 類—両面の小口に敲打痕をもつもの。
- B 類—片面の小口に敲打痕をもつもの。
- C 類—縁辺部に敲打痕をもつもの。
- D 類—片面の小口と縁辺部に敲打痕をもつもの。

磨耗痕の部位による分類

- A 類—両面に研磨痕をもつもの。
- B 類—片面に研磨痕をもつもの。
- C 類—周縁部に研磨痕をもつもの。
- D 類—両面と周縁部に研磨痕をもつもの。
- E 類—片面と周縁部に研磨痕をもつもの。

〈磨製石斧〉

全体形状の分類

- 1 類—乳棒状のもの。
- 2 類—一定角状のもの。

残存状態の分類（打製石斧の分類に同じ）

II 調査の結果

石	1 類	2 類	3 類	打製	1 類	2 類	3 類	4 類			
	4 類	5 類	6 類		5 類	A 類	B 類	C 類			
	7 類				刃部形状	a 類	b 類	c 類	d 類		
	鏃	1 類	2 類		3 類	石斧	残存状態	e 類	f 類	g 類	h 類
		4 類	5 類		6 類			i 類	j 類		
A 類		B 類	C 類	破片							
D 類		E 類	F 類								
G 類		H 類	I 類								
J 類		K 類									
削器 (加工・使用痕のある剥片)		1 類	2 類	3 類	三角錐形石器		1 類	2 類	3 類		
							1 類	2 類	3 類		
							1 類	2 類	3 類		
凹石・磨石・敲石		1 類	2 類	3 類	スタンプ形石器		1 類	2 類	3 類		
							1 類	2 類	3 類		
				1 類		2 類	3 類				
特殊磨石				特殊磨石	1 類	2 類	3 類				
					1 類	2 類	3 類				
					1 類	2 類	3 類				

第305図 各種石器の分類模式図

《白井北中道II遺跡の遺物観察一覽》

〈遺構出土の土器〉

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形		口縁形態		部	位	大きさ (cm)	
						深鉢	浅鉢	平縁	波状			口縁	底径
30	II区	VI	諸磯b式2b類	2b	B	○				○			
31	II区	VII	諸磯b式2b類	1a	B	○				○			
32	II区	VIIa	諸磯b式2b類	2b	B	○				○			
33	II区	VII	諸磯b式2b類	1a	B	○				○			
34	II区	VI	諸磯b式2b類	18	B	○				○			
35	II区	VIIa	諸磯b式2b類	18	B	○				○			
36	II区	VII	諸磯b式2b類	2b	B	○				○			
37	II区	VII	諸磯b式2b類	2a	B	○				○			
38	II区	VII	諸磯b式4類	1a	B	○		○		1/3	1/3	(30)	
39	II区	VI	諸磯b式4類	18	B	○		○		1/3	1/3	(27)	
40	II区	VI	諸磯b式4類	18	B	○		○		1/3	1/3	(40)	
41	II区	VII	諸磯b式4類	1a	B	○		○		○			
42	II区	VII	諸磯b式4類	1a	B	○		○		1/5			
43A	II区	VIIa	諸磯b式4類	1a	B	○		○		○			(9.6)
43B	II区	VIIa	諸磯b式4類	1a	B	○		○		○			
44	II区	VI	諸磯b式4類	18	B	○		○		○			
45	II区	VI	諸磯b式2b類	2a	A	○		○		○			
46	II区	VII	諸磯b式4類	18	B	○		○		○			
47	II区	VII	諸磯b式	1a	B	○		○		○			(7)
48	RT97	VII	諸磯b式6a類	2b	B	○		○		1/5			(18)
49	II区	VI	諸磯b式6a類	1a	B	○		○		○	1/5		(34)
50	II区	VII	諸磯b式6a類	1a	B	○		○		○	1/3		
51	II区	VII	諸磯b式6a類	1a	B	○		○		○	1/4	1/4	(29)
52	II区	VII	諸磯b式6a類	2b	B	○		○		○			
53	II区	VI	諸磯b式6a類	2a+b	B	○		○		○			
54	II区	VII	諸磯b式6a類	4a	B	○		○		○			
55	II区	VI	諸磯b式6a類	2b	B	○		○		○			
56	不明	不明	諸磯b式6b類	1a	B	○		○		○			
57	II区	VII	諸磯b式6b類	1a	B	○		○		○			
58	II区	VIIa	諸磯b式	1a	B	○		○		○			(13)
59	II区	VII	諸磯b式	1a	B	○		○		○			(12.6)
60	II区	VII	諸磯b式	2b	B	○		○		○			(9)
61	II区	VI	諸磯b式	2b	B	○		○		○			(9.6)
62	II区	VII	諸磯b式	18	B	○		○		○			(6)
62	II区	VII	諸磯b式	18	B	○		○		○			(6)
63	不明	不明	諸磯b式	1a	B	○		○		○			
64	RX0	不明	諸磯b式	2b	B	○		○		○			
65	II区	VII	諸磯b式	1a	B	○		○		○			

番号	出土状態 (cm)	分類	細文	胎土	器形		口縁形態		部	位	大きさ (cm)		
					深鉢	浅鉢	平縁	波状			口縁	底径	口径
15	例木-1	埋没土中	諸磯b式5c類	11a	B	○				○			

〈遺物包含層出土の土器〉

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形		口縁形態		部	位	大きさ (cm)	
						深鉢	浅鉢	平縁	波状			口縁	底径
1	SF16	不明	稲荷台式	9b	B	○				○			
2	II区	不明	早期条痕文	18	B	○				○			
3	SF15	不明	有尾式	2a+b	D	○				○			
4	II区	VIIIb	有尾式2b類	18	C	○				○			
5	II区	VIIIb	有尾式5類	2a+b	C	○				○			
6	II区	VII	諸磯b式1類	18	B	○				○			
7	SD11	不明	諸磯a式	2b	B	○				○			
8	II区	VI	諸磯b式2類	2b	B	○				○			
9	II区	VII	諸磯b式2a類	18	B	○				○			
10	II区	VIIa	諸磯b式3a類	2b	G	○				○			
11	RX9	不明	諸磯b式3a類	2b	B	○				○			
12	II区	VI	諸磯b式2b類	1a	B	○				○	1/3		(8)
13	II区	VII	諸磯b式2b類	1a	B	○		○		○	1/5		(31)
14	II区	VI	諸磯b式2b類	1a	B	○				○	1/4		
15	II区	VII	諸磯b式2b類	2b	B	○		○		1/3	1/3		(40)
16	II区	VIIa	諸磯b式2b類	18	B	○		○		○			
17	II区	VIIIb	諸磯b式2b類	18	B	○		○		○			
18	II区	VII	諸磯b式2b類	18	B	○		○		1/5			(19)
19	II区	VII	諸磯b式2b類	18	B	○		○		1/4			(22)
20	II区	VII	諸磯b式2b類	2b	B	○		○		○			
21	II区	VIIa	諸磯b式2b類	18	B	○		○		○			
22	II区	VII	諸磯b式2b類	18	B	○		○		○			
23	II区	VII	諸磯b式2b類	2b	B	○		○		○			
24	II区	不明	諸磯b式2b類	2b	B	○		○		○			
25	II区	VI	諸磯b式2b類	18	B	○		○		○			
26	II区	VII	諸磯b式2b類	2b	B	○		○		○			
27	II区	VII	諸磯b式2b類	1a	B	○		○		○			
28	II区	VIIa	諸磯b式2b類	1a	B	○		○		○			
29	II区	VI	諸磯b式2b類	1a	B	○		○		○			

II 調査の結果

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態	部	位	大きさ (cm)
						深鉢	平縁	口縁	胴部	底径
						浅鉢	波状			高さ
107	II区	VIIa	勝坂2式	18	E	○	○	○		
108	II区	VI	加曾利E3式	1a	B	○		○		
109	II区	VII	加曾利E3式	2b	B	○		○		
110	II区	VI	堀之内1式	18	B	○			1/3	(11.4)
111	II区	VI	高井東式	18	B	○		○		

〈遺構出土の石器〉

削器 (加工痕)

番号	出土状態 (cm)	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)	
						長さ	幅
01坑-1	埋没土中	2I	完	64	252	8.1	10.1
15倒木-2	埋没土中	3A	完	65	132	6.3	9.2
						2.2	2.2

凹石・磨石・敲石類

番号	出土状態 (cm)	分類	凹穴	打痕	磨面	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
									形	1	E
15倒木-3	埋没土中	1	E	C	—	完	5	360	7.9	6.7	5

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態	部	位	大きさ (cm)
						深鉢	平縁	口縁	胴部	底径
						浅鉢	波状			高さ
66	II区	VI	諸磯b式c類	18	I	○		2/3		
67	II区	VIIIb	諸磯c式1a類	18	B	○		1/4		
68	II区	VI	諸磯c式1a類	18	A	○	○			
69	II区	VII	諸磯c式1a類	18	B	○	○	1/2		(23)
70	II区	VI	諸磯c式1a類	18	A	○			○	
71	II区	VI	諸磯c式1a類	18	B	○	○			
72	II区	VII	諸磯c式1a類	18	B	○	○			
73	II区	VII	諸磯c式1a類	18	E	○	○			
74	II区	VII	諸磯c式1a類	18	B	○	○			
75	II区	VIIIa	諸磯c式1a類	18	B	○	○			
76	II区	VI	諸磯c式1a類	18	B	○	○			
77	II区	VII	諸磯b式2類	18	G	○	○			
78	II区	VIIIb	諸磯c式1a類	18	B	○			○	
79	II区	VII	諸磯c式1a類	1a	B	○			○	
80	II区	VII	諸磯c式1a類	18	A	○			○	
81	II区	VIIIa	諸磯c式1a類	1a	B	○			○	
82	II区	VII	諸磯c式1a類	18	B	○	○		○	
83	II区	VI	諸磯c式1a類	18	B	○	○		○	
84	II区	VII	諸磯c式1a類	18	B	○			○	
85	II区	VI	諸磯c式1a類	18	B	○			○	
86	RT99	VIIIa	諸磯c式1a類	18	B	○			○	
87	II区	VIIIa	諸磯c式1a類	18	B	○			○	(29)
88	II区	VII	諸磯c式1a類	18	B	○	○		○	
89	II区	VIIIa	諸磯c式1a類	18	B	○	○		○	
90	RS94	VI	諸磯c式1a類	18	A	○			○	
91	II区	VI	諸磯c式1a類	18	B	○	○		○	
92	II区	VI	諸磯c式1a類	18	B	○			○	
93	II区	VI	諸磯c式1b類	18	G	○			1/4	(14)
94	II区	VI	諸磯c式2類	18	B	○	○		○	
95	II区	VII	諸磯b式5c類	1a	B	○	○		○	
96	II区	VII	諸磯b式5c類	2b	B	○	○	1/3		(21.6)
97	II区	VI	諸磯b式5b類	1a	B	○	○		○	
98	II区	VII	諸磯b式5c類	2b	B	○			○	
99	II区	VII	諸磯b式2c類	11a	B	○			○	
100	II区	VII	諸磯c式3類	2b	B	○	○		○	
101	II区	VII	諸磯b式	11a	A	○			○	
102	II区	VII	諸磯b式	11a	B	○			1/5	(12)
103	II区	VIIIa	諸磯b式	11a	B	○			○	
104	II区	VI	諸磯b式	11a	B	○			○	
105	RY5	不明	興津式	1a	B	○			○	
106	II区	VII	興津式	18	B	○			○	

2. 縄文時代

〈遺物包含層出土の石器〉

石 鏃

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
1	II区	VIIIa	3	完	66	0.8	2.1	1.7	0.3
2	II区	VIIIa	3	完	66	0.9	2.2	1.4	0.3
3	II区	VII	4	完	66	1.1	3.0	1.7	0.2
4	II区	VIIIa	2	完	65	0.7	2.3	1.4	0.3
5	II区	VII	2	欠	67	(3.7)	(3.6)	1.9	0.5
6	II区	VIIIb	2	完	65	1.5	2.5	2.0	0.3
7	II区	VIIIa	2	完	65	0.9	2.0	1.5	0.3
8	II区	VI	6	欠	64	(1.1)	(2.7)	(1.3)	(0.4)
9	II区	VIIIb	7	完	65	0.9	2.4	1.6	0.3
10	II区	VI	7	欠	17	(1.9)	(3.6)	1.6	0.5
11	II区	VIIIa	5	完	65	0.6	1.8	0.8	0.4
12	RU97	VI	5	欠	65	(1)	(3.3)	(1.1)	0.3
13	RY102	VI	不明	欠	65	(0.3)	(1.5)	(1.1)	(0.2)

石 槍

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
14	RG75	VIIIa	—	欠	64	(6)	(3.8)	(1.8)	(0.7)

石 鏃

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
15	RT99	VI	—	完	64	3	3.8	1.6	0.5
16	RR93	VII	—	完	64	2	2.7	1.5	0.6
17	II区	VI	—	完	65	1.6	2.7	1.3	0.5

石 匙

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
18	RI81	VII	横	欠	64	(6)	(3.3)	(2.9)	0.5
19	II区	VII	縦	欠	64	(13)	(7.7)	(1.9)	(1.1)
20	II区	VI	縦	完	64	19	7.5	3.0	0.7
21	II区	VIIIa	縦	完	16	9	5.9	2.2	0.6

削器 1 (加工痕)

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
22	RS97	VI	1F	完	65	4	2.3	1.9	0.8
23	II区	VI	1F	完	65	5	2.2	2.1	1.0
24	RX109	VI	1J	欠	65	(4)	2.3	(1.9)	1.0
25	SF115	VI	1H	完	64	6	4.1	2.7	0.5
26	II区	VI	1D	完	64	250	10.7	8.5	2.0
27	II区	不明	2	完	64	275	8.3	12.0	2.3
28	II区	VII	1	完	64	59	7.3	5.0	1.1
29	II区	VII	1F	完	64	75	5.6	6.0	2.0
30	II区	VIIIa	2J	完	16	12	2.8	6.0	0.7
31	II区	VI	2	完	64	96	5.5	11.2	1.7
32	II区	VIIIa	2K	完	64	26	4.4	7.4	0.9
33	II区	VI	2J	完	27	99	5.0	9.8	1.6
34	II区	VII	2J	完	64	27	3.6	7.6	1.1
35	II区	VI	2J	完	64	4	2.5	3.2	0.4
36	RN90	VIIIa	2A	完	64	4	2.1	5.0	0.3
37	II区	VI	2J	完	64	371	11.0	13.4	1.8
38	II区	VII	2F	完	64	40	3.7	6.6	1.2
39	II区	VI	1	完	64	54	4.3	6.9	1.8
40	II区	VII	2F	完	64	118	6.5	9.8	1.5
41	II区	VI	6G	完	64	9	3.9	4.0	0.5
42	II区	VI	不明	完	17	27	4.3	4.5	1.3
43	II区	VIIIa	1F	完	64	70	5.9	7.2	1.3
44	II区	VII	2F	完	64	53	4.7	10.7	1.2
45	SE112	VI	1I	完	64	97	5.9	7.1	1.8
46	II区	VI	2G	完	64	101	5.5	11.9	1.5
47	II区	VI	1F	完	64	68	6.0	6.1	1.3
48	II区	VI	2F	完	64	282	7.7	12.0	2.5
49	II区	VI	6J	完	67	45	4.8	6.2	1.2
50	II区	VIIIa	2I	完	17	35	3.8	5.9	1.4
51	II区	VII	2K	完	64	49	3.8	7.3	1.6

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
52	II区	VI	3F	完	64	97	6.0	8.4	1.8
53	RY109	VI	2B	完	64	52	5.8	6.3	1.7
54	II区	VII	2J	完	64	43	5.3	7.7	1.2
55	II区	VII	2C	完	64	58	4.5	7.6	1.2
56	II区	VIIIa	6K	完	64	107	5.9	6.9	2.0
57	SA108	VI	3B	完	64	111	7.0	7.9	1.7
58	II区	VI	6I	完	64	236	8.7	8.8	2.7
59	II区	VII	6	完	27	191	9.3	9.5	1.6
60	II区	VII	3	完	64	294	8.4	11.0	2.8
61	II区	不明	4	完	64	77	6.3	11.6	1.1
62	II区	VI	4D	完	64	167	7.7	11.8	2.1
63	RT99	VI	不明	欠	67	(2)	1.6	(2.7)	0.3
64	RX100	VII	4	完	64	5	1.9	3.9	0.7
65	II区	VI	2F	完	64	17	3.1	7.3	1.7
66	II区	VII	4A	完	64	18	3.9	5.0	1.2
67	SD111	VI	3C	欠	67	(28)	5.2	(4.4)	1.2
68	II区	VII	3F	完	64	23	4.5	5.1	0.8
69	II区	VI	4F	完	64	12	5.8	3.5	0.4
70	II区	VII	2J	完	64	168	5.4	13.8	2.7
71	II区	VI	2J	完	64	119	6.5	7.7	2.1
72	II区	VI	2A	完	64	185	6.4	10.2	2.4
73	II区	VI	2K	完	64	118	5.5	9.7	2.2
74	II区	VII	4D	完	64	46	4.8	9.3	1.1
75	II区	VI	4F	完	64	88	8.0	7.7	1.1
76	II区	VIIIa	2J	完	64	47	6.0	7.9	1.3
77	II区	VI	4I	完	5	55	5.7	7.9	1.3
78	II区	VII	6D	完	64	98	9.1	6.0	1.7
79	II区	VII	2I	完	64	34	5.8	7.4	1.0
80	II区	VI	5K	完	64	58	9.1	7.5	1.3
81	II区	VI	5C	完	64	32	8.7	5.0	0.8
82	RU99	VI	1F	完	64	14	6.3	3.1	0.7
83	II区	VI	6F	完	64	52	7.7	4.8	1.2
84	RU97	VI	4D	完	64	14	3.9	2.9	0.8
85	II区	VIIIa	6H	完	64	23	4.6	3.1	1.2
86	II区	VII	1I	完	64	19	5.4	3.4	1.0
87	II区	VIIIa	5H	完	64	91	9.8	3.6	2.7
88	II区	VI	6K	完	64	183	12.7	6.0	1.5

削器 2 (使用痕)

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
89	II区	VII	1B	完	6	177	11.2	7.1	1.4
90	II区	VII	2A	完	65	1.3	1.4	2.8	0.4
91	II区	VII	2A	完	64	198	6.0	10.2	2.9
92	II区	VIIIb	2A	完	64	79	5.6	11.5	1.5
93	II区	VI	2G	完	65	3	1.3	3.8	0.8
94	II区	VI	2D	完	16	19	3.6	5.2	0.8
95	II区	VII	2A	完	64	59	4.8	5.8	1.5
96	II区	VIIIa	6B	完	64	54	5.8	7.6	1.2
97	II区	VII	3B	完	64	77	6.2	5.8	2.2
98	II区	VII	2A	完	64	9	2.6	5.0	0.7
99	RJ79	VIIIa	2	完	64	4	2.2	5.4	0.5
100	II区	VII	2B	完	64	8	5.2	4.9	0.5
101	II区	VII	4	完	64	12	4.2	4.2	0.7
102	II区	VIIIb	3A	完	64	19	4.2	4.6	0.7
103	II区	VI	4B	完	65	3	2.4	2.3	0.5
104	II区	VI	2A	完	65	4	1.7	2.9	0.8
105	II区	VII	4A	完	65	5	1.8	3.3	1.1
106	II区	VII	不明	完	64	90	10.3	5.3	1.7
107	RV97	VI	5C	完	64	19	6.2	4.2	0.7
108	II区	VI	1B	完	65	9	4.5	2.1	0.9
109	II区	VI	5	完	64	62	4.6	6.6	2.1
110	II区	VIIIa	5B	完	67	22	4.9	4.3	1.3
111	RU101	VII	1D	欠	67	(2)	3.0	(1.5)	(0.3)
112	RY109	VI	6B	完	64	136	9.8	4.8	2.2
113	II区	VIIIb	1J	完	64	45	5.7	4.6	1.4
114	II区	VI	6B	完	64	42	6.9	4.8	1.1
115	RO87	VIIIa	6B	完	65	1	2.0	1.2	0.5
116	II区	VIIIb	6D	完	64	34	5.7	4.5	1.1

II 調査の結果

加工石器

番号	出土位置	層位	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
117	II区	不明	欠	64	(18)	(2.8)	(4.6)	(1.3)
118	RT97	VI	完	17	14	2.8	2.9	1.6
119	II区	VI	欠	17	(8)	(3.0)	(4.5)	(0.8)
120	II区	VI	完	64	113	8.0	4.3	3.1
121	II区	VI	完	64	553	11.4	10.1	4.5
122	II区	VIIIb	完	64	375	11.8	5.8	3.4
123	II区	VI	完	19	360	7.7	11.2	2.6
124	II区	VI	完	64	515	7.9	13.0	5.8
125	II区	VI	完	16	745	10.3	11.9	4.8
126	II区	VI	完	4	765	9.4	13.4	4.5
127	II区	VI	完	64	244	9.9	7.4	2.7
128	II区	VIIIa	完	64	1409	9.4	19.6	6.8
129	II区	VIIIb	完	64	375	7.1	17.9	3.0
130	RQ89	VI	完	64	16	2.8	3.6	1.6
131	II区	VI	完	64	162	6.5	7.4	2.3

打製石斧

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)			
			形状	刃部	材	残存				長さ	基部	刃部	厚さ
132	II区	VII	1	A	b	1	完	64	69	10.8	3.0	3.8	1.3
133	II区	VII	1	A	a	1	完	64	90	11.1	3.1	4.5	1.5
134	II区	VI	1	A	a	1	完	64	61	10.1	2.9	4.2	0.9
135	II区	VI	1	不明	a	5	欠	4	(71)	(8.7)	3.4	不明	1.7
136	II区	VII	1	A	a	1	完	64	45	8.0	2.9	3.9	1.1
137	II区	VII	1	A	a	1	完	64	62	9.5	3.5	4.1	0.8
138	II区	VII	1	A	b	1	完	64	89	11.2	2.7	3.9	1.7
139	II区	VII	1	B	b	1	完	64	138	11.0	3.3	4.6	2.1
140	II区	VI	3	B	a	1	完	64	62	9.6	4.0	4.5	1.5
141	II区	VII	1	C	a	1	完	6	104	11.0	3.0	4.5	1.9
142	II区	VII	1	C	a	1	完	4	185	13.3	3.5	4.3	2.6
143	II区	VI	1	B	a	1	完	48	143	14.2	3.2	5.1	1.8
144	II区	VII	3	C	a	1	完	64	119	11.3	3.8	4.9	2.3
145	II区	VII	1	A	b	1	完	64	73	9.6	3.1	4.1	1.4
146	II区	VII	1	C	b	1	完	64	68	9.5	2.7	3.5	1.3
147	II区	VII	1	C	b	1	完	64	77	9.2	3.6	3.4	1.4
148	RY108	VI	1	B	a	1	完	64	84	9.5	3.6	3.4	1.6
149	II区	VI	1	A	c	1	完	17	153	9.1	5.2	5.7	2.0
150	II区	VII	1	B	a	1	完	64	203	12.1	2.0	3.3	2.7
151	II区	VI	1	A	b	1	完	64	337	11.5	4.3	5.3	3.3
152	II区	VI	2	A	b	1	完	64	38	7.0	2.5	3.9	1.0
153	II区	VI	不明	B	a	4	欠	64	(41)	(6.4)	不明	5.1	(0.9)
154	II区	VI	不明	A	a	3	欠	64	(61)	(5.6)	不明	4.5	(1.8)
155	II区	VII	不明	A	a	3	欠	64	(50)	(7.7)	不明	4.8	(0.9)
156	II区	VI	不明	B	b	3	欠	64	(72)	(7.4)	不明	5.4	(1.4)
157	II区	VII	1	C	a	2	欠	64	(100)	(8.6)	不明	4.7	1.6
158	II区	VI	1	A	a	2	欠	64	(73)	(7.4)	不明	4.0	(2.1)
159	II区	VII	不明	A	b	3	欠	6	(180)	(8.3)	不明	6.4	(2.2)
160	II区	VI	1	A	b	2	欠	16	(158)	(10.6)	不明	(5.0)	2.1
161	II区	VII	1	A	b	2	欠	6	(382)	(13.5)	不明	6.1	(3.0)
162	II区	VII	3	A	a	1	完	64	134	12.8	3.7	4.0	1.7
163	II区	VI	3	A	a	2	欠	4	(136)	(10.3)	不明	5.1	2.0
164	II区	VI	1	不明	b	10	欠	64	(66)	(6.6)	不明	不明	(1.9)
165	SE116	VI	1	不明	b	6	欠	4	(52)	(6.2)	3.0	不明	(1.5)
166	II区	VI	1	不明	a	6	欠	64	(41)	(5.7)	3.3	不明	(1.7)
167	II区	VI	2	C	a	1	完	64	66	9.3	3.0	4.8	1.2
168	II区	VII	2	B	b	1	完	64	94	10.2	2.2	4.3	1.5
169	II区	VI	1	不明	a	5	欠	64	(53)	(7.3)	3.7	不明	(1.3)
170	RY101	VI	1	不明	a	6	欠	17	(57)	(5.8)	3.9	不明	(1.6)
171	II区	VI	1	不明	b	5	欠	64	(67)	(6.9)	4.0	不明	(2.0)
172	II区	VII	2	A	a	1	完	64	75	9.3	3.2	4.9	1.1
173	II区	VII	2	B	b	1	完	6	114	10.9	2.4	4.1	1.7
174	II区	VII	1	不明	b	6	欠	4	(58)	(7.0)	4.6	不明	(1.7)
175	II区	VII	1	不明	a	6	欠	64	(82)	(9.1)	4.0	不明	(1.0)
176	SC113	VI	2	A	a	1	完	64	54	7.3	2.5	4.4	1.2
177	II区	VII	2	B	a	1	完	50	54	8.4	2.4	4.5	0.9
178	II区	VIIIa	2	B	b	1	完	64	131	9.0	3.0	5.4	2.4
179	II区	VI	3	A	b	1	完	6	120	12.4	3.4	5.4	1.5
180	II区	VII	1	C	b	1	完	64	275	15.3	4.9	6.8	2.5
181	II区	VII	2	A	b	1	完	6	194	14.8	3.4	5.7	1.8
182	II区	VII	3	C	b	1	完	64	252	15.6	3.8	7.1	2.0
183	II区	VIIIa	1	C	b	1	完	64	178	13.0	3.8	5.7	2.1
184	II区	VI	2	1	1	1	完	64	121	9.8	3	6	2

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)			
			形状	刃部	材	残存				長さ	基部	刃部	厚さ
185	II区	VI	1	2	2	1	欠	4	325	17.3	5.4	5.5	2.4
186	II区	VI	3	1	2	5	欠	6	375	16.9	5	8.5	2.3
187	II区	VII	3	不明	2	6	欠	64	51	7	2.7	不明	1.5
188	II区	VI	2	不明	1	6	欠	64	28	7.7	2.9	不明	0.7
189	II区	VII	3	1	2	2	欠	46	69	7.7	不明	5	1.3
190	II区	VI	3	2	1	2	欠	64	74	9	不明	6	1.1
191	II区	VI	3	不明	1	5	欠	64	95	8.9	3.3	不明	2
192	II区	VI	3	3	2	3	欠	64	76	7.8	不明	5.7	1.4
193	II区	VI	3	3	1	2	欠	64	54	9.1	不明	4.8	0.9
194	II区	VII	2	不明	1	5	欠	64	28	9.7	1.1	不明	1.1
195	II区	VIIIa	3	1	1	2	欠	4	120	9.3	不明	5.8	2.2
196	II区	VII	3	不明	1	6	欠	64	59	6.2	3.3	不明	1.6
197	II区	VI	3	1	1	1	完	64	114	9	3.4	6.4	2
198	II区	不明	3	1	1	1	完	64	99	9.8	3.7	5.7	1.4
199	II区	不明	3	不明	不明	不明	完	64	117	9.2	3.5	5.7	1.8
200	II区	VII	4	2	1	1	完	50	286	13	5.7	8.4	2.1
201	II区	VIIIa	5	1	2	1	完	64	492	14.8	6.5	9.1	3.6
202	II区	VI	5	1	1	1	完	64	105	10.7	5.4	5.6	1.7
203	II区	VI	4	1	2	1	完	64	149	10.7	6.4	6.5	1.8
204	II区	VI	5	1	1	1	完	64	105	9.7	5.6	5.7	2
205	II区	VI	5	1	2	1	完	64	197	12	4.7	5.9	2
206	II区	VII	5	1	1	1	完	64	366	12.4	5.9	7.4	3
207	II区	VIIIa	5	1	2	2	完	27	533	12.6	不明	10.9	30
208	II区	VI	5	不明	2	10	欠	6	143	7.3	不明	不明	2
209	II区	不明	4	1	2	2	欠	64	82	5.1	不明	5.1	1.5
210	II区	VI	4	1	1	1	完	64	539	18.4	6.2	6.7	2.9
211	II区	VII	4	1	2	1	完	6	773	21.7	5.2	7.2	3.6
212	II区	VI	不明	不明	2	7	欠	64	99	6.3	7.9	不明	2.1
213	II区	VII	不明	不明	2	6	欠	64	188	6.7	6.5	不明	3.1
214	II区	VII	不明	2	1	4	欠	64	31	5.8	不明	5.4	0.8
215	II区	VI	不明	1	2	4	欠	64	65	4.6	不明	5.6	1.9
216	II区	VII	不明	1	2	4	欠	6	22	3.7	不明	5.5	0.9
217	II区	VI	不明	不明	1	7	欠	64	26	4.3	4	不明	1
218	II区	VI	不明	1	1	4	欠	64	38	3.7	不明	6.1	1.4
219	II区	VII	1	3	1	2	欠	64	93	6.7	不明	4.6	2.2
220	II区	VII	不明	不明	2	7	欠	50	38	4.8	3.9	不明	1.2
221	II区	VIIIb	不明	2	2	4	欠	64	56	4.5	不明	5.9	1.9
222	II区	VI	不明	不明	1	6	欠	64	25	5.4	3.5	不明	1.3
223	II区	VII	3	不明	1	6	欠	64	42	5.7	2.9	不明	1.6
224	II区	VI	不明	2	2	4	欠	4	335	7.6	不明	10.3	3.4
225	II区	VIIIa	1	不明	2	5	欠	64	120	9.4	2.5	不明	2.5

石核

番号	出土位置	層位	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
236	II区	VI	完	27	3210	15.2	19.5	9.5
237	II区	VII	完	65	4.1	2.7	1.3	1.3
238	II区	VII	完	65	9	2.8	2.3	1.4
239	II区	不明	完	5	182	6.5	5.1	4.7
240	II区	VI	完	67	245	4.6	8.7	4.5
241	II区	VII	完	64	440	7.6	9.1	4.5
242	II区	VI	完	67	1087	11.4	12.0	7.5
243	II区	VI	完	27	1810	10.8	16.5	6.6
244	II区	VI	完	64	1456	12.3	10.8	9.9
245	II区	VIIIa	完	50	953	9.1	14.0	6.5
246	II区	VIIIb	完	65	80	4.5	5.6	3.4
247	II区	VI	完	13	1337	13.0	14.0	6.9

ハンマーストーン

2. 縄文時代

スタンプ形石器

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ (cm)		
			形状	凹穴	敲打	磨面				長さ	幅	厚さ
230	II区	VIIa	1	—	—	—	完	5	593	11.9	8.9	3.8
231	II区	VIIIb	3	—	C	—	完	28	700	11.8	7.8	5.9
232	II区	VIIa	1	—	—	—	完	5	492	11.0	6.6	4.1
233	II区	VIIa	2	—	—	—	完	44	676	11.7	8.1	4.9

磨石

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ (cm)		
			形状	凹穴	敲打	磨面				長さ	幅	厚さ
248	II区	VI	2	—	C	—	完	5	381	7.1	6.2	5.5
249	II区	VI	1	—	C	B	完	34	781	10.6	8.8	4.7
250	II区	VII	2	B	C	—	完	34	379	8.6	8.1	3.6
251	II区	VI	2	—	—	B	完	50	619	10.7	8.4	4.7
252	II区	VIIa	1	B	C	—	完	5	289	10.3	7.0	2.9
253	II区	VII	2	B	C	—	完	5	612	9.6	9.5	5.1
254	II区	VI	1	C	C	A	完	5	461	10.9	7.5	3.5
255	II区	VIIIb	1	—	1	—	完	27	203	8.3	4.8	3.4
256	II区	VII	1	B	C	—	完	5	375	11.6	5.6	3.5
257	II区	VI	1	B	C	—	完	5	505	11.0	7.5	5.0
258	RV98	VI~VII	1	—	C	—	完	5	470	8.2	8.2	4.8
259	II区	VIIa	1	—	—	A	完	34	835	12.7	9.4	4.5
260	II区	VI	1	—	D	—	完	5	691	9.8	8.0	6.5
261	II区	不明	1	B	C	—	完	5	770	13.9	9.0	4.8
262	II区	VIIa	1	B	C	B	完	34	507	12.3	7.6	3.6
263	II区	VII	1	1	C	A	完	34	635	11.2	8.0	4.7
264	II区	VI	1	B	C	—	完	5	747	12.1	8.6	5.9
265	II区	VII	3	—	B	—	完	5	975	11.0	8.5	7.4
266	II区	VII	3	—	C	—	欠	5	(352)	(8.2)	(8.7)	(4.9)
267	RW105	VI	3	—	C	A	完	33	260	8.7	6.5	2.7

磨製石斧

番号	出土位置	層位	形状	残存	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ (cm)			
								長さ	基部	刃部	厚さ
226	II区	VII	2	2	欠	26	(334)	13.9	3.2	5.4	2.9
227	II区	VI	1	2	欠	26	(225)	(7.6)	不明	5.4	(3.1)
228	II区	VII	1	7	欠	14	(144)	(6.2)	不明	6.1	(2.5)
229	II区	VII	1	6	欠	26	(103)	(6.7)	不明	不明	(2.8)

多孔石

番号	出土位置	層位	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
268	II区	VIIa	完	5	4900	19.6	18.0	13.0
269	II区	VIIa	完	5	1614	13.6	10.3	8.5

装身具

番号	出土位置	層位	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
270	II区	VI	欠	42	(3)	(2.3)	(1.2)	(0.5)

2. 縄文時代

番号	出土位置	層位	分類	縄文	胎土	器形 深鉢	器形 浅鉢	口縁形態		部	大きさ (cm)	
								平縁	波状		口徑	底径
76	I区	VII	有尾式5類	2b・7f	D	○	○	○	○			
77	CO29-a	VIIa	有尾式5類	7a・b	D	○	○	○	○			
78	I区	VIIa	有尾式5類	7f・i	D	○	○	○	○			
79	DE37	不明	有尾式	1b・2a	D	○	○	○	○			
80	DJ40-a	VIIa	有尾式	1a・b	C	○	○	○	○			
81	DE35	不明	有尾式	1a・b	D	○	○	○	○			
82	I区	VII	有尾式	1a・b	C	○	○	○	○			
83	DK40-d	VIIa	有尾式	1a・b	F	○	○	○	○			
84	DC35	不明	有尾式	1a・2a	D	○	○	○	○			(9)
85	CR31-a	VIIa	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○	1/4	1/4	9.4
86	DE39	不明	有尾式	2b・4b	D	○	○	○	○			
87	DA41	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
88	BY20	VIIa	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
89	DA45	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
90	DL39-d	VI	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
91	CS31-a	VI	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○			
92	DE35	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
93	DL40-c	VIIa	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
94	DC37	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
95	DR41-c	VIIa	有尾式	2a・b	H	○	○	○	○			
96	DC37	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
97	DG29	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
98	AX10-b	不明	有尾式	2b	D	○	○	○	○			
99	I区	VIIa	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
100	DL39-b	VIIa	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
101	DG29	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
102	DA39	不明	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○			
103	CT55	不明	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○			
104	DE41	不明	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○			
105	CO33-a	VI~VIIa	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○			
106	DW42-d	不明	有尾式	2a・7d	D	○	○	○	○			
107	CL30-b	VII	有尾式	2a	D	○	○	○	○			
108	DM40-b	VIIa	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○			
109	DC37	不明	有尾式	2a・4b	D	○	○	○	○			
110	DK40-d	VIIa	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○			
111	DL39-c	VIIa	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○			
112	I区	VI	有尾式	4a・b	J	○	○	○	○			
113	CR31-a	VIIIb	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○	1/2		11.2
114	BK20-a	VIIa	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○			
115	I区	VIIa	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○			
116	DE37	不明	有尾式	7a・d	D	○	○	○	○			
117	DR45-d	VI	有尾式	7d	D	○	○	○	○			

番号	出土位置	層位	分類	縄文	胎土	器形 深鉢	器形 浅鉢	口縁形態		部	大きさ (cm)	
								平縁	波状		口徑	底径
35	DE37	不明	有尾式2b類	2a・b	D	○	○	○	○	1/4		
36	DL39-a	VIIa	有尾式2b類	2a・d	D	○	○	○	○			
37	DE37	不明	有尾式2c類	18	D	○	○	○	○			
38A	DE37	不明	有尾式2c類	18	D	○	○	○	○			
38B	DE37	不明	有尾式2c類	18	D	○	○	○	○			
39	I区	VII	有尾式3a類	4a・b	C	○	○	○	○	1/3	(37)	
40	I区	VII	有尾式3b類	2b	C	○	○	○	○	1/5	(39)	
41	I区	VI	有尾式5類	1a・b	C	○	○	○	○	1/2	(20)	
42	I区	VII	有尾式5類	1a・b	C	○	○	○	○			
43	CT35-a	VI	有尾式5類	1a・b	D	○	○	○	○			
44	DC37	不明	有尾式5類	1a・b	D	○	○	○	○			
45	I区	VI	有尾式5類	1a・b	D	○	○	○	○	1/3	(16)	
46	CO34-b	VII	有尾式5類	1a・b	D	○	○	○	○			
47	DK40-b	VI	有尾式5類	1a・b	C	○	○	○	○			
48	IV区	不明	有尾式5類	1a・2b	D	○	○	○	○			
49	DK40-b	VI	有尾式5類	2a・b	C	○	○	○	○			
50	CW35-a	VI	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
51	I区	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○	1/4	(12)	
52	DS41-b	VI~VIIa	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
53	CN29-c	VIIa	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
54	DE35	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
55	DE47	不明	有尾式5類	2a・b	C	○	○	○	○			
56	DC37	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
57	DC37	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
58	I区	VIIa	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
59	DC37	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
60	DC31	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
61	DC37	不明	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○	1/4	(28)	
62	DL39-d	VIIa	有尾式5類	2a・b	C	○	○	○	○			
63	BR24-a	VI	有尾式5類	2b	D	○	○	○	○			
64	DK40-d	VIIa	有尾式5類	2a・b	F	○	○	○	○			
65	I区	VII	有尾式5類	2a・b	C	○	○	○	○			
66	I区	VI	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○			
67	CN33-a	VI~VIIa	有尾式5類	4a・b	D	○	○	○	○			
68	I区	VI	有尾式5類	4a	D	○	○	○	○			
69	DC37	不明	有尾式5類	4b	D	○	○	○	○			
70	AX7-a	不明	有尾式5類	4a・b	J	○	○	○	○			(24)
71	I区	VIIa	有尾式5類	4a・b	C	○	○	○	○			
72	I区	VII	有尾式5類	4a・b	C	○	○	○	○			
73	DE37	不明	有尾式5類	7a・b	D	○	○	○	○			
74	I区	VIIa	有尾式5類	7a・b	D	○	○	○	○			
75	BP20-d	5a	有尾式5類	7d	D	○	○	○	○			

II 調査の結果

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態		部	位置	大きさ (cm)	
							平縁	波状			口径	高さ
158	CL31-d	VII	黒浜式2b類	1b	D	○		○				
159	I区	VIIa	黒浜式1b類	2a	C	○		○				
160	I区	VI	黒浜式1b類	18	D	○		○				
161	CH29-d	VI	有尾式2b類	18	D	○						
162	CS34-a	VI	黒浜式4a類	2a+b	D	○		○				
163	CX35	不明	黒浜式4a類	4a	D	○		○				
164	CR31-a	VIIIb	黒浜式4a類	2b	D	○						
165	CS34-a	VI	黒浜式4a類	4a+b	D	○		1/4	1/4			
166	CX47	不明	黒浜式4a類	2a+b	D	○						
167	DG29	不明	黒浜式4a類	2b	D	○						
168	CQ30-a	VII	黒浜式4c類	4a+b	D	○		1/6		(29)		
169	I区	VII	有尾式4類	18	C	○		○				
170	CN32-b	VIIa	黒浜式4b類	4a	H	○		1/4	1/4	(22)		
171	DC37	不明	黒浜式4c類	2a+b	D	○		○				
172	CW33-a	VI	黒浜式4c類	2a+b	D	○						
173	DN41-d	VIIa	黒浜式4c類	4a+b	D	○						
173	DN41-d	VIIa	黒浜式4c類	4a+b	D	○						
174	CL30-d	VII	黒浜式4c類	7c+d	D	○		○				
175	GR31-a	VIIa	黒浜式3b類	2a+b	D	○		○				
176	I区	VII	黒浜式3b類	2a+b	D	○		○		(30)		
177	DC35	不明	黒浜式3b類	2a+b	D	○		○				
178	DR41-c	VIIa	黒浜式3b類	2a	D	○						
179	DM40-b	VIIa	黒浜式3b類	2b	D	○		○				
180	DL40-d	VIIa	黒浜式3b類	2a	D	○		○				
181	DK40-d	VIIa	黒浜式3b類	2b	F	○		○				
182	DK40-c	VIIa	黒浜式3a類	2b	C	○		○				
183	I区	VI	黒浜式3a類	1a	C	○						
184	I区	VI	黒浜式3a類	4c	C	○		○				
185	CW34-a	VIIa	黒浜式3a類	9	D	○		1/4	1/4	(29)		
186	CS33-a	VI~VIIa	黒浜式3a類	2a	D	○		○				
187	CO33-a	VI~VIIa	黒浜式3a類	2a	D	○		1/4	1/4	(23)		
188	DE37	不明	黒浜式3a類	1d	D	○		○				
189	I区	VII	黒浜式3類	1a	C	○		○				
190	AY7-a	不明	黒浜式3類	1b	D	○		○				
191	DK40-d	VIIa	黒浜式3類	1b	C	○		○				
192	DA43	不明	黒浜式3類	1b	D	○		○				
193	DC37	不明	黒浜式3類	2b	D	○		○				
194	DO44-c	VIIa	黒浜式3類	1b	D	○		○				
195	V区	不明	黒浜式3類	1a	D	○		○				
196	VI区	不明	黒浜式3類	2b	D	○		○				
197	I区	VII	黒浜式3類	2b	C	○		○				
198	DE37	不明	黒浜式3類	2b	D	○		○				

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態		部	位置	大きさ (cm)	
							平縁	波状			口径	高さ
118	I区	VI	有尾式	4a+b	H	○						
119	IV区	IV	有尾式	4a+b	C	○		○				
120	DC39	不明	有尾式	7f+g	D	○						
121	DC37	不明	有尾式	7a+b	C	○						
122	DJ39-a	VI	有尾式	7a+b	D	○		○				
123	DP42-d	VIIa	有尾式	7a+b	D	○		○				
124	DL39-d	VIIa	有尾式	7a+b	D	○		○				
125	DE37	不明	有尾式	7a+b	D	○						
126	CX37	不明	有尾式	7a+b	D	○						
127	CL30-d	VI	有尾式	7a+b	D	○		○				
128A	DL42-d	VI	有尾式	9c	D	○		○				
128B	DM39-d	VIIa	有尾式	9c	D	○						
129	I区	VII	有尾式	9b	C	○		○				
130	CL30-a	VI~VIIa	黒浜式1a類	18	D	○		1/6		(38)		
131	DE37	不明	黒浜式1a類	18	D	○						
132	I区	VI	黒浜式1a類	18	C	○						
133	CT37	不明	黒浜式1a類	18	D	○						
134	DG29	不明	黒浜式1b類	18	D	○						
135	I区	VI	黒浜式1b類	18	D	○		○				
136	CP30-d	VII	黒浜式1a類	18	C	○		○				
137	CO33-a	VI~VIIa	黒浜式1a類	18	D	○		○				
138A	DC37	不明	黒浜式1c類	18	D	○		○				
138B	DC37	不明	黒浜式1c類	18	D	○		○				
139	I区	VII	黒浜式1a類	9a	C	○						
140	DE37	不明	黒浜式1c類	18	C	○		○				
141	DL40-c	VI	黒浜式1c類	18	D	○						
142	I区	VII	黒浜式1c類	18	D	○		○				
143	DC37	不明	黒浜式1c類	18	C	○		○				
144	DJ39-d	VIIa	黒浜式1b類	18	C	○		○				
145	I区	VII	黒浜式1d類	1a+b	D	○		○				
146	I区	VII	黒浜式1d類	2a+b	D	○		○				
147	DK40-a	VI	黒浜式1d類	2a+b	D	○		○				
148	DE37	不明	黒浜式1d類	7f+g	D	○		○				
149	DC39	不明	黒浜式1d類	4a+b	D	○		○				
150	DK40-d	VIIa	黒浜式1d類	1a	D	○		○				
151	CN29-c	VIIa	黒浜式1d類	2a+b	D	○						
152	CR35-a	不明	黒浜式1a類	18	D	○		○				
153	BK20-a	VI	黒浜式1a類	18	C	○		○				
154	I区	VII	黒浜式2a類	2a	C	○		1/5	1/5	(26)		
155	DC37	不明	黒浜式2b類	18	C	○		○				
156	I区	VII	黒浜式2b類	1b	C	○		○				
157	I区	VII	黒浜式2b類	2a	F	○		○				

2. 縄文時代

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形 深鉢	器形 浅鉢	口縁形態		部	大きさ (cm)	
								平縁	波状		口径	底径
240	I区	VI	黒浜式	2a	C	○				○		
241	DJ39-a	VIIa	黒浜式	2b	D	○				○		
242	DR40-a	VIIa	黒浜式	2b	D	○				○		
243	DJ40-a	VIIa	黒浜式	2b	C	○				○		
244	DE37	不明	黒浜式	2a・b	D	○				○		
245	DC37	不明	黒浜式	2b	D	○				○		
246	DG29-a	VI	黒浜式	2a・b	D	○				○		
247	DG29	不明	黒浜式	2a・b	C	○				○		
248	DE37	不明	黒浜式	2a・b	D	○				○		
249	I区	VII	黒浜式	2a・b	D	○				○		
250	DS40-d	VIIa	黒浜式	2a・b	D	○				○		
251	DK42-d	VI	黒浜式	4a・b	C	○				○		
252	DL41-d	不明	黒浜式	4b	D	○				○		
253	DC35	不明	黒浜式	4a・b	D	○				○		
254	CW37-a	VIIa	黒浜式	4a	D	○				○		
255	DJ39-a	VI	黒浜式	4a・b	D	○				○		
256	CP30-d	VII	黒浜式	4b	D	○				○		
257	DK41-b	VI	黒浜式	4a	D	○				○		
258	DC35	不明	黒浜式	4a・b	D	○				○		
259	DA34-a	不明	黒浜式	4b	D	○				○		
260	DE37	不明	黒浜式	4a	C	○				○		
261	CS34-a	VI	黒浜式	4b	D	○				○		
262	CT32-a	VIIIb	黒浜式	4b	D	○				○		
263	IV区	不明	黒浜式	4a	D	○				○		
264	DN43-d	VIIa	黒浜式	7i	D	○				○		
265	CL30-d	VIIa	黒浜式	7b	D	○				○		
266	CP30-c	VII	黒浜式	7a	F	○				○		
267	CR35-a	不明	黒浜式	7f	C	○				○		
268	CR31-a	VIIIb	黒浜式	7f	D	○				○		
269	CS32-a	VIIIb	黒浜式	7g	D	○				○		
270	DL40-c	VI	黒浜式	7d	C	○				○		
271	DJ39-d	VIIa	黒浜式	7a	C	○				○		
272	I区	VI	黒浜式	9a・b	C	○				○		
273	I区	VIIa	黒浜式	9d	C	○				○		
274	DO41-b	VII	黒浜式	15b	D	○				○		
275	I区	VII	黒浜式	15b	D	○				○		
276	DC35	不明	黒浜式	18	D	○				○		
277	DM40-a	VIIa	黒浜式	16a	C	○				○		
278	DJ39-a	VIIa	黒浜式	16a	D	○				○		
279	DJ39-c	VIIa	黒浜式	16a	D	○				○		
280	CH30-b	VII	黒浜式	18	B	○				○		
281	DJ40-a	VIIa	黒浜式	18	B	○				○		

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形 深鉢	器形 浅鉢	口縁形態		部	大きさ (cm)	
								平縁	波状		口径	底径
199	I区	VII	黒浜式3類	2b	D	○				○		
200	CQ34-a	VI	黒浜式3類	2b	D	○				○		
201	CO32-c	VII	黒浜式3類	2a	D	○				○		
202	DA34-a	不明	黒浜式3類	2a	D	○				○		
203	I区	VIIa	黒浜式3類	2a	D	○				○		
204	DA45	不明	黒浜式3類	2a	D	○				○		
205	DA34-a	不明	黒浜式3類	2a	D	○				○		
206	I区	VIIa	黒浜式3類	2b	C	○				○		
207	I区	VI	黒浜式3類	2b	D	○				○		
208	CR35-a	不明	黒浜式3類	2a	D	○				○		
209	CX35	不明	黒浜式3類	4d	D	○				○		
210	DK41-b	VIIa	黒浜式3類	4b	D	○				○		
211	CO34-b	VII	黒浜式3類	4b	D	○				○		
212	DJ39-a	VIIa	黒浜式3類	4a	D	○				○		
213	DC35	不明	黒浜式3類	4b	D	○				○		
214	CX35	不明	黒浜式3類	4a	D	○				○		
215A	DL40-b	VI	黒浜式3類	4b	C	○				○		
215B	DL40-d	VI	黒浜式3類	4b	C	○				○		
216	CX35	不明	黒浜式3類	2b・4d	D	○				○		
217	IX区	VIIa	黒浜式3類	7i	D	○				○		
218	DC37	不明	黒浜式3類	7b	D	○				○		
219	I区	VIIa	黒浜式3類	7a	D	○				○		
220	DK39-c	VIIa	黒浜式3類	7a	D	○				○		
221	AX 8-d	不明	黒浜式3類	8a	J	○				○		
222	AX 8-b	不明	黒浜式3類	8a	J	○				○		
223	DP40-c	VIIa	黒浜式3類	7b	D	○				○		
224	I区	VI	黒浜式	2b	C	○				○	(8.5)	
225	DJ39-a	VIIa	黒浜式	1b	C	○				○	(7)	
226	I区	VII	黒浜式	1b	D	○				○		
227	I区	VI	黒浜式	1a	C	○				○	(11)	
228	CT34-a	VI	黒浜式	1a・b	D	○				○		
229	DE37	不明	黒浜式	1b	D	○				○		
230	DG31	不明	黒浜式	1a	D	○				○		
231	I区	VII	黒浜式	1a	D	○				○		
232	I区	VII	黒浜式	1a	C	○				○		
233	I区	VI	黒浜式	1b	D	○				○		
234	DC35	不明	黒浜式	1a・b	D	○				○		
235	DL40-a	VI	黒浜式	1b	C	○				○	(8)	
236	DC37	不明	黒浜式	2b	D	○				○		
237	I区	VI	黒浜式	2a・b	C	○				○		
238	CO34-b	VII	黒浜式	2a・b	D	○				○		
239	DM39-d	VIIa	黒浜式	2a・b	D	○				○		

II 調査の結果

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態	部	位	大きさ (cm)	
						深鉢	平縁	口縁	胸部	底部	
						浅鉢	波状			口径	
										高さ	
323	CR35-a	不明	諸磯b式2b類	2b	B	○			○		
324	DE47	不明	諸磯b式2a類	18	B	○			○		
325	CB22	VI~VII	諸磯b式2a類	2b	E	○			○		
326	CO31-b	VI	諸磯b式2b類	1a	B	○			○	1/4	(37)
327	AY 6-a	不明	諸磯b式2b類	17	B	○				1/2	(10.5)
328A	DO40-b	VII	諸磯b式2b類	18	B	○			○		(12)
328B	DP42-a	VIIa	諸磯b式2b類	18	B	○			○		(12)
328C	DQ42-c	VI	諸磯b式2b類	18	B	○			○		
329	DP41-c	VIIa	諸磯b式2b類	18	B	○			○		
330	DG29	不明	諸磯b式4類	2a	B	○			○		
331	I区	VI	諸磯b式2b類	1a・b	B	○			○		
332	DP41-d	VIIa	諸磯b式2b類	2b	B	○			○		
333	DG29	不明	諸磯b式4類	18	B	○			○		(30)
334	CP33-d	VII	諸磯b式3a類	2b	B	○			○		
335	I区	VII	諸磯b式3a類	18	B	○			○		
336	DE31	不明	諸磯b式5b類	1a	B	○			○		
337	CM32-a	VI~VIIa	諸磯b式5a類	1a	B	○			○		
338	DP42-c	VIIa	諸磯b式	2b	B	○			○		
339	CX45	不明	諸磯b式	2b-11a	B	○			○		
340	DL40-d	VI	諸磯b式7b類	18	A	○			○		
341	CM31-c	VII	諸磯b式6類	1a	B	○			○		
342	CP34-a	VIIa	諸磯b式6類	18	B	○			○		
343	DG29	不明	諸磯b式	1a	B	○			○	1/5	(11)
344	I区	VII	諸磯b式7c類	18	I	○			○	1/4	(25.5)
345	DT41-a	VIIa	諸磯b式	2b	B	○			○		
346	DS43-b	VIIa	諸磯b式	2b	B	○			○		
347	DT45-c	VIIa	諸磯b式	2b	E	○			○		
348	DC35	不明	諸磯b式	2b	E	○			○		
349	CO32-a	VI	諸磯b式	2a	B	○			○		
350	DA37	不明	諸磯b式	2a	B	○			○		
351	BK20-a	VIIa	諸磯b式	2b	B	○			○		
352	CT55	不明	諸磯b式	2a	E	○			○		
353	CV49	不明	諸磯b式	2b	B	○			○		
354	DL40-a	不明	諸磯b式	4a	B	○			○		
355	CT59	不明	諸磯b式	2b	B	○			○		
356	DL40-d	VIIa	諸磯b式	1a	E	○			○		
357	CX47	不明	諸磯b式	2b	I	○			○	1/6	(10)
358	I区	VII	諸磯b式	1a	B	○			○		
359	CX35	不明	諸磯b式	2b	E	○			○		
360	I区	VI	諸磯c式1b類	18	B	○			○		(9)
361	DG29	不明	諸磯c式1a類	18	B	○			○		
362	CF25-a	VIIa	諸磯c式1a類	18	B	○			○		

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態	部	位	大きさ (cm)	
						深鉢	平縁	口縁	胸部	底部	
						浅鉢	波状			口径	
										高さ	
282	I区	VI	諸磯a式1d類	18	B	○			○		
283	I区	VI	諸磯a式1c類	18	B	○			○		
284	CT57	不明	諸磯a式1e類	18	B	○			○		
285	CX49	不明	諸磯a式1d類	2b	A	○			○		
286	DO41-c	VI	諸磯a式5a類	2b	B	○			○		
287	DC41	不明	諸磯a式1e類	18	B	○			○		
288	CV32-a	VIIa	諸磯a式	2b	D	○			○		
289	DN40-d	VIIa	諸磯a式	2b	B	○			○		
290	DA45	不明	諸磯a式7類	2b	B	○			○		
291	V区	VI~VIIa	諸磯a式8a類	18	E	○			○		
292	IV区	不明	諸磯a式9類	2a	B	○			○		
293	CQ35-b	VIIa	諸磯a式9類	2b	E	○			○		
294	DE35	不明	諸磯a式9類	4a	A	○			○		
295	BO21-b	VIIa	諸磯a式9類	11a	E	○			○		(6.2)
296	CV35-a	VI	諸磯a式9類	2b	E	○			○		
297	DT40-a	VIIa	諸磯a式	1a	B	○			1/2	1/2	
298	DN42-d	VIIa	諸磯a式	2b	A	○			○		
299	DC41	不明	諸磯a式	2b	B	○			○		
300	BN21-c	VIIa	諸磯a式	2b	E	○			○		
301	DM41-a	VII	諸磯a式	11a	B	○			○		
302	CU37-c	VIIa	諸磯a式	2b	A	○			○		(8)
303	CX37	不明	諸磯a式	2b	B	○			○		
304	CV34-a	VI	諸磯b式1類	18	B	○			○		
305	CO30-c	VI	諸磯b式2類	2b	B	○			○	1/6	(27)
306	CQ34-a	VI	諸磯b式2類	18	B	○			○	1/4	(12)
307	CK29-a	VI	諸磯b式2類	4a	A	○			○	1/2	(10.5)
308	DM40-d	VIIa	諸磯b式2類	18	B	○			○		(9)
309	CR34-a	不明	諸磯b式2類	18	B	○			○		
310	CN31-a	VII	諸磯b式2類	2b	B	○			○		
311	CO34-b	VII	諸磯b式2a類	2b	G	○			○		
312	CP31-b	VI	諸磯b式2類	2a	B	○			○		
313	CL31-d	VI	諸磯b式2類	1a	B	○			○		
314	CQ33-d	VII	諸磯b式2a類	1a	B	○			○		
315A	DR41-d	VIIa	諸磯b式2a類	4a	A	○			○		
315B	DQ41-a	VII	諸磯b式2a類	4a	A	○			○		
316	I区	VI	諸磯b式2a類	2b	A	○			○		
317	CQ33-a	VII	諸磯b式2b類	1a	B	○			○		
318	CN30-c	VI	諸磯b式2a類	2a	B	○			○		
319	DP43-d	VIIa	諸磯b式2類	2b	B	○			○		
320	I区	VI	諸磯b式2a類	18	B	○			○		
321	CS31-a	VI	諸磯b式2類	1a	B	○			○		
322	CQ33-a	VII	諸磯b式2b類	2a・b	B	○			○		

〈遺構出土の石器〉
削器 (加工)

番号	出土状態 (cm)	分類	欠損 状態	石材 コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
09御木-2	埋没土中	3B	完	64	50	5.1	5.8	1.2
10御木-1	埋没土中	2D	完	64	116	5.7	10	2.4

削器 (使用)

番号	出土状態 (cm)	分類	欠損 状態	石材 コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
37坑-4	埋没土中	3B	完	64	24	4	5.6	1.1
37坑-5	埋没土中	6D	完	64	64	5.7	6.5	1.7

加工石器

番号	出土状態 (cm)	分類	欠損 状態	石材 コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
04窟穴-5	埋没土中	-	完	64	51	4.8	5.2	1.8

石皿

番号	出土状態 (cm)	分類	欠損 状態	石材 コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
35坑-1	+3	-	完	5	1280	13.3	12.2	8.9

石棒

番号	出土状態 (cm)	分類	欠損 状態	石材 コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
						長さ	幅	厚さ
1住-2	床面直上	-	完	34	21900	40.5	23.5	16
37坑-6	底面直上	-	完	34	12900	42.5	17.7	11.2

凹石・磨石・敲石類

番号	出土状態 (cm)	分類			欠損 状態	重量 (g)	大きさ (cm)			
		形態	凹穴	打痕			石材 コード	長さ		厚さ
								1	E	
2窟穴-2	底面直上	2	C	C	完	650	34	9.7	9.1	4.9
3窟穴-3	埋没土中	2	C	C	完	650	34	9.7	9.1	4.9

番号	出土位置	層位	分類	縄文	胎土	器形	口縁形態		部	位	大きさ (cm)	
							平縁	波状			口縁	胴部
363	BP15	VI	諸磯c式1b類	18	B	○			○			
364	DW42-c	VIIa	諸磯c式2類	18	B	○			○			
365	VI区	不明	諸磯b式c類	18	B	○			○			
366	CS31-a	VI	諸磯c式1a類	18	A	○			○			
367	CX37	不明	諸磯c式1a類	18	B	○			○			
368	DM39-a	不明	諸磯c式1a類	18	B	○			○			
369	CM30-a	VIIa	諸磯c式1a類	2b	B	○			○			
370	DJ39-b	VI	諸磯c式1a類	18	B	○			○			
371	DG29	不明	諸磯b式c類	2a	B	○			○			
372	DG31	不明	興津式	18	E	○			○			
373	AX10-b	不明	加曾利E3式	4a	I	○			○			
374	DJ40-a	VIIa	加曾利E4式	2a	B	○			1/3			
375	I区	VI	加曾利B1式	2a	B	○		1/8	1/8		(19)	
376	CL28-d	VI	加曾利B1式	2a	A	○		1/4	1/4		(17)	
377	BL19-c	VIIa	加曾利B1式	1a	B	○		4/5	4/5	4/5	17	(8)
378	DA43	不明	加曾利B1式	18	B	○			1/3	1/1	6.5	
379	DE37	不明	高井東式	18	A	○			○			
380	DE37	不明	高井東式	18	A	○			○			
381	BS18	VI	加曾利B1式	2a	A	○			○			
382	CL32-a	VI~VIIa	加曾利B1式	18	A	○				○		
383	DT40-a	VI	加曾利B1式	1a	B	○			○			
384	DK39-cd	VI	加曾利B1式	1a	B	○			○			
385	BW19	VI~VIIa	加曾利B1式	18	I	○			○			
386	CL32-a	不明	耳飾り	-	B	-			-		3	-
												2.3

II 調査の結果

〈遺物包含層出土の石器〉

石 鏃

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
1	I区	VIIa	1	欠	65	(0.3)	(1.3)	1.5	0.2
2	BG12-a	VII	1	欠	65	(0.3)	1.3	(1.2)	0.2
3	I区	VII	1	完	65	0.4	1.7	1.4	0.2
4	CX37	VI~VII	1	完	65	0.3	1.5	1.4	0.2
5	BU21-d	VI	1	完	64	2.9	3.3	2.1	0.4
6	CR31	VI	4	欠	65	(0.3)	1.3	(1.1)	0.3
7	CA23-a	IVc	4	完	65	0.4	1.6	1.5	0.3
8	DC37	VII	4	完	66	0.7	1.6	1.6	0.2
9	I区	VI	4	欠	67	(0.9)	2.1	(1.5)	0.4
10	CV33-a	VI	4	欠	17	(0.5)	2.7	(0.9)	0.2
11	CR34	VI	4	欠	66	(1.1)	(2.0)	(1.4)	(0.3)
12	CU33	不明	4	欠	66	(0.4)	1.9	(1.3)	0.3
13	BG13-a	VI	4	欠	66	(0.4)	1.8	(1.1)	0.2
14	CX49	VII	4	欠	64	(1.2)	2.7	(1.7)	0.3
15	I区	VIIa	4	完	66	1.4	2.5	1.4	0.4
16	BP24-a	VI	4	完	66	1	2.7	1.9	0.4
17	I区	VI	4	欠	64	(1.4)	(2.8)	1.4	0.2
18	I区	VII	4	欠	67	(1.9)	(3.6)	2.3	0.3
19	DC35	VII	4	欠	65	(2.1)	3.9	(1.5)	0.4
20	CH27	VI	4	完	67	1.6	3.1	1.9	0.2
21	BS23-a	VIIa	4	完	67	1.8	3.5	1.8	0.3
22	V区	VI	4	完	67	1.7	3.1	2.2	0.3
23	I区	VIIa	4	完	67	1.9	3.1	2.0	0.3
24	BN21-a	VI	4	欠	67	(2.3)	(2.8)	2.4	0.3
25	DN42-b	VI	4	欠	64	(0.6)	(1.7)	(1.8)	0.3
26	DV42-c	VI	4	欠	17	(0.6)	(1.9)	(1.6)	0.3
27	CL32	不明	2	完	65	0.6	1.9	1.5	0.3
28	CS35	VI	1	欠	65	(0.5)	(1.8)	(1.1)	(0.2)
29	I区	VI	2	欠	65	(0.2)	(1.4)	(1.1)	0.1
30	BF13-a	VIIa	1	完	65	0.4	1.9	1.0	0.2
31	BT21-b	VI	2	完	66	1.1	1.8	1.7	0.4
32	BY25-a	VI	2	完	66	0.9	1.8	1.6	0.3
33	CU35	VI	2	完	65	0.5	1.8	1.5	0.2
34	DC37	VI	2	完	64	0.8	2.4	1.6	0.2
35	BU26-b	VI	2	欠	64	(0.5)	(1.8)	(1.4)	0.3
36	DC37	VI	2	完	65	1.4	2.7	1.6	0.4
37	BU25-a	VI	2	欠	66	(1.2)	2.6	(1.6)	0.2
38	CI28-b	VI	2	完	66	1.2	2.7	1.5	0.4
39	I区	VI	2	欠	66	(1)	(1.8)	(1.5)	0.4
40	BS23-c	VI	2	欠	66	(0.9)	(2.3)	1.7	0.3
41	BV24-a	VI	2	欠	67	(1.5)	(2.4)	(1.9)	0.4
42	DL40-a	VI	2	完	67	0.4	1.7	1.0	0.3
43	I区	VII	2	完	64	0.7	1.9	1.5	0.2
44	I区	VIIa	2	完	65	1.8	3.1	1.8	0.3
45	DS45-d	VI	2	欠	67	(2.2)	(2.4)	2.5	0.4
46	I区	VI	3	完	65	0.6	1.6	1.7	0.3
47	BU22-a	VI	3	欠	64	(0.5)	1.9	(1.4)	0.3
48	DT41-b	VIIa	6	欠	64	(0.9)	(1.5)	1.7	0.3
49	I区	VIIa	6	完	65	0.5	2.6	1.2	0.2
50	DC37	VI	6	欠	17	(3.1)	(3.3)	2.3	0.3
51	DC37	VI	7	完	66	2.1	3.5	1.8	0.4
52	DO42-c	VI	7	欠	15	(2.7)	(3.3)	1.7	0.5
53	DN40-b	VI	7	完	64	1.2	2.9	1.5	1.4
54	BQ24-b	VI	7	欠	64	(1.4)	(2.9)	1.4	0.4
55	IV区	不明	7	欠	17	(1.3)	(2.7)	1.3	0.4
56	I区	VI	7	完	17	0.8	2.3	1.3	0.3
57	CX47	VI	7	欠	17	(0.7)	(2.7)	1.3	0.3
58	BU25-a	VI	7	欠	65	(0.6)	(1.9)	1.2	0.2
59	BO23-a	VIIa	5	完	65	1	1.7	1.4	0.3
60	DE39	VIIa	不明	欠	67	(2.1)	(3.0)	(1.6)	0.4

石 槍

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
61	DN41-a	VII	—	欠	17	(1.1)	3.6	1.3	0.2
62	CR32	VIIa	—	完	67	25	7.0	2.8	1.5

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
63	BS22-c	VIIa	—	欠	64	(6)	(5.9)	2	0.6
64	DT42-b	VIIa	—	欠	64	(3)	(2.5)	(2.1)	(0.3)
65	DT44-c	VIIa	—	欠	64	(6)	(3.8)	(2.1)	(0.7)
67	DO42-b	VIIa	—	欠	64	(25)	(5.7)	3.4	(1.3)
92	DR40-d	VI	—	欠	64	(8)	(3.9)	(2.5)	(0.7)
95	BN21-d	VIIa	—	欠	67	(17)	(6.0)	3.0	0.8
96	DS40-a	VIIa	—	欠	64	(8)	(3.2)	(2.8)	(0.8)

石 鏃

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
68	DG29	VI	—	欠	65	(4.5)	(4.4)	1.7	1.0
69	I区	VI	—	欠	64	(18)	(6.2)	(4.3)	(0.9)
70	I区	VII	—	完	64	4	3.8	1.7	0.8
71	I区	VI	—	欠	64	(2)	(3.4)	1.6	0.4
72	DF40-a	VIIa	—	欠	17	(11)	(4.6)	3.6	0.6
73	DL39-b	VI	—	完	64	5	4.9	1.4	0.7
74	I区	VIIa	—	欠	64	(3)	(4.3)	1.8	0.5
75	I区	VI	—	完	64	26	7.0	3.2	1.5
76	DK40-a	VIIa	—	完	64	4	5.2	2.3	0.2
77	DQ41-a	VI	—	完	64	7	5.8	1.5	0.9
78	I区	VI	—	完	16	12	5.0	3.1	1.0

石 匙

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
80	CT55	VI	横	完	66	12	3.5	5.2	0.8
81	DG31-a	VI	横	欠	64	(10)	(3.6)	(5.2)	(0.4)
82	II区	VI	横	完	64	8	3.5	6.4	0.4
83	I区	VI	横	欠	17	(10)	(2.2)	4.4	1.0
84	I区	VI	横	完	64	27	5.7	6.0	1.1
85	I区	VIIa	横	欠	64	(33)	5.4	(6.0)	1.2
86	CP31-b	VII	横	完	64	128	6.8	11.8	1.7
87	I区	VIIa	横	完	64	65	7.9	8.3	1.2
88	I区	VI	縦	欠	64	(23)	6.7	4.4	0.8
89	I区	VIIa	縦	完	52	8	4.7	2.7	0.6
90	DE31	VI	縦	欠	64	(15)	(5.0)	3.3	0.8
91	DL42-a	VIIa	縦	欠	64	(12)	(5.2)	3.2	0.5
92	DR40-d	VI	縦	欠	64	(8)	(3.9)	(2.5)	(0.7)
93	I区	VIIa	縦	完	64	10	5.4	2.7	0.8
94	I区	VI	縦	完	64	7	6.7	1.1	0.7

削器 1 (加工痕)

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
97	I区	VII	1B	完	64	28	6.0	4.7	0.9
98	I区	VI	1F	完	64	96	9.0	5.9	1.4
99	I区	VI	1I	完	64	53	8.5	4.3	1.6
100	DP46-c	VI	1	完	64	26	6.1	3.9	1
101	DS45-b	VI	1D	完	17	21	5.0	4.3	0.9
102	CR31	VIIa	1I	完	64	19	4.7	3.7	1
103	BX26-a	VI	1F	完	16	5	3.1	3.0	0.5
104	CN28-a	VI	1B	完	64	27	8.5	2.8	1.2
105	BU19	VI	6B	完	64	79	9.2	3.9	1.6
106	BV26-a	VIIa	1A	完	64	275	10.4	8.4	3.6
107	CP32-c	VII	5C	完	64	371	11.7	9.7	4
108	CO32-a	VII	2J	完	64	50	4.7	7.5	1.7
109	BW27-d	VI	1A	完	16	75	5.1	8.3	1.4
110	DR43-a	VIIa	2F	完	64	116	6.0	9.3	2
111	DL39-a	VI	2A	完	64	41	3.7	7.8	1
112	DC37	VI	2J	完	64	95	5.2	9.6	1.8
113	CF27-d	VII	2D	完	64	66	4.5	7.2	1.5
114	CV53	VI	2J	完	64	67	4.9	10.6	1.4
115	BS16	VI	1D	完	64	38	4.4	7.6	1.3
116	DT41-a	VIIa	2A	完	64	177	6.1	11.9	2
117	I区	VIIa	2A	完	64	25	2.8	6.6	1
118	BR24-b	VI	2	完	65	0.7	1.0	1.7	0.3
119	BX26-d	VIIa	2J	完	64	7	2.1	5.1	0.6
120	DC37	VIIa	2K	完	64	60	4.0	8.0	1.6

2. 縄文時代

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
121	DG31	VI	2	完	17	11	2.4	4.5	1.1
122	I 区	VII	2J	完	64	14	3.1	4.4	0.7
123	DS40-a	VIIIa	2F	完	64	52	4.4	7.3	2
124	BR24-a	VI	2F	完	64	149	7.2	11.7	1.8
125	I 区	VI	2D	完	64	32	5.1	7.3	0.7
126	CQ33-d	VII	2K	完	64	10	2.7	4.8	0.5
127	AW13-b	VI	2A	完	64	5	2.0	3.7	0.7
128	DG31-a	VI	2D	完	64	51	4.3	7.3	1.9
129	BW24-d	VIIIa	6D	完	64	49	5.3	5.5	1.6
130	DT41-a	VIIIa	6B	完	64	54	5.7	6.2	1.3
131	CX47	VIIIa	6A	完	64	325	8.3	12.4	3.7
132	I 区	VII	2A	完	4	156	5.7	10.0	2.9
133	DN43-c	VIIIa	6K	完	64	39	5.1	6.9	1
134	DC41	VII	2A	完	64	67	5.0	10.4	1.3
135	DQ41-c	VIIIa	2D	完	64	37	4.2	6.9	1.6
136	DA45	VII	2A	完	64	70	5.8	8.9	1.3
137	CS31-a	VI	6K	完	64	62	5.7	7.3	1.1
138	I 区	VII	6	完	64	96	6.2	7.8	1.6
139	CV37-a	VI	6J	完	64	65	7.0	6.7	1.2
140	DE37	VIIIa	4B	完	64	130	7.7	7.5	1.7
141	I 区	VI	2A	完	64	99	5.8	8.4	1.4
142	I 区	VII	2A	完	64	89	7.6	8.8	1.4
143	AX12-a	VIIIa	6B	完	64	277	9.0	9.0	3.2
144	DV42-c	VIIIa	4D	完	64	269	8.9	9.8	3.2
145	DE39	VIIb	2D	完	64	24	4.4	6.2	0.8
146	I 区	VIIIa	4F	欠	16	(10)	(3.0)	3.8	1
147	I 区	VIIIa	2D	完	64	10	2.8	4.6	0.8
148	I 区	VI	3I	完	64	73	5.7	6.0	1.5
149	I 区	VI	2F	完	64	66	7.7	9.4	0.9
150	I 区	VI	3	完	64	107	7.2	9.1	2.1
151	I 区	VII	2G	完	64	76	5.0	7.7	2.2
152	CX35	VIIIa	2K	完	64	12	3.4	5.0	0.6
152	CX35	VIIIa	2K	完	64	12	3.4	5.0	0.6
153	I 区	VI	4A	完	64	30	4.0	6.7	0.9
154	I 区	VI	4F	完	64	42	5.4	7.5	1.3
155	I 区	VIIIa	6	完	64	185	8.8	6.9	3.4
156	CR32-a	VII	4	完	64	93	6.9	8.3	1.7
157	I 区	VIIIa	5B	完	64	47	8.4	3.7	1.8
158	I 区	VI	5B	完	64	60	6.5	5.2	1.7
159	I 区	VI	5C	完	64	17	4.4	4.5	0.8
160	CQ34	VII	5B	完	64	26	5.3	3.6	1.1
161	I 区	VII	2A	完	64	2.7	3.4	9.2	0.9
162	I 区	VIIIa	2G	完	64	59	6.2	8.9	1.5
163	I 区	VI	5E	完	64	86	9.4	7.8	2.2
164	I 区	VI	5C	欠	22	(4)	(3.4)	1.9	0.6
165	I 区	VIIIa	1B	完	64	5	3.6	1.8	0.6
166	I 区	VII	5C	欠	64	(15)	(4.6)	2.8	1.2
167	CL28-b	VI	5B	完	64	28	6.9	3.9	0.8
168	BX26-b	VIIIa	5C	完	64	40	6.2	4.7	2.3
169	DE35	VI	6C	完	64	166	11.5	5.3	2.6
170	I 区	VI	6D	完	64	40	5.9	4.6	1
171	BT23-a	VI	6D	完	64	40	6.6	4.5	1
172	I 区	VI	1I	完	64	35	8.4	3.5	1.2
173	CT33-a	VI	6B	完	64	32	5.2	3.6	1.4
174	I 区	VIIIa	6I	欠	64	(9)	(5.0)	4.3	0.3
175	DG29	VI	5B	完	64	29	6.1	4.5	0.9
176	DC35	VI	1I	完	64	22	5.9	4.3	0.6
177	I 区	VIIIa	5C	完	67	52	7.8	7.1	0.9
178	BR24-a	VIIIa	6B	完	64	111	11.0	5.8	1.7
179	AX11-b	VIIIa	1D	完	64	67	6.5	5.3	1.6
180	I 区	VIIIa	1B	完	64	259	11.9	7.8	2.4
181	I 区	VI	6B	完	64	242	10.9	7.3	3.1
182	I 区	VI	6C	欠	64	(2)	(3.0)	(1.5)	(0.3)
189	DS40-a	VIIIa	2F	完	64	179	6.8	10.0	2.7
289 B	CI28-d	VII	2K	完	64	45	4.8	10.9	0.8

削器 2 (使用痕)

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
183	I 区	VIIIa	5B	完	64	61	8.8	4.7	1.6
184	CK29-a	VII	1B	完	64	55	9.1	5.1	1.1
185	CV53	VI	5C	完	64	60	9.9	5.0	1.8
186	I 区	VII	1B	欠	64	(40)	7.2	(4.5)	1.3
187	DP43-b	VIIIa	2A	完	64	246	5.9	14.6	3.0
188	CH28-a	VI	2A	完	64	40	4.3	6.6	1.5
190	CT31-a	VI	1D	完	65	2	2.1	2.1	0.7
191	DE37	VII	2C	完	64	13	3.1	4.5	0.8
192	BT23-a	VI	3A	完	64	15	3.7	5.0	1.0
193	I 区	VI	1D	完	64	9	4.1	3.2	0.5
194	BN21-d	VI	1C	完	64	28	4.5	4.9	1.2
195	I 区	VIIIa	2A	完	64	42	6.1	7.9	1.0
196	DC37	VI	3	完	64	37	5.8	7.2	0.8
197	I 区	VI	3A	完	64	26	4.2	4.9	1.0
198	CQ30-d	VI	4D	完	64	9	3.4	4.7	0.7
199	DE35	VIIIa	4A	完	15	4	2.5	3.4	0.5
200	I 区	VI	2A	完	64	27	4.2	6.0	1.3
201	CF25-d	VI	4A	完	64	47	5.3	8.5	1.3
202	I 区	VI	2B	完	64	47	3.2	10.1	2.0
203	DQ41-b	VII	5B	完	64	6	3.4	3.2	0.8
204	BP24-a	VI	4B	完	64	7	3.6	3.4	0.9
205	I 区	VII	5B	完	64	46	7.1	4.3	1.4
206	DL41-a	VIIIa	5B	完	64	79	9.4	5.4	2.2
207	I 区	VII	1C	完	64	69	6.8	8.3	1.2
208	I 区	VII	5C	完	64	54	7.5	4.8	1.6
209	BT21-d	VIIIa	1D	完	64	45	6.1	6.0	1.2
210	I 区	VII	5B	完	64	94	6.4	5.8	2.8
211	I 区	VIIIa	1B	完	64	19	4.8	4.2	0.4
212	V 区	VI	6B	完	64	34	6.9	4.1	1.1
213	DS42-a	VI	6C	完	18	28	6.8	4.6	1.4
214	DU41-d	VI	6B	欠	64	(7)	4.8	(1.7)	0.7
215	CT31-a	VI	1B	完	65	1	2.3	1.6	0.3
216	DR41-d	VIIIa	3	完	64	27	4.7	4.5	1.1
217	I 区	VIIIa	2B	完	66	11	5.6	3.0	0.6
218	DO42-c	VIIIa	6B	完	64	41	6.6	5.3	0.9
219	I 区	VII	6C	完	17	19	6.0	3.0	1.4
220	DS40-a	VIIIa	6B	完	64	13	5.1	3.2	0.6
221	I 区	VI	1B	完	64	101	10.8	5.4	1.9

加工石器

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
66	DG31-a	VI	—	完	64	80	12.6	2.9	2.2
79	CJ29	不明	—	完	65	0.6	1.8	0.9	0.4
222	CE28-a	VI	—	完	27	44	5.2	4.3	2.2
223	DR41-d	VII	—	完	64	85	6.6	5.0	2.5
224	I 区	8a	—	欠	64	(227)	(11.2)	5.7	3.8
225	I 区	7	—	完	64	164	13.0	2.9	3.4
226	DE37	VI	—	完	64	243	10.8	5.4	4.1
227	I 区	VI	—	完	5	1373	14.6	10.1	6.7
228	CT32-a	VI	—	完	64	630	10.2	10.5	5.1
229	DC35	VII	—	完	64	158	10.0	4.9	3.2
230	CQ31-c	VII	—	完	64	362	11.4	6.6	3.9
231	BV24-a	VI	—	完	64	225	8.4	6.6	3.1
232	BR23-b	VIIIa	—	完	64	389	7.6	10.5	4.5
233	I 区	VII	—	完	64	210	7.7	6.9	3.6
234	I 区	VI	—	完	64	578	9.5	8.6	5.6
235	I 区	VII	—	完	64	140	5.8	8.1	2.4
236	CV37	VI~VIIIa	—	完	13	450	10.5	8.8	4.1
237	BS22-d	VIIIa	—	完	64	625	9.5	19.3	5.3
238	DR46-c	VIIIa	—	完	64	415	9.2	14.9	4.4
239	AW12-c	VI	—	完	64	624	9.5	11.5	5.5
240	I 区	VII	—	完	64	543	13.9	14.6	3.1
241	BU24-d	VI	—	完	50	655	10.5	9.8	5.3
242	DJ40-a	VIIIa	—	完	64	444	14.3	3.5	3.5
243	DC39	VII	—	完	64	782	13.5	13.6	3.9

II 調査の結果

三角錐形石器

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
360	CM29-a	VI	—	欠	64	(334)	(6.4)	6.7	5.4

石核

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
367	DR41-b	VIIIa	—	完	64	135	5.9	5.0	3.8
368	BW27-b	VIIIa	—	完	27	799	9.9	12.3	4.6
369	I区	VII	—	完	17	46	4.5	5.3	1.8
370	BS22-c	VI	—	完	66	6	2.4	1.8	1.3
371	CJ29-b	VII	—	完	67	46	3.9	4.4	2.2
372	I区	VI	—	完	64	545	9.8	7.2	6.0
373	CO33-a	VI	—	完	67	991	11.4	10.5	6.0
374	CF25-d	VI	—	完	32	172	6.8	4.8	4.5
375	CQ31-b	VI	—	完	64	139	5.2	6.6	4.2
376	DO41-c	VIIIa	—	完	64	600	13.6	8.9	4.8
377	CN31-a	VII	—	完	64	195	5.0	7.8	4.2
378	DS42-c	VIIIa	—	完	64	435	8.2	6.4	6.0
379	DP41-d	VIIIa	—	完	64	530	10.7	7.6	5.6
380	AX11-a	VIIIa	—	完	64	947	17.5	8.6	5.4
381	I区	VI	—	完	7	441	7.6	12.5	5.8
382	BO20-d	VIIIa	—	完	64	1179	16.8	10.5	6.0
383	I区	VI	—	完	26	923	7.4	16.4	7.4
384	CN32-c	VII	—	完	64	133	4.7	5.2	4.8
385	DN41-b	VI	—	完	45	1050	10.0	12.0	8.4
386	I区	VI	—	完	64	305	8.2	6.3	5.6
387	AX8-c	VI	—	完	64	363	6.6	9.1	5.0

ハンマーストーン

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
444	CQ35	不明	—	完	34	535	13.8	5.4	4.5
445	CU37-c	VIIIa	—	完	17	188	12.1	5.0	1.9

石皿

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
446	IV区	不明	—	欠	48	(1170)	(18.2)	(8)	4.7
447	III区	VIIIa	—	欠	5	(645)	(11.6)	(10.1)	5.1
448	IV区	VIIIa	—	完	5	4900	24.2	19.7	7.2
449	IV区	VI	—	欠	5	(1903)	(20.2)	12.3	4.8
450	I区	VI	—	完	48	372	18.5	6.8	2.4
451	I区	VII	—	完	5	4300	22.7	22.3	5.7
452	IV区	VIIIa	—	完	5	1230	16.7	13.1	5.2
455	I区	VI	—	完	5	2471	20.0	14.9	5.6
456	CG28-d	VI	—	完	5	1969	18.0	11.5	7.0

台石

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
453	DG59	VIIIa	—	完	5	6500	25.5	24.0	7.2
454	DS42-b	VIIIa	—	欠	5	(2583)	(15.5)	(14.2)	7.8
457	DE35	VIIIa	—	完	5	2545	21.0	15.0	6.2

多孔石

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
458	I区	VI	—	完	5	2000	16.4	14.2	9.0

装身具

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
459	DE31	VIIIa	—	欠	48	(6.0)	(4.0)	1.8	0.5
460	DV43-c	VI	—	欠	42	(5.0)	(3.1)	(1.5)	(0.5)

砥石

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)		
							長さ	幅	厚さ
366	DG31	VI	—	完	5	290.0	8.4	5.6	4.3

打製石斧

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量(g)	大きさ(cm)			
			形状	刃部	器面	残存				長さ	基部	刃部	厚さ
245	BQ23-c	VI	1	1	1	1	完	64	64	8.2	3.2	4.0	1.6
246	DT44-a	VIIIa	1	2	1	1	完	64	37	7.8	2.9	3.2	0.9
247	I区	VI	1	1	1	1	完	64	70	7.6	3.8	4.1	1.3
248	I区	VI	不明	1	1	3	欠	64	(62)	(6.2)	不明	4.6	1.6
249	I区	VI	1	1	2	1	完	64	182	8.6	4.3	5.6	2.6
250	CT59	VI	1	2	1	1	完	5	109	10.5	4.4	4.9	1.7
251	CQ32-d	VI	1	3	2	1	完	16	151	11.8	4.7	5.3	1.8
252	DT41-a	VIIIa	不明	不明	1	9	欠	64	(32)	(4.5)	不明	不明	(1.3)
253	BV27-c	VIIIa	1	1	2	1	完	4	141	12.6	4.2	6.2	1.8
254	BO15	VI	3	2	2	1	完	64	114	13.0	3.7	5.2	1.5
255	AY5-d	VI	1	1	1	1	完	64	359	15.2	5.9	6.4	3.3
256	CI29-a	VII	1	1	2	1	完	6	340	16.5	4.4	6.7	2.6
257	DC37	VI	1	1	2	1	完	64	71	11.5	2.6	2.0	1.7
258	I区	VI	1	3	1	1	完	64	92	10.8	3.0	3.4	1.2
259	BU25-a	VI	1	不明	2	不明	欠	4	(58)	(7)	不明	不明	1.8
260	I区	VI	1	2	1	2	欠	64	(68)	(8.5)	不明	4.1	1.3
261	BW19	VI	1	2	2	2	欠	6	(113)	(7.8)	不明	5.2	1.5
262	DC41	VII	1	2	1	1	完	28	127	13.0	2.2	4.8	1.6
263	I区	VI	1	2	1	3	欠	64	(71)	(7.6)	不明	4.3	(1.6)
264	I区	VI	不明	3	1	8	欠	4	(52)	(10)	2.3	(4)	(0.7)
265	CP33-c	VI	1	3	1	3	欠	4	(44)	(8.5)	不明	4.6	(0.7)
266	DQ41-d	VII	1	1	2	2	欠	64	(83)	(9.4)	不明	4.5	(1)
267	I区	VI	1	不明	1	5	欠	64	(131)	(9.9)	4.5	不明	(2.1)
268	BX25-b	VI	不明	2	2	3	欠	5	(168)	(7.5)	不明	6.5	(2.3)
269	CV53	VI	不明	不明	2	6	欠	64	(45)	(6.8)	3.8	不明	(1)
270	DM43-a	VIIIa	不明	不明	1	6	欠	4	(34)	(5.6)	不明	3.8	(1)
271	DK39-d	VI	不明	不明	不明	5	欠	64	(74)	(7.8)	3.3	不明	(1.5)
272	DM40-d	VI	不明	2	2	3	欠	64	(141)	(8.7)	不明	4.9	(2.9)
273	DR42-b	VIIIa	不明	不明	1	6	欠	64	(65)	(6.2)	3.1	不明	(2.1)
274	CP32-b	VI	不明	不明	1	6	欠	64	(14)	(3.7)	2.8	不明	(0.8)
275	I区	VII	不明	不明	1	6	欠	64	(17)	(4.2)	2.8	不明	(0.6)
276	DS44-b	VIIIa	1	1	2	1	完	6	643	13.2	8.6	10.1	2.9
277	BX19	VI	1	1	2	1	完	6	1227	19.0	10.5	10.8	3.5
278	BQ16	VI	3	2	2	1	完	50	267	13.8	4.6	7.5	2.3
279	CJ27-b	VI	3	3	1	1	完	64	582	16.0	4.3	8.3	3.5
280	I区	VII	2	1	1	1	完	16	31	8.0	1.5	3.5	0.9
281	CQ35	VII	2	不明	不明	不明	完	64	47	7.5	3.1	5.1	1.1
282	DP41-b	VIIIa	2	2	2	1	完	64	67	8.1	2.2	4.3	1.9
283	CJ29	不明	2	2	2	1	完	64	77	7.5	2.6	6.1	1.7
284	I区	VI	2	1	2	2	欠	19	(39)	(6.2)	(2.3)	3.6	(1.2)
285	CC21	VII	3	1	1	1	完	64	157	13.2	3.9	5.0	2.0
286	CW35-a	VI	2	1	2	1	完	64	125	11.0	3.0	6.3	1.7
287	DL41-c	VII	2	1	2	1	完	64	128	8.2	4.2	5.7	1.9
288	I区	VII	2	1	2	1	完	64	86	10.5	2.5	5.7	1.3
289	CI28-d	VII	3	3	2	1	完	64	74	11.5	4.4	5.9	1.1
290	I区	VII	3	3	2	2	欠	6	(210)	(13.1)	(5.1)	8.4	1.4
291	CT55	VI	1	1	1	1	完	64	178	13.8	4.0	2.2	2.3
292	CW36-a	VI	2	1	2	1	完	64	190	13.9	3.2	6.1	2.0
293	CG26-a	VIIIa	2	1	1	1	完	64	271	11.0	3.1	4.8	3.8
294	DA43	VI	2	3	1	1	完	64	158	12.6	2.4	7.4	2.0
295	BW25-b	VI	3	1	1	2	欠	64	(114)	(11)	不明	5.4	1.7
296	BU17	VII	3	3	1	2	欠	6	(220)	(10.8)	不明	7.0	(2.8)
297	CM31-a	VI	3	3	2	3	欠	64	(91)	(6.5)	不明	5.6	(1.9)
298	DC39	VIIb	3	2	1	3	欠	64	(46)	(5.8)	不明	4.5	(1.4)
299	BT26-d	VI	3	不明	1	10	欠	27	(122)	(8.4)	不明	不明	(1.8)
300	CV53	VI	3	1	1	2	欠	64	(76)	(8.3)	不明	4.7	(1.4)
301	CW39	VIIIa	2	2	2	1	完	64	85	8.1	2.5	5.8	1.8
302	BT18	VI	3	3	2	1	完	64	257	10.5	3.7	6.8	3.5
303	DJ39-a	VI	2	1	2	1	完	64	67	8.6	2.1	4.0	2.0
304	BO23-a	VI	不明	不明	1	6	欠	64	(34)	(6.3)	3.3	不明	(1)
305	DU43-d	VIIIa	1	不明	2	6	欠	28	(76)	(6.5)	3.5	不明	(1.5)
306	I区	VI	3	1	1	1	完	64	95	9.4	3.0	6.0	1.8
307	I区	VI	3	1	1	1	完	64	74	9.2	2.7	5.2	1.5
308	I区	VII	3	1	2	1	完	64	68	9.4	3.1	4.9	1.3
309	CO31-c	VI	3	1	2	1	完	64	74	9.5	3.8	5.0	
310	CM29-b	VIIIa	3	1	1	1	欠	64	(88)	(10)	2.6	6.1	1.7

2. 縄文時代

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)			
			形状	刃部	器面	残存				長さ	基部	刃部	厚さ
311	CL32-a	VI	3	1	2	1	完	64	50	8.9	2.9	4.7	1.1
312	I 区	VIIa	3	2	1	1	完	64	160	10.4	4.5	7.2	2.2
313	DM40-d	VI	3	2	1	2	欠	64	(74)	(7.9)	不明	4.9	(1.6)
314	I 区	VII	3	1	1	3	欠	64	(28)	(4.9)	不明	4.8	1.0
315	CM28-d	VI	3	2	2	1	完	64	240	11.9	3.9	8.7	2.8
316	I 区	VI	3	1	1	1	完	50	199	12.7	6.7	7.1	2.8
317	DG33	VIIa	3	3	1	1	完	64	159	11.5	3.6	6.8	2.2
318	BP24-b	VI	3	1	2	1	完	64	89	11.6	3.6	6.4	1.2
319	CK31-c	VI	4	2	2	1	完	16	267	10.8	7.9	6.0	2.8
320	CK32-a	VI	4	1	2	1	完	64	215	12.2	6.7	7.9	2.7
321	BT17	VIIa	4	1	1	1	完	64	170	10.0	4.2	5.5	1.7
322	CK31-c	VI	4	2	2	1	完	64	170	9.7	5.0	8.0	2.3
323	CT59	VI	4	1	2	1	完	64	151	10.0	7.0	6.8	2.3
324	BV22-c	VIIa	4	2	1	1	完	64	235	10.2	7.4	7.3	2.7
325	DA41	VIIa	4	1	2	1	完	64	220	12.2	5.9	6.7	2.1
326	CX35	VIIa	4	1	1	1	完	64	206	10.6	3.8	4.7	2.3
327	I 区	VI	4	1	1	1	完	64	194	10.4	5.4	6.5	2.1
328	BX26-b	VI	5	10	1	8	欠	64	(40)	(8.6)	不明	不明	(1.2)
329	CX47	VIIa	5	1	2	1	完	64	250	13.9	4.1	5.2	2.2
330	BR21-b	VI	4	1	1	1	欠	64	(310)	13.1	5.1	8.0	3.5
331	BT22-d	VIIa	5	1	1	1	完	64	173	13.0	4.2	6.4	1.8
332	BP24-c	VI	5	1	2	1	完	64	194	11.7	5.4	6.7	2.2
333	I 区	VI	4	1	1	3	欠	64	(55)	(8.2)	不明	6.2	1.5
334	I 区	VI	4	3	1	1	完	64	215	13.3	3.8	6.0	2.4
335	BU18	VI	5	1	2	1	完	64	142	11.0	5.8	6.8	1.7
336	I 区	VI	不明	3	1	3	欠	64	(59)	(5.7)	不明	5.1	1.5
337	DJ40-a	VI	不明	2	1	4	欠	64	(7)	(2.2)	不明	2.8	(0.9)
338	I 区	VI	不明	不明	1	9	欠	64	(5)	(2.9)	不明	不明	(0.6)
339	I 区	VII	不明	不明	1	4	欠	64	(41)	(4.2)	不明	(8.1)	(1)
340	I 区	VII	不明	不明	2	7	欠	4	(91)	(5)	4.5	不明	(2.8)
341	I 区	VI	不明	不明	2	7	欠	64	(74)	(4.2)	4.6	不明	(2.8)
342	CG27-c	VI	不明	不明	不明	9	欠	64	(13)	(3.1)	不明	不明	(0.9)
343	CL28-a	VI	不明	1	1	4	欠	64	(18)	(3.6)	(3.6)	不明	(1.4)
344	I 区	VII	不明	2	1	4	欠	64	(10)	(3.3)	不明	4.7	(0.7)
345	I 区	VII	不明	不明	2	7	欠	64	(21)	(3)	4.6	不明	(1.7)
346	I 区	VI	不明	不明	1	7	欠	17	(21)	(2.9)	3.6	不明	(1.3)
347	CL31-d	VI	不明	1	1	7	欠	64	(10)	(3.2)	2.9	不明	(0.6)
348	CL28-c	VI	不明	不明	不明	9	欠	64	(19)	(3.9)	不明	不明	(1.4)

磨製石斧

番号	出土位置	層位	分類		欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)			
			形状	残存				長さ	基部	刃部	厚さ
349	I 区	VI	2	1	完	30	18	4.2	1.8	2.9	0.9
350	CL31-b	VII	2	1	完	31	32	6.0	2.1	3.3	1.0
351	DG29	VI	1	3	欠	26	(50)	(7.7)	不明	2.0	1.0
352	DG31-a	VI	2	9	欠	26	(64)	(8.6)	不明	不明	(1.4)
353	I 区	VIII	不明	9	欠	26	(71)	(6.6)	不明	不明	(2.7)
354	I 区	VI	不明	9	欠	26	(198)	(8.5)	不明	不明	(3.9)
355	CX47	VIIa	1	1	欠	26	(610)	(18.2)	3.0	6.5	3.8
356	CW34-a	VII	1	1	完	26	340	17.0	3.0	4.5	2.7
357	DE35	VIIa	1	8	欠	26	(163)	(17.5)	不明	不明	(2.1)
358	AX9-d	VIIa	不明	9	欠	26	(180)	(7.6)	不明	不明	(3.6)
359	DG33	VIIa	1	2	欠	26	(154)	(10.4)	不明	4.6	(2.3)

剝片

番号	出土位置	層位	分類	欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
							長さ	幅	厚さ
244	I 区	VIII	—	完	64	1794	22.0	14.6	6.0

スタンプ形石器

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
			形状	凹穴	打痕	磨面				長さ	幅	厚さ
361	AW13-c	VIIa	1	—	C	—	欠	34	(488)	(9.1)	6.4	5.0
362	CW34-a	VI	不明	—	—	—	完	5	797	11.0	7.0	6.1
363	BV22-a	VIIa	1	—	—	—	完	7	645	11.4	6.6	5.8
364	DC37	VIIa	2	—	—	—	完	5	530	10.0	8.5	4.0
365	I 区	VIIa	1	C	C	D	完	5	600	10.6	6.6	5.2

凹石・磨石・敲石類

番号	出土位置	層位	分類				欠損状態	石材コード	重量 (g)	大きさ (cm)		
			形状	凹穴	打痕	磨面				長さ	幅	厚さ
388	I 区	VII	2	B	C	A	完	34	918	11.9	10.1	4.6
389	AW12-c	VIIa	1	C	C	C	完	5	707	13.2	8.8	5.0
390	CP32-b	VI	1	—	C	—	完	5	650	11.4	8.1	5.1
391	CS35-a	VI	1	A	—	—	完	5	524	10.7	8.1	4.0
392	CL28-c	VI	1	—	C	B	完	5	590	13.2	8.0	3.2
393	CQ30-b	VII	3	—	—	—	完	34	716	13.0	8.9	3.6
394	DC39	VII	1	C	—	—	完	5	289	8.8	5.8	3.8
395	I 区	VII	1	—	C	A	完	34	215	8.7	5.3	3.2
396	DE35	VI	1	—	C	A	完	5	240	9.3	5.9	2.7
397	CT32	VIIa	不明	—	C	B	欠	5	(384)	11.7	(5.7)	4.0
398	DM42-d	VIIa	1	D	C	—	完	5	344	11.9	9.1	2.4
399	I 区	VII	1	B	C	A	完	33	518	10.5	7.5	3.9
400	I 区	VII	1	B	C	A	完	5	724	13.1	8.6	3.8
401	CT59	VI	1	—	C	A	完	5	250	9.7	6.7	2.2
402	CX36	VIIa	1	A	C	A	完	44	266	9.3	6.2	3.0
403	AY5-d	VI	1	C	D	—	完	34	356	9.9	5.5	3.6
404	CT33-a	VI	1	C	C	A	完	5	420	9.5	6.9	4.1
405	CR32	VIIb	1	B	C	—	完	5	276	8.7	5.8	3.2
406	I 区	VII	3	A	—	—	完	5	266	9.9	7.0	3.5
407	DO40-c	VIIa	1	A	A	A	完	5	314	9.3	6.8	4.4
408	I 区	VIIa	不明	B	—	A	欠	5	(287)	(9.8)	(4.8)	(4.2)
409	CQ33-a	VI	3	—	D	—	完	5	174	8.8	5.8	2.5
410	I 区	VII	1	B	C	—	完	5	305	7.5	5.7	4.9
411	I 区	VI	1	B	C	—	完	5	383	10.3	6.9	3.7
412	DS45-a	VI	1	—	C	A	欠	7	(435)	(9.7)	7.4	(4.2)
413	CL30-a	VIIa	1	A	C	—	完	5	377	8.7	6.4	4.7
414	I 区	VI	1	B	C	A	完	5	505	9.7	7.8	4.6
415	CQ34	VII	1	B	D	A	完	44	480	9.9	6.9	4.6
416	BO22-a	VIIa	1	A	C	B	完	34	580	11.0	7.0	4.9
417	CV32	VIIa	1	D	E	A	完	44	377	9.5	6.8	3.5
418	I 区	VII	3	—	B	A	完	34	434	9.4	7.2	3.9
419	I 区	VI	1	—	—	B	完	5	390	10.5	7.3	4.5
420	CO30-b	VIIa	3	B	C	—	完	5	326	9.8	8.2	4.0
421	CM30-a	VII	1	C	C	A	完	5	504	11.3	7.7	3.6
422	DL40-a	VI	1	D	E	A	完	5	689	9.9	8.6	5.5
423	DM41-c	VIIa	2	C	C	B	完	5	605	8.6	7.8	6.6
424	DE35	VIIa	1	—	C	A	完	5	798	12.5	10.8	4.3
425	DC37	VII	1	C	B	—	完	5	620	10.1	8.3	5.9
426	CT32	VIIa	1	B	C	C	完	5	518	10.7	7.8	3.8
427	BY25-a	VIIa	2	—	—	D	完	44	55	3.9	3.4	3.1
428	DS41-d	不明	2	—	—	A	完	16	42	4.6	4.0	1.4
429	DE35	VIIa	1	D	C	A	完	5	533	10.5	7.9	4.0
430	DC37	VI	2	—	C	B	完	34	330	8.1	7.9	3.5
431	CP34	VIIa	2	A	C	A	完	5	1086	12.4	11.0	4.8
432	CT34-a	VI	2	A	C	—	完	5	750	11.0	7.3	6.2
433	CV32	VIIa	2	A	C	A	完	34	259	7.5	6.4	3.6
434	I 区	VI	2	A	C	A	完	5	300	8.5	7.7	3.1
435	I 区	VI	2	—	C	B	完	7	370	9.5	8.5	2.9
436	I 区	VII	2	B	C	A	完	5	491	9.5	8.6	4.2
437	CM30-a	VII	2	—	E	A	完	5	512	11.3	10.6	3.5
438	CX47	VI	1	B	C	—	完	5	428	9.1	8.4	4.2
439	I 区	VII	2	—	—	B	完	5	1090	10.7	10.2	6.6
440	I 区	VIIa	3	A	—	—	完	5	512	9.7	9.1	4.1
441	IV区	VII	2	—	—	D	完	34	1337	11.7	10.0	8.0
442	CL28-d	VIIa	1	—	C	—	完	34	176	8.7	6.3	2.4
443	BX20	VI	3	—	—	—	欠	34	(361)	(8.5)	(5.7)	(4.3)

II 調査の結果

《吹屋中原遺跡の遺物観察一覽》
〈遺構出土の土器〉

番号	出土状態 (cm)	分類	細文	胎土	器形 深鉢 浅鉢	口縁形態		部位	大きさ (cm)	
						平縁	波状		口径	底径
01坑-2	+20	黒浜式	17	D	○	○	1/4	1/4	(20)	
05坑-1	+26	黒浜式2c類	18	D	○	○	○	○		
05坑-2	+7	有尾式2a類	2b・c	C	○	○	○	○		
06坑-1	+24	有尾式2b類	18	C	○	○	○	○		
06坑-2	+6	黒浜式1c類	18	C	○	○	○	○		
06坑-3	+31	有尾式	4a・b	D	○	○	○	○		
06坑-4	底面直上	黒浜式	2a・b	D	○	○	○	○		
06坑-5	+11	黒浜式	4a	C	○	○	○	○		
06坑-6	22	有尾式	2a・b	C	○	○	1/2	1/2	(8)	
07坑-1	埋没土中	有尾式5類	4a・b	D	○	○	○	○		
07坑-2	+38	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○		
07坑-3	33	黒浜式	2b	D	○	○	○	○		
09坑-1	底面直上	有尾式5類	1a・b	C	○	○	1/4	1/4	(26.5)	
10坑-1	埋没土中	黒浜式2c類	18	D	○	○	○	○		
10坑-2	埋没土中	黒浜式	2b	F	○	○	○	○	(8.6)	
11坑-1	埋没土中	有尾式5類	1b	D	○	○	○	○		
11坑-2	埋没土中	黒浜式1a類	18	C	○	○	○	○		
11坑-3	埋没土中	黒浜式1c類	18	C	○	○	○	○		
13坑-1	埋没土中	有尾式5類	4a・b	D	○	○	○	○		
13坑-2	埋没土中	黒浜式	2b	C	○	○	○	○		
14坑-1	埋没土中	黒浜式1a類	18	D	○	○	○	○		
14坑-2	埋没土中	有尾式2a類	1a・b	C	○	○	○	○		
14坑-3	埋没土中	有尾式5類	1a・b	D	○	○	1/4	1/4	(27)	
14坑-4	埋没土中	黒浜式3a類	4b	D	○	○	1/4	1/4	(28.5)	
14坑-5	埋没土中	有尾式5類	2a・b	C	○	○	○	○		
14坑-6	埋没土中	有尾式	4a・b	C	○	○	○	1/2	(8.7)	
14坑-7	埋没土中	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○		
14坑-8	埋没土中	黒浜式	2b	D	○	○	○	○		
15坑-1	埋没土中	黒浜式	2a	D	○	○	○	○		
17坑-1	埋没土中	有尾式2b類	18	F	○	○	○	○		
17坑-2	埋没土中	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○		
17坑-3	埋没土中	有尾式	2a・b	F	○	○	○	○		
17坑-4	埋没土中	黒浜式	1a	D	○	○	○	○		
18坑-1	埋没土中	黒浜式	2a・b	D	○	○	○	○		
18坑-2	埋没土中	黒浜式	1b	D	○	○	○	○		
19坑-1	埋没土中	黒浜式1d類	2b	C	○	○	○	○		
20坑-1	埋没土中	田戸下層式	4a・b	B	○	○	○	○		
20坑-2	埋没土中	有尾式2b類	4a	C	○	○	○	○		
20坑-3	埋没土中	黒浜式3a類	2b	F	○	○	○	○		
20坑-4	埋没土中	黒浜式	4a	C	○	○	○	○		
20坑-5	埋没土中	稻荷台式	4a・b	B	○	○	○	○		
22坑-1	埋没土中	黒浜式1c類	18	C	○	○	○	○		

番号	出土状態 (cm)	分類	細文	胎土	器形 深鉢 浅鉢	口縁形態		部位	大きさ (cm)	
						平縁	波状		口径	底径
01住-1	+10	有尾式2a類	18	C	○	○	○	○		
01住-2	+7	有尾式2b類	18	C	○	○	○	○		
01住-3	埋没土中	有尾式2b類	18	C	○	○	○	○		
01住-4	+4	有尾式2b類	18	C	○	○	○	○		
01住-5	床面直上	有尾式5類	2a・b	D	○	○	○	○	17.1	8.4
01住-6	床面直上	有尾式5類	2a・b	C	○	○	1/3	(17.2)		
01住-7	床面直上	有尾式5類	2a・b	D	○	○	1/5			
01住-8	+5	黒浜式	1a・b	D	○	○	○	○		
01住-9	+6	黒浜式	2a	C	○	○	1/4		(9.2)	
01住-10	+15	有尾式	1a・b	D	○	○	○	○		
01住-11	+20	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○		
01住-12	+13	有尾式	7a・b	J	○	○	○	○		
01住-13	+47	有尾式	2a・b	C	○	○	○	○		
01住-14	+6	黒浜式	2a・b	C	○	○	○	○		
01住-15	+23	有尾式	2a・b	F	○	○	○	○		
01住-16	埋没土中	黒浜式	2b	C	○	○	○	○		
01住-17	+13	黒浜式	2b	C	○	○	○	○		
01住-18	床面直上	黒浜式	2a	D	○	○	○	○		
01住-19	+11	黒浜式	1a	D	○	○	○	○		
01住-21	+14	黒浜式	2a	C	○	○	○	○		
01住-22	+45	諸磯b式	1a	B	○	○	○	○		
01住-23	+38	諸磯b式2類	18	B	○	○	○	○		
01住-24	+9	諸磯b式2類	1b	B	○	○	○	○		
01住-25	埋没土中	諸磯b式1類	18	B	○	○	○	○		
01住-26	埋没土中	諸磯b式1類	18	B	○	○	○	○		
02住-1	埋没土中	加曾利E4式	2a	G	○	○	○	○	33.2	
02住-2	+4	加曾利E3式	3a	B	○	○	○	1/1	8.5	
03住-1	床面直上	諸磯a式6類	2b	B	○	○	3/4	(27)		
03住-2	床面直上	諸磯a式1a類	2a	B	○	○	3/4			
03住-3	+12	諸磯a式1f類	18	B	○	○	1/5	(3.0)		
03住-4	+13	諸磯a式1c類	18	B	○	○	○	○		
03住-5	+11	諸磯b式2類	18	B	○	○	○	○		
03住-6	+39	諸磯a式	2b	B	○	○	○	○		
03住-7	+21	諸磯a式	2b	B	○	○	3/4	3/4	(6.5)	
03住-8	+21	諸磯a式	2b	I	○	○	○	○		
03住-9	+31	黒浜式3a類	2b	C	○	○	○	○		
03住-10	+2	有尾式	2a・b	D	○	○	○	○		
03住-11	+3	有尾式	2b	H	○	○	○	○		
01坑-1	+21	黒浜式	2b	C	○	○	○	○		

〈包含層出土の土器〉

番号	出土状態 (cm)	分類	縄文	胎土	器形	口縁形態	部位	大きさ (cm)	高さ
					深鉢 浅鉢	平縁 波状口縁	胴部 底部	口径	底径
22坑-2	埋没土中	有尾式2b類	4b	C	○		○		
22坑-3	埋没土中	有尾式2b類	18	C	○	○			
22坑-4	埋没土中	黒浜式3類	2a	C	○				
22坑-5	埋没土中	有尾式	4a・b	C	○		○		
22坑-6	埋没土中	有尾式	1b	D	○		○		
22坑-7	埋没土中	有尾式	1a・b	D	○		○		
22坑-8	埋没土中	黒浜式	2a	C	○		○		
23坑-1	埋没土中	有尾式2b類	18	C	○	○			
23坑-2	埋没土中	黒浜式3類	2a・b	C	○	○			
23坑-3	埋没土中	黒浜式	1b・2a	D	○		○		
26坑-1	埋没土中	有尾式	2a・b	C	○		○		
26坑-2	埋没土中	黒浜式1c類	18	C	○		○		
29坑-1	埋没土中	黒浜式1c類	18	C	○		○		
29坑-2	埋没土中	有尾式	2a・b	H	○		○		
31坑-1	底面直上	有尾式2b類	2a・b	F	○	○	4/5	33.6	
33坑-1	埋没土中	有尾式2b類	2b	C	○		○		
35坑-1	埋没土中	有尾式5類	2a	C	○		○		
35坑-2	埋没土中	有尾式5類	4a・b	C	○		○		5.2
35坑-3	埋没土中	黒浜式	1a・b	C	○		○		
43坑-1	埋没土中	黒浜式3類	2b	J	○		○		
44坑-1	埋没土中	加曾利E3式	18	B	○		○		
45坑-1	埋没土中	諸磯a式	2b	B	○		○		
46坑-1	埋没土中	諸磯a式	2b	B	○		○		
01窟穴-1	埋没土中	黒浜式	2b	D	○		○		(9.6)
01窟穴-2	埋没土中	黒浜式	2b	D	○		○		
02倒木-1	埋没土中	諸磯a式	4a	B	○		○		
03倒木-1	埋没土中	有尾式2b類	2b	C	○		○		
08倒木-2	埋没土中	黒浜式	18	B	○		○		
08倒木-1	埋没土中	黒浜式	18	C	○		1/4	(13)	
08倒木-3	埋没土中	有尾式2b類	2b	C	○		○		
08倒木-4	埋没土中	有尾式	2b	D	○		○		
08倒木-5	埋没土中	諸磯b式2a類	18	D	○		○		
12倒木-1	埋没土中	諸磯式	2b	B	○		○		
18倒木-1	埋没土中	黒浜式	1a	D	○		○		
18倒木-2	埋没土中	有尾式2b類	2a	D	○		○		
18倒木-3	埋没土中	黒浜式	7a・b	C	○		○		
18倒木-3	埋没土中	黒浜式1a類	2b	D	○		○		

番号	出土位置	層位	分類	縄文	胎土	器形	口縁形態	部位	大きさ (cm)
						深鉢 浅鉢	平縁 波状口縁	胴部 底部	口径 底径
1	FM57-d	VI	夏島式	9b	B	○			
2	EB46-a	VI	夏島式	18	B	○			
3	EI51-b	VIIa	夏島式	18	B	○			
4	EQ51-c	VIIa	夏島式	18	B	○			
5	EA46-b	VIIa	夏島式	9b	B	○			
6	ER52-c	VIIa	夏島式	18	B	○		○	
7	FA53-b	VI~VIIa	山形押型文	18	B	○			
8	FL58-a	VIIa	楕円押型文	18	D	○			
9	FL58-a	VII	山形押型文	1b	D	○			
10	EC48-b	VIIa	田戸下層式	18	G	○			
11	EJ48	不明	田戸下層式	18	E	○			
12	EE50-b	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
13	EC50-d	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
14	EI49-c	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
15	EC51-d	VIIa	三戸式	18	B	○			
16	ET49-d	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
17	EH50-d	VI	三戸式	18	G	○			
18	EU53-a	VIIb	三戸式	18	B	○			
19	EF47-d	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
20	EG48-a	VIIa	田戸下層式	18	D	○			
21	EE50-c	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
22	EF46-b	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
23	EB47-b	VIIa	三戸式	18	B	○			
24	FF57-c	VIIa	田戸下層式	18	G	○			
25	EU52-a	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
26	ED50-c	VIIa	田戸下層式	18	B	○			
27	ET49-a	VIIa	田戸下層式	18	G	○			
28	ES51-d	VIIa	三戸式	18	B	○			
29	EJ50-c	VIIa	田戸上層式	18	F	○			
30	ES49-b	VIIa	田戸上層式	18	E	○			
31	DX48-d	VI	早期無文	18	D	○			
32	ET50-b	VIIa	早期無文	18	F	○			
33	EJ48-a	VIIa	早期無文	18	B	○			
34	FA52-b	VI・VII	早期無文	18	B	○			
35	EM49-a	VIIa	早期無文	18	B	○			
36	EE48-c	VIIa	早期無文	18	D	○			
37	EL50-a	VI	早期無文	18	B	○			
38	EJ51-c	VIIa	早期無文	18	B	○			
39	DY49-b	VI	早期無文	18	B	○			
40	EB49-b	VIIa	早期無文	18	D	○			

II 調査の結果

番号	出土位置	層位	分類	縄文	胎土	器形	口縁形態	部	位置	大きさ			
						深鉢	平鉢	口縁	胴部	底部	口径	底径	高さ
83	EF52-d	VIIa	有尾式2b類	2a	D	○							
84	ER50-d	VIIa	有尾式2c類	18	D	○							
85	EI48-b	VI	有尾式4類	2a+b	F	○							
86	EF45-b	VIIa	有尾式5類	1a+b	D	○		1/4			(32)		
87	EU55-d	VIIa	有尾式5類	1a+b	D	○		1/6			(26)		
88	EJ48	不明	有尾式5類	1a+b	D	○							
89	FM64-c	VIIa	有尾式5類	1a+b	C	○							
90	EG46-d	VIIa	有尾式5類	1a+b	C	○							
91	EG50-b	VIIa	有尾式5類	1a	C	○							
92	EI49-a	VIIa	有尾式5類	1a+2b	C	○							
93	FL61-a	VIIa	有尾式5類	2a+b	D	○					(22)		
94	EJ50-c	VIIa	有尾式5類	4a	D	○					(19)		
95	EA50-b	VIIa	有尾式5類	2b	D	○							
96	FQ60-b	VI	有尾式5類	2a+b	C	○							
97	FC53-a	VI-VII	有尾式5類	2a+b	D	○							
98	EK50-d	VIIa	有尾式5類	2a+b	H	○							
99	EJ53-c	VIIa	有尾式5類	2a+b	D	○							
100	EJ48	不明	有尾式5類	2a+b	C	○							
101	FB59-c	VIIa	有尾式5類	2a+b	C	○							
102	FK59-d	VI	有尾式5類	2a+b	C	○							
103	EP56-c	VIIa	有尾式5類	2a+b	D	○							
104	EG47-c	VI	有尾式5類	2b	C	○							
105	ER55-b	VIIa	有尾式5類	2a+b	D	○							
106	FL58-c	VIIa	有尾式5類	2a+b	D	○							
107	FN60-c	VII	有尾式5類	4b	D	○							
108	FL62-c	VIIa	有尾式5類	4a+b	C	○							
109	FC60-c	VI	有尾式5類	4a+b	C	○							
110	FL62-b	VIIa	有尾式5類	4a+b	D	○							
111	FL60-a	VIIa	有尾式5類	7a+b	D	○							
112	EM57-c	VIIa	有尾式5類	9b	D	○							
113	FB53-a	VI-VIIa	有尾式5類	9c+d	C	○							
114	EJ55-b	VIIa	有尾式5類	9d	C	○							
115	ES56-b	VIIa	有尾式5類	9b	D	○							
116	ED51-d	VIIa	有尾式	1a+b	C	○							
117	EU57-d	VIIa	有尾式	1a+b	D	○							
118	EC44-d	VII	有尾式	1a	C	○							
119	ET51-d	VIIa	有尾式	1a+b	D	○							
120	EU55-b	VIIa	有尾式	1a+b	C	○							
121	EQ51-d	VI	有尾式	1a+2b	D	○							
122	ET54-a	VIIa	有尾式	1a+b	D	○							
123	EG47-a	VIIa	有尾式	1a+b	D	○							
124	EH52-c	VIIa	有尾式	1a+b	D	○							

番号	出土位置	層位	分類	縄文	胎土	器形	口縁形態	部	位置	大きさ			
						深鉢	平鉢	口縁	胴部	底部	口径	底径	高さ
41	ES54-c	VIIa	早期条痕文	18	B	○							
42	ET55-c	VIIa	早期条痕文	18	B	○							
43	FL62-a	VIIa	早期条痕文	18	C	○							
44	EI49-d	VI	早期条痕文	18	F	○							
45	EI51-b	VIIa	花綱下層式	17	D	○							
46	EC43-b	VIIa	花綱下層式	4a	D	○							
47	EJ50-a	VIIb	花綱下層式	4b	D	○							
48	FN60-c	VIIa	花綱下層式	18	D	○							
49	EK51-a	VIIa	有尾式2a類	2a+b	C	○							
50	FO62-d	VII	有尾式2a類	2a	D	○							
51	EF50-b	VIIa	有尾式2a類	18	C	○							
52	EJ50-d	VIIa	有尾式2a類	2b	C	○							
53	FF60-c	VII	有尾式2a類	18	D	○							
54	EK55-c	VIIa	有尾式2a類	18	F	○							
55	ER57-d	VIIa	有尾式2a類	18	F	○							
56	EE50-b	VIIa	有尾式2a類	18	C	○							
57	EG53-c	VI	有尾式2a類	18	D	○							
58	EH51-d	VIIa	有尾式2b類	18	D	○							
59	EJ53-c	VIIa	有尾式2b類	18	D	○							
60	EK54-b	VI	有尾式2b類	18	F	○							
61	EJ52-b	VIIa	有尾式2b類	18	D	○							
62	ES49-c	VIIa	有尾式2b類	18	F	○							
63	EJ52-d	VIIa	有尾式2b類	18	C	○							
64	ER55-d	VI	有尾式2b類	18	C	○							
65	EK51-b	VIIa	有尾式2b類	18	C	○							
66	EF49-a	VIIa	有尾式2b類	18	C	○							
67	EY56-d	VIIa	有尾式2b類	18	D	○							
68	FB53-c	VI-VIIa	有尾式2b類	18	D	○							
69	ED51-d	VI	有尾式2b類	18	J	○							
70	ES52-d	VIIa	有尾式2b類	18	F	○							
71	EK56-a	VI	有尾式2b類	17	C	○							
72	ER51-c	VIIa	有尾式2b類	18	C	○							
73	EK50-c	VIIa	有尾式2b類	2a+b	C	○							
74	FB53-a	VI-VIIa	有尾式2b類	2a+b	C	○							
75	EK51-b	VIIa	有尾式2b類	18	C	○							
76	EL52-a	VIIa	有尾式2b類	4a+b	J	○							
77	FF59-a	VI	有尾式2b類	2a+b	D	○							
78	EJ50-c	VIIa	有尾式2b類	4a+b	C	○							
79	EM49-b	VIIa	有尾式2b類	2a+b	C	○							
80	FQ60-d	VIIa	有尾式2b類	1a+b	C	○							
81	ES53-d	VIIa	有尾式2b類	4a+b	C	○							
82	ES49-c	VIIa	有尾式2b類	2a+b	F	○							

2. 縄文時代

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態	部	位置	口径	底径	高さ
167	EJ50-a	Villa	黒浜式1c類	18	C	○		○				
168	EJ48	不明	黒浜式1c類	18	D	○		○				
169	EP55-d	VI	黒浜式1c類	18	J	○		○				
170	EM51-b	Villa	黒浜式1c類	18	J	○		○				
171	EK48-a	Villa	黒浜式1c類	18	D	○		○				
172	EJ48-a	Villa	黒浜式1c類	18	C	○		○			(12)	
173	FQ62-b	VII	黒浜式1c類	18	D	○		○				
174	FL59-b	VI	黒浜式1c類	18	C	○		○				
175	FM60-a	Villa	黒浜式1d類	2a+b	C	○		○				
176	FF61-c	VII	黒浜式1d類	2a+b	C	○		○				
177	FL57-d	VI	黒浜式1d類	1a	D	○		○				
178	FL62-d	Villa	黒浜式2b類	2b	D	○		○				
179	EF45-b	Villa	黒浜式2c類	18	D	○		○				
180	ES55-b	Villa	黒浜式1c類	18	D	○		○				
181	ES50-d	Villa	黒浜式1c類	18	D	○		○				
182	EF46-d	VI	黒浜式1c類	18	C	○		○				
183	ES55-b	Villa	黒浜式2c類	18	D	○		○				
184	ES56-d	Villa	黒浜式2c類	9d	D	○		○				
185	EM49	不明	黒浜式2c類	2a+b	D	○		○	1/6	1/6	1/3	(30)
186	EQ55-d	Villa	黒浜式3a類	1a	D	○		○	1/4	1/4	(25)	
187	EI52-d	Villa	黒浜式3a類	1a	D	○		○				
188	FB58-c	VI・VII	黒浜式3a類	1a	D	○		○				
189	EU56-b	Villa	黒浜式3a類	1a	C	○		○				
190	EP54-d	Villa	黒浜式3a類	1a	D	○		○				
191	ES49-a	Villa	黒浜式3a類	1a+b	D	○		○				
192	EJ51-a	VI	黒浜式3a類	1b	D	○		○				
193	FM63-d	Villa	黒浜式3a類	2b	D	○		○				
194	EE44-a	Villa	黒浜式3a類	1b	C	○		○				
195	EI52-b	Villa	黒浜式3a類	2b	C	○		○				
196	EJ53-b	Villa	黒浜式3a類	2a	C	○		○				
197	EJ50-c	Villa	黒浜式3a類	2b	C	○		○				
198	EK51-c	VI	黒浜式3a類	2a	D	○		○				
199	EJ48-a	Villa	黒浜式3a類	2b	C	○		○				
200	FH60-b	VI	黒浜式3a類	2b	C	○		○				
201	FL59-c	Villa	黒浜式3a類	2b	D	○		○				
202	EJ50-d	Villa	黒浜式3a類	2a	D	○		○				
203	EO56-d	Villa	黒浜式3a類	2b	D	○		○				
204	EU50-d	VI	黒浜式3a類	2a	D	○		○				
205	EK54-b	VI	黒浜式3b類	2b	D	○		○				
206	EM56-b	Villa	黒浜式3b類	2a+b	D	○		○				
207	ED49-d	Villa	黒浜式3b類	2a+b	D	○		○				
208	EJ49-d	Villa	黒浜式3a類	2b	D	○		○				

番号	出土位置	層位	分類	細文	胎土	器形	口縁形態	部	位置	口径	底径	高さ
125	EJ50-d	Villa	有尾式	1a+b	D	○		○				
126	EM49-b	Villa	有尾式	2a+b	C	○		○				
127	EK51-a	VI	有尾式	2a+b	D	○		○				
128	EP53-b	VI	有尾式	2a+b	D	○		○				
129	EI53-d	Villa	有尾式	2a+b	C	○		○				
130	EK48-a	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○				
131	FP58-a	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○				
132	EJ52-d	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○				
133	FL61-a	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○				
134	EJ52-b	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○				
135	EG50-a	VI	有尾式	2a+b	C	○		○				
136	EK51-c	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○				
137	EB51-d	Villa	有尾式	2a+b	C	○		○				
138	EF48-d	Villa	有尾式	2a+b	C	○		○	1/1		11	
139	EI55-c	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○	1/3	1/3	(6)	
140	EK54-d	VI	有尾式	2a+b	F	○		○	1/5		(10)	
141	FP59-d	Villa	有尾式	2a+b	D	○		○	1/5		(11)	
142	ED49-c	Villa	有尾式	4a+b	C	○		○				
143	EB43-a	VI	有尾式	4a+b	C	○		○				
144	EN51-c	Villa	有尾式	4a+b	C	○		○				
145	不明	表採	有尾式	4a+b	C	○		○				
146	FN63-c	VII	有尾式	4a+b	D	○		○				
147	EJ54-d	Villa	有尾式	4a+b	D	○		○				
148	FN63-d	Villa	有尾式	4a+b	D	○		○				
149	FM63-d	VII	有尾式	4a+b	D	○		○				
150	FK62-d	VII	有尾式	4a+b	D	○		○				
151	FB59-c	Villa	有尾式	4a+b	D	○		○				
152	FL63-c	Villa	有尾式	7f-1	D	○		○				
153	EA46-a	Villa	有尾式	7a+b	C	○		○				
154	FF62-c	Villa	有尾式	7a+b	D	○		○				
155	FN63-b	VII	有尾式	7f-1	C	○		○				
156	EI51-b	VI	有尾式	9c	C	○		○			(12)	
157	ES54-c	Villa	有尾式 5類	9d	D	○		○				
158	EC44-a	VI	有尾式	9b	J	○		○				
159	FO58-d	VII	黒浜式1a類	2b	D	○		○				
160	FO57-a	VI	黒浜式1a類	2b	D	○		○				
161	FK61-b	VI	黒浜式1a類	18	C	○		○				
162	DY46-b	VI	黒浜式1c類	18	D	○		○				
163	EU56-d	Villa	黒浜式1c類	18	C	○		○				
164	EI52-b	Villa	黒浜式1c類	18	D	○		○				
165	EJ56-c	VI	黒浜式1c類	18	D	○		○				
166	EK56-d	Villa	黒浜式1c類	18	C	○		○				